平成 24 年度
「地域活性化社会システム論」講演録

主　催：足利工業大学
　　NPO 法人　足利まちづくりセンター　VAN-NOOGA
協　力：内閣官房地域活性化推進室
後　援：栃木県
　　足利市

平成 24 年度
「地域活性化社会システム論」講演録

主　催：足利工業大学
　　NPO 法人　足利まちづくりセンター　VAN-NOOGA
協　力：内閣官房地域活性化統合事務局
後　援：栃木県
　　足利市

こんな利用ができます
TOCHIGI kura no machikado Film Festival
FASHION COLLECTION
協議会設立に向け準備会を立ち上げ
北イタリアにファッションタウンを学ぶ
泉眞也氏の特別講演会
調生新町
蔵物産業実
近代連繋図
一店一作家

A.I.T.®

足利工業大学・足利街づくりセンターVAN-NOOGA 共催
公開講座「地域活性化社会システム論第 4 年」講演録

目次

開講の言葉
足利工業大学
学長　牛山　泉

開講によせて
特定非営利活動法人足利まちづくりセンターVAN-NOOGA
会長　中川三朗

第 1 回　「桐生のまちおこし活動」　・・・・・・・・・・・・・・・ 1
桐生市民ネットーワーク「ゆい」
代表　角田 亘

第 2 回　「伊勢崎銘仙とまちづくり」　・・・・・・・・・・・・・・・31
いせさき銘仙会
代表世話人　杉原みち子

第 3 回　「栃木市のまちづくり」　・・・・・・・・・・・・・・・55
壬生町町会議員
田村正敏

第 4 回　「太田市のまちおこし活動」　・・・・・・・・・・・・・・・91
ＮＰＯ法人クラッセ太田
理事長　吉田範彦

第 5 回　「渡良瀬川流域の防災とまちづくり」　・・・・・・・・・・・・・・・125
国土交通省渡良瀬川河川事務所
所長　八木裕人

編集後記

開講のことば

足利工業大学
学長　牛山　泉

足利工業大学と NPO 法人足利まちづくりセンター「VAN- NOOGA」の共催による公開講座「地域活性化社会システム論」の平成 24 年度の講演録が、ここにまとまりました。

平成 21 年度の開講以来、延べ 20 回を数える本公開講座ですが、当初は、本学の教員を含む研究者や行政の方々を講師にお願いして開講しましたが、次第に、地元足利市や栃木県内でまちづくりに活躍されている方々から、地域での活動内容やご苦労を伺う機会を増やし、今年度は、お隣群馬県からも講師をお招きして、地域のまちづくりの貴重なお話をいただくことができました。

第 1 回と第 2 回は、桐生市と伊勢崎市から市民目線のまちづくりに努力しておられる角田さん、杉原さんに行政と連携した地域資源の保存・活用、ファッション等の様々な企画と活動のご報告をいただきました。また、第 3 回は壬生町議としての重責を担う傍ら、栃木市のまちづくりでご活躍する田村さんに地域の活性化と観光に関わる興味深い経験をご披露いただきました。さらに、第 4 回は、太田市の吉田さんから NPO 法人としては驚異的とも云える利用者を擁する活動内容をお聞きしました。最後は、国土交通省関東地方整備局の渡瀬川河川事務所長の八木さんから、我々が日頃から接している渡瀬川の治水防災と足利のまちづくりに関する貴重なご講演をいただきました。

地域の活性化のためには、大学も従来の研究・教育の拠点としてだけでなく、地域の振興を担うネットワークの拠点として機能してゆくことが期待されております。また、そうした活動の一環として、内閣府地域活性化推進室の協力を得て、全国の大学で「地域活性化社会システム論」が開講されているものと聞いております。

少子高齢化の進むわが国は、地方都市ほど高齢化率が高く、過疎化の進む中、日常的な地域活動の維持にも厳しいものがありますが、その中で地域の中心としてご活躍いただいている方々の貴重なお話は、産学の連携にフィードバックされ、栃木県内だけでなく、渡瀬川流域諸都市の活性化にも大きく寄与するものと考えます。

東日本大震災からの復興も徐々に軌道に乗り始めたとは云え，これからも長く険しい道のりが待っていること思いますが，学生と市民が一緒になって勉強していくことこそ、震災復興に止まらず，日本の未来に繋がる確かな途であると信じております。本講座も回を追うごとに、より地域の課題に迫っているように感じております。今後も本講座を継続すると共に、この成果を具体的なまちづくりに生かしていくことを期待しております。

開講によせて

特定非営利活動法人足利まちづくりセンターVAV-NOOGA
会長　中川　三朗

このたび、平成 24 年度「地域活性化社会システム論」の講演録を発刊する運びとなりました。足利工業大学の牛山　泉学長のお取り計らいで、内閣官房地域活性化総合事務局の支援のもと足利工業大学と特定非営利活動法人足利まちづくりセンターVAN-NOOGA との共催で開催された公開講座の記録です。今年で４年目になりますが、これまで続けてこられたのも足利工業大学の簗瀬範彦教授のご尽力に負っています。

これまで様々なテーマで講演を開催してきましたが、最近では、特に個々の都市での具体的なまちづくり活動の事例について、活動の成果や抱える問題等について議論してきました。昨年度は鹿沼市、佐野市、足利市を取り上げ、今年、平成 24 年度は桐生市、伊勢崎市、栃木市、太田市を対象としました。足利市を中心に周辺都市のまちづくり活動の実情を知り、それを踏まえて地域活性化の方策を探ろうという意図によるものです。

講演の内容については本書をお読みいただきたいと思いますが、それぞれの都市でのまちづくり活動、そして活動をしている方々の考え方、実践の仕方は千差万別であり、そこから共通項を見出すのは至難の業です。ただ、活動の中で違った立場の人、利害が対立していると思われる人がいかに「つながれる要素」を見いだせるかということに腐心しているように思われます。

現在、一昨年の東日本大震災からの復旧、復興が大きなテーマです。また、老朽化した社会基盤施設の維持・修繕も求められています。昨年、京都大学の中山教授がノーベル医学生理学賞を受賞されました。教授がつくられた iPS 細胞は再生医療への応用が期待されているそうです。その発想は、いま残されたままのもの、不必要であると思われているもの、見捨てられているものの中に大事なものが息をひそめている、それを発掘して生かす、再生するという発想につながり、地域の活性化を考える上で何らかの手がかりを与えてくれるように思われます。この公開講座もいろいろな手がかりを求めてさらに続けていきたいと思っています。

最後に、今年講演をいただいた５名の講師の方々にお礼を申し上げます。

第１回　６月６日（水）

「きりゅうのまちおこし活動」について

桐生市民ネットワーク「ゆい」代表
角田　亘

司会

今日は、足工大と市民ネットワークVan-nooga共催の「地域活性化社会システム論公開講座」の今年の第 1 回目として、桐生から角田先生に来ていただきましたので、ひとつ、よろしくお願いいたします。開催にあたりまして、今日は中川会長が所用があってということで、副会長にご挨拶をお願いします。

北川副会長

本日は、お隣といいながら、お忙しいところ、わが会の集まりに来ていただきまして、大変ありがとうございます。桐生市といえば、お隣なんですけども、県が違うということもありまして、あまり桐生の情報というのを私たち知りませんので、ひとつ私どもを活性化させるようなお話を、ぜひお伺いしたいと思います。以上、よろしくお願いいたします。

司会

ありがとうございました。それじゃあ、今日、角田先生をご紹介していただいた足工大の簗瀬先生、一言。

簗瀬氏

角田さんとは２月に、渡良瀬川河川事務所主催の防災の日のイベントでお会いしまして。やっぱり、今、副会長がおっしゃったように、「やっぱり、お隣との意見交換もいるよね」という軽いのりでお願いしたところ、快く引き受けていただきました。本当にどうも、ありがとうございます。ということで、よろしくお願いします。

角田講師

はい。お隣の桐生から参りました、角田と申します。まずもって、私の知ってる司会の塚越さんをはじめ、大先輩、諸先輩がいるなかでお話しすることをお許しください。それから、今日、伴ってまいりました仲間２名がいるんですけども、「NPO活動で重要な人間をお連れしてよろしいですか？」って言ったところ、「どうぞどうぞ」ということで。うちの、桐生市民活動推進ネットワークの代表を今年度から務めております、近藤と申します。

近藤氏

よろしくお願いいたします。

角田講師

それと、JR 桐生駅のなかに、市民活動推進センター「ゆい」、これを経営してるんですけども、そこのスタッフのなかでもピカイチのスタッフの豊田玲子です。

豊田氏

本日はよろしくお願いいたします。

角田講師

今日は２人とも勉強と、それからこのあと、皆さんと交流を考えて、ぜひ、いろいろ聞かせてもらえればいいなと思っております。

先ほど先生がおっしゃってましたけど、２月の国土交通省の事業の「水辺の楽校」のなかで、先生のほうには都市工学の範疇でお話をいただきました。そんな縁もありまして、今回のスケジュールを見せてもらったら、私のあと、伊勢崎の杉原さん、そ

のあとは栃木のまちづくり、太田市のまちづくり、そのあとは、最後に渡良瀬川河川事務所の八木所長というようなスケジュールでして、「そのバランスを考えなきゃな」なんて思ったんですけども。

とりあえず、今、「桐生市民活動推進ネットワークの活動」と「ファッションタウン桐生の歩みとその活動」の10周年でして、ファッションタウンのほうで作ったのと、うちの桐生市民活動推進ネットワークのほうは、昨日、代表のほうで、少し加工を加えて、今日はプレゼン資料をちょっと用意させていただきました。

１．桐生のファッションタウン構想について

１）構想策定の経緯

それで、まず「ファッションタウン構想」というのをかいつまんで、説明を1時間ぐらいします。「ファッションタウン構想」とは、地域が有してるファッション産業のグローバルな発展を図りつつ、その地域の伝統文化、歴史、自然環境などの地域固有の資源と融合しながら、内発的で個性的なまちづくりをする運動、ということになっておりまして、地域の産業振興と魅力的なまちづくりを一体的に促進する構想、なんて書いてありますけれども、基本的にこれは、商工会議所が中心になった、まちづくりの組織でありまして、こんなことを平成9年からスタートさせているわけなんです。

平成5年に、こんなことを考えたときに、この一番下の黄色のところに書いてありますが、当時は、ファッションというのはすごく繊維に限定する意識がありまして、石津健介さん、VANの。あの人を呼んで、講演をした覚えがあるんですけども、石津さんは、「ファッションっていうのは生き様だ」と、そういう説明をしてたんです。「多くの人々にある一定の期間共感をもって受け入れられた生活様式で、衣服にとどまらず、食・住・サービスを含む生活文化全般にわたる新たな価値を有するもの」という認識があったんですが、いまだかつて、今でもこのファッションというのは誤解を生んでるところがありまして、ファッションタウンの名称変更を、ただいま検討している状態です。

これは、ファッションタウンが新繊維ビジョンに取り組まれた背景というものがあったということなんです。これはどこの町でも同じようなものでしょうけども、産業サイドと生活者サイドとの交流を通じた活力溢れる地域社会の形成、地域のイメージアップ、生活者のアメニティの向上、ひいては国民生活のゆとりと豊かさの実現に貢献するものと期待されるということですね。

この辺はちょっと流してもらって、このスライドの3つの流れが、ファッションタウン構想のなかにはありまして、繊維産業をはじめとするファッション産業を支えてきた多くの産地の 21 世紀に向けた新しい産地改革っていうんですか、「産地再生」。それから、「高付加価値ファッション産業の振興」。「新しい生活文化を刺激する都市空間」、それから「交流機能」、そしてそこを舞台とした「新しいライフスタイルの創造と発信」が不可欠である。

また、多極分散型の国土を形成するなかで、全国に活力ある中小都市を形成する必要性、これは国土庁の「MONOまちづくり構想」、急激な産業の空洞化による、まあ、これはもう、いいですよねっていう話です。みんな中国行っちゃって、国内ぼろぼろみたいな。

次行ってください。当時、全国7地域を、これは、日本ファッション協会のほうで指

定をさせて、これは、私の覚えてる限りでは、泉眞也先生が先頭に立ってやってた。泉眞也先生っていうのは、例の「愛・地球博」のときにモリゾーとキッコロっていうのを、あの方がデザインしたんですよね。桐生にも何度もおいでくださって、この桐生と富士吉田、墨田、一宮、今治、別府、熊本、というとこでスタートしたということですね。

そのなかで、桐生のファッションタウンのビジョンを策定していったわけです。1番が、「織都･桐生」が育んだ歴史､文化､風土を生かしたファッション都市空間の創造。2 番が、桐生が内在する諸々の資源の整合化とシステムの再構築。3 番が、生活文化都市･桐生を支える多彩な人材の育成､ということを打ち立てまして。

こんなふうにまとめたわけでございまして、産業振興、生活文化、交通・情報網と。これ､1つ1つがばらばらにやってますと、整合性がなくなって、うまいものができないだろうということで､それぞれ空間創造、システム構築、人材育成。縦軸では産業振興、生活文化、交通・情報網というようなことでまとめてあります。平成 9 年の 5 月にファッションタウン桐生推進協議会を発足させて､5 月 14 日にファッションタウン化の推進母体となる、ファッションタウン桐生推進協議会が発足。400 名の会員が集まるということになっていきます。

２）地域資源の再発見と連携

この資料は 10 周年で作ったので、少しそういうものをまとめてあるということでお聞きいただきたいんですけども、桐生ビジョンの大きな特徴として、内発型で個性的なまちづくりを推進しようと。要は、どっかから持ってきて、誰かの真似じゃなくて、そこにある資源を、何があるんだろうということを掘り起こして､「いや、こんないいものがあったじゃないか」とそういうところから、人材についても、建築資源に対しても、もう一回見直そうという動きです。

この当時は、新桐生駅でタクシーに乗りますと、「桐生、何かおいしいとこあるかね？」って言うと､「桐生には何にもねえよ」ってタクシーの運転手さんが言う時代だったんです。「いや、こんなとこ、来ねえほうがいいよ、何もねえから」、それを聞きまして、愕然とした覚えがあります。

某タクシーのシートの後ろに、桐生の地図を作って、「そこへ入れさせてくれって」言ったんですね。「入れさせてくれ」って言うと、「嫌だ」って言うんですよ。「何ならあげるよ」って言ったら、「ぜひください、500 部ください」って、タクシーの背中にくっついていましたけどね。

そのときには､「ああ、そうか、少し付加価値つけてやりゃいいんだな」。こっちで頼むんじゃなくって､「これはもう、限定 500 なんだけど、使うかい？」っていうような話し方をした覚えがありますね。そんな形で地域資源の掘り起こしをしていこう。それを、地元の魅力を再発見して、その地域に住んでいる人たち、そういう人たちの活力を高めていこうというような動きになっていきます。

具体的にどうやっていったかっていうと、これは､「桐生ファッション大賞」ということで、桐生地域のまちづくりに取り組んでいる人や団体などを市民に推奨、推薦してもらい、顕彰しようという動きです。地域のなかで頑張っている方々を応援し、その取り組みの広がりを目指すと。まあ､「よく頑張ってるね」っていうことを認めてあげようっていう活動ですね。

その「ファッション大賞」に選ばれた人っていうのが、桐生では結構有名な人たちが多いんですけども、一番左のおじいちゃんが、今、桐生で「古民具骨董市」っていうのをやってるんですけども、これを企画して、天満宮でぱじめた、河原井源次さんですね。その隣が、荒島スミ子さんという人が中心になってやってるファッションショー。桐生ではファッションショーっていうのは、すぐできちゃうんですね、。その右が、鉾の引き違いなんですけど、ヤマガのエイちゃんっていう鉄砲屋さんなんです。郷土史家の方で、まちづくりをやっていくときに、桐生の歴史なり、何なりをしっかり勉強した上でやっていかないと、ちぐはぐになっちゃうだろうということで、この人はキーマンだったですね。その左下が、今、「買場紗綾市」って書いてありますけれども、もともとは「買場市」っていう市なんですけども、これは、古民具骨董市のすぐ 100 メートルぐらい離れてるんです。

さきほどの河原井源次さんが、このあと「ファッションウィーク」というのに出てくるんですけど、それをやったときに、これをやるって言ったら、「俺の客を取るのかおめえたちは」って話になったんですね。このころから「連携」って言葉が出てきますね。誰かが作って、その客が、周遊するっていうんですか。「お互いに協力しようよ」っていう考え方が、少し出てきました。真ん中にいるのが武藤さん。もともと、繊維試験場にいた方で、いせさき銘仙を 3 千点ぐらい持ってるんですね。個人所有です。それで、今、梅田にある「桐生織塾」っていうところで、「工房を開かしてくれ」ということで、桐生市も応援をして開いた。

その隣が、これは、「かるがもの会」っていうのが、身体障害者の方々の気持ちになって活動してる団体も表彰されてます。その左の下が、大沢紀代美さんっていう、横振り刺繍の、現代の名工ということで黄綬褒章をいただいてる方なんですけども、茨城の水戸交通のせがれの『雅山』の化粧まわしは、刺繍で織ってあって、だいたい 120 万ぐらい。

司会

その人の横振り見たらびっくりする。

角田講師

そうですね。作品をご覧なると、びっくりすると思うんですけども。本人に会って「見せてくれ」っていえば、すぐ見せてもらえますけども。その右の、この真ん中に写ってるのは、『広末涼子』っていう女優で、この人は桐生出身で、この周りに写ってるのは、わたらせフィルムコミッションっていう団体がありまして。

A 氏

『篠原涼子』じゃない。

角田講師

篠原涼子ですね。すいません。そうですね。ご存じですよね？劇団四季の俳優の何とかっていう男の人と結婚した。名前をちょっと失念しましたけども。

まあ、そんなことをやっていて、左から 2 番目の小林正人君が会長を務めているのかな。もともとは、その右側にいる山田耕司君が会長をやったんですけども。

もう 1 つ、「わがまち風景賞」っていうのが、掘り起こしの具体例であります。これは、桐生市の個性ある町の風景を形成している建造物や空間などのうち、特に良質な風景を創出しているものを表彰し、まちなみの保存と活用、ならびに市民の都市風景に対する意識の高揚に寄与することを目指す。市民に推薦してもらって、市民審査員が選考する民間サイドからの都市景観賞

と言える、ということなんですけれど、私もちょっと関わってたんですけども、景色と風景は違うんだということがありまして。風景っていうのは、何らかのそこに思い入れがあって、小さいときにここの小川でよく遊んだよとか、この建物はとってもおっかなく見えたなあとかってそういうところがないと駄目なんです。

たとえばここ足利もそうなんですけども、赤城山を見るっていうのは、この辺の、富士山を見るのと一緒で、この地域の特質ですよね。赤城山と渡良瀬川っていうのは。だから、そういった意味では、そういう風景を選んでこうというものです。

次に行きます。そこで、桐生ではこういう風景が選ばれてきたわけです。左上からいきますと、矢野さんの店舗ですけども、もともと近江商人の方で、こちらで商売をやってきた、本店の店構えです。これが顕彰されてますね。

その右が、『有鄰館』。皆さんご存じだと思うんですけども、有鄰館とい矢野さんの店舗の左側なんですけども、これが煉瓦倉なんです。この一帯を全部、桐生市に寄付をいたしまして、今はいろんな作家の方とか、いろんな展覧会の会場になったり、イベントの会場になったりしております。

その右が、『アッシュ』という美容室になってるんですが、これは、もともと、たまたま私がファッションタウンのほうで中心商店街が結構空洞化してしまったときに、中心商店街活性化プロジェクトみたいなのがありまして、空き店舗をいろんな人に使ってもらおうっていう活動のきっかけになった建物です。ここは、ただの物置だったんですね。お隣の足利から比べると、こんなものはたいしたものじゃないんですけども。まあ、なんとか使おうじゃないかって。慈恩寺の野口さんが持っているんですが、これを、『アッシュ』のオーナーが改造して美容室として、使って、なかなか風情がある景色になってます。

その下が、桐生の岡公園、この右側が北小学校ですね。桐生で一番古い小学校です。そこの山手通りがいいというんで、これも顕彰されてます。

真ん中が『金善ビル』っていう、これは、大正時代に野村證券が入ってたところ。東京から第1番の支店を出したときに、桐生に出したんだそうです。その辺のいきさつから、この建物、結構古い。先日の3.11の地震で耐震上、やばいかなとかいろいろ話が出てるらしいですけども。

その右が、たぶん、織物工場、川内の今泉織物だと思うんです。ご存じの通り、桐生は広域合併をいたしまして、そういったなかで、新里地区というのがあるんですけども、合併地域のものも、これから併せて顕彰していこうということで、左上の写真が、元の村長の小池仍寿さんのご自宅だと思います。

真ん中は西桐生駅という『日本の駅100選』に選ばれた建物です。右下は、桐生ケ岡公園です。動物園がついていますけども、動物園と遊園地が一緒です。正面入口のとこですね。あとの2つは、ちょっと分からないです。

３）商店街と地域クリエーターとの連携

もう一つ掘り起こしの具体例ということで、今度は、「商店街の1店1作家1工場運動」です。これは、ものづくりのまち桐生の特性を生かして、桐生市内外で活躍するものづくり作家を地域資源として捉え、これを商店街の店舗と融合させることで、今までにない中心商店街を形成する動きです。これは、たまたま私が立ち上げたとき

に、僭越なんですけど委員長やっていまして、大分で「1 村 1 品運動」というのがあったんですね。それにヒントを得て、うちの前の団体のメンバーが、「『1 点 1 作家運動』をやろうよ、作家が多いから」ということで、最初の構想は、お茶を売ってる店にお茶とは全く関係ないものを置こうと考えました。「なんで？ここお茶屋なのに、ここで傘を売ってる？」とか、「傘屋なのにソフトクリームを売ってる！」とか、そういう、今でいうと、デパート的な発想っていうんですか。「これを町中でやろうよ」ということで、スタートしたんですけど、今は立派になっています。

こういう形で、町のなかに、最初は銀行だったですが、銀行さんに帯をぶら下げたり、いろいろ小物をぶら下げたりというようなことです。この発想というのは、バブルが崩壊したときに、みんな、ものづくりの人たちが肩を落としたんですね。それで、「いやいや、いいものを作ってるんだから、それ、見せようよ」。それで、見せる機会がないってことから、「じゃあ、それならば、商店の人たちに協力してもらって、少し見せていこうじゃないか」というような発想だったですね。

４）産業観光とノコギリ屋根シンポジウムの開催

次に、あんまり私は得意じゃないんですけど、ノコギリ屋根の活用による産業観光の推進ということです。これはかなり進んでおりまして、当時は 241 棟のノコギリ屋根があった。今は 210 ぐらいかな。これはもう、織物の製造現場として町の繁栄を支えてきたノコギリ屋根ですから。

これは垂直に近いほうが北に向いてるんですね。それで、北側採光といいまして、自然採光が入るんです。横糸とか帯の色とか、そういうものが自然の色で見られるという形の造りをしていまして、もともとはイギリスにこういうのが多いんだそうですけども、「ノコギリ屋根シンポジウム」を 14 年に開催したり、16 年には、「都市再生モデルの調査事業」を実施したり、それから産業観光の核と、地場産業継承の新しい苗床と、文化・芸術活動の創造の場というような形に捉えていきまして、平成 20 年度には、「地域資源∞全国展開プロジェクト」の推進です。

テーマが、桐生の産業観光・ノコギリ屋根の工場と近代化産業の遺産。そして、ノコギリ屋根博覧会の開催と、産業観光のマップ作成、産業観光ツアーの実施。これは皆さんのお手元にいってる資料のなかに入っているんじゃないかなと思っております。

桐生の代表的なノコギリ屋根を今、再活用するっていう案が、いくつか出てきておりまして、パン屋さんだとか、それから、作家の人たちに入ってもらうとかというようなことで進めております。

これはノコギリ屋根関連の博覧会ですね。ノコギリ屋根に力を入れようって言ったのは、富岡製紙工場の世界遺産登録の流れがありまして、当然、そこだけでは完結しないので、県内の養蚕業であるとか、製糸業であるとか、そういうものが一体化して、県のほうもそれを申請したいという動きがあったので、そういう勢いもありまして、ノコギリ屋根も、少し、勢いがついたのかなと思います。

次は、当時、使われてた『ジャガード』であるとか帯であるとかというものですね。今、「産業観光ツアー」をやっておりまして、桐生と入ったはんてんを着ている NPO 法人があるんですけども、桐生再生という同級生のグループで作った NPO 法人なんで

すが、なかなか活躍しておりまして、いろんなノコギリ屋根を案内して、1人500円でかなり濃密な観光案内をしているとこです。

＊ジャガード：経糸と緯糸を組み合わせて、大きな織組織で織った布生地、ネクタイの柄とか高級ブランドのロゴの入った裏地などはジャガードで織られている。

右側に見えるのは、群馬大学の同窓記念会館で、これが両翼にあったんですが、道路が通る関係上、今、道路が通ってるところの向こうにもあったらしいんですけども、切って、ここだけが残ってるという建物です。

これは、ノコギリ屋根博覧会と合わせて開催されたe-物産市っていうことで、インターネット上に物産を並べたということです。これは、こういうような紹介して、こういう表彰を受けましたということです。

５）ファッションタウン桐生推進協議会の現在の活動

今、ファッションタウン桐生推進協議会は、このような組織図になっておりまして、運営委員長が、宝田恭之という群馬大学の先生なんです。生活文化委員会は、藤掛和男委員長が務めておりまして、ものづくり仲間づくりプロジェクト、食文化創造プロジェクト、NECOプロジェクト。ニューエコ生活です。

産業活性化委員会では、籾山和久委員長ですが、この委員会は、足利とも関係するのですけど、「両毛麺グルメ」っていうと、「足利のそば」がいつも一番人気があって、一番先に終わっちゃうんですね。「館林のうどん」と「佐野のラーメン」と「足利のそば」と「太田の焼きそば」、それに、「桐生のうどん」のが出るんですが、一斉に売り出すと、一瞬で「足利のそば」はなくなっちゃうんです、全部列に並ばれて。一番おいしいんですかね。足利は、そば屋さん多いですよね。それで、そういうことやってた籾山和久委員長が、「桐生うどん会」を立ち上げました。籾山さんに聞くと、最初、うどん屋さんが120ぐらいあったらしいんですけども、今や激減して、半分ぐらいになっちゃった。

それで、さっき言った「1店1作家1工場運動プロジェクト」、それからデザイナーと桐生の産地の交流プロジェクト。これは、外から来る若いデザイナーの人たちの窓口業務をやろうということです。結構、桐生織物協同組合も商工会議所も、若い人がいきなり行って、「こういうことやってくれ」っていっても、「ちょっと忙しいからあとで来い」っていうようなことがあるとかわいそうだということで窓口を作った。

それから、「産業観光推進プロジェクト」、こちらは、あんまり動いておりません。さっきの「桐生うどん支援プロジェクト」はもう、独り立ちした団体なので、若干、支援していこう。

それから、まちづくり委員会ですが、これは、桐生工業高校の建築科の科長の先生である佐々木正純先生が委員長を務めておりますけれども、先ほど出た「わがまち風景賞」を顕彰しましょう、それから、「フィールドワーク桐生」、これは赤池孝彦さんという方が中心になって、いろいろ桐生のなかを歩いて、いろいろ掘り起こそうという活動です。それから一番下が、「古民家等活用推進プロジェクト」です。これはさっきのノコギリ屋根をオーナーが、どうにもできないでいるんですね。そういうところの掃除をしたり、かなり大規模にリフォームして、工房にしたりという活動をかなり手

がけております。

最後に「FT ネット委員会」という私が委員長やってるんですが、これはインターネットでホームページを作ったり、広報するのが仕事です。真ん中に「桐生学プロジェクト」と書いてあるんですけども、これは桐生にどんな歴史があって、どんな産業があって、今、どんなふうになっているのかっていうのを、改めて勉強しようという取組です。そして、それを中心にまちづくりを考える機会にしていこうということで、やっております。

今年度は、桐生の機械金属というところにスポットを当てまして、どうしても桐生というと織物にスポットが当たっちゃうんですけども、機械金属っていうところにスポットを当てて、結構面白かったですね。戦後の疎開企業であるとか、今、そういう企業が、どういうところに残っているかというので、「スズキワーパー」といて会社を見学に行ったんです。この会社は、「整経機」というんですけども、世界何十カ国にも輸出してて、その「スズキワーパー」さんのシェアっていうのが、ほとんど業界のシェアの 100%です。

＊製織・経編機の準備工程の一つにおいて，必要なだけの縦糸の本数をとりそろえ、長さ・張力を適度にし、平行に配列して製織・編立の準備をすることを整経といい，整経機は，ビームに何本もの糸を巻いて製織・編立の工程で一番重要な準備をして、製品の良否と密接な関係がある機械。

それと、もう 1 つ面白かったのは、パチンコ業界が桐生にはあるんですけども、「ソフィア」という会社が、バイパスの脇にあるんですけども、そこに行って、見学させてもらったんですけども、本当、単純なところの特許持っているんですね。パチンコ台に「チューリップ」というのがあるんですが、そこに入らないように釘が、ピュッと出るとか、そういう単純なとこです。

「本当に単純なことでわが社は成り立ってきた」と説明を受けました。一番面白かったのが、パチンコの盤面に最初、帯をくっつけたんですって。それまでは木の盤面だったんですけど、そこに帯の柄をくっつけたと。その次に、王、長嶋の絵柄をくっつけちゃったんですって。王、長嶋をくっつけたら、読売から、「ちょっとそれはまずいんじゃないの」っていわれて「そうかね？じゃあ、やめるか」って程度のそんな時代だったんですよ。

「今ならすぐ、補償問題になる」っていうような、笑い話をしていましたけども。ちなみにそこに博物館がある、パチンコ機が、ばあっと並んでいるんですね。その講座を受けた人たちは、ほとんどパチンコをやらない人たちばっかりだったんです。私が見本で、こう、やったら、じゃらじゃらじゃらじゃら出てきたら、みんな集まって来て、

「なんで、これ出てるんだい？」

「これがこう、ぱかぱかぱかぱか開く」。

「これがここにこういうのが揃うと、こうなるんだよ。」

「いつもそう出るんかい？」

「とんでもないって。これが出るのには大変なんだ」

展示品ですからね、すぐに玉が出るわけですよね、7 がぱっぱっぱって揃ったり、うまくいくわけですよ。みんな見てる人は、

「へえ、パチンコってこんなに出るんだ、明日から行くかな」

「やめたほうがいいよ」

って、そんな笑い話をしましたけども。

次です。今、ファッションタウンの会員

構成が以上のようになっているんですけども、総数で若干減っております。これが、会費収入が 180 万円ぐらいになってます。補助金が、どんどん減額されまして、今は 70 万円程度です。商工会議所の事業費としては、100 万円で変わらないんです。総会をこないだやったんですけども、だいたい今年度で、410 万円ぐらいになったのかな。

これは今までファッションタウンをやっていて、いろんなことが立ち上がってきたり、いろいろ応援をしてきたなかの一覧です。からくり人形の芝居を復元したとか、「桐生うどん会」のうどんの PR。「桐生ファッションウィーク」の立ち上げと継続。それから、近代化遺産の活用による地域活性化の運動。これが、この 7 月に、「伝統的建造物群」に指定されることにやっとなりました。いわゆる「伝建群」というものですか。指定されると桐生まちなかマップだとか、産業観光だとか、景観の配慮とかっていろいろやることがあります。

次は、ソフトの部分で協力する。現在、群馬大学は「日本科学技術機構：JST」っていうところで、CO2 を削減する事業を進めているんですが、そういう CO2 を出さないコンパクトシティを目指していこう、みたいなところで、少し動いています。15 年目を迎えるんですけれども、見方を変えて、再スタートをしようじゃないかというような形で、運営委員会では少し話が出ております。

こんな形で課題が出ています。産業関係者の積極的な参加、これはまだまだ少ない。人材の若返りが必要ですが、あんまり若返ると困っちゃうんですけど。実際に、そんなことを言っていても、どんどん退職して、私の関係の会社なんかは、誰も知ってる人がいなくて、もう 1 回頼んで勤めてもらうみたいな話が実際に出てるんですよ。アダルトリソーシスというんですかね。もう、退役なさった、退職なさった方に、もう 1 回、知恵をいただかないとできないみたいなことです。あとは、総合プロデュース力として、関係機関の連携というようなことが出ております。

２．桐生市民活動推進センター「ゆい」

１）NPO 促進法と桐生市の政策

というようなのが、ファッションタウンで行われてきたんですけれども、ざくっといろいろ話をしたんですけども、これからは、少し、桐生市民活動推進ネットワーク、「桐生市民活動推進センター『ゆい』」について、少しご紹介をしていきたいと思っております。

だいたい、第何次とかの町の総合計画を作るときに、私も策定委員の 1 人だったんです。九州の佐賀県は、市民活動との連携なしには、もう、総合計画はないんですね。全部、一番右側に、以下の項目について市民活動と連携しなさいっていう文章が、だあっとついてるんですね。桐生市は、そこまでいかなくて、そういう提案をしたんです。市民活動との連携が重要になってきているということが前提です。

いきいきとした桐生を作るために、幅広い市民活動の、より一層の推進を目的として設立された民間団体ですということで、これは、今の桐生市は、亀山市長の前の大沢市長が、マニュフェストとして、当時、阪神大震災のまだ余韻がある、95 年にそういう政策を掲げて、98 年には特定非営利促進法ができていくんですけども、それを受けて、話がされたのが、2000 年なんです。だから、その法律が施行されて 2 年後、桐生でもこういうことをやっていこうという

形で、懇談会を市長が委嘱したんです。そのなかで、こういう団体を作っていこうじゃないかとなりました。

私もこのときに、自分の専門はまちづくりだったんですけども、初めてほかのジャンルの人たちと保健福祉であるとか、NPOでいうと 17 分野の人たちが少しずつ集められたんです。環境の人たちとか、まちづくり、それから、産業活性化だとか、教育だとか、それから保健福祉。そういう人たちが集まって、日本語で話すんですけどね、共通の言葉、なんていうんですか、その辺が難しいとこなんですね。この、違う業種、異種の団体っていうのは。

ネットワークには、「環境づくり委員会」と、「ネットワークづくり委員会」、それから、「パートナーシップづくり委員会」、「センター運営委員会」という 4 つががございます。それぞれの委員会を少し説明しますと、これは、「パートナーシップづくり委員会」が主管でやってるんですけども、JR 桐生駅が全く暗くて寂しいというなかで、内閣府の補助もいただきながら、LED の電球を 3 千球ぐらいくっつける。早川農園は 100 万球だったんですよね。今、130 万球ですか。委員長に言わせると、1 万球ぐらい、なんて言うんですけども。

＊早川農園：足利市フラワーパークの前身として有名。現在のフラワーパークとは場所は異なる。

市内の保育園、幼稚園、そういったところに募集をかけまして、「わがまち桐生」、それぞれ毎年テーマはあるんですけども、「そういうものを表す作品を作ってくれ」ということで、だいたい、27 団体ぐらいが協力してくれてやりました。

下のスライドでは群馬県のキャラクター、これも NPO 法人ですね。いつも値段をまけさせて出動してもらう「G-FIVE」っていうのがあるんです。こんな格好してるの「アカギレッド」ですね。「アカギレッド」、で、ブルーは「ハルナブルー」、黄色いのは「ミョウギイエロー」っていうんですが、結構、人気があります。「源龍」と何だっけ？セイリュウだっけ？

近藤氏

源仙ですか、源仙、源龍。

角田講師

川の源泉と源流みたいなのが、アカギレッドの両脇にいます。この団体で、一番面白いのは、悪ボスがいるんですよ。この人が面白くて、いつもうちの近藤代表が司会やるんですけども、掛け合い漫才みたいですね。結構、子どもたちが集まって喜んでます。

これは、3.11 の震災で、南相馬から被災者の方々が 100 名ちょっと桐生市のほうにも避難してきておりまして、もともとは、型どおりにどっかで受け入れてもらうよりか、「なんか、みんなが集まれるとこがないかね」ということで、このようなところに、「ちょっと行こうかね」っていうようなところで始まった被災者支援事業なんです。行政のほうが少し応援するよということで、「うちはお金要らないよ」って言ったんですけども、若干のお金、10 万円ほどいただきまして、昨年はイベントをやりました。

そうしたら、どんどん活動が生き生きしだしまして、この吊し雛っていうのは、被災者の人たちが持っている技術です。「私、こういうことできるから、こういうことやろうか」ということでしたが、これがばかウケしまして、募集 20 人のところに 50 人ぐらい来ちゃって、まだ継続中なんですよ。結構いいものができまして、一番奥の左側のホワイトボードにばらばらって、ぶら下

がってるんですけども、これ売れるんじゃないのっていうのまで作ってます。

これは、ネットワークづくり委員会が主催している、こちらはフラダンスで、こっちはギターアンサンブルが、歌声喫茶をやってます。これは、ナガトキミエさんという方が主催している歌声喫茶です。結構、桐生もお年寄りの方が多くなりまして、結構ウケてますね。フラダンスは、私なんかはいつも、見てるんですけどね。若い人もいます。

次のセンター運営委員会は、JR 桐生駅のなかの、もともと緑の窓口だったところなんですけど、ここも空いていたんですね。「暗い雰囲気なんで、こっちへ移ってくれ」と、桐生市のほうで頼んで、もともと末広町の信号の角にあった「ゆい」が、こちらに移って、今は活動しています。私がこの委員長で、その委員会を束ねてる代表は、こちらの近藤が務めているということでございます。以上で私の話が終わってしまうんですけども、近藤代表のほうから何か、補足はありますでしょうか？

近藤氏

いえいえ。

角田講師

以上で大丈夫ですか？つたない話だったですけども。

司会

ありがとうございました。角田さんの話は、とりあえずパワーポイントは終わるけど、これからしばらく、今までの協議会の運営等をされて、いろいろお話があるだろうと思いますので、近藤代表もこちらに来ていただいて。

３．市民ネットワーク活動の舞台裏

角田講師

そうですね。じゃあ、ちょっとパワーポイントのほうは終わりにして、代表こっちに。Van-nooga 事務局長の塚越さんから、「裏話をしゃべれ」ってことですよね。足利はわれわれが見本とするところが、実はたくさんあって、桐生から見てると、「足利ってすごいよね」っていうのがあります。足利学校の周りの道路のとか、すごくいい感じの道路ありますよね。

B 氏

石畳ね。

角田講師

それで、素敵なお店もありますが、『じけんち通り』っていうのが裏に通ってますよね。まだ早川農園がこっちにあるころ、ちょっと私、イベントのお手伝いしたことがあるんです。まだ藤が移転する前に。そのときに、そのじけんち通りで何かやりたいって人が来てて、「イベントやりたいんだけど、手伝ってくんねえかい」ってことでした。そのときはまだ、道路もこうきちんとなってなくて、ごちゃごちゃでした。そんなこんなで、「足利ってすごい資源がいっぱいあって」って言ってたら、NHK の大河ドラマの「太平記」のがありまして、そんときに観光バスが止まれて、案内所があるよということで、桐生の観光協会で調べに

＊『じけんち市』は、足利市の鑁阿寺の北門を起点とする『奥の院通り』で、毎月第２日曜日に開催されている、骨董や古美術品、農産物の即売や生活雑貨品のリサイクルなどの青空市
鑁阿寺領の寺院の家人の住む『寺家（じけ）』で、毎月決まった日に市が開かれ、農産物や仏具を買い求める客が集まったことに由来する。

行ったんだね。そうしたら、足利は相当大きなお金で動いてて、当時、桐生の観光協会は年間予算が 380 万だったんですね。その 10 倍以上のお金を掛けて足利はやってるというようなお話を聞きまして、まあビックリしたっていうことがありますね。

司会

しかし、あのとき実際にもうかったのは、当時 70 万人観光客が来たんだけど、そのうちのほとんどが桐生織物観光センターに行って、食事してんの（一同、笑う）。お金おっこったのは、桐生。だから、足利は、実際にはね、人は来たけど、お金は落とさないで、ゴミ落としただけ。

角田講師

なるほどね。そんな話もありまして、先ほどもおっしゃってましたけども、隣同士で分からないっていうようなとこが多いと。で、ちょっと、広域合併ってこと考えると、僭越なんですけども、「足利と桐生で手組もうじゃないか」と。それで今、観光センターで飯食って足利に回る、栗田美術館と早川農園（フラワーパーク）があって、足利学校があって、桐生にもそれなりの街歩きのアーバンツーリズムがある。こういうのを連携させようじゃないかっていうような話が、観光協会等々ではぼちぼち出てるんですが、ちょっとこれはまだ難しい話なんですけども、太田も含めて、足利・桐生・太田、こういったところも含めて、何かの形でできないかなんていう話もちょっと出ておりまして、「取りあえずそれぞれの市会議員に勉強してもらおうじゃないかという交流もどうかね」なんて話も出てます。

まあ、そんなことがちょっと思い出されるんですけども、今日、近藤代表に来てもらったのは、うちの桐生市民活動推進ネットワークの初めての女性の代表なんですね。まちづくりやっていくときに、なんていうんですかね、カチッとしたことよりも、女性の力というのはすごく大事で、うちの環境作り委員会って、ほとんど全員女性なんですけれども、やっぱり女性はすごくなんというのですか、パワーがあるんですね。

以前、地域作りでやったときに、竹下景子の恩師の伊藤先生という方、東京女子大の先生が、「やっぱり女性が活躍できる街っていうのは、男がそれだけ懐が広いんだ」とおっしゃっている。「そういう女性に活躍してもらうってことが、実はまちづくりとかそういう部分では有効だよ」というような話もありまして、今回大抜擢で近藤代表なんですけども。近藤さん、何か一言ありますｰこれからネットワークの活動で。ネットワークの、市民活動の舵取りをしてくわけですけど。

近藤氏

そうですね、ネットワークのほうは設立 10 年になるんですね。実は設立当初から 8 年間、角田さんが代表で、ずっと基盤作りはしていただいて、やはりこれだけ、今お話聞いても分かると思うんですけども、いろんなところにネットワークを持ってる人ですから、信頼関係っていうのは一番何をするにも大切なんですね。で、やはり商工会議所もそうですし、役所との信頼関係がないと、やっぱり敵視しちゃうとうまくできない事業ていうのがたくさんありますので、そこの基盤作りをしっかりしていただいたところで、代表を代ったわけですけども。

その間にもう 1 人、代表がいたんですけども、実は急逝してしまったんですね。52 歳という若さで、くも膜下で今年の 1 月 2 日に実は亡くなってしまったんですね。それで、次の代表っていうことで私がなった

んですけども、何ができるかなっていうのは、やはり角田さん、さっき言ってましたけども、女性が活躍できるには、やはりそれだけ男性がね、それだけの大きい気持ちを持ったっていうことを言ってましたけど、女性の視点からすると、そうではないっていうの。

やはり女性が中心に頑張っているところが、元気なところ。だから、その両面が、お互いにそういう話ができるっていうのがいいのかな。男性は女性を転がしてる、女性は男性を転がしてると、お互いにそういう気持ちを持ちながら活動していくのが、また面白く、いいのかなあ、なんていうのが思いながらやっていこうと思ってます。

やはりこういうところ出て来ると、男性が多いじゃないですか。どうしても女性が少なくて、男性の視点から見るものっていうのが、多くなるかなっていうところに、頑張って女性が少し行かないとっていうところはあります。

もともと、桐生っていうのは機屋が多くて、実際のところ、旦那衆はね、いろんなところでいい顔して、信頼関係作ってるかもしれないですけども、頑張ってる女性がいま。そういうところがね、桐生のまた。まあもちろん足利もね、同じようなところがあって、陰で結構頑張ってるのは女性だったりするんじゃないかなあなんて思うんですけども。そんな感じで頑張っていければと思っています。

角田講師

今年の代表としのキャッチフレーズが、「明るく元気に自分らしく」ということで、もうとにかく仲間を増やしていこうと。ちなみに、雪が降ると、桐生の商店街は、雪かきしてるの、全員女性です。ほんとに、ビックリしちゃった。

まあそんな形で、近藤代表の下にやってこうという形なんですけれども、まあ桐生って結構、古いところもあって、報道では90 歳の方が会頭になんていう話が出ているぐらい、ちょっと今、揺れているらしいんですけども。別に塚さん持ち上げるわけじゃないですけども、唯一足利で、本当のことを桐生で言っちゃう人だったですね。だから、塚さんがいなくなって、随分静かなんですよ、今桐生は。ほんとの話。

じゃあ静かになると、どういうことが起きるかっていうと、90 の人がまたそういう会頭になるような羽目になってしまう。だから、そういう市民活動も、実際に、さっきもちょっと言いましたけども、今ニコニコ笑って代表も言いましたけども、集まる役員は、ジャンルがいろいろです。そうすると、同じ日本語でしゃべってるんだけど、みんな価値観と、運営の仕方とか、決算の仕方とか、全然違うんですね。保健福祉の方はいらっしゃいますか。まちづくりの 10 倍お金使いますからね。ビックリしちゃうんです。

群馬県で大会やると、まちづくりの全国大会で 400 万。保健福祉機関の全国大会だと、5,000 万でやるんです。規模が違うなんてレベルではないですよね。向こうは 40 年ぐらいの人、40 年、50 年の経験の人が多いわけです。そうすると、まちづくりの NPO でございますなんていうと、「昨日、今日ボランティアなんてやって、何、言ってんだい」なんてすぐ言われちゃうんです。ボランティアはやっぱり保健福祉だろうみたいなのがありますから。

そういうもろもろ、水面下で、土地の歴史だとか、価値観だとか、そういうことに、もろに風当たりが来るところは、実はうちの近藤代表のとこなんですね。でも本人は、

こうやって流しちゃいますけどね。

Ａ氏

白瀧姫の伝説があるとこだから、女性がもともと働いてるから、家で作れないから、給食センターが建ったんだから。日本で一番古い給食センターです。僕もずっと最初からファッションタウンやったのは１人なんです、実は。石原君っていう今は事務局長だけど、石原君がいなければ、ここまで行ってないんです。

1 人の人がやっぱり一生懸命やって、何人か非常に才能ある人は多いんだけど、残念ながら、そうした人材を生かしきれてないっていうか、もうかなりその方が 80 代になってしまっている。

近藤氏

難しいらしくて、よく聞く話では、70 代の人でも、まだ若い衆って言われるんでしたっけ。そんな話ししてましたよね。

角田講師

桐生の副会頭やってた森喜美男さんていう人が、キノコ持ってる、あの方が群馬県の公安委員長やってるときに 70 だったんですね。

「角田君、俺は 2 年、1 期やったら辞めるから。なんで辞めるかというと、俺はね、銀行の会で何言ってもね、俺だってもう 70 なってんだけど、『おお、若え衆』ってまだ言う人がいっぱいいる。90 でこんな杖ついて来て、『おお、若えの』ってやられると･･･。『だから、いいかげんにもう辞めろ、よせ』って言いたいんだ俺は。だから俺、辞めるんだ」とおっしゃていた。

だけど、だいたいそういうバランスがいい人って辞めるんですね、パッと。じゃあ、交代ってやるんですね。だから、そんな話が結構、桐生多いんですよ。その親分の人が、若い連中が出て来たときに、「よし」っというんで、引き上げてくれりゃいいんだけども、なかなかそういうわけにいかなくって、「桐生は足が長くなっちゃうんですよね、足引っ張られるから」って冗談で言ったりするんですけども。

４．広報活動の重要性と各団体の連携

話変わって、桐生には「桐生タイムス」っていう新聞があるんですが、地方紙っていうのは影響がありまして、いろんなイベントやって、毒蝮三太夫の講演会なんてやったときもあるんですけど、桐生の人は、ほとんど、桐生タイムスを見て来たって人が多いんです。イベントの時に、チラシを何千枚も作って、学校に配付しても、それを見て来た人っていうのは、ほんと少ないですね。だから、今回うちの NPO は、代表と相談をして、チラシ作るのはやめよう。全部その桐生タイムスに記事広告で載せようということにして、今日か、昨日か、第 1 回目が載ったんですけどね、一面の下に。

だから、群馬県のほうとも、そういう新しい形の周知の仕方っていうのをちょっと工夫していこうよとやってますけれども、足利はどうなんですかね。私が心配するのは、足利って、渡良瀬川の向こうとこっちに分かれちゃいましたからね。どうなんですかね。

今度、日赤のデカイ病院が出来て、あの辺も町の核になりそうな感じもするし。

Ｃ氏

足利っていうところは、いろんな観光とか、それから市民、住民の団体があって、それぞれ活動をやってるんですけれども、1 つにまとまるということが難しいんですね。昨年でしたか、「そういう代表者にいっぺん集まっていただいて、話をして、大ざっぱでもいいから、1 つの組織を作ろうよ」

という話をしたんですけども、それに賛成する人は誰もいなかったんですね。とうとうできなかったんです。

なんでできないかっていうと、市役所と商工会議所を始めとして、過去からのずうっと長い歴史で、ケンカしてる状態ですから、そのなかで、市がやろうとしてることに他の組織は賛成はしても、積極的にじゃないですよね。何かイベントをやれば、そのときにはやりますけど、その後それを継続させていこうという気持ちがない。みんな一生懸命、小さな団体ごとにやってはいるんです。

この足利市という街が出来上がってきた歴史的な背景もあるんだろうと思うんですけど、戸田藩という藩の領地だったわけですけれども、非常に狭かったんですね。あとは旗本領とかそういうところが非常に多かった。これはまあ足利だけじゃなくて、両毛地区というか、関八州なんていうところがそうです。旗本領、幕府領が非常に多かったんです。そういう歴史的な背景もあって、なかなか地域で協力を保つのが難しい関係が歴史的にあるんだろうと思うんですけども。今日ここにお集まりの方たち見ても、足利市出身で、生まれて育ったっていう方、少ないと思うんですね。地元で一生懸命やってる人を辿れば、ほとんど足利の人じゃないんですね。

私自身も、この中央地区に住んでいるんですけども。ここへ住んでから 40 年ぐらいたちますから、この地元の人間と同じだろうと思うんですけれども、出身は違うんですね。地元でまちづくりの会を作って、一生懸命やってきた人も、ほとんどが地元の出身の人じゃないんですね。よそから来た人。

地元の出身の人っていうのは、いくら声を掛けてもそれなりにはできてきたんですけれども、この中央地区でも、いくつかまちづくりの会があるんですが、それぞれ考え方が地区によって違うんですけれども、それを 1 つにまとめることもできない。

それから、1 つに市のほうの関係で行政上まとまってたところが、その後に分裂してしまうというようなこと。それから、この通り、旧国道だった通りですけども、まあきれいに見えてますけれども、これが無数の商店街に分かれてるんですね。1 つの、あれだけズラッと揃っていても、1 つに揃うことができない。だから、まあクリスマスごろになりますと、ときどきイルミネーション飾ったりするんですけど、100 メートルおきぐらいでみんな違うんですね。というふうなところですんで、先ほどお話伺って、一生懸命やっておられるご苦労の末だっていうことはよく分かるんですけども、とにかくそういうネットワークができて、立ち上がれたということは非常に羨ましく思うんですね。

角田講師

法政大学に岡本先生という方がいるんですけど、豊田市のまちづくりを頼まれたことがあるんですって。で、豊田市に行ったら、葉っぱの裏までトヨタって書いてるって（笑う）。要するに、全部 1 つにまとまっちゃってる。こんなところに文化は育たない。異論を言う人がいない。「いや、俺は違うぜ」って言う人がいないと。逆に言うと、足利はやっぱり文化度が高いんでしょうね（笑う）。

C 氏

まあ皮肉を込めていうけれど、隣のうちのことをしっかり見はってるというようなとこで、非常に面白い。

A 氏

さっき、足利の場合、渡良瀬川の南と北に分かれているんじゃないかって話あったでしょ。ちょうど、吾妻山から桐生を見たとき、渡辺崋山が「毛武遊記」にずっと吾妻山から見た山を書いてんですね。そうすると、ほとんど全部山に囲まれて、茶臼山もこっちに入ってるから、全部山。そういう山が桐生市を救っている部分がある。足利市が救えなかったのは、逆に言うと、南に開け過ぎちゃうから。

角田講師

でしょうね。開けるところがあったっていう。

C 氏

だけど、旧市内にいる人たちは、「川から向こうは足利じゃない」みたいなふうに言うんですね。まあ確かにね、工業団地が出来るまでは農村地帯だったわけですよね。それで、まあ古い足利の人たちから言えば、「川から向こうは風が強くって、人間の住めるところじゃないんだ」っていう、そういう言い方をずっとしてきたから、向こうと融合しようなんていう気持ちは初めからないんですね。だから、南に今住んでる人たちは、前から住んでた人じゃなく、こちらのほうから向こうへ移っていった、土地が向こうのほうが安かったから。というような感じですから、せも、まあ気質は同じだろうと思うんですけれども。

早川一族みたいな大金持ちが、あそこら辺、とにかく「駅から向こうまで自分の土地で、他人の土地は踏まずに行けるんだ」というふうにこないだ（農地改革）まで言ってたわけです。

それで、まあ商工会議所の会頭にしろ、市長にしろ、渡良瀬川の挟んであっち行ったりこっち行ったりしてるわけですけども、まあなかなか微妙なところなんですね。だけど、北側は，経済的にも相当落ち込んできてますから、落ちるとこまで落ちれば、あとはまとまる以外にないですから、そのうちにはまとまってきるんじゃないかと思いますけどね。それまで待つほかないんじゃないでしょうかね。

角田氏

私はよく東武鉄道使うでしょう。館林は、まだわが故郷じゃないんですよ。で、足利東武駅まで来るとね、山が見えてきますからね、館林まだ山が見えないんですね。で、こう足利入って来ると、あ、やっとうちに着いたっていう気持ちになるんですよ。で、それから、また太田行くわけですよ。ぐるっと回って、その桐生まで行くわけですよ。

これ、ちょっと無駄なんで、いつも行くときは、足利東武駅に車置いて、そっから乗って行っちゃうんですけどね、足利からのほうが 30 分速い、近く速いわけですから。でも、それのとき思ったのは、足利の地形と桐生の地形って、わりかし似てんですよね。

山にこう囲まれて。だから、そういった部分では足利も、実はうちの母の実家がそこの堀込にったところで、伊勢町っていうところにおばさんちがあって、足利は結構親戚が多いんですよ。で、やっぱり同じことを言ってました。足利の町、ちっともまとまらないと。足利学校の周りだって、あんな一緒に仲良くやってるようだけど、みんなバラバラだというようなことをね。ほんとかなんて、あんなきれいにやってるじゃないの。蔵だって、料理屋だって、そこにあるね、織物の何かありましたよね、『うさぎ』、結構しゃれたのが並んでて、あれ、みんな連携しているのかと思ったら、なかなかそうじゃないらしんですね。でも、文

化度はやっぱり足利のほう、ほうが上かなあ、って思うんですけどね。

５．地域資源の再発見

Ｂ氏

まあなんていうんでしょうね、私も完全によそ者で、来てまだ日が浅いんですけどね。ずっと東京のほうにいましてね、ニュータウンで暮らしてましたから、よく分かるんですが、なんていうのか、まあ一言で言うと『しがらみ』なんでしょうけどね。ただ、そういうことを言っててもしょうがなくて、皆さんが言われるように、困るとこまで困ったらまとまるさっていうような感じで、今日お話伺ってて、桐生のほうが動いてるってことは、たぶん桐生のほうが困ってるんでしょうね。なんとかしないと、という思いですか。

角田講師

そうですよ、ははは。

Ｂ氏

「このままではいけない」っていう意識が市民にある。たぶん、そういうことだと思うんですよ。だから、まあ愚痴言ってててもしょうがないわけで、じゃあどうするかっていうところが一番大事なんですけど、なんかきっとね、楽しいことやるのが一番じゃないですか。

というのは、今日若者も来てますんで、そういうあんまり難しい社会学の話をしても、たぶん答えが出て来ない。僕の目から見ると、この両毛地域っていうのは、いろんな魅力的なものがある。やっぱり一番問題は角田さんがおっしゃってましたけど、みんながよく分かってないんですね、地域資源の価値というものを。

私も知らないんですけど、この前、月星ソースのソースをいただいたんです。まあうちの家内は口が悪くて、どんなお菓子を持ってってもぼろくそに言うんですけど、この前、「使うから、月星ソースを買って来い」と言われまして、何本か買って帰ったんですね。でも、やっぱり高いから、スーパーに置いても売れない。だから今、ネットで売っているだそうですけど。

しかし、問題は、足利の人が、一体月星ソースの価値がどれだけ分かっているんだろうというと、たぶん分かってはない。知らないですよね。

それから、ちょっと話を逸らして恐縮だけども、フランシスコ教会があるんですね桐生に。「あれが素晴らしい」っていう方がいるんですね。それでも、今日のご紹介には出て来ないですね、全然ね。

角田講師

うん、出て来ないですね。

Ｂ氏

桐生のフランシスコ協会は、アッシジのミニ版ですよね。だから、あれ絶対、全国

＊イタリアの中部、ペルージャの近く、標高1300m のスバシオ山の中腹に広がる小さな城壁の町であるアッシジは、聖フランチェスコの生地でもあり、聖フランチェスコ会の総本山が置かれる信仰の地。山腹の寺院建築で有名。

区でウケると思うんだけど、なぜ桐生の方はフランシスコ会館の教会について、全く紹介が出て来ないんですか。

角田講師

だから、それこそ外部の目っていうのが。だから、なかの目っていうのと違うんでしょうね。

Ｂ氏

そういうことでしょう。だから、こういうとこでよく申し上げんのは、沖縄のみかんとリンゴの話です。昔、沖縄海洋博やっ

たときに、沖縄に本土の人が行くから、沖縄の人は、最高級のおもてなしをしたいわけですから、彼らにとって一番のごちそうを出す。それがリンゴとみかんなんですけど。本土の人は、わざわざ沖縄に行ってボケたリンゴやみかんを食べたいわけじゃない。そこにパイナップルがあって、それが食べたいんだけど、沖縄の人にしてみると、それは自分たちが日常的に食べてるもので、それがもてなすことになるんだっていう感覚がないわけですね。わざわざ輸入、輸入物のリンゴ出すわけですね。たぶんこういう認識のギャップがものすごくあるわけなんですよ。

なぜそういう教会が紹介に出て来ないんだろう。要するに、こういうまちおこしやるときに、呼ぶのは外の人ですよね。なかの人がなかでグルグル回っててもしょうがないわけなんで。ところが、全然そういう目がない。足りないと思う。これ、1 つですね。

それから、もう 1 つは、今日は近藤さんのお話のときでも、比較的桐生の方、自分たちがまず楽しんでる。何かのためにやるんじゃなくて、やっぱり自分たちが面白がらなきゃしょうがない。足利の武者行列なんかも、やってる人楽しんでる。まず、それが大事で。札幌ソーラン祭とかいって、もう少したつと、日本中からなんか変な恰好した若い衆がソーラン踊りをやるわけだけど、あれも結局、見に行くわけじゃなくて、自分たちがやりたいからやってることなんで。だから、やっぱりどうもイベントっていうのは、やる人間が楽しまないと意味がない。だから、そういうスタンスで、やっぱり面白がってしまうっていうことと、それから外部の目と、その辺がどうも組み合わせかなと思う。

だから、ファッションか素晴らしいわけですから、もっと呼べばとずっと思っている。時間的に他の都市とずらしてね、両毛の都市で常にどっかのイベントが開いてるような形に持ってければいいわけですよね。なかなか花火大会とかそういうのは難しいかもしれないけど、6 月の第 1 週は桐生の何かあって、2 週目は足利でやって、3 週目はどっかでっていうこの辺でグルグルずっとやってると。と、たぶん平均的に人が来れる。逆に言うと、どの週末を外しても、どっかで何かやってるみたいな形のもの。そういうことで、両毛地区全体のポテンシャル上がってくのかなってのは、前々から思ってるんです。

ただ、そういう話をすると、すぐに「花火大会の日とあっちのお祭が一緒だから変えられん」とかいう話を聞くんだけど、そんな大それたことを言ってるわけじゃなくて、ずっとちょこっとしたものを続けてやってるような仕掛けに持ってく。もうちょっとそんなことを皆さんでお考えになれば、面白くなるんじゃないかなと実は思ってます。

僕さっきから、一人しゃべってまして、申し訳ないですけど、一番面白かったのは、NPO の何とかレンジャーです。

近藤氏

『G－FIVE』

Ｂ氏

『G－FIVE！』あれが一番面白かった。今日鹿沼から来てる学生がいて、『カヌマン』の話ちょっとしてくれる。

Ｄ氏

大学、今 4 年生なんですけど、2、3 年前に鹿沼の成人式の実行委員をやってまして、そのなかで、成人式の舞台上のほうに、地元ヒーローのカヌマンっていうものがいる。

当初は4人で鹿沼市で有名な『とちおとめ』とか、『ニラ』だったり、『鹿沼土』に似たヒーロー、あとサツキ。今は7人です。結構やっぱり、鹿沼のお祭とかでも、オンパレードみたいな感じで出てたりするんですけど、子供のころ、その辺で見たこともなかったんですが、成人になって初めて知ったみたいなところもあります。

近藤氏

結構もう前からいたんですか？カヌマンていうのは。

Ｄ氏

そうですね、たぶんまだ数年ぐらいだと思うんですけど。そこで初めて見て。

角田講師

ちなみにこれ、『G－FIVE』に栃木のキャラクターが1つ入ってるんですけど、分かります？

Ａ氏

左から2番目ですかね。

近藤氏

これは上毛新聞のヒュルルン。

角田講師

このね、一番手前のこのサングラス掛けてんの。これ、日光仮面っていうんですって（笑）。これ、今ちょっとちっちゃくなっちゃってますけども、分かります？これ。『ぐんまちゃん』っていうんです。群馬県のマスコット。

Ｂ氏

素晴らしい安易さ、これもう傑作。こういう『ゆるキャラ』っていいですよね。

角田講師

青い三角屋根、ノコギリ屋根ね。このキノピーはね。」

角田講師

近藤さん、説明してやってくれる、これ。ちゃんと意味があるんですよ、このキノピーの体は。

近藤氏

体、いや、手だけですね。渡良瀬川と桐生川。はい、桐生はきれいな川が流れてるっていうことで。頭は。

角田講師

頭は、山なんじゃないんかい。

近藤氏

これはノコギリ屋根です。

角田講師

浅間とかなんとかっていうんじゃなかった。

近藤氏

いえ、違います、桐生ですから。

豊田氏

桐生・黒保根・新里とかそういう。合併の。

角田講師

ああ、そうだった。赤い奥にいるのが、これが、『わ鐵』、わたらせ渓谷鐵道、わっしーっていうゆるキャラですね。

近藤氏

ちょっと写真では見えないんですけどおなかの辺に口があるんですよ。あそこから線路が出て来るんです。

角田講師

ちなみに、この「ぐんまちゃん」と「ゆうまちゃん」をしゃべらせちゃったんですよ。ほんとはしゃべんないわけなんだけど、しゃべらせちゃったのはこの人でね。なかにマイク付けて。

近藤氏

自分が入ってしゃべりました（笑）。

角田講師

「しゃべっちゃ困る」って言われたんだけど、何勝手なこと言ってんだって、しゃべっちゃった。ということがね、ありましたね。

あっ、先ほどのうちのネットワーク、ほとんどよそ者です（笑）。

Ｂ氏

結局楽しんで、結果として人が来たらそれでいいっていうことですね、たぶん。

角田講師

「ファッション大賞」ってあったでしょう。あれって、結局お互いの傷の嘗め合いになったんですよ。で、やめようって。だから、その修道院の話が出て来ないんですよ。お互いのイベント褒め合っちゃうんだもん、だって最終的に。狭いとこでやってるから。

Ａ氏

さっき、聖フランシスコの話があった、アッシジ出たけどね、これなんかは足利でいうと、ハリストス教会があるわけです、これを観光マップに入れようというような考えね。そしたら、「山下りん」もある。

Ｂ氏

最終的な目標はね、この渡良瀬川流域で、なんか大きな形まで持ってければいいけど、まずその前に、たとえば、桐生と足利の何かコラボね、そんなものをやってみるみたいなね。何かちょっとそういう形でできたら面白いなって思ってるんですよ。だから、たとえば、『カヌマン』と『G－FIVE』、ゆるキャラだけ集めてみるとかね。

そんな無理してやる必要は全然なくて、千葉県の印西市に『なし坊』というのがいて、見かけはほとんどアンパンマンなんだけど、特産品が梨だから。市役所の職員が入ってるらしいんだけど、何かイベントがあれば、しょっちゅう、うろうろしてるんです。だから、そんな形で、だんだんこう定着していくでしょう。みんなで集まって、1 回そんなことやればいいと思う。足利にもあるのかもしれない。

Ｃ氏

足利学校にあれいますね。

Ａ氏

足利学校にもゆるキャラがいるわけ。『たかうじ君』っていうゆるキャラが。足利学校の場合、上杉憲実で、『のりざね君』ていうのもね。

近藤氏

集めるといるんですよね。栃木県の県のキャラクターもいますもんね。

角田講師

『旅博』ってのを東京でやってまして、全世界から勧誘に来てんだよね。やっぱりね、一番目を引いたのはゆるキャラだったんですよ。

近藤氏

「せんとくん。」

角田講師

旅博に行ってたんですけど、『せんとくん』が来ると、「ああ、せんとくんが来た」なんてね。あとは何だっけ、彦根城の『ひこにゃん』。そういうキャラが来るとね、そこのとこだけ「わあっ」と楽しくなるんですね。そっから、旅の話になっていくみたいなね。

６．他地域の資源との競争や当事者の楽しみ

Ｂ氏

仲間内では仲間の目しかないわけですよね。日本の文化で悪いのは、レコード大賞なんかにしても、プロダクションが内輪で受賞を回し始めると人気なくなると思う。だから、やっぱりもっと遠目で順位付けちゃうんです。嫌かもしれないけどね。だから、どっかで「ゆるキャラ大賞」みたいなことやってるよね。だから、そのカヌマンと G－FIVE を対決させちゃうとかね、真面目にね。で、どっちが面白いかとかね。

なんかそういうようなことをやって、あんまりお互いエール交換だけで終わらさないようなことをやってくと、ちょっと前に進むかもしれない。

今、お話伺ってて思ったのは、結局、角が立つのが嫌なわけです、皆さんね。だから、内輪もめの世界に行って、沈んでくわけ、縮まってくわけでしょ。だから、やっぱりそこを一歩出なきゃいけないとしたら、やっぱそういう。嫌かもしれない、順位付けとかね、何らかのそういうことをやる、評価をやってみる、それをやることによって、今年負けたから、来年違う出し物で勝負するとかね、たぶんそういう方向になっていかないとなんか。

近藤氏

そう言えば、今日は AKB の総選挙ですね。

角田講師

こちら学生さんたちは今、そっちのほうが気になってるから（笑）、前田敦子の票がどこ行ったんかなって。

Ｆ氏

僕は全然興味ないですけど、後輩は、「ライブとかのチケットを当たるかな」みたいなことをいってました。

Ａ氏

車には乗ってみる。いったん乗ってみろと。「AKB なんてどうでもいい」とは思ってても、乗ってみるってことが必要なんだね。あんなの騙されるのはもうみんな知ってるわけだよ。テレビ局の内幕も知ってるんだけど、あえて乗って楽しんでいる。車と同じ、乗んないとどこへも行かない。

Ｂ氏

それが大事なことだね。結局、おニャン子クラブみたいに、いずれ淘汰されてくんだけど、そのときはそのときで面白がっていればいいんじゃないかっていうその感覚なんだろうね。なんか変に理屈つけたい人がたくさんいる。自分がインテリだと思ってるやつほど、小難しい理由付けて、面白くなくしていくんじゃないかって思う。

要は、「そのとき面白ければ、それでいいじゃん」ていう、ものすごくプリミティブなところでやってみるってのが大事かな。だから、さっき、おっしゃってたように、ああいう「ゆるキャラ」が喋っちゃう、とかですね。要は人が何人来たとかじゃなくて、「今日はゆるキャラしゃべらしたから良かった」でいいのかもしれない。町起こしって、そういうノリの延長線上なのかなっていう気がします。

角田講師

私は今日、このプレゼンするのが、すごく堅くて嫌だったんです。それで、「最後のページにこれ入れてくれ」といったのは、やっぱりね、楽しくなりますわね、ゆるキャラでね。

近藤氏

その割には忘れてましたね。

角田講師

忘れてたね。

（爆笑）

近藤氏

あと、この最後にもう 1 ページありますから、そこで締めてください。あと、由紀さおりもいるよ。これねえ、歌を歌うんですよ、これ。いつもね、何かやるときに、この代表が、大好きなんですよ。

Ｂ氏

じゃあ、歌ってもらえるんでしょう。

近藤氏

いやいやいや、歌わないですけれども（笑）。実際にこの「桐生市歌」、とってもね、詞が良くて、これ最後にちょっと入れ

さしてもらったんですけど、ゆるキャラに戻してもらって構わないです。これは 60 年前。誰でしたっけ。桐生の市制 30 周年のときに作られた歌なんですけども。作詞作曲者を入れてなかったです。かなり有名な人が作詞してたけど、」

角田講師

これを歌えない子供たちが出て来ているらしいですけどね。学校では必ず歌わせんだけど、大人もね、これ、歌えない人がいるんだよね。

近藤氏

意外と市歌って、皆さん知らない、足利市歌とかって知ってます？

一同

・・・・・・・・

近藤氏

桐生市歌、出来た当時はみんな学校で歌ってたらしんですけども、それからまたずうっと歌わなくなって、今から 10 年ぐらい前に、市制 80 周年のときに、やはり桐生市歌っていうのは子供たちに教えようっていうことで、CD を作って、学校に全部配付したんですね。それで、子供たちが歌えるように少しずつなってきたんですけども、いろんなところでちょっと歌いながら、みんなに PR はしてるんですけども。こないだも確か、防災訓練のとき、何かやっぱり 1 つになるっていうものですかね。桐生市歌っていうことで、桐生の人が 1 つになるっていうような、そこの会場にいる人をなんとか無理やり 1 つにしようって、いうことで、結構、歌ったりするんですけども。

Ｂ氏

ちょっと時間もございますので。今日最後に、「いわゆる文化があるから足引っ張り合う」っていうあれは、すごい名言だと思いますね。はニュータウンでずは、足を引っ張るほどのものがないんですよね。残念ながら。

不動産買って集まって来て、本来、何にもないでしょ。だから、コミュニティーなんてもん、育ちようがないところから育ててるんですね。それに比べると、本来のものがこちらは残っている。ただ、自分たちでその価値に気付いてないですね。だから、アパート借りたら、重要事項説明書に「自治会に入ること」って書いてあってビックリしました。そんなことを東京でやったら、とんでもない話になるんですけど、結局それが自然にできてる。いいか悪いかじゃなくて、「そういうもんだ」と皆さん思ってるわけです。

だから、私みたいなよそ者が見るとビックリするけれど、地元は「そういうもの」で済ませている。だから、先ほど「バラバラだ」っておっしゃってたのは、バラバラじゃないから言えるんですね、ほんとはね。ある枠のなかで勝手にやってるっていうことを「バラバラ」というふうに直接的に言うと、まるで本当に「バラバラか」と学生たち思ったかもしれない。そうではなくて、ある枠のなかで勝手にやってるっていう意味なんですよね。

Ｃ氏

固まってるんですよね。ところが、その固まってるものが、隣とはなかなか連携できないということ。

Ｂ氏

そういう意味ですね。だから、大都会に行くと、簡単に連携できるっていうのは、結局そのまとまってるものが緩いから、隣とも簡単にくっつけるわけなんですけど。でも、その分だけ、自分たちの中でくっついてる、まとまりっていうのは大したはことない。

そういうふうに解釈して、それぞれこう一つの連携、ほんとの意味で、この連携っていう言葉自体がなんとなく胡散臭くなってきたんですけど、楽しく、一緒に楽しめるような何かをやるというのをちょっと今後は考えていって、今年度は太田市、伊勢崎市、栃木市という形で、隣町のいろんな方を呼んで来ますけど、結果として、何か一緒に楽しめるものがあったらもう言うことないかなって気もします。

角田講師

次回は杉原みち子さん、相当パワフルな方ですから。

Ｃ氏

ああ、面白いね。

Ａ氏

いせさき銘仙の杉原さんは、私大変面白い人です。

角田講師

一緒にいろいろやらさせていただいた方なんで。

簗瀬氏

ぜひこれを機会に、また次回もよろしければ来ていただいて、一緒に意見交換していただければ。

角田講師

勉強になりました、今日は。

簗瀬氏

いえ、とんでもない。こちらこそほんとにどうもありがとうございました。

ちょっと今日は、後半少し話の腰を折っちゃったんだけど、やっぱり愚痴の言い合いになってはこれいけない。やって来られた方ほんとに苦労されてるから、言いたいことは山ほどあるんでしょうけど、やっぱり先ほどおっしゃったように、若い世代に向けてメッセージを出さなきゃいけないわけで、年配の方が頑張っていらっしゃるのをもし批判するんであれば、やっぱり今日来てる若者たちをどうやったら楽しませられるかみたいなふうにしないといけないのではないだろうかと、まあ生意気なことを言いますけど。

角田講師

いやいや、そうだと思います、はい。

司会

じゃあ、時間がちょうど 8 時 35 分になりまして、本日の講演のほうは、終りにいたしたいと思います。ありがとうございました。

きりゅう市民活動推進ネットワークの活動
及び
ファッションタウン推進の歩みとその活動

きりゅう市民活動推進ネットワーク
ファッションタウン桐生推進協議会

ファッションタウン構想とは

地域が有しているファッション産業のグローバルな発展を図りつつ、その地域の伝統文化、歴史、自然環境などの地域固有の資源と融合しながら、内発的で個性的な街づくりをする運動

地域の産業振興と魅力的な街づくりを一体的に促進する構想

ファッションタウン構想の歩み

- 平成5年（1993年）
  新繊維ビジョンの中で、
  “産地再生の試みと地域計画の連動”という
  視点から、ファッションタウンが
  繊維産地活性化に向けた通産省の新戦略の
  一つとして明確化される。

＊ファッション＝「多くの人々にある一定の期間共感をもって受け入れられた生活様式」で、衣服にとどまらず、食・住・サービスを含む生活文化全般にわたる新たな価値を有するもの。

ファッションタウンが新繊維ビジョンに取り込まれた背景

- 効率化、規模拡大など産業の活性化だけに視点を合わせた産業政策の行き詰まり
- 生活文化が豊かで、そこに暮らす市民の意識が高い地域であることが、これからの産業に求められる創造性を生み出す基盤となる

＊産業サイドと生活者サイドとの交流を通じた活力溢れる地域社会の形成、地域のイメージアップ、生活者のアメニティの向上、ひいては“国民生活のゆとりと豊かさ”の実現に貢献するものと期待。

ファッションタウン構想の3つの流れ

①繊維産業をはじめとするファッション産業を支えてきた多くの「産地」の２１世紀に向けた必死の活性化戦略。「産地改革」「産地再生」が大きな課題。

②高付加価値のファッション産業の振興には新しい生活文化を刺激する都市空間や交流機能、そしてそこを舞台とした新しいライフスタイルの創造と発信が不可欠。

③多極分散型の国土を形成する上で、全国に活力ある中小都市を形成する必要性。
（国土庁の「MONOまちづくり」→急激な産業の空洞化による中小都市の急速な地位低下に警鐘を鳴らすプロジェクト）

平成5年（1993年）

新繊維ビジョンを受け、（財）日本ファッション協会では、全国7地域をモデル地域に選定。
実態調査を実施

全国7地域
- 桐生市
- 墨田区
- 今治市
- 熊本市
- 富士吉田市
- 一宮市
- 別府市

平成6年3月
桐生のファッションタウンビジョンを策定

- 産業と自然、教育と文化に育まれたファッションタウン桐生の創造

- ①織都・桐生が育んだ歴史、文化、風土を生かしたﾌｧｯｼｮﾝ都市空間の創造
- ②桐生が内在する諸々の資源の整合化とシステムの再構築
- ③生活文化都市・桐生を支える多彩な人材の育成

ファッションタウン化施策体系

	空間創造	システム構築	人材育成
産業振興	1. ファッション歴史博物館の建設 2. ファッションストリートの整備 3. ファッション工房団地の建設 4. 多目的コンベンション施設の建設 5. 市街地の賑文化拠点の創造 6. デザインセンターの設置 7. 整理染色加工場の団地化 8. ファッション開発研究所の建設	1. ファッションイベントの継続と創設 2. 繊維関連各工程の垂直結合型生産体制 3. 桐生ブランド製品の創出 4. 新流通システムの開拓 5. 食のコンテストの実施 6. 桐生紡績市・織物市の開催 7. 企業メセナ活動の推進・支援 8. 染織資料の一層の充実	1. 産学官による人材養成機関の設立 2. 織物各工程技術者への顕彰制度の確立 3. 学生街の形成 4. 産学協同研究事業の推進 5. 学生、研究者用居住施設の整備 6. 高等教育機関の活用 7. ファッション大学の誘致 8. 技術資格認定制度の確立 9. 伝統工芸士の保護育成 10. 世界紡織物コンクールの実施
生活文化	1. 坂口安吾記念館の建設 2. 近代化遺産等の活用 3. 地場産品のクラフトショップづくり 4. 河川・水路を生かした街づくり 5. 丘陵地帯の登山コースの連携 6. 梅田地区の宿泊設備 7. ゲストハウスの建設 8. 立体駐車場の建設	1. ファッション都市宣言 2. 桐生ファッション協会の設立 3. 都市景観形成事業の推進 4. 水道山公園周辺の文化ゾーン化 5. 観光資源の開発とﾈｯﾄﾜｰｸ化（広域連携） 6. 街路樹にちなんだ街路名称の命名 7. ファッション国際交流イベントの実施 8. 桐生八木節まつりの充実・強化	1. 桐生ファッション大賞の創設 2. 桐生都市景観大賞の創設 3. 生涯の達人コンテストの実施 4. 生涯学習・教育の一層の推進 5. 着物コンテストの実施 6. デザイン保護の環境整備 7. 感性教育施設の設置
交通・情報網	1. 市内新交通システムの構築 2. 桐生－東京、桐生－成田高速バス運行 3. 広域型CATVの構築 4. 北関東自動車道の早期着工 5. 国道50号線の4車線化促進 6. 歩行者優先の街路の空間整備 7. 埼京軌道新線の建設促進 8. 北関東自動車道へのアクセス道整備	1. 市街地へのサイン表示 2. 情報ネットワーク化の推進 3. 鉄道網、バス路線の有機的結合 4. ユーザーとの幅広いネットワーク化 5. アパレルとの幅広いネットワーク化	1. 桐生商業高校に短大設置 2. 技術者人材データベースの構築 3. 対外的広報活動の強化 4. 物流システムの再構築 5. CAD/CAN/CAEシステムの育成 6. リサイクル・テクノロジーの整備育成

平成9年(1997年)5月
ファッションタウン桐生推進協議会発足

- 5月14日にファッションタウン化の推進母体となる「ファッションタウン桐生推進協議会」が発足。
- 400名の会員が集まる。
- 協議会内に生活文化、産業活性化、まちづくり、情報の4つの専門委員会を設け、具体的活動に着手。

桐生ビジョンの大きな特徴

- 内発型で個性的なまちづくりを推進

地域資源の掘り起こし

↓

地元の魅力を再発見し
地域の活力を高める

地域資源、掘り起こしの具体例①

- 桐生ファッションタウン大賞

桐生地域のまちづくりに取り組んでいる人や団体などを市民に推薦してもらい、顕彰する。

地域の中で頑張っている方々を応援し、その取り組みの広がりを目ざす。

桐生ファッションタウン大賞

地域資源、掘り起こしの具体例②

- わがまち風景賞

桐生市の個性あるまちの風景を形成している建造物や空間などのうち、特に良質な風景を創出しているものを表彰し、まちなみの保存と活用、ならびに市民の都市風景に対する意識の高揚に寄与することを目指す。

市民に推薦してもらい、市民審査員が選考する民間サイドからの「都市景観賞」と言える。

桐生商工会議所作成　13　2012/12/11

わがまち風景賞

桐生商工会議所作成　14　2012/12/11

地域資源、掘り起こしの具体例③

- 商店街一店一作家（一工場）運動

ものづくりのまち桐生の特性を生かし、桐生市内外で活躍する“ものづくり作家”を地域資源として捉え、これを商店街の店舗と融合させることで、今までにない中心市街地活性化と地域の伝統、産業、文化に根差したものづくりの創出を目ざす。

桐生商工会議所作成　16　2012/12/11

商店街一店一作家（一工場）運動

桐生商工会議所作成　17　2012/12/11

わがまち風景賞

2010年風景賞

桐生商工会議所作成　15　2012/12/11

ノコギリ屋根工場の活用による産業観光の推進

ノコギリ屋根工場をクローズアップ
（桐生の産業が創り出した風景・桐生独自の風景、景観）

- ノコギリ屋根シンポジウムの開催（平成14年11月30日）
  京都・西陣、東京・向島との木造建築活用サミット
- 都市再生モデル調査事業の実施（平成16年度）
  工場の悉皆調査（所有者の意向ヒアリング）

⇩

①産業観光の核　②地域産業伝承の新たな苗床　③文化・芸術活動の創造の場

平成20年度

〈地域資源∞全国展開プロジェクトの推進〉
テーマ＝桐生の産業観光・ノコギリ屋根工場と近代化産業遺産

- ノコギリ屋根博覧会の開催
- 産業観光マップの作成
- 産業観光ツアーの実施

●2日間で1500人の来場者
●生産の現場としての再確認
●産業観光ルートの基盤づくり
●モデル的推進体制の構築
●産業観光推進の検証
●ノコギリ屋根マップの作成

織物製造の現場として、まちの繁栄を支えてきた“ものづくり精神が宿る”「ノコギリ屋根工場」から新たなものづくりが始まっている。これらの動きを産業観光を切り口として、全国に発信し、地域活性化につなげていくためのプロジェクトを展開。

18

ノコギリ屋根博覧会

桐生商工会議所作成 19 2012/12/11

ノコギリ屋根博覧会

トークショーとミニ講演会

桐生商工会議所作成 20 2012/12/11

ノコギリ屋根博覧会

織物関係資料の展示

桐生商工会議所作成 21 2012/12/11

ノコギリ屋根博覧会

産業観光ツアー　２日間で132人参加

桐生商工会議所作成 22 2012/12/11

ノコギリ屋根博覧会と合わせて開催された

e-物産市

桐生商工会議所作成 23 2012/12/11

平成21年11月
「全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞奨励賞」を受賞

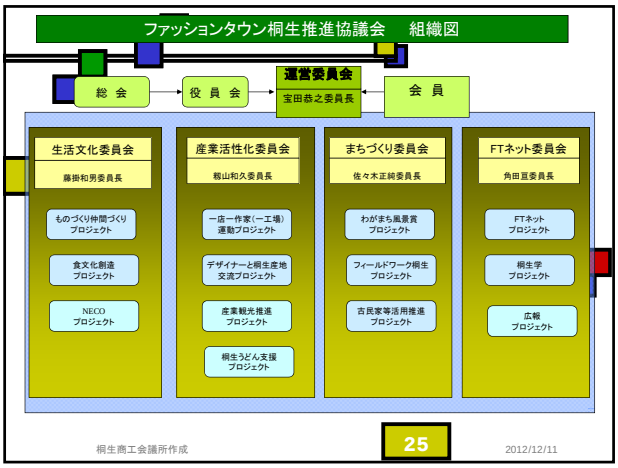
ノコギリ屋根工場の活用による産業観光の推進

きらり輝き観光振興大賞

他の地域の範となる観光振興事業を行う商工会議所を顕彰することで各地の活動を促進させ、さらに観光立国の推進と地域活性化に資することを目指す

- 全国商工会議所観光振興大会2009in神戸（1700人が参加）の冒頭に岡村日本商工会議所会頭より表彰状を伝達された

桐生商工会議所作成 24 2012/12/11



ファッションタウン桐生推進協議会の会員構成

種　別	会 員 数
法人会員	72事業所
団体会員	15団体
個人会員	90人
合　計	177会員

FT協議会の特徴：産業界をバックに各団体や市民、学校などが参画、産学官民が一体となったまちづくりを展開

桐生商工会議所作成　26　2012/12/11

ファッションタウン桐生推進協議会の予算構成

科　　目	金　　額
会　費	1，950，000円
桐生市補助金	1，000，000円
商工会議所事業費	1，000，000円
雑収入	54，076円
繰越金	755，924円
合　計	4，760，000円

（平成23年度当初予算より）

桐生商工会議所作成　27　2012/12/11

ファッションタウン推進事業により顕在化した活動など

- 桐生天満宮からくり人形芝居の復元
- 桐生うどんのPR展開
- 桐生ファッションウィークの立ち上げと継続
- 経済産業省「近代化遺産の活用による地域活性化運動」の桐生における展開
- ファッションタウン・サミット（平成9年）、生活文化創造都市全国大会（平成22年）など全国大会の誘致
- 桐生まちなかマップ、産業観光マップなどの作成
- 景観への配慮、観光への関心醸成

桐生商工会議所作成　28　2012/12/11

ファッションタウン推進事業のその他の活動

- ものづくり仲間づくり事業
- 「音楽と食のタベ」の開催・食の掘り起こし
- 群馬大学JSTプロジェクトへの協力
- ファッションタウン桐生写真コンテストの実施
- フィールドワーク桐生プロジェクト
- 桐生を訪れるデザイナーたちの窓口業務
- その他

桐生商工会議所作成　29　2012/12/11

15年目を迎えるファッションタウン

- 会議所活動の枠を越え、産業界と市民が協働
- 地域資源の掘り起こしは、地域活性化への切り口としてスタンダード化
- より桐生らしい活性化へのアプローチが求められる
- 未開拓分野の検討
- まちづくり運動を産業活性化につなげる
- 本来の意味でのファッションタウン推進を目ざす

桐生商工会議所作成　30　2012/12/11

ファッションタウン今後の展望と課題

当初の目的への原点回帰→繊維産地の産業と地域の振興

↓

地域の基幹産業再構築戦略を策定

課題
- ・産業関係者の積極的な参加
- ・人材の若返り
- ・総合プロデュース力
- ・関係機関の連携

きりゅう市民活動推進ネットワークと桐生市民活動推進センター“ゆい”について

きりゅう市民活動推進ネットワークとは・・・

「いきいきとした桐生」をつくるために、幅広い市民活動の、より一層の推進を目的として設立された民間団体です。

きりゅう市民活動推進ネットワークの活動

- 「ネットワークの四つの委員会」
  - ■環境づくり委員会
  - ■ネットワークづくり委員会
  - ■パートナーシップづくり委員会
  - ■センター運営委員会

JR桐生駅北口 イルミネーション点灯式

■パートナーシップづくり委員会

きりゅう市民活動推進ネットワークによる 南相馬市からの被災者支援事業 「つるし雛づくり」

■環境づくり委員会

会員による寺子屋事業
「歌声喫茶」「フラダンス」

■ネットワークづくり委員会

桐生市民活動推進センター“ゆい”
指定管理者として運営

■センター運営委員会

桐生市民活動推進センター“ゆい”
とは・・・

さまざまな市民活動を応援するための拠点施設です。

- 【ゆいで出来ること】
- ・会議や打合せ　・チラシや会議資料のコピー、印刷
- ・イベント用テントなどの機材、関連図書の貸出
- ・市民活動団体や行政のチラシなどの掲示、閲覧、情報交換
- ・市民活動、ボランティア、NPOなどについての相談

■チャレンジ25　電動アシスト自転車の無料レンタル

桐生市マスコットキャラクター
「キノピー」と ・・・

桐生市歌

- 赤城山(あかぎやま) 月(つき)の影渡(かげす)み
  渡良瀬(わたらせ)の さゝやくところ
  永遠(えいえん)の 幸(さち)とのぞみは
  天地(あめつち)と ともに微笑(ほほえ)む
  わが桐生(きりゅう) 光(ひかり)の都(みやこ)
  おゝらかに なごやかに
  ともに栄(さか)えよ

- 名(な)に薫(かほる) 天与(てんよ)の業(わざ)は
  綿織(にしきおる) 機(はた)のひゞきも
  生産(せいさん)の よろこびあふれ
  はつらつと ちまた伸(の)びゆく
  わが桐生(きりゅう) 力(ちから)の都(みやこ)
  すこやかに なごやかに
  ともに栄(さか)えよ

- 新生(しんせい)の 郷土(きょうど)ゆたかに
  平和呼(へいわよぶ) 文化(ぶんか)の恵(めぐ)み
  昇(のぼる)陽(ひ)の 色(いろ)もさやかに
  明朗(めいろう)の 市政(しせい)は映(はゆる)
  わが桐生(きりゅう) 理想(りそう)の都(みやこ)
  きよらかに なごやかに
  ともに栄(さか)えよ

第２回　６月 13 日（水）

「伊勢崎銘仙とまちづくり」について

いせさき銘仙会代表世話人
杉原みち子

司会

第２回目の講演会になります。冒頭に「いせざき銘仙会」主催のファッションショーの DVD をみせていただきました。

今日は、「いせさきの銘仙の会」の杉原先生をお招きいたしました。

杉原講師

よろしくお願いいたします。

司会

中川会長より、ご挨拶を。

中川会長

どうぞ、お座りください。お忙しいなかありがとうございます。ごぶさたしております。

杉原講師

しばらくでございます。お声がけしていただきまして、ありがとうございます。

中川会長

ありがとうございます。杉原さんとは、大学在職中に、伊勢崎のいろんな委員会でご一緒して、当時から活発にいろいろ活動されておられることは、よく承知していたんですけども、今回、図らずも簗瀬さん、大澤さんのいろんなおはからいで、声をかけたら、快くお引き受けいただきました。どうもありがとうございます。

今日は着物の銘仙っていうことで、先ほども出ましたけども、秩父、伊勢崎、足利といろいろ興味のあるテーマでございます。私事でなんですが、私も日常、着物を着ております。男が日常、着物を着ているっていうのは非常に珍しいようで、まちなんかを歩くと結構振り返られたりして、その気になって結構楽しんでおりますけれども。やっぱり女性でも、男でも、着物の魅力っていうのは、色気っていいますかね、これはなんとも言えない。女性は特に襟元とか、足首のところとかですね、なんと言っても女性の体の線が出てすごい色気が感じられる、おしりですね。これは実に、日本の文化としては珍しく、体の線がピシッと出る。男は男らしさが、ブリッとした男の腰の線が出る。

着物っていうのはすごい。そういう意味で着物についてもう少しわれわれも、もっと日常に取り込んでいかないといけない。いけないっていうか、1 つは、うちへ帰って着物に着替えるというその過程が、ものすごい気分転換といいますかね、世界が変わる。外の世界から、うちの世界になる。そういうような、やっぱり帰ってうちの着物に着替えるとか、そういう生活のリズムのなかで、非常に重要なことはさっき言った、男も女も色気っていうのは、生活のなかで非常に重要だと思うんです。

今もいろいろ新しい試みをされておりますが、新しいそういうものをイメージするっていう、理屈じゃなくてイメージから、いろいろ努力されてる様子があって、大変おもしろいっていうか、どんどんやっていただきたいなと、こういうふうに思います。

ちょっと長くなりますが、先日、テレビ見てたら、足利も足利銘仙を再生しようっていう動きが、今始まっているようで、3

年後には実現したいというようなことがありましたけども、さっきいったように、ただ懐古趣味でやるんじゃなくて、生活のなかにどう取り込むかということがやっぱり大事だと思います。

そういう意味では、さっきのようなショーっていうのは、ショーのものはいきなり日常生活に取り入れるのは難しいかもしれないけども、それを契機としてやっぱりいろんなものを日常に取り込むという、きっかけになるんじゃないかということで、伊勢崎のすばらしい試みだと、こういうことまで杉原さんはやっておられるんだなということは実に敬服いたします。今後ともぜひ、続けていろいろとやっていただけたらと思います。今日は本当にありがとうございます。

司会

ありがとうございました。では杉原先生のご紹介を。

杉原講師

１．自己紹介に代えて（活動報告）

あの、先生はやめていただいて杉原さんでお願いできますか？私、別に先生でもなんでもなくて、ただただ好奇心が強いだけですから。とりあえず自己紹介ですが、私、64 歳で埼玉県羽生出身でございます。40 年前にこの足利の蓮岱館で夫と見合いしまして、結婚が決まりましたので、足利は非常に印象深いし、私は鑁阿（ばんな）寺とか足利学校、来ますと、「気」があるっていうことですか、地域を越えて「気」があるとこっていうのは、非常に歴史を感じます。出雲大社と同じくらいの強い力をいただくっていうことで、大変足利は好きなところです。

ただ、しばらくぶりで来ましたらあまりにも信号が多くなって、昔、確か、35 分か 40 分で来たのが、今日は 1 時間かかったっていうことで、やっぱり時代によってずいぶん違うなと思いました。

１）市民活動の理念と活動

私は 1985 年に、「街づくり市民ゼミナール」っていうのを立ち上げました。今から 27 年前でしょうか。活動理念は、「汗をかく市民、行動する市民」、そして、「批判より評価、理論より実践」、そして、「官と民、民と民の信頼関係を築く」というものです。

よく企業理念がちゃんとしてる会社が残る。企業理念がないとなかなか会社っていうのは残りにくいっていいます。私は稲盛和夫氏の京セラの勉強会「盛和塾」で 17 年間勉強しておりまして、やっぱり企業理念にしてもこういう活動にしても、理念というのが大事だなと。

特別に考えたわけじゃないんですけど、そうやって理念に従って、私たち、錆びついたところを塗ったりとか、瓦礫のところに花を植えたり、川のごみを拾ったりってことで、自分たちの目につくところっていうのは、いろいろと汗をかきながらやってまいりました。

そのときに、第 19 期とありますけども、こちらも皆さん次々いろんな方をお呼びしてお勉強してらっしゃいます。私たちも勉強するってこと、何も知らないってことを気付きました。上武大学市民公開講座で皆さんと一緒しまして、市民として、市のことを知らないんじゃないかっていうことを気付いて、もっともっと市のことを聞いてから、それから市についていろんなことを行動していこうってことで、はじめは勉強しておりました。

そして、勉強しているなかで、ただ座って勉強しているだけでは何にもならないので、汗をかく市民、行動する市民っていう

ことで、近江八幡を見に行きました。私、地域づくり協議会のほうの副会長をしておりまして、全国の地域づくり大会がありますので、そのときに、たまたま近江八幡に行ったときに、あまりにも近江八幡の市役所の方が狂ったように頑張って、この堀もご存知のとおり、埋めるっていうところを、そのあと川端五兵衛さんっていう方が市長になります、その方が青年会議所にいるときに、埋め始めているのを埋めないってことにして、それを撤回して八幡掘を残した。ご自分の仕事は市民病院に薬を入れる仕事だったので、以後、全く薬が売れなくなった。そういうリスクを負ってまで残したという、その住民の活動を見にまいりました。

地域づくり全国大会がありまして、伊勢崎に来ていただきました。このときは地域づくり研修会で、『認めあう力、響きあう心』という字を、星野富弘さんに書いていただきまして、伊勢崎がすごくいいってことで、『街はみんなのギャラリーだ』、自分たちがどういう絵を描くのかってことで、これは1班だけなので、これが3班ぐらい、伊勢崎と桐生と高崎と榛名に集まったんですけども、伊勢崎が一番集まってくださいました。こんなことでも全国との交流をやってまいりました。

これは、「ニューヨークまでも届いた引越しショー」って言われたんですけど、今年で100年。100年っていうのは、聞きますと、JTBが100年で、タイタニックが100年ってことで，大正元年なんですけども、そのころちょうど日本がやっぱり、モボ、モガ時代で元気なときだったんだと思います。この写真が最古の黒羽根医院さんですけども、今は「いせさき明治館」として、道路から道路を引越しをして、曳き家移転をして残したんです。昔は、全く閉まってまして、開かずの扉で、それを私たちがお願いに行って、「ストリート・ギャラリー’90inISESAKI‘」として、1990年に第1回目を始めました。

ギャラリーの機能としてショーウインドウもギャラリーとして、バリバリ次々とやっていって、その結果として、市の方が「これはもったいないじゃないか」ってことでかなり反対もありましたが、残せました。市長から「あんたが馬鹿なこと言うからこんなボロ屋曳かされて、こんなに金がかかったんだよ」って言われましたが、今ではこれを残したってことが大きく評価されてます。でも福祉の方からも、「杉原さんがこんなこと言うから金がかかって、福祉の金が減らされた」とか、何かやっぱりやるってことは、ものすごいいろんな批判を受ける。時間もかけなきゃいけないし、そのときの勇気っていうのか、私、別にいいことやったと思ってませんけども、やっぱり非常に勇気がいるなってことです。でも、今はとっても喜んでもらってます。

これは私が先ほどの「広瀬川のごみを拾いましょう」の活動です。青年会議所でやっていた行事をやめるっていうことだったですが、誰も市民が受け継がない。これでは,何のための市民団体なのかってことで、私たちが青年会議所から引き継ぎました。「広瀬川クリーン作戦」と「広瀬川のクリーンと芋煮のつどい」です。大鍋で芋煮をするイベントですが、やっぱり、市民団体としてそういう過渡期にやらなきゃいけないんじゃないかってことで始めて、ずっと今も続いております。春の風物詩にもなっております。

次は伊勢崎市が合併したときに、合併支援事業ってことで36事業ぐらいあったんですね。一番大きいのは300万円くらいか

ら。私は期限が終わってから駆け込みで行ったんですけども、見たらば何もやっていない団体が100万だ200万だってもらってて、私、十何年やってるのになんで申し込まなかったんだろってことで、むりやり申し込みに行きまして、「最低の10万しかないよ」ってことで、「それでも結構です」ってことで10万円をもらって、あとは、メンバーからお金を集めまして、それでやったのが、「いせさき燈華会」です。

今なら言えるんですけども、伊勢崎はご存知のとおり風俗産業がすごいんです。本町通り、夜いらっしゃれば真っ赤なネオンの風俗ですし、横道も周りもすべて今、風俗になってしまって、もうこれはどうにもならない。「風俗はこれでいいのか」って言っても、固定資産税払う方にしてみたら、誰も来なければどうにもやっていけない。維持するためにはどうにもならないっていう、持ってる方の気持ちも考えて、私たちは、風俗の光に負けない光をということで、「奈良の燈花会」を私見てきまして、市役所にもそれを見た方がいて、「じゃあやろうよ」ってことで、「奈良の燈花会」からキャップを買いまして、「いせさき燈華会」ってことで始めました。向こうの燈花は、「花」なんですね。私たちは「華」にしまして、この写真が「時報鐘楼」で大正天皇の即位のときに小林桂助さんって方が寄付されたもので。その当時っていうのはやっぱりお金を持った方っていうのはこうやっていた。とっても美しくて、「川越のよりもずっと伊勢崎のほうがいいよ」って、桐生の奈さんが言ってくださって、よその方から評価されると、なおいっそう私たちにしてみると、今までよりもっと価値があるなと思って、とっても嬉しい。「ハロウィン灯籠」とか、毎年、竹灯籠とか、次々ニューフェイスを作りながら、今8年目を迎えております。

次、お願いいたします。これは、いろんな方に参加していただこうと、私たちだけじゃなくて、クラッシックの音楽をやったり、あと1つ、私は教育委員をしてたものですが、地元の高校との付き合いが全くないんですね。ですからやっぱり地元に高校はあるんだけども、地元と全然関わりがないってことに関して、工業高校の男の子には、カップにろうそくをつけてもらうとか、それと農業高校のところにはポン菓子を作ってもらってということです。農業高校で持ってるものとして、花を売ってもらおうと思ったら、時期的に花が間に合わないってことなんでポン菓子をやって、先生方も高校生たちがそれを売ることを覚えたってことで喜んでくださいました。ただ夜、光があって、まるですてきな天国に行ったようだって言われたんですけども、でも、それだけじゃおもしろくないってことで、コーディネーターの高木さんが「阿波踊りできないか」ってことで、阿波踊りを1年目からやりました。祭りはやっぱり静と動がなきゃいけないってことですね。これは、「みやごう連」です。

２）「いせさき銘仙の会」ができるまで

次は「ぐんまちゃん家」っていうのが歌舞伎座の前に、群馬県庁が「群馬県を知っていただこう」ってことで出したんですけども、なかなかそこにアピールするものがないってことだったので、織物組合のほうから「ぜひ来てくれないか」ってことで、「ぐんまちゃん家」、歌舞伎座の前です。今、歌舞伎座が（改修工事で）閉まってるのですが、それでも今年は相当売れたっていうんです。それで（銘仙を着て）応援に行ったときに、そこの金子所長というて方が、「駄目だよ、こんなとこに立って、誰も見

てくれないんだから、ホコ天歩け」って言うので、歩行者天国歩きました。

そしたらもうすごい人が、ドンドコ、ドンドコ来て、着物ってこんなに人の、中高年のばあさんなんか誰も普通だったら見てくれないんですよ。でも、銘仙を着ただけでこんなに見てもらえるって、銘仙がどれだけ力を持っているかってことを、このとき私たち、初めて実感いたしました。

それを見て私が「銘仙の会」を作っちゃったんですね。というのは、やっぱり何か組織化をしないと、なんとなく単発でやってもそれは地に足が着いたものにならないし、外から見ても評価できないってことで、市長に掛け合って、もうすぐに 3 月 3 日、女の日だったもんですから、「いせさき銘仙の会」を発足してしまいました。

そのときに、「シルクカントリーin 伊勢崎」っていう上毛新聞が地域、地域で桐生を使ったり、太田を使ったりして、新聞の移動記者クラブをやったんですけども、そのとき何も目玉がないってことで、「じゃあやっちゃおうか」ってことで、第 1 回目のこれがファッションショーなんです。ほんとに、今思うと稚拙だったんですけども、これが第 1 回目のファッションショーです。

私が NHK の番組の群馬県の審議委員だったものですから、それで NHK の放送部長が新聞を見てくださって、ぜひ、『いっと 6 けん』に取り上げるってことで、私の自宅まで来てくださいました。散らかった家のごみを全部拾って、掃除しました。「杉原さんち汚いって聞いてたけども、ずいぶんきれいじゃない」って言ったから、「ジョウダンじゃない、寝ずに片付けたのよ」って、やっぱり人が来るっていうのはいいですね。ほんとにきれいな部屋になって、自分でも驚くぐらいきれいになる、人目にふれるってことで。

織ってる場所とか、高校生、小学生が見てるところとかを撮影して、これが『いっと 6 けん』で、これを見たイッセイミヤケスタジオさんが、ぜひ、私のこの黒白の生地だと思うんですが、これを見た方が、「ぜひ、パリコレの生地に使いたい」ってことで、声がかかったっていうふうに伺ってます。写真では、私が一番左で、その隣が私のところの嫁さんで、その隣が先ほどの教育委員さんです。

３）銘仙ファッションショーの展開

「ファッションショーを『いせさき燈華会』のときの夜やりましょう」ってことで、とっても評判が良かったものですから、赤石楽舎っていうところ一北小につづくところですけども。そこで、絨毯だけ緋毛氈を使い, ほんとお金をかけないでやりました。さっきのファッションショーは、20 万円くらいかかりました。県のほうの補助金をいただけたものですから、それを使ってやらせていただきました。こちらはほんとにお金をかけないで手作りでやりました。

これは銘仙コーディネーターです、これも、ピンワークなんです。こうやって全く切らないで、こうやって板に着物と帯とでこういうふうにすると、こういう楽しいことができます。市のホールがありまして、そこでやって、これは大変評判が良かった足利市出身の高木照子さんの作品です.

次は、実は私たちは去年の 3 月 13 日、足利インターのオープン、北関東がつながるということで、足利インターでファッションショーをする予定だったんですね。それで私たちずっと用意していましたらば、11 日の例の地震で、中止になってしまいまして、「でもせっかく着物を着たんだから、集まろう」って集まって、そしたら、そこ

で声が上がって、「このまんまお金を募金に行っちゃおうよ」って。ただファッションショーすることよりも、せっかく集まったんだから、その場でもう募金を始めました。これが伊勢崎駅ですけども、ベイシアさんの会長の土屋さんにも言って、「そしたらどうぞ」って言ってくれたんで、これ 1 日 2 時間ぐらいで 15 万円ぐらい。中国の方までも皆さんが入れてくれました。交番の巡査さんにももらってきちゃいまして、「もう何でもいいからもらっちゃおう」ってことでもらって、募金活動して。

そして、翌日市役所に持っていったらば、なんて言われたかというと、「あまりにも早過ぎる」って、私は冷たいまなざしを受けました。役所っていうのはほんとに何を評価するんだかわからないけども、「早過ぎる」って私は伺ったときに、「もうなんだっていいやもう、好きに言ってくれや」、って感じで、腹がますます、もともと据わってますけど、ますます腹が据わってしまいました。

何やったって言われるときは言われるんだと思って、自分たちが納得した行動に関しては、「すぐやるか」なもんですから、決して目立って人にアピールすることじゃなくて、私たちはできることがあったらしようっていうこの絆の深さとスピード感っていうのは、私たちの自慢です。

こちらは確か足利の方もいらしたかと思うんですけども、大宮駅で足利と桐生と前橋と、確か両毛何とかってつないで、それもなぜつながったっていうと、全部担当が女性だったんですね。もし男の方だったらね、パンパンパンとつながってナイ、「俺は聞いてねえ」とか、「その話はどこから出たんだ」とかって言ってるうちに、全部壊れたと思うんですけども、全部が女性だったんで、あっという間にパパパパッという感じで、「いいよね、これいいよね」っていうことでね。

私は、男性が女性がってあまり言いたくないんですけど、男の方は、「俺が聞いてねえ」とか、「誰に先、話が行った」とか、何をやるかよりもね、なんていうのかしら、どうでもいいことが大事になってほんとに、イライラくる。「女に任してくれ、全部やっちゃうよ」って感じ。

私、女子会でビール飲むと普通 3800 円が女が 4 人集まると 2500 円でやってくれるっていうから、ほんとに邪魔な男はいらないなって思う。とってもいい方はいい方で、男、女は関係ないんですけどね。うるさくて、権力と名誉が好きでスケベな男っていうのはどうにも付き合いきれないって感じです。

この大宮の企画は JR でびっくりされて、このあとにアンコールが来て、高崎でやってくれということになりました、あとで紹介します。

次は、デスティネーションで行ったの、これが皆さんご存知かな、C61、シロクイチっていうんですけども、C61 は華蔵寺公園にあったんですね。それでもうほんとに錆びついてたんですけども、確か、山田洋二監督だったか？「「釣りバカ日誌」の監督だったか、どちらかがお父さんが JR にいて、C61 の運転をしていたってことで、それを映画に撮るために直すことになり、莫大な金をかけて直したんですね。それを華蔵寺から持って行ったので、市長が「伊勢崎までやって来てくれ」って言ってことになりました。汽車が伊勢崎まで来て戻るんならいいんだけども、なかなか線路が難しくて、できないらしいんですね。でも市長が、「ぜひお願いします」ってことでファッ

ションショーを高崎駅でやりました。正直言って私はミスマッチだと思ったんですね。というのは SL のファンの方と銘仙っていうのは全く関係ないんですよ。だから私、行くことは行ったんだけども「どうかな」と思ったら、思いのほか喜ばれました。皆さんから評判が良かった、おもてなしが良かったということで、高崎駅で非常に喜ばれました。

はじめ、駅でも、「なんだこの女、邪魔だ」って駅員の方、そんな顔してたんですね。それが、評判がいいとなったら、「いやあ、ぜひまた次」ということで、これぐらい手の裏返したように態度が変わるというのは、私ももう慣れっこになってます。全然、抵抗力がしっかりあって、何があっても平気です。

次、お願いいたします。これが先ほどの「銘仙レボリューション」。これも私は賛否両論あると思います。でも、とにかくこれが成功したのは、私が「銘仙の日」をしたいって、それも市長に直接、宴会の席で言っちゃったんですね。

そして、後で「市長どうなりましたか？」って聞いたんです。そしたら、担当の方に、言われたんですね。「いや実は、あんたは簡単に市長に言ったけど、これは条例ってもんがあって、そんな銘仙の日を制定するには、これこれかれこれ、かれこれこれかれで、3 年か 4 年かかるんだから」って言われたから、「大変申し訳ございません」と私、本当に謝りました。直接トップに言わないで、ちゃんと担当に言わなきゃいけないけど、でも私の本音は、下から持って行ったら消されちゃうんですから、これでよかったかな。

もう 1 つ市長が言ってくれたのは、12 月に、うち毎年 100 万ずつ寄付してるもんですから、その寄付するときに、「どうなりましたか？」って聞いたんで。「私が条例とかいうこと関係なくやったもんですから、とっても担当の方にご迷惑をかけて」って言ったら、「いやそんなことないよな、助役な」って言ったとたんに、3 日後には会が発足です。12 月の締め切りぎりぎりで、市長のお声がかりです。

だから市役所の対応も横断的で、秘書課から企画からいろいろな課が入って、そして商工会議所からも入ったってことで、すごく組織横断的になりました。でもそのあと冷たいまなざしを受けましたが、「まったくあの女また勝手にやりやがって」って。でも 3 月 3 日には、もうこれやっちゃったってことで、市の方々も市長も商工会議所の会頭も、とっても喜んで、銘仙っていうのは観光の目玉になるってことを実感しています。だからあとは仕掛け方なんですね。

「のほほんさんぽ」っていう企画は確か、足利でもやったと思うんです。足利と伊勢崎と桐生でやったと思うんです、一緒に。横浜から千葉から東京からみんな来て、着物着てまちのなか歩いてもらったらば、若い方々が「とっても楽しかった」ってことで、そのあと伊香保に泊まって、翌日伊勢崎に行くとかで、ほんとにデスティネーションキャンペーンに関しては、仕掛け方によっては、いろんなことができるなってことを感じています。ですから今後も、これを私たちのいわゆるマスターベーションではなくって、これをどうやって今後展開して、よその方々にもまちへ来てもらって、やっていくかっていうのが、われわれの街づくりとしてのテーマでございます。まだまだ死ぬまでいろんなやり方があるかと思います。

4）今後の展開

また今日も皆さんからご意見いただきながら、今後に向けてもやっていきたいと思っておりますので、言葉足らずでございますけども、手短に一応、これが最後になります。もし質問とか何かあれば、どんどん言っていただいて、あとは提案とかがあるようでしたらば。ちょっと今まで土曜日しか開けなかった「いせさき明治館」を、「あそこ行けば必ず銘仙見れるよ」ってことにしちゃおうってことで、『あこがれのバラ柄銘仙展』、次が、『軽やかな、涼やかな夏銘仙展』とかで、あそこに行けば必ず銘仙が見られるってことにしたいと、今これやっています。

これもまた評判になりまして、いろんなものが展示してあるのに、「『銘仙ばっかしやりやがって』って批判があるよ」って言ってる織物組合長がいらっしゃいますけども、そんなことは知ったこっちゃない。私たちは、皆さんが関心を持ってくれることに関して、イベントをやっていって、もちろん、それで多くの意見が出てきたときには反省して、皆さんの意見を取り入れながらやっていこうと思ってます。

この方もファッションショーに初めて出た方なんですけども、はまっちゃって、「杉原さん、私ができることは少しでも買うことだ」っていうのは、伊勢崎で木島さんってとこが1軒だけです、銘仙を織っているのは。そこがなくなったらば、結局文化財なんですよね、この銘仙は。でも1軒だけ織ってるために、商工会議所とか商業観光課とかっていう分野に入りますので、とにかく私たちは木島さんの着物を買ったり、買っていただいたりしながら、少しでも応援していこうっていう、それが私たちの一番の市民としての役割だと思っております。

写真の彼女、お医者さんなんです。小児科医で、土曜日に全員で着物着ますという催しで、この方が看護婦さん。外には古い銘仙をかかしに着せて。こういうふうな、種まきをしてくださる方がいるんで、これ着てったら元総理の細川さんも驚きだそうです。普通写真撮らない方なんですけども、この着物見たらば、写真撮ってもいいってオーケーが出て、初めて写真撮ったっていうことです。仲がいい方でも、普段は写真撮らないそうなんです。これがちょうど 3 日前の写真なんです。

こうやって、これは 2 反使っています。これがカーネーションの柄で『カーネーション』というドラマの目玉の着物を着て、皆さんでテレビに出たことを伊勢崎の方々や外の人にどうやって知っていただこうか考えています。ほんとに動き始めるといろんな方の心のなかに、私たちの種がまかれるなって思っております。どうもありがとうございました。

（拍手）

司会

はい、どうもありがとうございました。すごい迫力でお話をいただきました。さっき遅れてみえてずっと向こうのほうから走ってみえたんですね。そのままずっとその勢いで 40 分ほどあっという間に過ぎました。どうもありがとうございました。

やっぱり、まちの活性化っていうのは、やる方がこれくらい活性化してないと、難しいのかなと思いました。

２．地域活性化の担い手たち

1）「反省するけど後悔せず」の精神

杉原講師

地域づくり協議会の全国大会に参りますと、ほとんど変人、奇人、よそ者、若者、

ばか者とかってよく言いますけども、私だけでじゃなくて、だいたいそこの範疇に入りますね。まともな方だとね、人を引っぱっていくていうか、そのエネルギーになりにくいんじゃないかなって感じはしてます。

司会

昔、私も都市開発をやってたころに、ある市の部長さんが、「きちがいが 3 人いれば物は成る」って、おっしゃってました。絶対できないといわれるところに鉄道を敷いて駅をつくるなんてことは、やっぱりそういう、半ば・・・

杉原講師

はい、狂ったような方じゃないと、傍から見たら。

司会

その方は、どこへでも行っちゃう。中央省庁にも行っちゃう。たぶんそういうことと、時代の流れみたいなものがうまく合ったときに、ものが進んで行くっていうことをたぶんおっしゃっているんだろうと思いますが。その核になる方っていうのは、人に何と言われようとも頑張るんだっていうのは、これは正しいことだと思います。明治維新のときからそうですね。

杉原講師

結局なぜかっていったら、我欲がないんです。私心がないんですよ。だから反省はするけど後悔はしないってね。言われたことは聞くけども。でも、やっぱりありきたりのことのなかでは物事って変えられない。

今、第三次の革命、うちの会社 IC チップ作っているものですから、もうほんとに、日本に生き残れるのか。海外に行ったって大変です。ほんとに残るも地獄、行くも地獄みたいな今の状況です。これはどんな社会のなかでも、自分の人生のなかでも、リスクを負ったり、新しいことに飛びつくってことはやらなければ、新しいものは、私は目に見えてこないなと思います。今のままじっとしてたらば、危ない。

重慶に 1 週間前に行ってきましたけどね、あの市長がいなくなっても、重慶はすごい勢いで頑張ってる。中国の方々もほんとにオーナーで若くて、塾長の稲盛さんの考え方やってます。中国もアメリカも日本もない、頑張る方が伸びるんだなって思います。もう日本の国とかアメリカとか中国とかって言ってる場合じゃないなってのを肌で感じた、今日このごろです。4 日間行ってきました。

司会

ではとりあえず、話が、いせさき銘仙と、今日は、まちの活性化ということがテーマですので、先ほどファッションショー、それから今のプレゼンテーションをご覧になって、何かご質問があれば、「どうしてそんなに元気なんですか？マムシドリンク飲んでるんですか？」って聞きたいような気もしますけど、そういう茶々は置いておきまして、何かどうぞ、どなたでも結構です。

杉原講師

ちなみにこないだ、栃木県庁に呼ばれまして、私が事例発表を頼まれたんですね。ここにあるんですけども、正直言って、全国地域づくり協議会に栃木県は誰ひとり来てません。十何年たって、20 年近くかな。栃木県には、どうも地域づくり協議会っていうのがないみたいですね。それで参加したときにあんまり、私は、悪いってわけじゃなくて、群馬だったらもう 15 年以上前にやってるような、皆さんでペタペタ紙を貼ってどうするとかって、そういう何とかってやり方でしたっけね。

A 氏

ワークショップ？

杉原講師

そう、ワークショップ。私、正直言って、今ごろって、ただ驚いて、もっともっと外に目を向けたらって思いました。群馬県のほうの事例で、宇都宮に呼ばれまして、事例発表させていただきました。一番左の下がそのときの写真。で、やっぱりそれにもエネルギッシュだって書いてあるんですけども。

司会

会場既に、エネルギーに負けずに・・・、もう負けてますけど。

杉原講師

いやいやいや、人生に勝ち負けはありませんので。

２）銘仙今昔物語

A 氏

しかし不思議なんだよな。伊勢崎だけが、産地として現実に生きてるんですよ。実はいせさき銘仙ってね、江戸時代からの歴史があって、「太織り」って形式があって、戦後を経て、今生きてる。実は昭和 10 年に、足利が日本一の銘仙の産地になったわけですね。そのときは、トオリ織物とか、力織機で織ってたわけですよ。今、銘仙を復活しようという場合ですね、非常に裾野が広いんですね、繊維産業は。しかし、1 つの部分が壊れちゃうともう復活できないんですよ。

杉原講師

そうなんです。どこかが切れるとね。で、それを今、斉藤さんって方が、それを全部してくださる、括りから始めて。あともう 1 人、柴崎さんって方が、能衣装みたいなものをやってます。それはもう何十万円ってものですけどね、座繰りです。座繰りでそれを手機で織って、草木染でやってますね。

A 氏

伊勢崎の伝統的工芸品は、伊勢崎紬になってますよね、確か。

杉原講師

銘仙が総称で、そのなかに紬から大島から、何でもやっちゃうみたいですね。結局いいってものは、だから伊勢崎大島とかね。人気のあるものはみんなやったみたいですね。

A 氏

今、ファッションショーで見せていただいたら、もともと伊勢崎であったのは縞柄なんですよね。それが今、ちゃんと復活して、非常にきれいな縞柄が出てておしゃれです。

杉原講師

はい、あれが「ほぐし」なんですよね。だから一番簡単な織機で織れるんです。併用っていうのは縦横です。併用をやる方は、今はもうほとんどいなくなっちゃったんですね。

A 氏

伝統的な、一番、銘仙の目が千のほぐしになってきますね。

B 氏

今、1 軒だけ残ってる、木島さん。

杉原講師

織ってるのは、確か足利なんですよ。というのは、伊勢崎はご存知のとおり手機なんです。全部手機で機械化しなかったんです。機械化したのが確か足利なんです。だから、柄を作ってるのは、木島さんなんだけども、織ってるのは足利って聞いてます。

A 氏

要するに、高機から入ってくる、織機で、地機ではないですからね。そこは足利で作っているけど、ただし、足利のものじゃないんですよね。伊勢崎なんですよね。

B 氏

逆に木島さんの工房が生き残っているっていうのは、どういうことですか。

杉原講師

木島さん自身のお嬢さんが後を継ぐっていうことで残ったみたいです。結局みんな農業と同じです。みんな後継ぎがいないんですよ。だから、これ続けるってね、正直言って、今「もう 1 回企業として起こします」とおっしゃいましたけど、とにかく大変です。というのは、作っても売れないんですよ、正直言って。ほかの着物から比べたら安いって言っても、でもやっぱり、5、6 万で、そこに胴裏で、裾廻しで、仕立賃っていくと、いくら普段着って言ってもどうしても、10 万は越すんですね。でも 10 万超す着物を、ポンポンポンって買うって。そこにまた帯で、草履で、長襦袢で、肌襦袢でしょ。だから着物の文化っていうのは、維持が大変なんです。

B 氏

それで木島さんの場合は、買い手っていうのか、その仕組みは何かあるんですかね？やっぱり、企業として成り立っていく。

杉原講師

はい、私たちがテレビ出てから、ものすごく売り上げが上がったって話は聞いております。だから私のこと、「会長さん、ありがとうございます」って言うんですけども、やっぱり知られるってこととですね。皆さんもう、小紋には飽きちゃってるんですね。江戸小紋とかもう目垢がついちゃって。それと訪問着とかああいうものは、着る場所が限られちゃいますね。でも、この銘仙って、その辺に、私は、今日は着てこなかったんですけども、県庁の会議でも何でも全部銘仙着てくんですけども、とってもおしゃれに見えて、目立つんですね。ほんと目立つってことは非常に大事。

でも私、稲盛さんの京都ショーのショーに行って、女性は正装で男性はダークスーツとか、タキシードっていうんですけどね。京都のほうのお金持ち方々がものすごい着物を着てくるんですよ。でもそこに私が銘仙着て行くとね、100 万、200 万の着物が皆さんの視界から消えちゃうんですね。銘仙のほうが派手さがあるんです。だからこういう存在感なんだなって私思います。やっぱり目垢がついたものは、京都でいくら高いものって言ったって、みんな見てるんですよね。落款付きの作者が誰なんてのはね、高いだけで。

３）社会の変化と着物文化と銘仙

今は社会が、「いくら」じゃなくて、「何をくっつけてるか」じゃなくて、「どこの女房とか」じゃなくて、今、『どう生きてるか』っていうのが、価値になったときに、すべての選択肢が変わってきましたね。誰の女房とか、どこの会社の社長とか、なんでもない。その人がどう生きてるか、その人が、私がよく言ってるのは、「セクシーで魅力があるのか」っていう、そこにしか私たちはもう関心ないですね。

A 氏

インターネットオークションでもかなり銘仙が出てますよね。

杉原講師

それで、すっごく安くなっちゃったんですよ。どこからか出たのかわかりませんけども、どこかに残っていた銘仙を着物に仕立て、7、8 万で出たらしいんですね。それで値崩れしたって話は聞きました。ただ、もうそれも量はなくなったんで、今はもうないそうです。一時期、着物と帯で 7、8 万とか 5、6 万とかってずいぶん出たみた

いですね。

A 氏

京都の呉服屋さんから、ホームページ使って売ってたはずなんですけど。

杉原氏講師

そうらしいです。伊勢崎の方も買いました。それで織物組合が、上を下への大騒ぎになって、誰が出したんだ、なんて言って。

C 氏

1 軒だけ持ちこたえてるっていうのはすごいと思うんですけどね。それにはたとえば、ごひいきの筋がついてるとか、そういう支える部分っていうのは特にないんですかね。

杉原講師

スポンサーはないですね。だから、正直言って、豊かじゃないですよ。作ったって売れなければ不良在庫になるわけですから、着物なんていうのは。

これがイッセイミヤケさんのパリコレに使った生地なんですけどね、これ全部わかりますよね、手織りなんですよ。それで、イッセイさんからすると「こんなの発注したら簡単にできるんじゃないか」って思ったらしいんです。手織りで織ってるってことも気付かなかったらしいんですね。でも、これが織れる方がいないんですって。それで、ファッションビジネスですから、「どんどんよこせ、何日までに何反できなければ駄目」とかね、それですごい大変な思いしたってこともあるそうです。家庭内工場ですからマスプロじゃないんですよ、ほんとに少ない量の注文や発注があっても、それに応えるだけの力もないっていう、その辺が問題です。

ただ、着物って日本の文化なんですが、若い人がわからなくなっている。こないだ盛和塾の会合で軽井沢プリンスに 860 人の塾生集まって勉強会やったときに、群馬の女性の方全部が着物を見せに来てたんです。「とにかく着物と帯と帯揚げと帯締めを用意するから」って言ったら、腰ひも持ってこなかったんです。帯板もないです。

着物を着たことがないから、「着物には帯板と腰ひもが要る」っていうのがまずわからなくなっちゃってるんだなっていうのを私は感じます。もちろんそれは想像したんで、一応準備したんですが、帯枕と腰ひもと帯板は全くなかったですね。みんな、草履と長じゅばんだけは持ってきたんですけど。

A 氏

足袋とかは。

杉原講師

足袋も、持ってきてもらいましたけども。だから、私は今がちょうど着物文化の危機かなって思っています。今、私たちがつなげば、着物の楽しさっていうか、私たちも着物を着るとなんとなく非日常を感じるんです。先ほど先生がおっしゃったように、「非日常って生活のなかでとっても大事なことなんだ」。着物を着ることによって非日常を感じられるっていうのはとっても手っ取り早い。そして、私が思うには、骨とうで安く買えるんですね。本当は木島さんのを買っていただきたいんだけども、でもその前に 7,000 円とか 1 万円とか 2 万円とかで、結構まだ出てるんですね。古着市なかで。とりあえず私そういうのを着て、ただ、裄が短いです。あと、この「おはしょり」ができません。でも、そういうものを着てお金かけないで試してみるっていうか。あとは羽織を上着がわりに着てみるとか、ちょっと試してみることから始めていただけるとあんまり大変な負担にならないかなって感じを持ってます。日本のすばらしい文

化ですね。

C 氏

私なんか日常着るのはウールですけど、大島とか何かは親とか、祖父とか祖母の代のやつを着れるんですね。つくり直して。今、そんなんとっても買えませんから。

杉原講師

着れるんです。着れます。

C 氏

そういうのは残るんですよね、ずっと。

杉原講師

ただ、問題なのは、着物を知らない人にとっては、ごみなんです。おばあさんが死ぬとみんなごみに出しちゃうんです。もうそれ聞いたときに、「とにかく死んだって聞いたら、そこんち電話かけようよ」、「銘仙がありますか」ってやろうって言ったぐらい、価値があるものです、お宝が捨てられちゃうんですよね。今は、場所も狭いし、しまっとく場所がないんですね。」

C 氏

たいてい、いいものなんですよね。昔のものってね。

杉原講師

そう。今のとは、全然生地が違うんです。

A 氏

今はどんなにいいもんでも質屋が扱わないのが着物なんですよ。二束三文っていうか、もう扱わない。駄目なんです。

杉原講師

駄目なんです。欲しい人がいないんです。だから欲しい人を増やしたいなって思っています。私たちは銘仙しか着ませんので、私も大島があっても、何があっても銘仙しか着ないんです。これは死ぬまで私は銘仙で行こうと思ってやってますけども。

A 氏

いくら大島が 200 万したところであの派手さはないわけですからね。

杉原講師

ないんです。この銘仙の派手さがないんです。与謝野晶子いわく、「蛇の柄」なんですよね。「私は蛇を体にまといたくない」って言ったって聞いてから、私は、大島が着れなくなっちゃったんです。私、蛇の柄嫌いなの、蛇を体にまといたくない。つまんないことなんですけど、それ聞いちゃったらどうも大島を体に着せられなくなっちゃう。単純な女ですから。

C 氏

銘仙も結局もう昔のものでしょう、着るのは。今、新しくつくって着るようなことはあるんですか。

杉原講師

今、木島さんがつくってる銘仙で私もつくりました。3 着つくりました。

A 氏

ここの写真に出てきたのは新しくつくったものですよね。

杉原講師

ええ。私が着てるのは、新しいもんです。

A 氏

あと、縫わないのも、ありましたね。はい。あと、左の方の、これは左が高木照子さんっていって、今、妹さんが食器屋さんやってる人かな。左の方の妹さん、何かこだわった食器を扱ってるっておっしゃってましたね。

４）官民連携のまちづくり

D 氏

こういうファッションショーっていうのは誰でも参加できる、見る側として誰でも入場できるものですか。参加費とかは。

杉原講師

誰でもできます。無料です。ただね、今

年第1回目だったんで500円いただいてたんですよ。そこに500円の3倍返しだったかな、コーセーの美白の化粧品と、あと、ちょうど3月3日だったので桜もちとサンドイッチつけて、1,500円返しぐらいで500円でチケット売ったの。初め売れないんですよ、全然。

公務員ってものを売れないのね。「ここにチケットあります」って言うんですよね。私、「あと 3 日しかないのに何やってんのよ」って。最後はプレミアがついちゃって、今度は足りない騒ぎなんですよね。

公務員は売らないんですね。「どこにあんの」っていたら、「ここにあります」って積んであるの、市役所のなかで。もうびっくりしちゃってね。

私、だから批判じゃないんですよ。やっぱりお金をもうけるとか売るとかっていう感覚がないんですね。

でも、私がこうやって二十何年街づくり、市民ゼミやってきてうまくいってるのは全部役所の方がいらっしゃるからなんです。これも都市計画課の方や観光協会の方のお蔭。「民」だけではやっぱり難しいです。というのは、道路を使うとかとめるとかっていう場合にはわれわれが頼むと警察がうるさいんですよ。だけど、市役所が言ったら、一声なんですね。かといって、役所がやるとお金がかかっちゃうんですね。民間がやれば、算の10分の1でできちゃう。

だから、官民でうまく組んでやる、私ら官と民のつながりが非常にうまくいってます。23年やってきて、初めたころは「私とつき合うと出世が遅れる」って言われたですから、役所の人間がみんな逃げるんです。それこそ、みんな蜘蛛の子散らすように逃げちゃうんですよね。そこから始まってます。

5）女性の美しさと関係者の連携を目指して

二十何年やってきた結果としては、「来年もやります。3月の第1土曜日にやります。」ということです。ホームページ見ていただければ、これ見ると出たいって方が多いんですよ。写真の前へ出てる「この2人の方の眼鏡にかなわないと出れないのよ」って言うことらしいです。「私たちは、心と顔の美しい方を選んでるから」って笑うんですけど。

でも、見せる以上はやっぱり「美」がなきゃ駄目なんですよ。見てもらうんだから。見苦しくちゃ駄目なのね。別に形が悪いとかじゃなくてもね、やっぱり生き生きと生きてどうってことです。彼女が言うのは「初めは普通の方たちが、どんどんきれいになっていく」それは、「ここにいる私が一番美しいと思って歩け」って言うことですね。堂々と「私っていい女よね」って、「どう、見てちょうだい」って、「誇りを持って歩いてくれ」って。「もじもじ、もじもじ下なんか向いてたらクビ」なんて言って、そうやるだけで女の人がきれいになっていきます。

だから、言葉がけと人から見られるってことでどれだけきれいになれるか、みんな3回前のショーと比べて、アフタービフォーとやったら別人ですよ。小林コーセーのメークアップアーチストが、東京から来たんです。私、絶対やりたくないけれど、この化粧も見事ですね、こんなぱったん、ぱったんまつげつけて、こういうふうにやると別人になりますね。東京から来てくださってる小林コーセーさんの担当者が、今の時代は会社の経営も地元にどうやって社会貢献してるかってことを上に上げてる時代なんですね。

どれだけ売上上げたかってもちろんそれも大事なんだけども、どうやって地元に貢

献してるか。これから地域づくりをやるときには地元に進出してる企業、学校、行政、住民と、みんなが一緒になってやると非常に少ないエネルギーで大きな効果が出るなと思っています。

ファッションショーを始めるときは、挨拶もない。会長も、一応いるんですけどね。市議会議員なんか来て「誰が挨拶したんだ」なんてすぐ言うんですよ。「いや、挨拶なんかありません」。ただバアッて始めちゃう。男の人は大好きなのね、「誰が挨拶する」とか「締めは誰する」とかって、どうだっていいじゃん。だって、来た方が感動してくれることが私たちの一番の評価なんで、誰が挨拶だとかなんとか言ってるだけで、しらけちゃうんだ。県庁からも来てもらったけど、「すみません、挨拶ございません」ってね。その代わり私がマイク持っていって、「はい、県庁からおいでいただいた工業振興課長さんでございます、いかがでしょうか」とか聞くんです。フランクさっていうか、自由さっていうの、ヒエラルキーがないっていうのが、私たちの大切なことなんですね。

誰が来て、それで誰が接待して何んたらかんたら、だんだんくったびれちゃって「勝手にすりゃあいいよね」なんてなっちゃうんです。民間が入ればそれをカットできるんですね。あと、女性が増えればそれがカットできます。女性はみんな嫌がってるのよね。挨拶が長いの、そしたらカットすりゃあいいってんだよね。

前に校長先生が見えた時に、「すみません、校長先生の講演っていうと人が出てこないんで、名前だけでよくて」と言ったら、その校長から 3 年間いびられた、「あの女」って。本当に皆さん思ってることを言わないんですよ。私、代表して言うでしょう。だから、もう嫌われる、「あの生意気女」、「おしゃべり女」、「目立ちがり屋」とか、全部否定しない。「はい、その通りでございます」って。だって、誰かが変えなきゃ。みんな裏で言ってんだもん。みんな嫌になっちゃうんね。誰も言わないんですよね。ぐちぐち、ぐちぐち言ってる。

でも、男の方はやっぱり立場っていうもんがあるから、それを私、否定はしないんですよ。だから、じゃあ、そこは女が言う。同じ言葉でも女が言ったらば、それはあんまり刺激をしないんですね。「じゃあ、女性にやらせてもらいましょう」ってことで、私たち 3 人で組むと何だってやっちゃいますね。その代わり、この 3 月 3 日、珍しく微熱が出て倒れました。3 ヵ月間、NHK 行ったり県庁行ったりもう、終わったあとも今度お礼に NHK から全部、回り行く。やっぱりやる前の準備と、あと当日のそのことと、それと終わったあとの事後処理っていうんですか、これを全部やるとやっぱり 64 歳の体にはこたえます、まだあと 10 年ぐらいやりたいと思ってるんですけども。

6）社会の価値観の変化に対応したまちづくりを

司会

この次、高齢の男性もまぜるようなプログラムにしてもらっては、どうですか。

杉原講師

年齢制限があるんです。

司会

でも、70 歳以上のコーナーもつくればもっとすそ野が広がるかもしれませんね。

杉原講師

伊勢崎で医師会が着物を着始めたんですよ。伊勢崎では有名な病院の先生が「着物を着ようじゃないか」って言うことで始ま

りました。でも、ファッショショーは、美しいものが見たいっていうものだから、厳しくしています。先ほど一番初めに出てきた男の方は、オーバーに言うとナルシストなんですね。慶応出て MBA も持ってて、こういうことに関心を持ってくれて、出てくれるっていうのがすごくうれしい。今はこういうことに関心を持ち始める方が増えています。こういうとこに出てきて元気に行動する、そういうことにすごく皆さん生きる喜びっていうか、楽しさを求め始めているなっていうふうに思います。価値観が本当に変わった。

だからみんな結婚しないんですね。結婚しないのは男も女も面倒くさいんですよ、あれね。煩わしくて、気を遣うのが。話が飛びますけど、だって夫婦って気を遣わなければ、先生、うまくいかないですもんね。私だって夫に気を遣ってますよ、これで結構。で、40 年もってきたんですけどね。夫も気を遣ってくれましたからね。でも、今、気を遣うのはおっくうだと思ったら、うまくいかない。だから「女子会」なんですよね。女子旅とか女子会。女子旅のなかで JTB がやるんで一番の人気が着物ですって。だから、観光地に行っても観光地を見なくて、着物を着て歩くとかね。

それは、足利とか伊勢崎とか桐生は女子旅を呼べるんだなってことです。そこにプラスアルファをつけられれば。そこでうまい食事ができる場所があるとかね。私は伊勢崎よりも足利は鑁阿寺があって足利学校があって、桜が咲くときなんかも最高ですから、その桜が咲いてるときに、JTB から「こうして、着物を着て桜吹雪のなかを歩きませんか」とかね。今、歴女ですからね。歴女から見れば、足利学校とか鑁阿寺っていうのはものすごく飛びつく材料なんですよ。いいですよ、すごく。伊勢崎のほうはちょっとそれが足りないんですけどね。でも、私、やりたいなって思っています。女性は今、確実に観光の目玉ですね。

７）新しい観光のトレンドと青年会議所活動

C 氏

今、着物教室も結構通ってるようですね、女性が。着つけじゃなくて、縫うほう。それで、生地を探したりね。

杉原講師

縫うほうでしょう。今、高いんですよ、縫い賃が。2 万円かかりますね、縫い賃が。だから、やたらな仕事勤めるよりも、自分で縫うんですよね。縫い手がいないんです。和裁する人がいなくなったんです。

A 氏

さっき帯の話おっしゃったときのね。大塚聖子先生がゴムでさっととめるって、ベルトやりましたね。ああいうものでも実際には構わないわけですよね。

杉原講師

と思います。だから、知ってる方なんかはね、帯の形につくっちゃって、べたっと貼っちゃってます。マジックテープで。だから、何でもいいんですよね。

C 氏

和裁、織物、染織、この辺結構女性に人気ありますよね。

杉原講師

はい。手で職っていったら和裁は絶対食べていけますね。着る方はいるわけだけども、縫う方がいないって今、大騒ぎしてます。だから、今 1 着縫うと 2 万円になってますね。腕がいい方は 2 万 5,000 円なんですって。

C 氏

夏場は浴衣が大変らしいですよ。」

杉原講師

浴衣は、みんな東南アジアでミシンでがんがらやってきちゃうそうですよ。

C 氏

だから結構売ってますけどね。和裁のほうでも注文がある、つくられてる。

A 氏

でき上がりで 8,000 円ぐらいで売ってますからね。

杉原講師

そうなんです。「ファッションセンターしまむら」に行けば、帯付で 1 万円で売ってますよ。帯と浴衣で。それに下駄までついてるんですね。

C 氏

スーパーなんか安いのは、3,000 円とかで。

杉原講師

でも、何でも私は浴衣からでもいいから、着物文化が始まってもらえれば、そこに着物。だから、今、NHK3 チャンネルも「京都で着ましょう」とかって京都の方で着物をどうやって帯締めるとかってやってる、間違いなくマスコミっていうのは今の時代をフォローしている。あと、サッカーの中田が着物を着てるんですよね。着てる着物は、志村ふくみ、人間国宝の。でも、何でもいいんですよ。あこがれの男とかあこがれの女が着てくれてるとそういうふうになりたいって思うから。

どこの誰がじゃなくて、中田とか、いい男が着てくれると自分もそれになりたいって思うので、その辺が私は今後の期待ね。中田はいつも着物を着てますね。日本じゅう回ってこんなに地方にいいもんがあると思わなかったって。群馬に来てどこ行ったと思ったら、「だるま屋」に行ったんですって、高崎のだるま屋。BS か何かに出たときに日本じゅう回ってるんですよね。誰がお勧めしたんだか知らないけども、だるま屋でも黄色とか白とか黒とかになったらば、すごい人気があるんですよね。赤いだるまのときは人気なかったのに、白とか黒でカラーだるまで、あと目玉入れるのが東京の女の子には人気なんですって。川場村に行くんですって。それで、1 泊朝食付で夜は川場で食べて、泊まるのは温泉泊まって朝の会席料理を食べて、それでサファリパークに行って、それで榛名神社で祈ると結婚できるとかって、あそこでパワースポットやって、それで帰るとかって。

だから、私、それを大澤知事に提案したんですよ。皆さん温泉に入るばっかし言ってるけどもって、今の若い方はこれを選んでますよって。最後にハラミュージアムアーク見て帰るとかね。だから、もう新しいものを観光に入れていかないと過去のものだけではもう動かないですね。あとは、群馬と栃木を結ぶとかね。道州制なんて言ってる前に民間は動いちゃうんですよね。

司会

どうですか。伊勢崎の JC の活動のほうは。

杉原講師

青年会議所が活動の初めです、私は。私のは街づくり市民ゼミナールはもともと JC なんですよ、始まりは。上武大学市民公開講座で環境指標をつくって、伊勢崎にどういう公園が多いのか、学校はどうなのかこうなのかって、つくって、それでおしまいだったら、JC でそれを使おうっていうのをやったんですよ。そこがスタートで、私が街づくり市民ゼミを開いて、私も若かった。37 歳だったんです。

E 氏

さっきのお話のなかで川の清掃を引き継

いだとかありましたよね。JC 活動って単年度ですから、長いことできないですよね。

杉原講師

そうなんです。継続がないですよね。

E 氏

3 年、5 年ぐらいが、だいたいマックスぐらいじゃないかって思うんですけど、そうすると、どうするかって言ったときに一悶着あるんですよね。やめるかどうするかって、また別団体つくるかとか。杉原さんに受けて貰えて、JC としては、すごくうれしかったと思いますよ。

杉原講師

ええ。だって、市民活動って言ってすごくいいものがあるのに、それを受けられなかったら私たち市民活動と言えないよねっていうのが合い言葉。でも、それで集まったのは女でしたよ。とにかく芋をむくったって半端じゃないんだから。こんなでっかいなべに 2 つずつでしょう。もう本当にむいて、むいて、ごぼうでも何でも、もう嫌になっちゃうのね。でも、それをやっぱりやることによって得た自信も大きかったね。自分が育ちました。結局、苦労しない人は育たない。いいとこ取りしてる人なんか駄目。汗かいた分だけ、脳みそに汗かいた分だけやっぱり自分が成長します。顔が変わってくるもん。

今元気だけどね、やりながらだから、元気なんですよ、私。花を植えるっていっても初めはいいんですよ。だんだん人が来なくなるわけ。私は思いましたよ。最後は 1 人でもやるって思いますからね。1 人だって 300 株 400 株植えるよって言って。だんなが来るの。1 人じゃかわいそうだからなんて。そこに夫婦愛が生まれるんですよ。もちろんほかの方も来ますよ。

だけど、きっとこんないいことをするんだからみんなが評価するだろう、きっとみんなが協力するだろうって、なんて思ったら、とんでもない大間違い。何やったってやんない人はやんないんですよ。初めから期待しない。だから、期待してないから、来てくれるともう本当に手を合わせるぐらいうれしいですね。この方が来てくれるのとかね。来てくれると思った方は来なかったわねとかね。でも、私は協力しない方を批判とか否定はしません。やってくださった方を感謝する。以上です。

マイナスのことをすれば、自分が駄目になっていく。私、ついてる人生なの。女なんですけ。

司会

非常にポジティブな。どうぞ、そこの方。

8）コミックと着物オタクとまちづくり

D 氏

最後に、私のちょっと持論になってしまうんですけど、今、私もアンティーク着物の商売をしています。この講演を通して、ちょっと感じたことがあります。今の若い方、小学生、中学生、高校生の子たちにも広めるのであれば、漫画を通せばと思ってます。こういうふうな絵でも竹下夢二の絵とか過去に使ってそれで足利銘仙が有名になりましたし、ほかのところも有名になりましたし、であれば、今、歴女と言われてもゲームじゃないですか。ゲームでみんな戦国時代好きになって、ああ、着物こうなんだ。

今少年ジャンプのほうでも、ブリーチだとかいろんな着物、銀魂だとかそういうふうな漫画で着物がものすごく使われるようになって、もうみんなコスプレでこぞって探し出してるんですね。私も友達にも「あんな着物、黒の喪服なあい」とか、「はかま

ちょうだい」とか、「赤いじゅばんは」とか、すっごく言われるんですよ。それを反映して銘仙のほうも有名な漫画家さん、集英社だとかそういう場所を使ってそれを漫画にしてもらったらどうかしら、漫画の文化もう世界じゅうじゃないですか。

杉原講師

そうですね。日本は特にね。世界でナンバーワンですもんね。

D 氏

世界の人にも、もし情報発信を向けるのであれば、銘仙はもう日本一だっていう感じで広めてもらったほうが世界に伝わります。日本のスポーツ漫画とか、影響はとかもすごいじゃないですか。テニスとか野球のほうだとか。

杉原講師

そうね。全部そこは漫画から始まってますもんね。スタートラインはね。入門編がいいんですね、そこはね。とっかかりがいいんですよね。コスプレも世界一でしょう。みんながまねしてるんですよね。

D 氏

はい。私が仕事やって、そういうおたくの友達とつき合ってわかったのが、漫画からなんだっていうことですね。

杉原講師

漫画が、入門編ね。私なんか歳だから、漫画世代じゃなくなっちゃうせいですね、この世代間ギャップなんですね。今言われてみて、ああ、そうだと思うんです。だけども、自分と 7 同じ年齢が集まってるとその発想は出てこないんですよ。

D 氏

そうなんですよ。私もそのちょっとこういう、かなり短めに子供の着物を着てぱつぱつに足出してちょっとファッションショーに出たことがあったんです。そしたら、ものすごくブログで批判浴びて、ああ、それが受け入れられないんだ、まだ今の時代はってちょっと思ったんですよ。

杉原講師

うちのほうはあんまり批判なんかさせないから、私、正直言ってブログがいじれない。だから、結局ね、聞かないってことはないと同じね。強いよ。私、つくづくそう思うの。言われるよ、何だってね。だって、そうでしょう。それでも地球は回るっていって、いいことやった方はみんな最後いい人生送んないのよね。私、なるべくいい人生を送りたいと思うから、そこまで激しくないから。

私はハッピーな人生で終わるんだよね。だから、そこに大事なのがユーモア。シリアスになっちゃ駄目よね。けらけら笑いだけあって、ユーモアってすごくシリアスな話のときに、外国人がユーモアが大事っていうのは、「ああ、こういうことなんだ」ってすごく感じました。

ちょっと話が飛んですみませんけども、でも、漫画の入門編って、今どういうふうにしてったら広げられますか、もう生活時間が、時間が限られてるんですよね。

D 氏

そうですね。でも、小学生は、漫画は絶対読みますし、その延長線。大人も読むし、みんなで結構盛り上がるんですよ、着物の話でも。高校生の興味ない子でもそういうのを見てコスプレのほうから始まって、着物に興味持ったっていう子は結構多かったので。逆に、「漫画飛ばしていきなり着てみようよ」ってなると「道具があれやこれや」とか、着つけのほうもしてたので、着つけると「もうきつい」だとか、「苦しいだ」とか「吐く」とかいって言い出すんですよ。

杉原講師

でも、たまたまうちの方の工業高校は100周年だったんです。校長から「生徒に着物を着せてくれ」って言われたんですね。そしたら、そ十何人、工業高校は女の子少ないんですね。そしたら、ちょっとぐれてた生徒たちがみんないい子になっちゃったんですって。校長から、「着物を着てあんなによくなると思わなかった」って。それは驚かれました。小学生というのはまたちょっと難しいかもしれませんが、「きれいだ」とか「見られたい」っていう欲求が、まだないからですね。でも、着物を着ることによって、高校生ぐらいになったら「彼氏に見せたい」とか始まる。

そうすると、「やっぱりこの着物嫌だ」とか、「彼氏が来るんだから」って始まる。そこで、おもしろいお化粧させたんです。片目だけ丸くしちゃうわけ、こういうふうにやってしまう。すると、「彼氏が来るんでこういう黒目玉はやめてくれ」とか言っている。私、それかわいくてね。でも、そういうことも含めて高校生ぐらいからはぶつかる。ただ、高校生は格好よくできないんですね。もさもさってやるんですね。でも、高校生の学園祭には、着物持ってって受け付けしてもらいました。それは評判よかったですね。

D氏

ご講演聞いて、「わかるのは、私たちだけなんだな」って思ったんですよ。着物を知ってる人たちにしかわからない話でもあったので、ならば、どの世代にもわかるといえば漫画しかないと思ったのです。活字ではなく漫画だと。

杉原講師

はい。漫画ですね。視覚に訴えなきゃ駄目ですね。それをやれば、漫画家もウケると思う。だって、漫画家だってやっぱりウケを狙ってるんですよね。今、何やったらウケるかって。それでうまく利害が一致すればウィンウィンの関係でいいわけですもんね。

D氏

しかも、正しく書けてるんですよね、今の漫画家さんって着物のことを。その点には私びっくりしてますね。一昔前は本当にだらだらした感じにしか書かなかったのに。きちんと着つけの仕方というか、しまい方、帯の結び方をしてるので。オタク方、多いみたいです。

9）思念は実現するの精神で

杉原講師

とにかくチャンスを見ながら。「思念を実現する」っていうのが稲盛さんの言葉なんですよ。考えてると実現するんです。「カラーで出るぐらいまで寝ずに考えろ」って言うの。そしたら、必ず思ってるとチャンスが出てくるんですね。ありがとうございます。今日の最高の収穫で。

私も64だから先が短くなってる。なるべく急がないとあんまり時間がないんですよね。

司会

100まで大丈夫。

杉原講師

みんなに言われる。「杉原さん、みんな死んだってあんただけ生きてるよね」なんて言われて。

司会

さて、ちょっとすみませんが、8時半という約束ですんで。私もはっきりパワーに圧倒されました、ぜひこれからも元気をいただきたいと思います。

杉原講師

いえいえ。地元の大学の生徒さん、高経大の大宮登さんも地元で商店街と組んでやってるんですね。やっぱり次はアクションプランかなと思いますね。

司会

まずやってみなきゃしょうがないですね。ごたごた言っててもね。

杉原講師

そう。生徒さんにキャリア教育やるんですよ、大学の生徒に。「銭もうけてこいみたいな」ね。「商店街と組んでやれ」とか、今、熱血甲子園とか、高校生に10万円やって、それで幾らもうかってくるか、10万円出して幾らで金稼げるかっていうのを熱血甲子園ってやってるんですよ。それ大宮登先生が高経大でやってます。ぜひそういうことも含めてとにかく働かせる、仕事をさせるっていうことが、これからの大学のすごく大事な役割かなって。本当は親がやらなきゃいけないんですけどね。でも、親ができないから大学がやらないことには、就職してもみんな、やめちゃうんですよね。

司会

最後に大学との共催の公開講座に話を落としていただきましたので、これで終わりにしたいと思います。本当にお話尽きないんですが、時間もありますので、よろしいですか。じゃあ、楽しく過ごさせていただきましたが、約束の時間でございますのでこれで終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

（拍手）

杉原講師

勝手なことをしゃべってきました。今日持ってきてませんけど、銘仙のこういう額絵を700円とか、あと銘仙の磁石みたいにこうするのは2個で300円とか、私、今日持ってきたつもりがないんですね。やっぱり歳みたい。高いものは無理でも、銘仙を使った小物を売っていこうってことで、やってます。ですから、そういうちっちゃなこともこれからはやっぱり必要なのかなって、そういうような提案を観光協会とか、市役所にしていきたいと思います。

小物を銘仙でつくってやっていく、ここ足利は伊勢崎よりも全然ロケーションがいいですから、おそばもおいしいのはあるし、着物を着て歩きましょうってやったら歴女も喜ばれる。ぜひやってください。私たちもやってみますので。よろしくどうぞ。

男性A「じゃあ、皆さん。最後にもう1回拍手をお願いします。」

（拍手）

司会

ありがとうございました。

銘仙とまちづくり

街はみんなのギャラリーだ！
第16回 地域づくり団体全国研修交流会群馬大会伊勢崎分会 平成14年2月15日

第19期街づくり市民セミナール開講式

いせさき
煌華会

シルクカントリーin伊勢崎（H22.3.14）

いっとろっけん銀座（H22.4.18）

いせさき銘仙の会発足（H22.3.3）

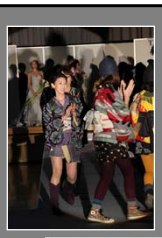
いせさき燈華会での銘仙ファッションショー（H22.10.16）

THE銘仙コーディネート展（H23.3.3～10）

いせさき銘仙の日ファッションショー（H24.3.3）

駅前での募金活動（H23.3.13）

大宮駅で銘仙ファッションショー（H23.6.5）



いせさき銘仙の日（H24.3.3）ファッションショー

ぐんまDCSL列車出発式（H23.11.3）

第３回　６月 20 日（水）

「栃木市のまちづくり」について

壬生町議会議員
田村　正敏

司会者

それでは、定刻になりましたので、平成 24 年度の足利工大と足利まちづくりセンターVAN NOOGA の共催になります地域活性化社会システム論の第３回を始めたいと思います。

本日は壬生町から田村さんに来ていただいておりますが、栃木市のまちづくりについてです。ご挨拶をいただく前に、まず、開会にあたって、中川会長、一言ご挨拶をお願いいたします。

中川会長

皆さん、こんばんは。田村さん、お忙しいところ、どうもありがとうございます。第３回目ということで、今年の３回目でありますけども、簗瀬先生のご尽力で、今年度が４年度目ということで、ずっと続けております。ずっと栃木県下を中心とした皆さんにいろいろお話を伺ってまいりましたけども、今日は栃木市のまちづくりということで､壬生町議会議員をされております、田村さんにお願いするということです。青年会議所の若者が多いんでしょうかね。皆さん、顔見知りの方が多いようでございますけども、ひとつ、よろしくお願いいたします。

１．利他行―自己紹介に代えて

田村講師

はい。よろしくお願いいたします。それでは改めまして、こんばんは。現在、壬生町で町会議員を務めております、田村と申します。今回、ご縁をいただきまして、先ほど中川会長のほうからお話ありましたように、青年会議所のご縁でもって、こちらの素晴らしい活動に参加をさせていただくということを大変有難く思っております。こちらの活動は、いろんな学生さんからベテランの先輩方まで一緒になって、まちづくりに対して色々お勉強されており、大変意義ある活動をされてるなぁというふうに感じております。皆様の要求にどこまで応えられるかわかりませんけれども、私が取り組んできた栃木市のまちづくりについて、１時間ほどお話をさせていただきたいなというふうに思います。

今お手元に今年の映画祭のパンフレットをお配りいたしましたけれども、今回は映画祭の話を中心に、少し枠を広げて、栃木市のまちづくりということでお願いをされましたので、映画祭に至るまでを含めた栃木市の取組みということで、お話をさせていただきたいなっていうふうに思います。『協働の推進から栃木・蔵の街かど映画祭まで』というタイトルにさせていただいております。

で、話を始める前に、ちょっと私、自分のことをお話しさせていただきたいんですが、今議員をやってますけれども、私の本来はというか、元々の仕事はお寺の住職をしてます。で、大きいお寺とちっちゃいお寺とを兼務してまして、大きいお寺のほうは､まだ父が現役で住職を務めております。で、そこの副住職と、小さいお寺の住職を

してるんですけれども、父がまだ現役でやっているということで、こういう青年会議所、あるいはこういうまちづくり、それからこういう議会活動もさせていただいてるということで、大変ありがたい立場にいるわけなんですが、小さいときからお寺で暮らしていて、仏教には利他行っていうのがあるんですね。

これは自分の利、自利行と、他人に利する利他行という、つまり奉仕活動にあたる行があるわけなんですけれども、そういうところでもしかすると、幼少より奉仕をするというようなことに対して、非常に共感を持って育てられたのかなっていうふうに思ったりしています。それから、だいぶ話を飛ばしますが、大学時代まで、私はずっと体育会に所属をしておりました。で、ずっと部活をやって、さすがに大学に入ったらちょっとは遊ぼうかなと思ったんですけれども、やっぱり体育会に入ってしまいまして、ちょっと珍しい水上スキーっていうスポーツをやっていたんですけれども、おかげさまで、最終的には、いろんな大会で優勝させていただいて、日本代表にも入って、大学の学長賞もいただくところまでやり尽くしまして、4 年のときには主将を務めさせていただきました。大学の体育会っていうのは、やるときは合宿を 2 ヶ月とかぶっ続けでやるんです。そうすると、どんなに仲がいい人とでも、やっぱり争ったり、なんかもう傍に寄るだけで気持ち悪くなったりっていうのも、絶対出てくるんですね。で、そういうなかで、いかにチームをまとめていくか、人間関係を良好に保つかっていう、そういうこともその大学の体育会生活のなかで、すごく学んだような気がします。

そして、大学を卒業して、地元に帰ってきて、青年会議所という NPO ですね、社会奉仕団体に入りました。で、そこで今度は実践的なまちづくり活動というものに取り組む機会を与えていただいた。ですから、私は、幼少から寺で育って奉仕する心、そして体育会のなかで、根性とか、チームワーク、人間関係というものを学んで、そして青年会議所で、その実践となる、まちづくり、そういうふうなことを学ばせていただいた。そうやって育ったのかなぁっていうふうに思っています。で、いろんな役職もいただいたんですけども、栃木市の青年会議所の理事長をやりましたので、栃木市の活動が大変多いんですけれども、それと、県の会長もやらせていただいたときに、やっぱり県の活動をやらせていただいたということで、しばらく地元、つまり私は壬生町の人間なんだけども、壬生のことがほとんどできてなかったんです。で、JC＝青年会議所を卒業するころに、地元のほうも少しはやらなきゃということで、住民会議をやったり、PTA 会長をやったりとかっていうことで、いろいろやってたら同じ世代の人たちに、田村、お前はなんかいろいろ栃木とかで、すごいことやってんじゃないかっていうことで、肝心の地元の壬生でも何とかせぇよっていうようなことで、担ぎ出されたというか、担いでいただいたというか、そういう活動がばれてしまったというか、認めていただいたというか、それでこうして今、議員に押し上げられて、壬生町のほうで議会活動しております。けれども、先ほどから申しましたように、基本は、そういうボランティア活動が、私のベースになっておりますので、今日も、略歴の最後の 1 行だけ議会議員と載せていますが、それ以前のボランティア活動をしてきた人間として、今日はお話をさせていただければ

というふうに思ってます。

２．栃木市協働のまちづくり

１）協働のまちづくりとは

それで、栃木市のまちづくりは一言で言うと、「協働のまちづくり」なんです。で、「協働」っていう言葉は、今でこそいろんな市民活動してる方には認知をされていますけれども、栃木市でこれを我々が言い出したのは 10 年前なんですけれども、ほとんどその協働という言葉を、皆さんご存知なかった。協働というと、共に同じって書く、まぁいわゆる共同体の共同になってしまうんで、共に働くっていう協働は意味がわからない。

それと、いろんな団体さんに話を持ちかけたときによく言われたのは、

「俺たちも充分やってる。なんでわざわざ面倒くさい協働するんだ」

ということ。それから、これが結構大きいんですけれども、いろんな市民活動をされてる団体さんは、すごく自分たちが、そのスペシャリストであるし、プロフェッショナルであるし、すでに充分やってる。俺たち以上にこの仕事をやれるはずがないという思いがあるから、誇りを持っています。で､それが｢よその団体と一緒？いやだよ、そんな、よそから言われたくないよ、命令されたくない、あるいは、吸収なんか以ての外だ」っていう感じがすごくあるんですね。で、こういうところをいかに調整していくかっていうことが、協働のまず最初のステップになるわけなんですね。

でも、確かに 10 年前はそうだったけれども、今は栃木市はおかげさまで、ほとんどの色々なイベント、あるいは政策においても、先ごろ自治基本条例も成立しましたけれども、あらゆる政策からイベントまでが協働で行われるようになりました。じゃあ、それはどうやって作られていったかというと、やっぱり最初は青年会議所が中心になったんです。いろんな市民団体、NPO 団体に声をかけました。皆様方を含め、私たちの活動を活性化していくための、いいアイディアがあるんですけれども、ちょっと一緒に集まりませんかっていうことで声かけをしまして、とにかく楽しく、もっと大きなことができます、仲間もたくさん増えます、で、それが我々以外の多くの人の喜びにつながるんですよ、すごくワクワクしませんかって、伝えながら声かけをしました。

実際にテーブルディスカッションをやったり、ワークショップをしたりしながら交流を進め、この段階を 2 年ぐらい、まぁワークショップの回数で言うと、8 回か 10 回ぐらいはやったと思います。それで、要はみんな顔見知りになったんですね。で、どんな政策、行政もそうですけれども、政策を実行するにしても、やるのはやっぱり人間なんですね。理想で言えば、政策がしっかりしてれば、人間がどう入れ替わっても、同じようにそれが執行できるのが理想ですけれども、実際はやっぱりやる人間、人なんですね。信頼関係がないと、できるはずのこともできなくなっちゃう。だからここで、文面には出てないですけど、飲み会とかね、膝を割って話す、それいいじゃないですか、やりましょうよって、一緒にやればできますよっていうことを繰り返し、繰り返しして、ネットワークを作ったんです。で、あとは、じゃあ、それでせっかくつながったから、それを生かそうっていうことで、最初のきっかけとなる「とちぎ協働まつり」というイベントをやってみました。

２）行政との連携

そうこうしてるうちに、市長、つまり行政のトップが、この栃木市は協働で作っていこうっていうことを言い出すようになったんですね。市民活動推進センター、今、「くらら」と呼ばれていますが、それと、「市民協働まちづくりファンド」、これも今、名前は変わってるかもしれないですけれども、市民活動をしてる団体に対して助成金を出す、ちゃんとコンペティションをして、成果が上がるところに出すっていうファンドなんですけれども、これもトップが動いたことによってできた。そうして民間のほうと行政のほうと両方が、そういう動きができたことで、ここから一気に、その協働のまちづくりが加速をしていくわけなんですけれども、ここを作るに当たっても、まぁ、私もその青年会議所の理事長として、それらの準備委員会に参加をしてますが、例を言うと、

たとえば市民活動推進センター。行政から上がってきた最初の案では、営業時間 9 時から 17 時になっているわけです。でも、市民活動を一生懸命やっている人は、仕事も一生懸命やって、仕事が終わってからボランティア活動やるんですよ。だから、17 時で閉まっちゃったら全然推進できない。だから、始まりは遅くしてもいいから、せめて 21 時までやりましょうよって。みんな、18 時に仕事終わって、それから 3 時間そこでがっつり会議して、地元地域のために考えてやるんだ、だから、そうじゃなきゃ駄目でしょと。そういう意見は、我々民間がこの準備委員会に入っていたからこそ言えた。で、最終的に 21 時まで営業になって、もっとやりたい人には鍵を預けるから何時までもいいですよっていうふうになって、この「くらら」は開所となりました。

そのように、市長もやろうって決めて、民間の意見も聞いてやろうってことになって、しかも結果が出ることで、どんどんその協働のメリットっていうのが浸透していったんですね。で、前市長に続いて今の市長も公約で、税収の 1%ですか？それを市民活動の助成に当てるっていうようなことを言いまして、以降ずっと行政側からも協働活動が今も続いているわけなんです。

３）協働のまちづくりの実践

話は戻りますけれども、先ほど、実践に移した「とちぎ協働まつり」。これ、なぜ実践をするかっていうと、やっぱり百聞は一見にしかずで、机上の理論だけでやっていてもピンとこないし、何よりも喜びとか達成感がないんですよ。何かやらないと。で、何かやると、実行委員会以外の人もたくさん関わるから、すごくその波及効果があるので、やっぱりお祭りありきではないけども、イベントやってみようということで、とちぎ協働まつりを立ち上げました。

理念は「みんなでつくる明るい豊かなまち」。すごく簡単な言葉なんですけども、明るい豊かなまちの価値観ってのは、人それぞれなんですよね。だから、これは簡単でいいんです。みんな参加する人がそれぞれ考えてくれればいい。重要なのは、みんなでつくるっていうところ。協働してみんなで作る。そこはしっかりと明記をさせていただいて、あとは内容は何でもあり。一応、全体テーマとして、絆とか、和とか、心とか、そういうのは作るんですけど、あとは何やってもいいですって。何やってもいいから一緒にやりましょうよっていうことで、企画をするんです。

一応目的としては、自分たちの住んでいる地域への参画意識の拡大、それから、市

民、NPO、ボランティア、行政、企業の協働を目指し､お互いに理解､交流を深める。で、最後これが重要なんですけれども、協働社会の重要性を発信し、市民ネットワークの構築と発展を図る。つまり、この協働まつりを成功させるのが目的じゃないんですよね、大事なのは。2 年間かけて、顔見知りになって信頼関係を築いて、これを作るのがゴールじゃない。実際やってみて、協働社会は重要だよっていうことを、この祭りを通して発信をしていくことが大事なんで、この最後の 3 番目の項目を入れたわけなんですね。で、やりました「とちぎ協働まつり」。みんな喜んで行きました。参加団体は大きいのは青年会議所も含めて 5 個ぐらい。それと、個人とか小さい団体、10 団体ぐらいの規模でやりました。それぞれがそれまでも先ほど申しましたように、活動はしていたんです。イベントもやっていたんです。ただ、それこそ 100 人 200 人のお客さんを対象にしたイベント。それが、みんなが一緒に協働して祭りをやったら、初回から 2 万 2 千人のお客さんが来ました。それぞれこれまで体験したことのないイベントとなったんです。

４）協働の工夫

だけど予算などはほとんどこれまでと変わらないんです。まぁ簡単に具体例をあげれば、今までそういう人たちは、それぞれが、たとえば 5 万円の予算でビラを作りましょう、ポスター作りましょう、そうするとモノクロで、A4 サイズのビラしか作れない。で、5 万円の広報予算を持ってる団体が 10 団体集まったら 50 万円になりました。全員の記事が入った A1 のでっかいカラーのポスターを作ることができるようになったんです。そういうことでも、単純にみんな「あ、うちのとこだけじゃこんなの出来なかったなぁ。いやぁ、良かったよ」って。そしてこんなでっかいポスターが街じゅうに貼られるようになったんですね。そういう小さな成功例がどんどんたくさん出てくると、今までは 200 人しか見られなかったのに、2 万人の人に自分たちの活動を伝えられるんだよって理解されてきた。そして、やってるうちに「あっ、お宅はそういうふうにやってるんだ。それ、うちでも今度真似させてもらうよ」って、他団体から吸収もできる。そういうことを通して、協働の素晴らしさっていうのが、溢れてきたわけなんですね。自分たちもそう、来たお客さんもそう。確かに苦労は 2 倍、面倒も増えた。調整するのに実行委員会の回数も増えた。けれどもその分楽しさは 4 倍だったよねって、みんな最後抱き合って、酒飲んで打ち上げをして、感動を共有したんです。

そうしてこの流れがケーススタディとして、今後の栃木市に大きく影響を与えることになりました。

３．市域を超えた活動へ

１)「フィルムコミッション」への取り組み

ステップ 2 として、このただ今述べた協働まつりでできたネットワークを、もっと生かして、じゃあ今度、栃木市、対外にもっと売っていこうよ、町おこしをしていこうよということで、観光回遊をキーとして考えたときに、栃木市は何がセールスなんだろうと考えました。それはやっぱり蔵のまちではないか？となりました。実際栃木市に蔵は 300 以上あるんです。さらに、江戸から昭和初期に建造された洋館もあるんです。最近、認定されましたけれども、例弊使街道などの伝統的建造物群保存地区があります。そして巴波川（うずまがわ)、街

なかを流れる美しい巴波川があります。そういう街並みを対外にどういうふうにしてPR をしていこうかなって考えたときに、フィルムコミッションは、どうだろうっていうふうに考えました。で、これは青年会議所と別に、私を含む有志で立ち上げたんです。

フィルムコミッションっていうのは、映画とかドラマとかCMとか、そういう、いわゆるフィルムになる物､撮影を誘致して、どうぞ、うちにロケに来てください、いい景色いっぱいありますよ、撮影できるポイントがたくさんありますっていうことで来ていただいて、そのロケをスムーズにいくように、アポを取ったり、道路の交通整理をしたり、駐車場を確保したり、ロケ弁を出したり、そういう活動をするのがフィルムコミッションなんです。

裏話的になりますけども、映像の世界、映画の世界とかってのは、ものすごく狭いんですよ｡もうどこかの制作会社が行って、「栃木市いいぜ、受け入れ態勢も整ってるぜ」ってなると、あっという間に業界に広まるんですよ。すごく効果がある手法なんですね。それで、すぐ、すぐと言っても 1 年ぐらいかかりましたけども､「とちぎえ～ぞ～支援隊」という民間のグループを立ち上げました。これ民間なんですけども、ちゃんとよそのフィルムコミッションを自費で視察に行ったりして、勉強させていただいて、ばっちり企画書をまとめて市に出しました。ちょうどそのとき、TMO、まちづくり団体、商工会議所さんなんかがやっていましたが、その中にフィルムコミッション事業部会っていうのが一応あったんです。しかし、こう言っちゃなんですけれども、TMO の理事の皆さんはフィルムコミッションについて分からない方が多く、項目には挙がってたけども、全然実働はしていなかった。そこで、一応委員に入っていた私は、これを利用すべきだと思って、企画書を持ってって、こうあるじゃないですか、項目あるんだからやりましょうよって、私たちやりますよ、ということで持ち込みをして､「とちぎフィルム応援団」という協働団体を立ち上げました。今これホームページもありますんで、あとで興味のある方は見ていただいて、エキストラにも登録をいただければありがたいと思います。

２）協働のまちづくりとフィルムコミッション

さて、これをなぜ協働団体にしたか。民間だけだと、事務所もないし、ロケ行きたいって制作会社が言ったきたときに電話もないんです｡民間個人の電話になっちゃう。だから､行政の商工観光課にお願いをして、窓口をお願いしますと。ロケ弁とか、アテンドの実働は我々やりますからと。あと、商工会議所さんも、当然入ってもらえますよね。例えば倉庫借りたいっていうとき、会員さんの紹介お願いしますよ。さらに、観光協会も当然入りますよね、いろんな観光スポット知ってるわけだから、ロケでこういうところが欲しいっていうときにご紹介いただけますかっていうことで、この市・商工会議所・観光協会と民間（とちぎえ～ぞ～支援隊）の 4 つでもって、協働組織である「とちぎフィルム応援団」を立ち上げて、今、ここが役割分担をしながら、窓口はフィルム応援団としてホームページとメルマガの発信、エキストラの募集、ロケ支援を行なってます。

フィルムコミッションについてもうちょっと触れると、目的はコミュニティビジネス｡ロケ隊が来ると宿泊をします｡ロケ弁、100 個 200 個、食べます。もちろんそのロケ弁、地元の業者を使います、直接的な経

済効果があります。それと、それでロケ地の知名度が上がることによって、あそこのロケ地行ってみたいなって、お客さんが来る。観光に来て、「あの何とかって映画撮ったのが近くなんですって？そこ行かせてください。」

で、間接的な消費がまた増える。それと、2 番目は文化継承。これは地元の人でも意外と地元のことって知らないんですよね。近くに蔵があっても、テレビで見て、

「わぁ、すごい蔵だ、どこだこれは？」

って言うんですね。

「いや、おばちゃん、隣だよ」

と。そういうことを繰り返し繰り返しやっていくことで、

「なんだかおらの街はえらい綺麗な街だったんだな」

っていうふうに、どんどん地元の資産価値を上げてくんです。

それで、隠れていた、そういう文化の資産を映像に残すことで、発見することもできる。さらに実際その映像に関わってないと気付かないことが我々にもありました。例えば両側が田んぼで真ん中一本道の砂利道。中学生が毎日チャリでもう大変だ、早く舗装してくれ、もう田んぼで蚊が出ていやだと言っています。しかし、稲穂がサアッて立って、砂利道真っすぐ通ったのが映像に残ると、ものすごい綺麗なんですよ。それを見ると、これは残さなきゃ、素晴らしい景色だっていうふうに今まで気づかなかった価値を再発見するんですね。そういうのが、文化の継承。

そして、最後は活力創造。やっぱりミーハー心を失うと、歳をとるんです。

「アイドル来たよ、可愛いなぁ、おらっち、女優さんの隣でエキストラ出ちゃったんだ～」ってなると、元気になるんですね。それば かりではないですが、おじいちゃんも、おばあちゃんも、エキストラとして参加してます。若い子も栃木つまんない、早く東京行きたいなんて言ってた子が、一度経験したら、次はいつ？って言うんです。地元のことを好きになってもらって、住民の活力をアップする、そういう効果があるのです。

そんな活動の積み重ねで、着実にロケが増えました。特番も組まれるようになりました。特番っていうのは、1 つ例を挙げると、「アド街ック天国」っていう番組で、栃木市の特集やってくれたんですね。それでもう、その番組をやった週末の観光客の数、半端じゃなかったです。いつもパラパラとしか歩いてない大通りがもう人の波でいっぱいで、TV に出たお店はもう行列です。大変な効果です。それでも、年間で均すとだいぶ少なくなりますけど、それでもその年は 1.6 倍ぐらいの観光客増になりましたね。

で、やっぱりやってる我々も、どんどん発見するんですよ。いろんなところでロケをやったり、あっ、こんなとこ綺麗だな、これはすごいよっていう感じで。サッシのない建物がそれだけで重要なんだって。サッシのない建物なんてそんなキーワード、全然今までの人生になかったけど、いろんな建物見たときに、この建物サッシがない、昭和 30 年代の時代考証のロケに使える、そういうふうに普通の古民家の価値に気付くようになる。そういう風に我々自身が、この街はいい街だってなってくると、せっかくだからその撮った映画、地元でも上映したいし、もっともっと価値を発掘して、もっともっと発信したいねって、また欲が出てくるんです。ところが、栃木市には映画館がないんですよ。昔は有ったんですけ

ど。私高校のころはあったんです。

それで、「やっちゃうか」っていう話になったんですね。もう新しいイベントを、まったく今までにないイベントを作っちゃおうってことで、仲間と考えました。たくさんの栃木市内の蔵には、使ってない蔵がいっぱいあるんです。倉庫になっちゃって、埃かぶっちゃって、メンテナンスも大変だし、そういうのも含めて。でも、実際映画にも使われてるような有名な蔵、そういうものを再認識してもらうために、その蔵自体が映像内に映ってる映画を、その蔵で上映しちゃおうと考えました。そうすれば感動も倍増かと思って。

それで、蔵っていうのは点在してますから、その点在してる間を歩くのも含めて、街歩き型、街並み全部楽しんでもらいながら、栃木市を楽しんでもらおうっていう「栃木・蔵の街かど映画祭」というイベントをやることにしました。これ本当に大変なイベントです。私は、最初は関わってなかったんです。正直最初は、あぁ、これ絶対失敗するなぁと思ってたんです。蔵を借りるだけでも、何に使うの、映画、いやだ、うち掃除してくれるのかな、壊さないんだろうなって、持ち主に言われる。その内容でペイできんのか、案内どうするんだ、そんな点在させてって。撤収は、機材はどうするって。問題が山ほどあるんですよ、クリアすべき課題が。

３）蔵の街と映画祭

だけれども、話が盛り上がっちゃったんですね。さっきも言ったように、また飲み会とかそういう仲間の席で。でも盛り上がったはいいけど、そのトータルでコーディネート、誰がするんだと。そこは事務局長になる人は大変だよって言ってたら、声がかかっちゃって、やるしかなくなっちゃいました。やるからには失敗できないんで、いろんなシミュレーションをしながらやったんですけれども。

まず、蔵をミニシアターにする。これ大前提。それで蔵シアターとなる会場を点在させますね。おっきいのも、ちっちゃいのもたくさんあります。20 人ぐらいのちっちゃい蔵もあるし、栃木高校の講堂なんかは 300 人入れる。じゃあコンテンツどうやって選ぼうか、やっぱり地元で撮ったやつとか、あるいは次世代に伝えたい名作とか、これらは逆に普通のシネコンじゃやってないんです。最新ロードショーは、どんどんどんどん入れ替わってやりますけど、昔の名作っていうのは、もうそういうシネコンじゃ見られないですよね。そういうのこそ近所から歩いて来る人のために出そう。シネコンで最新作をやる映画祭じゃ無いんだから。そういうことを考えてやろうと考えました。そして、シアターとして点在する蔵と蔵の間を歩いてる間も楽しめるように、飲食ブースをやったり、着物歩きをやったり、乗馬やったり、いろんなパフォーマンス、バンドライブ、そういうイベントを街なかで催して、もう街じゅうがイベント会場になるようなイベントを作ろうということでやりました。

乗馬とかもほんとに最初は実行委員会のメンバーが思いつきで言うんですよ。乗馬、えっ、道路走れるのって質問が当然でますが、調べたら軽車両扱いになるから可能です、とか、実行委員会も本気なんだか冗談なんだか分からないような感じでしたが、しっかりやりました。でも、じゃあ乗って歩いていいんだ、ヘルメットは要るんかなとか、いろんなのが出てくるんですけど、まあ最終的に途中で転んだら大変だから、一応パカパカ引くは引くんですけど、乗る

のは小学校の校庭だけをぐるっと回って乗せましょうっていう、ただそれだけにしたんですが。でもね、蔵があって、賑やかさがあって、着物で歩いてる人たちがたくさんいて、その脇を馬が歩いてるっていうのは、これはものすごく蔵の街に似合うんです。その景色に触れているだけでも、すごく面白いんです。ついでに言えば、その馬は誰が引くんだっていうときに、学生にいるんじゃないか､乗馬部がって意見が出て、宇大の乗馬部さんにお願いしました。そういう冗談みたいな案から、実現のための手法を探って、さらに人材を求めて、っていう流れが、このイベントの推進力となり、関わる人の多様性となり、まさに協働による力が集結していったんです。

４．フィルムコミッション報告書から

１）準備作業について

それではここからはパワーポイントで報告書を使って、説明させていただきます。手元にも今年の資料があるかと思うんですけども、こういう形でシアター蔵が点在をしてるんですね。2 回目の時で言えば 18 箇所ぐらいの蔵を点在させて、マップを作って、ご案内をさせていただいて、上映スケジュール、つまりどこどこの蔵は何時から何の映画をやりますよっていうタイムスケジュールを配布をして、1 日券を買っていただければ、その 1 日はあらゆる蔵の映画を見放題。だから、あそこの蔵行って、今度何時にあそこの見てって歩けば、最大 4 本ぐらいは見れる。まぁそんなお得な料金体系にしてます。ちなみに 1,000 円なので、だいぶお得だと思うんですけどもね。で、チケット、前売りをこういうペーパーで作りました。

ちょっと気が利いてるのは、この木札なんですね。紙のチケットを見せるよりは、江戸情緒じゃないけれども、着物とか蔵の街に、この木札を胸から提げたほうが似合うんじゃないかっていうことで。さらにこれを、実行委員会に入ってもらっている障がい者の授産施設の子どもたちに作ってもらったんです。私も一緒に削ったり、この焼印を押したりやったんですけども、結構難しいんですが、その子たち上手に作るんです。ゆっくりなんですけども上手にしっかり作ってくれるんです。で、そういうのも地元と一緒に絡みながらイベントは作られていったんです。

また、蔵と蔵の間はちょっと距離があったりもするんで、これは市のほうにお願いして、これも協働態勢整えてるからできることなんですけども、市のバスを無料で貸していただいて、何時発で次の蔵に行きますっていうようなことで、シャトルバスを用意させていただいた。さらにただ映画をやるだけではつまらないので、メインの栃木高校の講堂なんかでは、映画監督のトークショーとか、映画主題歌のライブとか、そういうものも織り交ぜさせていただいて、例えば小栗監督とか、あとは小栗旬くんが主演の『キサラギ』の佐藤監督とか､あと、『DIVE!!』の林遣都くんとか、今はたぶん売れてしまったんで呼べないと思うような方にも来ていただきました。映画の前にトークショーやったり､映画を観てもらって、その内容について監督にしゃべってもらったり、裏話を話してもらったり。イベントとしては本当に充実したものになりました。

逆に苦労すると予想した蔵の借り上げに関して言えば、やっぱり最初はすごい渋られたんですね。でもちゃんと話してやってみると、意外に乗ってくれて、

「1 回目あの映画良かったけど、次は俺の

希望も言っていいんかい？」
「来年は何の映画上映したいんだけど」
とか、どんどん所有者も関わろうとしてくれました。

また、ご存知の方もいらっしゃると思うんですけど、巴波川では舟運やってるんですね。船頭さんが巴波川を一往復漕いでくれる。それも同時に開催をしていただく。そうやってコラボできるものは、どんどんコラボしていただきました。これは頼むだけで、うちが運営するわけじゃないですから、一緒にやりましょうよってお願いして受けて頂ければ、うちの実行委員会の労力はまったく使わずにイベントの相乗効果が増えます。

ただ、言うのは簡単ですが、そんなに都合よく普通は受けてくれません。しかし、先に話したように、これまでの協働実績、信頼関係でもって、どうせなら一緒にやりません？たぶん、そっちもたくさんお客さん乗りますし、メリットも有りますよ、楽しみましょうっていうことで、どんどんどんどんお願いをしていきました。

２）様々なコラボレーション

次の資料、いろんな蔵、こちらは市役所の別館なんですけども、元の県庁ですね。堀があります、回りに堀がありますけれども、これも実際映画のロケ、ドラマのロケにも何回も使われてる有名な建物なんですけども、そこも開放して映画の上映をしましたが､ただそれだけじゃつまらないんで、ここに車が停まっているのが分かると思いますが、これは日産に、背景がいい場所を提供しますので、車の PR に使ってくださいっていうこと協賛をお願いしました。そうやって企業メーカーさんにも関わっていただいたりしました。

次に街なかは、こういう上映をしてる蔵の脇で、これはチンドン屋さんなんですけども、これ学生なんですよ。学生で、そういう伝統芸能の研究会みたいなサークルの人に、チンドン屋さんやっていただいたりさせていただいて。で、こちらは「Always カマヤ」って今、レストランになってますけれども、元々教育委員会の建物で、「Always 三丁目の夕日」という映画、ありますね、あれの撮影現場になりました。ここで栃木 SC さんのゴールシーン、1 年間のゴールシーンのムービーを流して、選手のトークショーとか、クイズショーなんかをやりました。こういうのも、チームがタダで来てくれました。栃木 SC さんに話をして、声かけをしたら、宣伝になるからと言ってくれたんです。こうしてお互いの利益が合えば、ウィンウィンになれば、こういうこともどんどんできるんです。

ほかにも、活弁とか、それから大使館とコラボレーションして各国の PR をしたりしました。例えばこちらはチェコ。チェコアニメっていうのは有名なんですね。チェコアニメの上映とチェコの絵本の販売なんかを行なった。こちらは神明宮。雛人形の展示がされています。元々人形祭りというイベントがあり、これも同じ日に開催をしていただきました。お互いたくさんの人に見てもらいたい思いで快く受けていただきました。

そしてこれは着物歩きの写真。着物のメーカーさんと協働して、格安の実費 1,000 円のみで着付け込みでやっていただきました。洋服で来て、着物に着替えて、街なかを歩いていただく。その人はお客さんなんだけども、蔵の街を着物で歩くってこと自体が、蔵の街の情緒を宣伝する PR にもなってくれるわけなんですね。そういう意味で、着物になってくれた方は、コーヒーサ

ービスとか、そういうのも混ぜ合わせながらやらせていただきました。

他にも、お茶漬けメーカーさんが飲食ブースに協力してくれたり、ライブイベントとか、地元の野菜の直売とか、あとは美大生に蔵を使ったアート作品を作っていただくとか、いろんなコラボレーションをしました。

一番大変だったのは、やっぱり資金集めですね。スポンサーさんにメリットを感じていただけるようなメニューをいかに用意してやるかってことで、映画なので、よくご存知のように、映画の上映前に CM が流れるじゃないですか、あれを 30 秒で 30 万とか、そういう形でスポンサーになっていただきました。で、じゃあムービーをどうするのかっていうのも、結局外注する予算がなくて、自分で作りました。そのときは若くて力があったんで寝ないで作りました。いろんなメーカーのムービーを素人が作って良かったのかななんて思いながら。でもちゃんと CM が完成したら、これでよろしいですかって確認したうえで、では 30 秒、1 日 4 回上映で 4 回、2 分流れます、街なかの展示ブースで何回流れますっていうことで、営業して、予算を集めました。もちろん事業後も、しっかり報告書を持っていって、これだけの効果がありました、これだけチケット売れましたっていうことで、きちんとお礼と報告を致しました。それがまた次年度に繋がることになります。

開催中は、映画祭のフラッグ 120 個が大通りの街灯に飾られました。それも商連さんとのコラボで実現しました。またホームページなんですけども、これもデジタルハリウッドっていうデジタルメディアを扱う学校の学生さんに授業の一環としてホームページを作っていただきました。だから、フルオーダーとかすると、それこそ 100 万とかかかっちゃうのを、授業の一環ってことで 1 年間で 10 万でやっていただきました。

あとはさっきの『キサラギ』のディレクターさんにお願いをして、『キサラギ』のブログが元々あるんですが、それも映画祭とコラボ企画ってことで、元々のブログに映画祭のマークを入れていただいて、お互いの掲示板に相互乗り入れをして、『キサラギ』のファンとか小栗旬さんのファンの方にも映画祭に興味を持っていただいたり、逆に映画祭を観に来た人に『キサラギ』の DVD を買ってもらったりと、相乗効果を狙って、こういう企画もやらせていただきました。

これはアンケートの集計です。来場者の声を聴く、こういうのは大事なんですよね。イベント終わったあとに、実際の正確なデータを取って、また次に生かしていくとか、あるいは、そのスポンサーにしっかり報告するとかっていうのは、大切なんですよね。

次のこれは学生さんの活躍の場面です。いろんな学校が宇都宮にも、例えばアート＆スポーツっていう専門学校、俳優とか声優を目指している子どもたちが学ぶ学校がありまして、そこにも声をかけさせていただいて、そうするとやっぱり彼、彼女らはそういう出番がいくらでも欲しいわけです。司会をやるにしても、演技をやるにしても。で、自分たちが演技をした映像を流してくれる場所も欲しい。だから、その子たちとも連携を図ったところ、40 人ぐらい来てくれました。かの学生たちは本当に力になってくれました。設営準備が速い、椅子並べでも何でも。そして多才。その子たちは、栃木放送でラジオの番組も持ってるんですね、そのなかで映画祭のコーナーをやって

いただいたりとか、あとは、自分たちの学校のブログに 3 分ミニシアターみたいな、そういう企画をやっていただいたりとか、そんなこともやってくれました。

この映画祭の特徴は、映画も観ながら、普段は入れない蔵の中に入れるっていうことです。だから映画のファンじゃない人もずいぶん訪れました。映画が流れてない休憩時間に入って蔵の写真だけ撮って帰るおじさんとか、ずいぶんいらっしゃって、あぁ、やっぱり蔵の中すごいもんだねって、天井の梁を見て感動してくれました。映画祭としてそれはどうなのかという話もありますが、もともと地域活性化や地域の資産価値向上のためのイベントでもあるわけで、そういうことで蔵の価値がすごく上がったのは間違いないし、そういう関わり方もいいのだと思っています。

先ほどの Always カマヤさんもそうですけども、いろいろな未使用だった蔵とかが開放されてレストランになったり、学生に貸し出されたりとか、そういうことが起きるようになったのですから。さっきの蔵のマークも東武鉄道とのコラボだったんですけども、今でも東武鉄道さんは蔵のメニューで観光を企画していただいてます。

そうやって、地元のファンが拡大し、今後のロケとかエキストラ、さっきのフィルムコミッションの活動にもフィードバックができて、フィルムコミッション、映画祭、またフィルムコミッション、映画祭っていう、そういういい循環もできたんだと思います。

協働、それはいろんなネットワークづくりなんですけども、この映画祭によって、今までの協働とまた桁違いな広い範囲でのネットワークができました。スポンサーになってくれた企業さん、技術を持っている学生さんたち、アイデア持ってる学生さんたち。そういうパワーも全部いただけた。今でこそ産学官連携なんて当たり前のように言われていますけれども、そういう小さいシアター蔵の１つの中でも、いろんな連携が生まれているんですね。そういう人たちが、栃木市のなかだけじゃなくて、市外から、いろんなパワーとアイデアが栃木市に流入してきた。これも、映画祭がもたらした大きな意義だったと思います。色々な団体が参加をして、今までにない大きなネットワークとイベントを体験して、また自分たちの普段の活動に戻るときには、関わった分だけ自分たちもものすごいパワーアップをしているんです。そういう団体が増えていくきっかけとして、またさっきの協働まつりから、さらにステップアップしたこの映画祭が果たした役割っていうのは、ものすごく大きかったんだと思います。

５．進化するネットワークからまちおこしへ

１）イベントを通じた「ソーシャルキャピタル」の形成へ

よく、「イベントは本当にまちおこしになるのか」っていう議論があります。その場で終わりで続かないんだから、経済効果だってその日１日だろうって、そういう意見もあります。でも、そうじゃないんですね。その直接的な効果ももちろんありますよ。やっぱりイベントそのものが持つ効果、活力アップあります。でも、先ほど言ったように、人づくりとネットワークづくりっていうのが、副次的なものではあるんですけれども、実はそっちの効果のほうがはるかに大きくて、パワーの相互交流をして、アイデアの相互交換をして、それをまた自分たち本来の活動に生かしていく。

みんな最初は自分たちだけでこじんまり

と、自分たちのやりたいことだけをやってた。しかしどんどん他団体と繋がって大きくなる。繋がったら、また別の隣にいた小さな団体も入ってきて、また大きく膨れる。イベントやって、ネットワークが進化していって、その繰り返しが町全体の大きなパワーになる組織づくりなんだと。だから、イベントそのものも、もちろん成功なんだけれども、それが後になってもたらすものっていうのは、私はとっても大切だと思うんです。だから、イベントはまちづくりになると思うんですよね。

結局、協働っていうのは、「まちづくり市民集団化」なんです。あんまり聞き慣れない言葉かもしれないですけど。A さんが B さんに有用で公益的な奉仕をしますと、B さん喜びます。B さん喜んだら、奉仕した本人の A さんも嬉しい。これ、よくありますよね。喜んでもらったから、がんばって疲れたけど嬉しい。役に立つ経験っていうのは、人間のものすごい快感になるんですね。ベータエンドルフィン、脳内麻薬がドバっと出るんです。麻薬だから中毒性があるんです。でも長期的にそればかりになると、B さんが甘えて依存しちゃうんで、あんまり長くやるのは良くないんですけど、そしたら B さんにも、一緒にやんない？って提案してみる。

あるいは、こういうことおもしろいよ、やってみたらって誘う。例えば、映画祭の受付やってると、

「このイベントすごく良かったです、ありがとうございました。また、来年も来ますよ」って言うお客さん、若い人何人もいるんですよ。そのとき、

「じゃあ、来年はお客さんじゃなくて、当日のボランティアだけでも一緒にやろうよ」って勧誘する。すると

「えっ、いいんですか？」

って仲間になる。これでもう１つ人づくり達成ですね。さらに当日ボランティアだけだったその人に、

「じゃあ来年は、いよいよ実行委員会だなあ」

って、入れちゃう。その繰り返しなんですね。それを続けると、市民全部がまちづくり市民になっちゃうんです。市民総まちづくり集団。今、「ソーシャルキャピタル」、「社会関係資本」なんていう言葉が、すごく重要視されてきていますけども、いわゆる、道路とか水道とか、そういうインフラだけじゃなくて、そういう人間の公益的な活動をする人間こそが地域にとってものすごく重要な資本であって、それはお互いに、あなたと私、あなたの団体と私の団体と関係をしてるから、どんどん意義が上がっていくし、力も増えてく。

そういう社会関係資本、ソーシャルキャピタルが、これからのまちづくりには絶対必要なんだと。だって行政にお金ないんですから。だから、資金じゃなく人材、これを充実させていけるか、いけないかで、町の未来は変わっていくんです。だから、協働は大切だし、ネットワークづくりも大切。

２）「よそ者･若者･ばか者」によるまちづくり

よく言われますね、まちおこしの条件、『よそ者･若者･ばか者』。私、壬生の人間だったんで、全部当てはまりました。地元だとやっぱりしがらみがあるのに、例えばスポンサー頼みに行くときなんかも、私はどんどん空気読まずアプローチしましたから、

「〇〇さんとこ、お前いきなり行っちゃったの？流石だよなあ」

ってよく言われました。その流石って言葉は、ばかにしてる流石なんですよね。「流石だよなあ、よく行ったもんだなぁ」って意味。でも、結果成功したからいいんだと思

うんです。ばか者でいいんです。これは、新しい要素の注入なんです。よそ者とか若者、ばか者っていうのは。新しい要素、アイデアだったり人だったり。こう着状態を破り、代謝を進めるんですね。

それと今、行政でも言われるように、真の住民自治を求める志を持ちましょうと。自分たちの町を作るのに、他人任せで文句ばっかり言ってないで、協働、共に働いて、自分たちで作りましょうよと。そして、限界を作らない。1 人でできなければ頼ればいいんです、仲間に。頼られたほうは嬉しいんですから。これが協働なんです。

ちょっと高い、ちょっと無理めだなって思うくらいのハードルがいいんですよね。なんでかって言うと、簡単だと 1 人でやっちゃうから全然協働しない。無理かなって、1 人じゃ無理だよな、頼もうかなって、最初頼むときだけ大変だけど、あとは楽しいと思えば頼んでみようって。みんなやっぱり、地域を愛してる、住んでる町が好き、守っていきたいって思っているんです。そうじゃなくても、いいとこなかったら自分たちで作っちゃいましょうよって。それくらいの気持ちを持って行ければいいなと思います。

3）人が集まるキラキラの法則

これで、スライドは終わるわけだったんですけど、やっぱり、不思議な縁でもう一つ追加しました。僕は、がんばってると何かいいことが転がってくるとか、がんばり続けてると、再会できるとか、そういう考えをいつも持っているんですが、今日もこの講演をするのに、昨日スライドを作り終えて、寝る前に Facebook をチェックしたら、私の青年会議所時代の友人が、いい言葉を書き込んでいました。まるで、私が今日ここに来るのを知ってたかのように。その人が書いたのは、

『人が集まる法則。人を集める人と、人が集まる人の違いは、ギラギラとキラキラの違い』という文章。どういうことでしょう？ギラギラ人を集める人は、集まった人もギラギラしてる。キラキラしてる人は、その人がキラキラしてるから人が集まっちゃうんですね。強引に集めるんじゃなくて、自然と集まっちゃう。そうすると、集まってきた人もキラキラしている。文字の表記の通り、心の濁り、濁点がないのが大切って話なんですね。だからキラキラしましょうよって。

ギラギラ、ああだこうだ言って、威張って、これが正しいんだよ、これやれって、そういうんじゃない。一緒にやろうよ、楽しいでしょ、これから俺たちの町こんなにすごくなるんだっていうふうに、キラキラ輝いている人は、やっぱり人が集まるんですね。

これは余計な話なんですけど、私が栃木青年会議所理事長のときのスローガンが、『ときめきリーダーになろう』っていうスローガンだったんですけど、私どっかの研修で、リーダーはときめいてないと絶対だめだというふうに教わったんです。この人みたいになりたいなとか、この人と一緒にやると何かおもしろいことになりそうだなって思わせなきゃリーダーなんていえないだろうって、そのときに研修で教わったんです。そんな教えを受けて、自分も理事長の時そうやって自らトキメキながら頑張って、そして今日のためのこのスライドを作り終えたときに、この友人の Facebook の書き込みがあるなんて、ちょっと小さな奇跡を感じましたので、今日はこの言葉を皆さんに最後にお伝えをしました。皆さんもまちづくりに関わって、もちろんここに来

ている方々は、もうすでにキラキラしている人ばっかりだと思うんですけども、何かをやるに付けても、ふと考えて、あれ？今、俺やばい、ギラギラになってるかな？とか、キラキラのままでいられたかな？とか考えていただいて、濁りのないようにまちづくりに取り組んでいただきたいなというふうに思います。ちょうど1時間ということで、私の話はここで終了させていただきます。ありがとうございました。

司会者

どうも、田村さん、ありがとうございました。皆さん、ギラギラじゃなく、キラキラしながら討論を進めていきたいと思います。どなたからでも結構ですから、ご質問あればということで。どうですか？A さんから、ご紹介いただいたんですけど。

A 氏

ありがとうございます。この映画祭とどっちが先かわかんないんですけど、『キラフェス』ってイベントありますよね。

田村講師

ええ、キラフェスも一緒にやったときもあります。時期的にキラフェスのほうが真冬なんで、ちょっと遅いんですけども、映画祭を 10 月にやってたころに、1ヵ月点灯を早めていただいて、映画祭の開催中に点灯もできるようにやっていただいたこともあります。イベント自体は、たぶん同じくらいに始まったと思いますね。

A 氏

キラフェスに行ったときに、確か映画祭と一緒だった記憶があって、ボランティアの人間の数がすごかったのを覚えてるんですけど。

田村講師

キラフェスと映画祭とオクトーバーフェストが一緒に共催をしました。

A 氏

なんか、そこら中でいろんなことをやってた記憶があったんですけどね。

田村講師

あれは、同時にやれば集客効果も高いし、栃木のイベントはすごいってことになると思って 1 回やってみたんですが、確かに人は集まったんですが、その結果、駐車場があまりにも足りないということが判明して、結局 1 回きりになっちゃったんですけど、確かに共催しました。小さいイベントと共催するのはいいんですけど、オクトーバーフェストも映画祭も両方大きなイベントなんで、やっぱり駐車場がちょっと足らなくなりましたね。

A 氏

それで、ちょっと聞きたかったんですが、とかく足利なんかだと、いろんな団体に行って、同じ顔ぶれがあっちゃこっちゃでなるんですけど、そういうときって大丈夫なんですか？

田村講師

それは映画祭をやるときに、いちばん最初に考えたんですけど、私も JC に所属していたので、どうしても JC 関係の組織を使いたくなるし、そうすると、おっしゃるように同じ顔ぶれだから、一緒にイベントやっちゃうと人が足りなくなっちゃうことがあったんで、映画祭は JC ノータッチで立ち上げました。

オクトーバーフェスト、キラフェスは JC が関わってるんで、JC は当然そっちに人を取られちゃうだろうから、映画祭は映画祭で独自でスタッフを集めるしかないなと思って、何人かの有志、JC のメンバーも少しはいましたけども、組織としてはほとんど JC は関わらず、他のいろんな NPO さ

んとか、学生さんとか、あとは個人の友人を頼って、その友人がまた仲間を誘ってとか、そういうことで人を集めさせていただきました。

最終的には JC も手伝うよって言ってくれましたが、企画運営の段階では、全然 JC なしで、それはおっしゃるようなことを懸念したので、なるべく他のイベントと重ならないようなメンバーでやりましたね。

A 氏

ありがとうございます。1 日楽しく遊んでたときに、かみさんと一緒に行ったのに、そんなことをブツブツ言ってたら、かみさんに怒られましたけども、謎が解けてよかったです。ありがとうございます。

B 氏

野暮なことを敢えて聞くんですけど、栃木市は、人口は多少なりとも増えているんです
か？

田村講師

減ってますね。でも今、自治体で人口増えてるところは、ほとんどないですね。それは全国的なことで、しょうがないんかなとも思いますけどね。

B 氏

だから逆なのかな。もし、そういうイベントでもやってなけりゃ、もっとひどく落ち込むのかもしれないですね。

田村講師

そう考えたいですけどね。数字取ってるわけじゃないですから、はっきりとはわからないですし、合併があったんで余計に人口推移はわかりにくいと思いますけど、特に若い人が流出をする、つまり栃木市はつまんない町だから出ていくっていうのを食い止めてる気はしますよね。

あと逆に、出ていったけど帰ってきて、実行委員会に入ったメンバーが何人かいるんですけど、東京で楽しかったのに地元へ帰ってきて、もうここからつまんない人生だっと思ってたけど、帰ってきたらすごいやる気がある、それこそキラキラな人がたくさんいて、こんなこと、おもしろいことやってるって、栃木面白いってすぐ飛び込んできて、そんな方もいらっしゃいましたね。

司会者

基本的に、やっぱり地元の若い人が楽しんでよかったと思える状態を作るっていうことがいちばん大事なんですね。

田村講師

そうですね。でも若い人だけでも、やっぱりだめなんですよね。映画祭も、それこそ仕事も定年で終わって、まちづくり活動をやってる団体さん、ほとんど 60 歳以上の団体さんとかも参加していただいて、そういう団体さんは白黒の名作映画をやるんだって決めて、そういうのばっかりやるんです。そうすると、その蔵にはやっぱり、もちろんその世代のお客さんが来て、

「私は車乗れないからもう一生映画なんて見れないと思ってたけども、主人亡くなっちゃったけど、昔主人と見た映画がこれだったんだ、また来年も来るよ」

って言ってくれる、そういう方もいらっしゃるし、逆にそういう古い映画に 1 回も触れたことのない、すごい若い 20 代の方が見てくれたりとかっていうこともありますね。」

司会者

すごいパワーですね。

田村講師

そうですね。たくさん人もその分集まりましたけどね。ボランティアも当日は 200 人くらいいましたね。あまりにも増えすぎ

て、ボランティアを管轄する部署を１つ作りました。最初はスタッフが増えればそれだけ楽になると思っていたけど、多いと多いなりに采配する役が必要になったりと、まあ、嬉しい悲鳴ですけどね。

C 氏

こういうイベントを開いては伝えて、ネットワークがどんどん進化してったり、地域資源が発見できたと思うんですけど、これから、こういうネットワークとか資源を利用して、どんなことをやっていきたいとか、どんなことをやろうとかいう計画はありますか？

田村講師

そうですね。1 つは、栃木市では、私これだけやっちゃったんで、地元の壬生でも何かやりたいなっていうふうに思ってて。壬生は青年会議所自体はないんですね。壬生青年会議所っていうのはないんです。これは、市民活動においてはものすごい差があって、そういう団体さんが既にいくつもある栃木市と、そういうのがない壬生とでは、全然スタートが違う。でも栃木市でも、こうやって 10 年くらいかかってここまで来たけれども、今、私、議員になって 2 年だけども、壬生にもやっぱりキラキラした熱い若者が意外といることを発見して、ついこの間、その団体の 50 人くらいの決起会みたいな集まりをやったんです。そこは本当に協働でいろんな人が入っているんですけど、私みたいな議員、まあ私は一ボランティアの立場で入ってますけど、職員もいるし、他の議員もいるし、企業の経営者もいるし、普通の主婦もいるっていう感じで。それが今度繋がっていくんで、それでまた壬生で何かやりたいなっていうのがまずあります。

栃木においてはここまで来たんで、やっぱりオール栃木ロケの映画を作りたいっていうのがあります。いろんな人が来てくれて撮影も増えるようになったし、それを上映する手立ても、お客さんを呼べる手立てもして。オール栃木の映画で、それこそ栃木の我々のエキストラさんが 200 人も 300 人も画面に出るような、それこそ栃木市にとっては、永久保存版で、そこにエキストラで出た市民の方も全員が DVD ディスクを記念に買っちゃうぐらいの、それくらいのものをやりたいですね。」

C 氏

ありがとうございます。

D 氏

資料のなかに、「机上から実践へ」という部分が１つありましたけどね。机上の話はいろいろなところでずいぶんいろいろ議論というか、計画されてるけど、なかなか実践に移らないというのが実情じゃないかと思いますけど、活動を支えるというか、行政主導の活動とか、市民主体の活動とかいろいろありますけど、ここでは、STEP1 のとこですけど、机上から実践への前の STEP1 の協働体制の構築のなかに、市長が掲げる協働の形というのが入ってますけど、行政の本来の役割かもしれませんけど、これの役割っていうのは、かなり大きいのかなって気はするんですけどね、いかがでしょうかね？

田村講師

そうですね。書き方は柔らかく書いてますけど、要は、市長というトップが、協働という手法を無視できなくなったって、私は捉えたんですね。

「やってやったぞ」っていうような、「市長、協働はいいでしょう？」

っていう。これらの動きがもっと広まると、市は予算をほとんど使わなくても、

「我々が勝手にやるから、もっと相乗効果で良くなりますよ」
っていう提案をさせていただいた。その結果、行政として政策として取り組んでもらえたんじゃないかなって、とても都合のいいように思いましたね。

D 氏

そうすると、なくてもよかった、行政がなくてもできたということを、行政が認めたともいえる。

田村講師

そうですね、ええ。

D 氏

だから、乗ってくれた、だけの話だと。そんな感じですか？

田村講師

ただ、いろんな自治体、政治家も自治体職員もそうですけど、協働っていうのは、ここ 10 年くらいでキーワードになっていて、まちづくりの基本計画って、どこの市町にもある基本計画、5 ヵ年計画、10 ヵ年計画っていうのに、たぶん協働っていうキーワードがないところはないと思うんですよね。そのくらい協働っていうのは、今は耳に聞こえが良くて、市民受けが良くて、行政からすれば非常にお得感のある手法になっていて、そこにおいしく出来上がった実働としての協働を提供すれば、当然パクリと食いつくというような手法であったわけなんですね。そうすれば、あとはこっちのものじゃないですけど、職員さんも協力してくれるし。

D 氏

そこは、すごいなと思いますね。今までのような活動には、最後は行政に頼るという部分が強いんであってね。今日のお話は、行政に食いつかせてやったんで、なくてもできたんだと。すごいと思いますね。

田村講師

そうですね。元々いろんな活動をされている団体が、タッグを組んで繋がったからこそだと思うんですよね。ある程度のことをできる体力を皆さん持っていて、イベントをやった充実感とか楽しさっていうのを、みんなそれぞれに持っていて、そこだけでも充分それぞれの活動は可能だった。でも、行政が入れば、もっと良くなるっていうのはわかっていたので。その上、参加すると行政の職員さんも自分も楽しくなってきたんですよ。途中から。最初は市長から「協働やれ」って言われて、「お前担当な」ってトップオーダーで言われたから、しぶしぶ「すいません、担当の何々です」なんて言って、ブスッとして参加してきた人もいたんですけど、やってるうちに、だんだん楽しくなって、仲間になって、今日は職員さんも一緒に打ち上げまで行くんだって仲間になって、あとはどんどん協働のエネルギーが加速していきました。

B 氏

それでも、市長から言わなきゃ、なかなか動かないですよ（笑）。

田村講師

そうですね。でも、1 回関わった人で、その後ずっと来てくれている人達もいます。自分の担当課じゃなくても、「俺は個人でボランティアで行くからいいんだ」って言ってくれて。例えば、以前商工観光課だったから関わっていた人が移動で税務課になって担当から外れた後も、実行委員会に来て、そのあと打上げも参加して、当日も T シャツ着て参加してくれて、すごくいい関係を築けたと思っています。

E 氏

私、いちばんすごいなと思ったのは、お金の使い方ですよね。たとえでおっしゃっ

たんですけども、5 万円のポスターだと大したものはできないと、でも、10 の組織が、団体が加われば 50 万円になる。行政の発想でいけば、きっとみんなに 5 万円ずつ配るのが、たぶん行政の支援の仕方ですよね。どっかに 50 万円ポンと渡しちゃうと、結局、それは不公平だということになる。だけど、渡してしまった 5 万円を、今度はもう 1 回みんなでプールして上手く使おうと、で、その使うプロセスが、たぶんおっしゃったような協働なんですよね。そういうお金の使い方っていうのが、いちばんこれから少ないお金を効率的に使うやり方ですね。

田村講師

そうでしょうね。スケールメリットってことですよね。」

E 氏

しかし、そのなかで、ちゃんとみんな紐付きのお金を 1 回プールして、みんなで使う。そこに、いちばん大きなお金の使い方として効果があるのかなって感じますね。

田村講師

そうですね。実際、映画祭の場合は、協働まつりとかの場合は、市からもらった助成金の 5 万円を集めたわけじゃなくて、各団体それぞれの自己資金なりを持ち寄ってるんですけど、もちろん団体のなかでは助成金から出しているところもあるかもしれないですが。

E 氏

そうですね。回り回って、たぶんおそらくグルッと来てるんでしょうけど、ただその 5 万円じゃできないけど、50 万円ならできるっていう、たとえにせよ、そういうお金の使い方っていうのは、ものすごく大事なことなんだろうなと。

田村講師

そうですねえ。皆さん本当に、こういうビラにしても、最初に印刷物が上がってきたとき、ほぼ 100%テンションが上がるんですよ。実行委員会でこれを配るっていうその瞬間、すごくこう、「おお～すっげえ立派なのができた」って感動して。ポスター 10 枚ずつ配るから皆さん貼ってくださいねって広げた瞬間に、みんながぐいっと食い込むように眺めて嬉しくなる。

あと広報でいえば大手メディアですね。ケーブルテレビさんとか新聞もそうですけど、メディアにどんどん取材をさせて、広告費は広告で出すと有料だけども、メディアに取材を受ければ、それはただで告知できるんで、どんどんメディアを使って宣伝をして、メディアに注目されてることをスタッフにも認識をしてもらう。それでまた、モチベーションも上がっていくという。そういうことで、各団体とも今までうちの団体だけじゃこんなに取材受けなかったけど、一緒にやったらこんな凄いことになったというようなことを感じてもらって、楽しんでもらいながら進めていく。

司会者

F さん、お住まい栃木市じゃなかったっけ？市民としていかがですか。

F 氏

正直なところ、お恥ずかしい限りなんですけど、知りませんでした。本当に、お恥ずかしい限りで。

田村講師

はい、ありがとうございます。ここで知っていただいたことで、また 1 人ファンが増えました。

C 氏

はい、ありがとうございます。なんかいろいろやっているということなんですけども、今回で何回目？

田村講師

今回で5回目ですね。

C氏

5回目。蔵とか、昔の洋館とかいろいろ使ってると思うんですけど、毎年その数っていうのは、増えているんですか？

田村講師

実際は、ちょっとずつ減らしています。というのは、いちばん大きな理由は、やっぱりお金なんですね。この映画祭って企画は、ビジネスモデルとしては絶対に成り立たないんです。というのは、20人の蔵だと、そこに20人満員入っても、1,000円のチケットだから収入は2万円しか上がらないんですよ。だけど、映画の機材とか、映画そのもののコンテンツ料金というのは、絶対それでは収まらないんで、ビジネスモデルとしては絶対失敗するんですね。だから、小さい蔵が増えれば増える程、赤字になる。

大きい蔵だったらプラスになるけれども、かといって、1回やったことあるんですけど、文化会館も一応借りたことがあるんですよ、点在する蔵の1つとして。文化会館は、たくさん人が入るから、たとえば、100人入れば、必ずプラスになる。そういう計算をしたんだけども、映画祭の主旨として、やっぱりそぐわない、お客さんが喜ばないんですよ。そこで普通に、今やってるカラーの映像流しても、蔵の街の映画祭に来た気持ちにならない。意外とお客さんも入んないんですね。なんでかっていうと、蔵の街かど映画祭だから蔵で見るっていうので皆さん来てますから、文化会館行って見たくないって。どうせなら、蔵に入りたいっていう。

それで、1回きりで文化会館は止めて、赤字体質のまま続いています。でもこの映画祭は、金儲けが目的のイベントでは無いのです。市内にある蔵などの資産を知ってもらったり、文化に触れてもらうのが目的だから、あとは、助成金とかスポンサーからのお金で、なんとかペイしていこうということでやってるんですが、やっぱりそうそう順調では無かったですね。

最初、第1回目は、総予算規模は、だいたい800万円くらいかかったんです。そのうち500万が、国の地域活性なんとかっていう補助金もらったんです。それは1回限りだった。立ち上げの年だし補助金もあったので、バーンと大きくやっちゃったんですけど、翌年第2回目の時、手に入った助成金が、いきなり200万円に減って、これでは同じ規模じゃ到底無理だと。それで人数的なマンパワーも増えれば増える程かかるということで、一発限りならそれでいいけれども、このイベントの持続性・継続性を考えたときに、よく言うように、身の丈に合った、やれる範囲で、今でいうと10から15の蔵でやっていくのが、ギリギリなところかなっていうことで、助成金も今は100万くらいになってますし、今回なんかもそうですが、だいたいコストをどんどん削って、総予算規模を今は400万くらい、半分くらいになっていますね。

でも、予算は半分になっても上映する蔵は半分にはなってないっていうとこで努力をしてると思います。今までは全部、映画の機材とかも外注で、デジタルコンテンツ協会って、そういうのを専門で、コンテンツと上映機材をセットで貸してくれる業者に頼んだんですけど、それも止めて、今はコンテンツも違う業者から借り、機材は、たとえばこれだったらNECさんにお伺いして、無料で機材を貸してくださいっていう、そういう形のスポンサーを集めて、様々な形でコストをどんどん削って、なんとか

予算規模を小さくしても、それなりにやるって努力をしていますが、持続性を優先してやってるところで、ちょっとずつ蔵は減っていますね。」

C 氏

ありがとうございます。あともう 1 つ、よろしいでしょうか？あくまで個人的なことになってしまうんですけど、フィルムコミッション、FC ですね、いろいろ映画とかテレビドラマとかをロケーションで呼んでいるということなんですけど、今までで、だいたいどれくらいの数、ロケーションを？

田村講師

映画で、もうフィルムコミッションをやって、正式に立ち上がって 5 年くらいなんですけども、映画だと 10 本くらいですかね。ドラマは 2、30 本は来てると思います。あと CM ですね、CM もやっぱり 10 本くらい。ドラマがやっぱり多いですね。映画がやっぱり、そうそう誘致できなくて、誘致できてもワンシーンだけで、本当に 10 分とか、100 分のなかの 10 分程度、それでも御の字で、結構映ったほうかなっていう。本当、1 分くらいのもざらにあるんです。

映画は、よく連続のワンクールのドラマじゃなくて、特番、なんとかテレビ 40 周年記念特番とかっていうのは、結構多いんですよ。そういうのを含めると、どうかな、50 本くらい来てるんですかねぇ。この間も仲間由紀恵さんが来て撮りましたし、優香さん、綾瀬はるかさん、新垣結衣さんとか。男性も岡田将生君など、結構来てますよ、有名なところが。SMAP も来てますし、びっくりする程みんな綺麗ですよね、俳優さんたちは。生で見ると、顔がね、信じられないくらいちっちゃい（笑）。

C 氏

ありがとうございました。

司会者

まず、ミーハーっていうのも大事なことですね。

田村講師

大事ですねえ。ミーハーでないと、ボランティアは結構辛い。本当に 1 日付きっきりでアテンドやるのは。深夜のロケとかもあるので、そうすると眠いし寒いし、その間に炊き出しとかやって、でも、炊き出しのときに、アイドルが間近に来て会えるから、それで満足して。そういうのがなかったらやれないかもですね、やっぱりね。たまに女優さんから差し入れもらったりとか、お疲れ様ですとか声かけてもらったりすると、疲れが吹っ飛びますよ、本当に。

司会者

握手なんかしてもらったら、もう、

田村講師

そうなんでしょうけど、それは一応 FC のなかでは、タブーなんですよ。あくまでも、支える側のスタッフだから。やってる人もいますけど、でも、うちらは、一応、そこはプライド持って、撮影の邪魔はしないって、陰に陰に支えて、作品のときに見て、あっ、ここんとき、俺は隣にいたんだって、そして最後に自分たちの団体のテロップが字幕で出て、それでもう満足ということです。だから、それをフィードバックするために、エキストラで出た人も呼んで、上映会とかをやったりもしてるんですよね。酒飲みながらやると、すごい盛り上がるんですね。『今、俺映った―』とか言って。

司会者

キラキラですね。

田村講師

キラキラです。

司会者

やっぱり、私、発想がギラギラしてるみたいだなあと思って。さあ、どうでしょうか、時間も迫ってきましたけど。なかなかこんな楽しい話は聞く機会もないと思いますから。よろしいですか、質問、どなたか？

G 氏

どうもすいません。今、市会議員をやらせてもらっています。以前、青年会議所で私も理事やらしてもらって、県の JC でも、大変お世話になったんです。

やはり結果の出てる町のまちづくりっていうのは、すごいなあと、話を聞いて本当に感動いたしました。足利には、やはり欠けているところが多く、栃木市ではよくやられているという気がしました。足利市も、ここ近年はいろいろな、たとえば映画のロケがあったり、たとえば銘仙を着て歩いたりとかってイベントをやってるんですけども、何が足りないかって言ったら、先ほど田村さんがおっしゃたように、大勢の人が関わる継続性がない。一過性でないことが大切ですが、これがない。

市民と行政のもちろん協働もない。私、議員やらせてもらってますけども、役所の意味の協働と、我々市民の考えてる協働と、まったく格差が多くありまして、要は、行政の協働っていうのは、証拠づくりだけなんですね。本当に市民を巻き込んで一緒にやるっていう考えはまったくなくて、私も議員に当選させてもらって、最初の質問で、市民参加のまちづくりっていう質問をしましたけども、「検討します」って言うだけで、やる気はまったくないです。

なぜかって言うと、市民なんて入れたらとんでもないことになっちゃうということを行政は考えていて、あと議員がですね、同じ議員になりますけど、議員が自分たちのやることがなくなっちゃうだろうって、ばかなことを言う議員も、実は多く存在しております。

だから、正直、今日お話を聞いて、いちばん興味があったのは、STEP1 の協働体制の構築。ここで 8 回から 10 回ワークショップなりディスカッションなりをやって信頼関係を築いたって、このステップでですね、頭に残っている大変な部分っていうのが、もしあったらお聞かせいただきたいのと、あと、やはり市長が市民を巻き込むとか、協働であるとかっていうことに意識があった、これも 1 つの大きな要因なのかなって気がします。その辺は、どういった訴えかけをしたのかなって。さっきの質問とかぶりますけどね。

田村講師

実は、これは教えられないというか、あんまり参考になる答えにならないと思うんです。というのは、青年会議所が主催で、いろいろな団体を呼んで、ワークショップ、テーブルディスカッションをしました。そうすると、青年会議所メンバーが 60 人いて、他団体から来た人が 50 人いて、それぞれのテーブルに着くわけですけど、そのディスカッションをする母体となる青年会議所メンバー自身にも温度差があるんですよ。だから変な話ですが、良いメンバーに付いた団体さんもあれば、青年会議所メンバー自身が協働がわかってない、ハズレのテーブルに付いた団体さんもあるわけなんです。非常に有意義なディスカッションをして帰る団体さんと、そうじゃない団体さんがどうしても出ちゃって、そこがやっぱりいちばん苦労しました。

結論から言えば、私個人の裁量で進めたところもありました。ハズレのところに付いた団体さんに、あとから私が伺って、「何

かの折に会いましょう」ってことで、話をして、信頼関係を作って、
「ああ、なるほどね、田村さんそういうことだったの、やっとわかったよ。あのとき全然わかんねえって思ってたんだ」
って。それの繰り返しだったので、あんまり手法＝システムとしては参考にはならないと思うんですけど。

ただやっぱり、真摯に真面目に接してもなかなか伝わらなかったりして、5 分ですむ話が 1 時間とかなっちゃう。でも、がんばって 1 時間説明したら、5 分で終わったときよりも結んだ信頼関係は深いんだと、自分に言い聞かせながら頑張りました。でも、僕は結果、そういう個人で繋いだ団体さんが増えたので、映画祭を事務局長として一人でまわし出した時も、そうやって繋いだネットワークと信頼関係があるから、
「何々さん、実は今度こういうイベント考えてるんですが、どうでしょう？一緒にやりませんか？」
って言ったときに、
「ああ、田村さんがまとめてくれるんならいい」
よって、そういうふうに有難くみんな言ってくれてようになれたんだと思います。だから、結局は自分に、その分返ってきたから良かったと思います。やり方としては参考にならないですが、私みたいにそうやって馬鹿みたいにがんばるやつがいないと構築できないっていうところは、やっぱり多かれ少なかれあると思います。」

D 氏

本当は、リーダーも継続して、積極的に、みんなを引っ張っていく。

田村講師

そうですね。がんばる人が必要なんじゃないですかね。

D 氏

足利の例で言うと、昨日も実は、両毛バルーン・スカイフェスタってやつの打ち上げあったんですけど、これは足利ではよくあるパターンなんですけども、たとえばトップが市長とか会頭とかがなると、ガンと抱えちゃうわけですね。で、もう一切そういうことはやりませんとか、たとえば、さっきの前市長がやってた協働ってものを、今も現市長も継続して残してる。これは、足利市民からすると、すばらしいんです。すごいなと。

足利市っていうのは、トップが変わっちゃうと恨み辛みで、全部前市長さんのやってることを全否定しちゃうんで、なぜか商工会議所さんもですね、最近そういう傾向があって、イベントなんていうのは、まちづくり、町のためにならねえっていうようなことで、イベント全部排除しちゃってるわけですよ。で、そういうことが、イベントを継続させていくなかで、そういうことは栃木市さんはなかったのか、あったのかというのが質問です。

田村講師

ありますよ、もちろん。頭堅くてどうにもならないところとか、やっぱりありました。だからそういうとこには、初めからあんまり期待しないでやりました。だから、後援とか、名前だけ貸してくれとか、そういうことはお願いしますし、若い方で興味ありそうな人がいれば参加してくださいっていうようなレベルで、組織として予算出せとか、主体となって動いてくれっていうのは、もう到底無理ですから。でも逆にそういう団体さんだったら、下手にコアメンバーに入ってかき回されるよりも、その分、若い人たちが自由に動けるっていうメリットもあるんで、やれる、動ける人間だけで、

やっちゃってるから続いているのかなっていうのが、裏話的なところですね。

D 氏

最後に、実際、栃木にも、私仕事で結構行ったりしてるんですが、たとえば商工会議所にも所属してますし、聞くと、皆さん一体的に栃木を蔵の町とか、小江戸だとか、いろんなこういう映画館とかで、一緒になってこう、やっぱり盛り上げようっていう、関わってる人たちの共通的な認識っていうのがあるように思えるんですね。」

田村講師

そうですね。やっぱり青年会議所の存在は大きいと思いますね。私より上の先輩、ちょうど青木良一さんという方の世代がコアになって「メロー」っていうまちづくり株式会社を立ち上げて活躍されていまして、ちょうど我々は、その 10 年下くらいなんですが、お互いに情報交換したりしながら、認め合い支えあって、いい関係が築けるのも、もともと青年会議所の縁があるからかも知れません。お互いのイベントにも行ったり来たりはしてますし、風通しはいいですね。

D 氏

ありがとうございました。

司会者

楽しく過ごしてきましたけど、時間も過ぎましたので、本日これで終わりにしたいと思います。終わりに当たって、副会長、一言、締めのご挨拶を。

北川副会長

どうも、本日はお忙しいところをありがとうございました。非常に貴重なお話を伺いまして、今、議員さんからもお話があったように、足利市民として非常に心に響いたといいますか、ショックを受けたといいますか、まぁ、そうなのかと、しみじみと感じた次第です。どうも、ありがとうございました。

田村講師

ありがとうございました。

（一同拍手）

司会者

どうも、本当にありがとうございました。お忙しいところを、ありがとうございます。これで、本日の市民公開講座、終わりにしたいと思います。次回は、ちょっと飛びまして 7 月の 4 日になりますか。またひとつ、この次は太田市のほうから来ていただくことになってますので、ぜひ、また NPO ののいろんな活動というのを勉強したいと思います。本日はこれで終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

栃木市のまちづくり

協働の推進から
栃木・蔵の街かど映画祭まで

平成24.6.20

田村正敏

STEP1～協働体制の構築

- 青年会議所が中心となり、各市民団体に呼びかけ
  - 市民活動の活性化をテーマに
    もっと大きなことがもっと楽しく、
    沢山の仲間と共に、みんなでみんなの喜びを作る！
    それが協働、と夢を語り合うことから始めた。
    （テーブルディスカッション、ワークショップ等）
  - それまでバラバラだった組織をネットワーク化
    →具体的実践へ（とちぎ協働まつり＝後述）
- 市長が掲げる協働の形（トップが協働を語り出した）
  - 市民活動推進センター（くらら）
  - 市民協働まちづくりファンド

私の略歴

- （社）栃木青年会議所　理事長
- 栃木市市民協働まちづくりファンド助成事業準備委員会　委員
- とちぎえ～ぞ～支援隊　企画部長
- 栃木市市民活動推進センター（くらら）　設立準備委員会　委員
- 栃木市蔵のまちTMOフィルムコミッション事業支援部会　委員
- （社）日本青年会議所関東地区栃木ブロック協議会　会長
- 栃木県青年経営者団体協議会　副会長
- 栃木県ボランティア活動振興センター運営委員会　委員
- 栃木県地域教育活性化協議会　委員
- 株式会社とちぎテレビ放送番組審議会　委員
- 栃木・蔵の街かど映画祭1～3　事務局長
- 壬生町「みぶ“まちづくり”住民会議」副会長
- 壬生町PTA連絡協議会　会長（壬生小学校PTA会長）
- 栃木ウーヴァFC　戦略会議メンバー
- 壬生町議会議員（1期目）

机上から実践へ

- 「とちぎ協働まつり」の開催
  - 理念＝みんなでつくる明るい豊かなまち
  - 目的
    - 自分たちの住んでいる地域への参画意識の拡大を図る
    - 市民、NPO、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ、行政、企業の協働を目指し、お互いに理解・交流を深める
    - 協働社会の重要性を発信し、市民ﾈｯﾄﾜｰｸの構築と発展を図る
- 内容は、何でもアリ！
  - 全体テーマを決めるのみで、あとは自分たちの発信したいことを自由に組み合わせる

栃木市＝協働のまちづくり

- 最初のうちは・・・
  - そもそも「協働」の理念が分からない
  - 何の為に「協働」するのか見えない
  - 取り込まれたり命令されるのは嫌だ
    （市民団体は皆それぞれ誇りをもって頑張っている）
  - 面倒だ

↓

それが今や様々な事業が協働で開催されている！

とちぎ協働まつりの成果

- 相乗効果、スケールメリット
  - 体験したことのない規模でのイベントが可能に
  - 予算などの負担はほとんど変わらない
  - 多くの一般市民に自分たちの活動をPR
  - 他団体のノウハウも吸収でき、また自分に活かせる
  - 協働の素晴らしさを目に見える形で発信！
- 苦労2倍、楽しさ4倍♪

→ ケーススタディとして後に重要な役割

STEP2～協働でまちおこし

- 観光回遊をキーとした栃木市のセールスポイント
  ↓
- 街中に点在する300余の蔵
- 江戸～昭和初期に建造された洋館
- 日光例幣使街道など伝統的建造物群保存地区
- 街中を流れる巴波川

- それら美しい街並み→どうやってPRしていくか？

着実に上がる成果

- ロケが増え、市内資産が映画やテレビに映る機会が倍増
- 特番も組まれるように
- 市民にも認知が進む
- 何よりも我々自身がとちぎにより惚れ込んで来た

しかし・・・・

その映画を上映する映画館が栃木には無い！
地元資産の価値をもっと根付かせたい！

その価値を高めPRする為のFC

- フィルムコミッション(FC)とは・・・・？

映画、テレビドラマ、CMなどのあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致し、実際のロケをスムースに進めるための非営利公的機関
↓

- 「とちぎえ~ぞ~支援隊」(民間)
- 「とちぎフィルム応援団」
  (行政・商工会議所・観光協会・民間の協働団体)
  の設立

STEP3～新イベント創設！

- 未使用を含む歴史的建造物を活かし！
- 映画にも使われてる価値ある地元を再認識！
- その映画を地元で上映！
- 美しい街並みすべてを使った回遊型のイベント！

↓

□栃木・蔵の街かど映画祭

FCの目的

- 【コミュニティービジネス】直接的・間接的地元消費の拡大と活性化。マネーフローの増加

- 【文化継承】広域活動団体として、近隣市町を含めた文化資産の価値を高め、市民への浸透を図ることで、地域の魅力の再確認と文化交流を進める

- 【活力創造】市民が生き甲斐を持って地元に定着できる環境を整える

事業概要

- 蔵等をミニシアターに改造した映画祭
- 十数か所に点在させ、それぞれ20名～300名ほどの収容
- 上映コンテンツは、地元撮影物や次世代に伝えたい名作や、各団体固有のコンテンツ
- 飲食ブース、着物歩き、乗馬、路上パフォーマンスなどで街中も演出、共催イベント含め、街全体を回遊しながら楽しめる映画祭

ここで・・・

- 報告書にて説明・・・

協働＝まちづくり市民集団化

- 第1段階
  - AさんがBさんに有用で公益的な奉仕をする
    - Bさんの喜びがAさんの喜びにもなる（役に立つ体験）
    - 長期的にはBさんの甘えや依存心を持たせるので次のステップに進むのが望ましい
- 第2段階
  - AさんがBさんに、一緒に奉仕活動すること、あるいは別の有用な活動をするように勧める＝まちづくりの輪を広める＝総市民まちづくり集団化

→ 社会関係資本（ソーシャルキャピタル）の充実

映画祭がもたらしたもの

- 蔵などの歴史的コンテンツの資産価値アップ
  - その後、未使用蔵が民間に開放されレストランなどに
  - 蔵を核とした観光メニューの充実（東武鉄道との連携）
  - 地元ファンの拡大→今後のロケやエキストラへの理解
- 膨大な新しいネットワーク
  - 企業や学生のパワーもまちづくりへ（産学官連携）
  - 市外からの力とアイディアの流入
- それぞれの団体がまたそれぞれのまちづくりへ
  - 新しい力に触れ、自分たちもパワーアップ！

まちおこしの必要条件

- 「よそ者・若者・ばか者」
  - 協働によって、その新しい要素が注入される
- 真の住民自治を求める志
  - 自分たちのまちを作るのに他人任せでいいのか？
- 自分で限界を作らない
  - 一人でできなければ仲間に頼れば良い＝協働
  - 少しくらい高いハードルのほうが効果が上がる
- 地域愛
  - 住んでる街が好きですか？守りたいですか？
  - いいところが見つからないなら創っちゃいましょう！

イベントはまちおこしになるか？

- イベントなんて、その場で終わりで続かない？
- 経済効果もたかが知れてる？

↓ いやいや、そうではない！！

- 直接的なまちおこし効果・活力アップはむろん、同時に人づくりとネットワークづくりにも！
- 協働体制作り→イベント→人とネットワークの進化
  その繰り返しがまちおこしに繋がる！

おまけ～ときめきリーダーになろう！

- 「人が集まる法則」

- 人を集める人と
  人が集まる人のちがいは
  ギラギラとキラキラの違い

- ギラギラで人を集める人→集まった人もギラギラ
- キラキラで人が集まる人→集まる人達もキラキラ
- 濁り（濁点）が無いのが大切♪

実施概要

約３００棟の蔵や日本家屋、昭和初期の建造物群が散在する美しい歴史景観の街栃木市にて、江戸や明治時代に建てられた歴史的建造物蔵をミニシアターに変貌させる全国初の歴史景観活用型の映画祭『栃木・蔵の街かど映画祭』を平成１９年に開催し好評を博したことから、今年も皆様のご協力をいただきながら第２回として開催することが出来ました。

人間の人生の長さ以上に時を刻んだ数々の蔵や家屋に、時を越えて伝えてゆきたい普遍のメッセージ（愛、希望、仲間・・）を、それぞれの蔵ミニシアターのコンセプトとして、どこか懐かしさの残る栃木市の路地を歩きながら、人生のキーワードを蔵のミニシアターめぐりを通じて体験する。訪れる全ての人々が温かな気持ちになれる映画祭です。

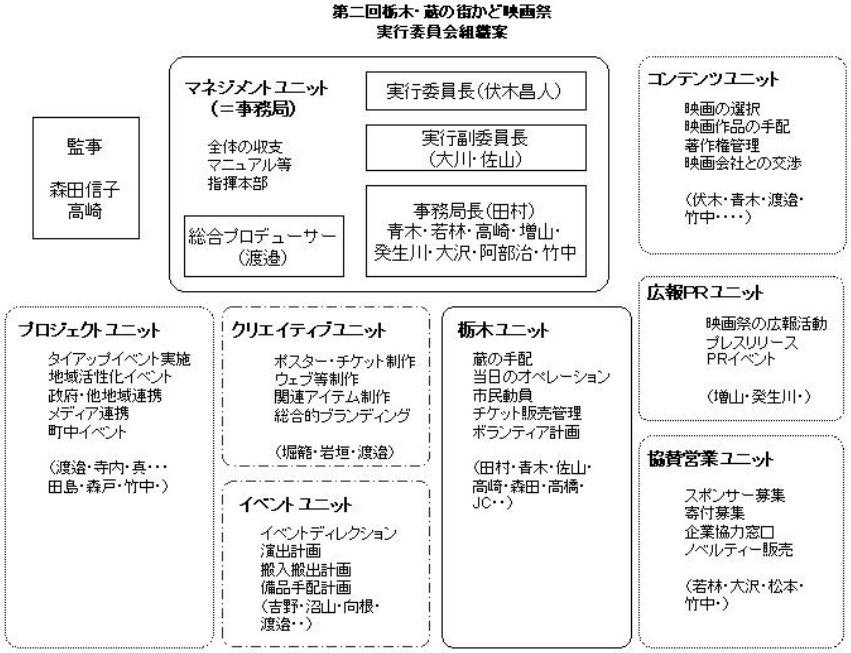
名　　称	第二回　栃木・蔵の街かど映画祭
開催日時	２００８年１０月４日（土）、５日（日） ＊ ３日（金）夜にオープニング上映会を実施
主　　催	栃木・蔵の街かど映画祭実行委員会
共　　催	財団法人デジタルコンテンツ協会
後　　援	フランス大使館、オランダ大使館、スウェーデン大使館、チェコセンター、栃木市、朝日新聞社宇都宮総局、下野新聞社栃木支局、東京新聞社宇都宮総局
特別協賛	スカイパーフェクトコミュニケーションズ、東武鉄道
協　　賛	全１０５社
協　　力	フジテレビジョン、デジタルハリウッド、日本映画学校、たんす屋、朝日広告社、日本スウェーデン福祉研究所、IVC、ワイテック、アットアームズ、MMC、とらすとテレビ、マックス・エンヂニアリング
上映会場	栃木高校講堂、塚田歴史伝説館、Always カマヤ(旧教育委員会)、太田家見世蔵、元気カフェ辰元、蔵の街観光観 2F ホールおよび座敷、岡田記念館南館および翁島、栃木市役所別館、神明宮、CAFE15、横山郷土館、旧鳥海漬物店
町中イベント	活弁ライブ（油伝味噌）、蔵の街かど着物日和、お茶漬け蔵、美大蔵、栃っこ広場飲食ブース、神明宮フリーマーケット＆ライブ、山車会館前飲食ブース＆ライブ、他
上映作品	別紙一覧参照、７０作品以上
総動員数	入場者 3329 人、スタッフ 283 名、合計 3612 名（オープニング込）

栃木・蔵の街かど映画祭

実行委員会組織

組織名	第２回栃木・蔵の街かど映画祭実行委員会
委員長	伏木昌人
副委員長	佐山正樹、大川秀子
事務局長	田村正敏
総合プロデューサー	渡邉賢一
コンテンツユニット長	青木二郎
協賛ユニット長	若林可奈子
イベントユニット長	寺内由晃
監事	森田信子、高崎尚之
参加団体	ネットワークとちぎ 栃木おやこ劇場 とちぎえ～ぞ～支援隊 とちぎフィルム応援団 元気ジャパン 国際交流協会

その他、大勢の有志実行委員メンバー



実行委員の横顔

実行委員長　伏木昌人

みなさん！「栃木・蔵の街かど映画祭」にようこそ！今年も栃木ららしさの中で、多くの名画をお楽しみください。蔵シアターから時を越えて伝えたい、「愛、希望、友情」などの普遍のメッセージを発信しています。とちぎの温かさをぜひ感じてください！

事務局長　田村正敏

愛情こもった手作り料理のような映画祭です♪　ゆっくり楽しんで行って下さいね！　随所にスパイス効かせてますよ^^v

青木二郎

設営班

いつも陰ながら栃木市の地域資源を保存活用するためにがんばっております。つくづくいい建物が多いなあと実感します。皆さんで力を合わせて地域を元気にしましょう。

アツいぞ！実行委員会！！！

ヒノマサヨ

栃木市は蔵の多い街です。うずま川から多くの歴史が生まれました。 蔵の一部をチェコのアニメーションや映画、絵本といった可愛らしく、どこかシュールな世界を栃木市のみなさんに知ってもらい、感性を豊かにしてもらえたら嬉しいと思います。楽しんで下さい。

渡邉賢一　総合プロデューサー

この街で生まれ育ちました。温かい人々と美しい風景に大変に誇りを持っています。「この街を何とかしたい」、そうした想いがきっかけでした。失われつつある地域資源に新たな息吹を吹き込みたいと思います。ようこそ蔵の街かど栃木へ！

井関隆行

ニッポンお茶漬け蔵プロデューサーのイセキックです！ 栃木が誇るお米の上に、全国から「自慢の具」が集結！ お茶漬けから始まる地域交流にチャレンジします！ 映画祭バンザイ！ハートもおなかもいっぱいにしてください！

宮村忠博

この映画祭は、唯の映画祭じゃない、この街に訪れることによって自分の中に眠る日本人としての本質に気づくことができる。そう自分の人生という映画がここから始まる。

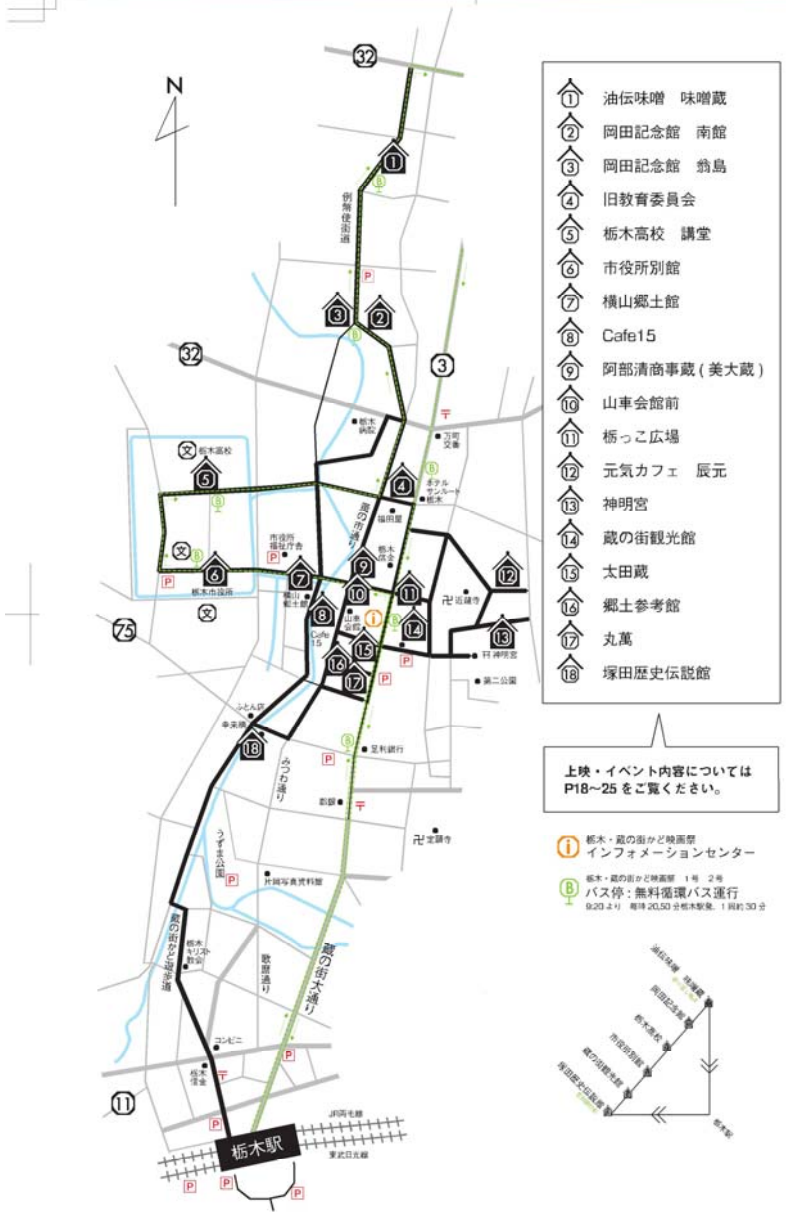
渡邉真

今回で二回目となる蔵の街かど映画祭、初めから参加してきた私は、このイベントを通じて、街の有り方、街の資質、住人の考え方など、普段学べない事を実際に経験し勉強になりました。　外の人間、中の人間、正直あまり関係ないのかもしれません。　栃木市に住んでいる人、栃木市以外の方々、色んな人種がまじって、一つの事の成功に向かって団結する想い、これこそ、街づくりの原点ではないかと思います。　映画というのは、手段であって一つの人間の和を作り上げ、目的は人々が元気に、街が元気になっていけば最高じゃーないですか！！！ということで、まっく渡辺32歳、楽しんで頑張ってます。

中村純

思い出づくりがクセになる街・栃木にようこそヾ(^▽^)ノ、学生蔵、イベントもやってま～す('◇')ゞ遊び来てね～！！

全体ＭＡＰ



会場MAP

① 油伝味噌　味噌蔵
② 岡田記念館　南館
③ 岡田記念館　翁島
④ 旧教育委員会
⑤ 栃木高校　講堂
⑥ 市役所別館
⑦ 横山郷土館
⑧ Cafe15
⑨ 阿部清商事蔵（美大蔵）
⑩ 山車会館前
⑪ 栃っこ広場
⑫ 元気カフェ　辰元
⑬ 神明宮
⑭ 蔵の街観光館
⑮ 太田蔵
⑯ 郷土参考館
⑰ 丸萬
⑱ 塚田歴史伝説館

上映・イベント内容については
P18～25 をご覧ください。

ⓘ 栃木・蔵の街かど映画祭
インフォメーションセンター

Ⓑ 栃木・蔵の街かど映画祭　1号　2号
バス停：無料循環バス運行
9:20 より　毎時 20,50 分栃木駅発、1 周約 30 分

各会場の上映スケジュール

蔵名	日数	早起きの部	午前の部	午後の部（1回目）	午後の部（2回目）	レイトショー
栃木高校講堂 収容人数３５０名 	【オープニング】 １０月３日（金）	－	－	－	－	18:00開始　ダイブ!! 115分
	１０月４日（土）	－	10:00～　小津の秋　92分／主題歌『水鏡』関口由紀さんライブ	13:00～　ＡＫＩＲＡ（アキラ）　124分／世界初ハイパーソニックブルーレイ版上映　開発者 大橋力先生トークショー	16:00～　埋もれ木上映 93分／小栗康平監督＆俳優 仁科貴さんトークショー	19:00～　東武鉄道ナイトシネマ／ＡＫＩＲＡ（アキラ）　124分／ハイパーソニックブルーレイ版上映
	１０月５日（日）	－	9:30～　ＡＫＩＲＡ（アキラ）　124分／ハイパーソニックブルーレイ版上映　124分	12:30～　キサラギ　108分／佐藤祐市監督トークショー	16:00～　ダイブ!!　（ダイブ）主演 林遣都さんが舞台挨拶	－
塚田歴史伝説館 収容人数８０名 	１０月４日（土）	－	10:00～　虹色ロケット　74分　チキチキマシン猛レース　60分	13:00～　ダイブ!!（ダイブ）115分	15:25～　バッテリー118分	－
	１０月５日（日）	－	10:00～　バッテリー118分	14:00～　チキチキマシン猛レース　30分	15:00～　虹色ロケット　74分	－
岡田記念館　南館 収容人数４０名 	１０月４日（土）	－	10:00～　ローマの休日　118分	13:00～　カサブランカ　103分	16:00～　ラストサムライ　154分	－
	１０月５日（日）	－	10:00～　欲望という名の電車 122分	13:00～　紳士は金髪がお好き 91分	16:00～　ラストサムライ　154分	－
太田蔵 収容人数３０名 	１０月４日（土）	9:30～　伊豆の踊り子 87分	11:30～　幕末太陽傳　110分	14:00～　近松物語 102分	16:00～　ピルマの竪琴　116分	－
	１０月５日（日）	9:30～　かもめ食堂 102分	11:30～　伊豆の踊子 87分	13:30～　ピルマの竪琴　116分	16:00～　幕末太陽傳　110分	－
元気カフェ　辰元 収容人数５０名 	１０月４日（土）	－	9:45～　ニライカナイからの手紙 113分	13:30～　私の頭の中の消しゴム 117分	16:00～　恋しくて 99分	19:00～　はじめての家出 100分＋イベント同時開催
	１０月５日（日）	－	9:45～　私の頭の中の消しゴム 117分	13:30～　恋しくて 99分	16:00～　ニライカナイからの手紙 113分	19:00～　はじめての家出 100分＋イベント同時開催
旧教育委員会 収容人数４０名 	１０月４日（土）	－	10:00～　ここはグリーン・ウッド～青春男子寮日誌～第1話・第2話 合計44分	14:00～　ぼくたちと駐在さんの700日戦争		－
	１０月５日（日）	－	9:30～　ぼくたちと駐在さんの700日戦争	15:00～　栃木SC交流イベント		－
蔵の街観光館 ２階座敷 収容人数２０名 	１０月４日（土）	－	10:00～　日本映画学校作品／TVFドキュメンタリー	13:00～　日本映画学校作品／TVFドキュメンタリー	16:00～　日本映画学校作品／TVFドキュメンタリー	－
	１０月５日（日）	－	10:00～　日本映画学校作品／TVFドキュメンタリー	13:00～　日本映画学校作品／TVFドキュメンタリー	16:00～　日本映画学校作品／TVFドキュメンタリー	－

蔵名	日数	早起きの部	午前の部	午後の部（1回目）	午後の部（2回目）	レイトショー
蔵の街観光館２階ホール 収容人数１００名 特別協賛：スカパー	１０月４日（土）	-	10:00～　吉永小百合特集／キューポラのある街 100分	12:30～　吉永小百合特集／ああひめゆりの塔 125分	15:30～　吉永小百合特集／北の零年 168分	19:00～　世界のCMフェスティバル by isekick 100分（厳選作品特集）
	１０月５日（日）	-	10:00～　吉永小百合特集／愛と死をみつめて 117分	12:30～　吉永小百合特集／夢千代日記 129分	15:20～　吉永小百合特集／キューポラのある街 100分	-
ＣＡＦＥ１５ 収容人数３０名 後援：オランダ王国大使館	１０月４日（土）	-	スパーケンブルフ村の民族衣装・写真展＆オランダお菓子試食	スパーケンブルフ村の民族衣装・写真展＆オランダお菓子試食	スパーケンブルフ村の民族衣装・写真展＆オランダお菓子試食	-
	１０月５日（日）	-	スパーケンブルフ村の民族衣装・写真展＆オランダお菓子試食	スパーケンブルフ村の民族衣装・写真展＆オランダお菓子試食	スパーケンブルフ村の民族衣装・写真展＆オランダお菓子試食	-
横山郷土館 収容人数５０名 後援：オランダ王国大使館	１０月４日（土）	-	10:00～　ウィンキーの白い馬 98分	12:30～　ネコのミヌース 83分	15:00～　ウィンキーの白い馬 98分	-
	１０月５日（日）	-	10:00～　ウィンキーの白い馬 98分	12:30～　ネコのミヌース 83分	14:30～　ネコのミヌース 83分	-
岡田記念館　鶴島 収容人数４０名 後援：フランス大使館	１０月４日（土）	-	10:00～　わんぱく戦争 90分／フランスワイン試飲	12:00～　赤と黒 210分／フランスワイン試飲	16:00～　美女と野獣 93分／フランスワイン試飲	-
	１０月５日（日）	-	10:00～　にんじん 95分／フランスワイン試飲	12:30～　ゴリオ爺さん 90分／フランスワイン試飲	15:00～　椿姫 110分／フランスワイン試飲	-
烏海跡地 収容人数３０名 後援：チェコ共和国大使館	１０月４日（土）		10:00～11:00　アニメ上映（計57 分）、知りたがりワンちゃんと水（10）、コオロギくんとバイオリン（5）、コオロギくんとエンジン（5）、くいしんぼうのすずめ（14）、イモムシくんは大スター（17）、In the Attic 予告編（6）、11:00～ 常設イベント	13:00～14:00　アニメ上映（計59 分）かばのティリーネック（11）、ちびとらちゃん（12）、魔法の果樹園（15）、けしのみ太郎～思いがけないプレゼント～（7）、アマールカ～森番をやっつけた日～（7）、In the Attic 予告編（6）、14:00～ 常設イベント	15:00～16:00　アニメ上映（計59 分）ふしぎな庭～動物がすきな男～（15）、ふしぎな庭～広がる霧～（14）、おじいさんは40 人（8）、犬と妖精の話（15）、In the Attic 予告編（6）、16:00～ 特別イベント＆常設イベント	19:00～　チェコアニメナイト　アニメ上映 ルナシー（123分）
	１０月５日（日）	-	10:00～11:00　アニメ上映（計55 分）、知りたがりワンちゃんとこいぬ（11）、知りたがりワンちゃんとハチミツ（10）、コオロギくんとのこぎり（5）、さんかくとしかく（9）、月のおはなし（14）、In the Attic 予告編（6）、11:00～ 常設イベント	13:00～14:00　アニメ上映（計56 分）、履歴書（10）、カフェ（8）、ネズミ、万歳（6）、メディア（5）、夫婦生活（4）、ことば、ことば、ことば（8）、反復（9）、In the Attic 予告編（6）、14:00～ 常設イベント	15:00～16:00　アニメ上映（計57 分）、郵便屋さんの話（22）、タフなピリーとジャイアントモスキート（10）、HIROSHI（19）、In the Attic 予告編（6）、16:00～ 特別イベント＆常設イベント	-

神明宮 収容人数５０名 後援：スウェーデン大使館	１０月４日（土）	-	10:00～　最新のスウェーデン映画	13:00～　最新のスウェーデン映画 THE RAIN 30分 ほか	15:00～　生活の質／クオリティーオブライフ　トークセッション 90分	-
	１０月５日（日）	-	10:00～　最新のスウェーデン映画	13:00～　最新のスウェーデン映画 THE RAIN 30分 ほか	15:00～　生活の質／クオリティーオブライフ　トークセッション 90分	-
市役所別館 ８０名 協賛：日産プリンス栃木	１０月４日（土）	-	10:00～　北極のナヌー 84分	13:00～　皇帝ペンギン 86分	16:00～　北極のナヌー 84分	-
	１０月５日（日）	-	10:00～　皇帝ペンギン 86分	13:00～　北極のナヌー 84分	16:00～　皇帝ペンギン 86分	-
油伝味噌 収容人数４０名 協力：パインウッド	１０月４日（土）	-	11:00～　活弁士佐々木亜希子による「世界の三大喜劇王」：チャールズ・チャップリン主演「消防士」19分、ハロルド・ロイド主演「豪勇ロイド」16分	15:00～　活弁士佐々木亜希子による「世界の三大喜劇王」：バスター・キートン主演「セブン・チャンス」56分	-	-
	１０月５日（日）	-	-	-	-	-

※　各蔵の詳細については別記　映画蔵報告(P11~)　にも記載

チケット概要

① チケット料金

大人前売り 1000 円、当日 1200 円
子供前売り　500 円、当日　600 円（子供は小６まで。未就学児無料）
東武鉄道とのタイアップチケットあり（往復運賃+前売り券のセットチケット）
前売りは「福田屋百貨店栃木店」「出井書店」プレイガイド等にて販売

② 当日来場の際、上記チケットを各蔵および本部にて「通行手形」へと交換した

※　携帯ストラップと首掛けの２種類
※　全会場フリーパス
※　一日限り有効

巡回シャトルバスについて

※　期間中は、臨時でシャトルバス（35 人乗り）を２台運行し、各会場へのアクセスの利便性を図った。

	往路							折り返し	復路				
	栃木駅	足利銀行前	蔵の街観光館	栃木市役所別館	栃木高校	旧教育委員会	岡田記念館	油田味噌	蔵の街観光館	足利銀行前	栃木駅着	備考	備考
1号	9:20	9:23	9:25	9:29	9:31	9:34	9:40	9:43	9:48	9:50	9:53	早起きプラン用	鑑賞客
2号	9:50	9:53	9:55	9:59	10:01	10:04	10:10	10:13	10:18	10:20	10:23	午前プラン用	鑑賞客
1号	10:20	10:23	10:25	10:29	10:31	10:34	10:40	10:43	10:48	10:50	10:53	周遊むけ	鑑賞客
2号	10:50	10:53	10:55	10:59	11:01	11:04	11:10	11:13	11:18	11:20	11:23	周遊むけ	鑑賞客
1号	11:20	11:23	11:25	11:29	11:31	11:34	11:40	11:43	11:48	11:50	11:53	周遊むけ	鑑賞客
2号	11:50	11:53	11:55	11:59	12:01	12:04	12:10	12:13	12:18	12:20	12:23	周遊むけ	鑑賞客
1号	12:20	12:23	12:25	12:29	12:31	12:34	12:40	12:43	12:48	12:50	12:53	午後一回目用	鑑賞客
2号	12:50	12:53	12:55	12:59	13:01	13:04	13:10	13:13	13:18	13:20	13:23	午後一回目用	鑑賞客
1号	13:20	13:23	13:25	13:29	13:31	13:34	13:40	13:43	13:48	13:50	13:53	周遊むけ	鑑賞客
2号	13:50	13:53	13:55	13:59	14:01	14:04	14:10	14:13	14:18	14:20	14:23	周遊むけ	鑑賞客
1号	14:20	14:23	14:25	14:29	14:31	14:34	14:40	14:43	14:48	14:50	14:53	午後二回目用	鑑賞客
2号	14:50	14:53	14:55	14:59	15:01	15:04	15:10	15:13	15:18	15:20	15:23	午後二回目用	鑑賞客
1号	15:20	15:23	15:25	15:29	15:31	15:34	15:40	15:43	15:48	15:50	15:53	午後二回目用	鑑賞客
2号	15:50	15:53	15:55	15:59	16:01	16:04	16:10	16:13	16:18	16:20	16:23	周遊むけ	帰宅客
1号	16:20	16:23	16:25	16:29	16:31	16:34	16:40	16:43	16:48	16:50	16:53	周遊むけ	帰宅客
2号	16:50	16:53	16:55	16:59	17:01	17:04	17:10	17:13	17:18	17:20	17:23	周遊むけ	帰宅客
1号	17:20	17:23	17:25	17:29	17:31	17:34	17:40	17:43	17:48	17:50	17:53	周遊むけ	帰宅客
2号	17:50	17:53	17:55	17:59	18:01	18:04	18:10	18:13	18:18	18:20	18:23	ナイトプラン用	帰宅客
1号	18:20	18:23	18:25	18:29	18:31	18:34	18:40	18:43	18:48	18:50	18:53	ナイトプラン用	帰宅客
2号	18:50	18:53	18:55	18:59	19:01	19:04	19:10	19:13	19:18	19:20	19:23	特別便	帰宅客
1号			21:10	-	-	-	-	-	-	-	21:20	特別便	帰宅客
1号						21:30	-	-	-	-	21:45	特別便	帰宅客

②『小津の秋』の上映と関口由紀さんの
トーク＆ ライブ（主題歌「水鏡」）

日程　　２００８年１０月４日（土）
時間　　１０：００～

※「小津の秋」主題歌を歌う関口由紀さんが登場。
主題歌を生で歌っていただき、トークショーも！

③「コフェスタ２００８特別企画　ハイパーメディアコンテンツの衝撃
キックオフイベント・サテライトセクション 『ＡＫＩＲＡ（アキラ）』上映会

日程　２００８年１０月４日（土）
時間　１３：００～

JAPAN INTERNATIONAL CONTENTS FESTIVAL

※世界初ハイパーソニックエフェクト・
ブルーレイ版『AKIRA（アキラ）』の上映と、
音響を担当した栃木高校 OB でもある大橋力先生によるトークショー

塚田歴史伝説館

※　主に子供に夢を与える作品を上映。
脇のうづま川では、舟運乗車体験も行われました。

岡田記念館南館

※　最大４０名しか入れない小さな蔵でも、デジタル技術により上映が可能に！

太田蔵

※　連日満員と賑わった太田蔵は、もはや映画祭大通り会場の顔です。
邦画の名作を中心に上映。

元気カフェ辰元

※　元々スポーツカフェとして改装された店である元気カフェは上映に最適。
恋物語を中心に上映。

市役所別館

※　映画やドラマの撮影によく使われる市役所別館は、日産プリンス栃木とのタイアップが実現。新車の PR とのコラボレーションによる作品上映が行われました。

蔵の街観光館

※　蔵の街栃木市の観光館。
スカパー！タイアップによる吉永小百合特集と日本映画学校の作品を上映。

※　<u>世界の CM フェスティバル</u>
<u>世界の CM フェスティバルの仕掛人ブービエ氏と共に世界の CM を一挙公開！</u>

About | CMフェスティバルって?

世界のCMフェスティバル in JAPANの歴史 | La Nuit des Publivoresの歴史 | CMフェスティバルの仕掛け人"J.C Bouvier" |

「世界のCMフェスティバル」は、世界中のCMだけを集めて、オールナイトで朝日抜きに楽しもうというイベントです。

パリのジャンマリー・ブルシコフイルムライブラリーでは、30年以上かけて70万本もの世界のCMフイルムを集めました。これらのうちベストセレクション500本は、1981年より「La Nuit des Publivores(CM食らい放題の夜)」として世界ツアーを行っています。このイベントの日本版といえるのが「世界のCMフェスティバル」です。1999年に福岡で開催されて以来9年目を迎え、今年は全国21都市で開催される予定です。

過去に行われたCMフェスティバルの記録

Always カマヤ（旧教育委員会跡）

※　昨年の映画祭によって資産価値を高めたこの旧教育委員会跡。
今年から「Always カマヤ」という地産地消をポイントにしたレストランとして営業を開始していました。映画祭期間中はまた映画蔵として活躍。地元撮影の映画を上映。

※　Road　to　J　栃木 SC 応援イベント

J2 昇格を目指し、現在 JFL で活躍中のサッカーチーム
「栃木 SC」。その社長と選手数名に出演頂き、ゴールシーン特集ムービー＆トークショーをお楽しみ頂きました。

日程　２００８年１０月５日（日）
時間　１５：００～

町中イベント報告

来場者アンケート集計

※各日とも、午後一番の上映時に各蔵５人を基本にアンケートを実施しました。
※４日８４人、５日１０１人、公式ＨＰブログ上アンケート７人の合計１９２人の来場者から解答をいただきました。
※なお、各項目無回答があるため合計と一致しません。

１．どちらから来られましたか？

・栃木市内　　９１人（４７．６％）
・栃木県内　　６４人（３３．５％）
　宇都宮、小山、日光、佐野、下野、大田原、大平、藤岡、壬生、野木、都賀
・栃木県外　　３６人（１８．９％）
　東京都：練馬区、江東区、世田谷区、中野区、杉並区、目黒区、国立市、小金井市
　埼玉県：春日部市、越谷市、草加市、吉川市、東松山市、栗橋町
　千葉県：市川市、流山市、野田市、白井市
　神奈川県：鎌倉市
　茨城県：つくば市
　群馬県：太田市
　福島県：白河市、西郷町
　大阪府：泉南市

２．会場（栃木市）までの主な交通手段は？

・東武鉄道　　２４人（１２．６％）
・ＪＲ　　１５人（　７．８％）
・乗用車　　９５人（４９．７％）
・自転車　　３７人（１９．４％）
・徒歩　　２０人（１０．５％）

３．あなたの性別と年代を教えてください。

〔性別〕
・男性　　７１人（３８．４％）
・女性　　１１４人（６１．６％）
〔年代別内訳〕
・10 代　　３１人（１６．３％）
・20 代　　２６人（１３．７％）
・30 代　　３０人（１５．８％）
・40 代　　３４人（１７．９％）

・50代　　３５人（１８．４％）
・60代　　２２人（１１．６％）
・70代　　１２人（　６．３％）

入場者数　集計

	10月3日(金)			10月4日(土)			10月5日(日)		
	入場者	スタッフ	計	入場者	スタッフ	計	入場者	スタッフ	計
栃木高校講堂	288	12	300	228	19	247	262	16	278
塚田歴史伝説館				79	19	98	68	8	76
岡田記念館南館				109	10	119	79	10	89
太田蔵				88	8	96	181	10	191
元気カフェ辰元				64	8	72	71	7	78
旧教育委員会				51	8	59	151	6	157
蔵の街観光館座敷				15	8	23	30	6	36
蔵の街観光館ホール				95	12	107	108	10	118
岡田記念館翁島				71	5	76	71	8	79
鳥海跡地（チェコ）				91	8	99	107	8	115
横山郷土館(オランダ）				33	7	40	40	6	46
神明宮				43	6	49	50	4	54
市役所別館				32	11	43	70	8	78
油伝味噌				80	7	87	－	－	－
CAFE15				135	2	137	225	4	229
好古壱番館				9	6	15	15	6	21
駅前インフォ									
山車会館本部									
計	288	12	300	1,223	144	1,367	1,528	117	1,645
美大蔵				145	5	150	145	5	150
総合計	288	12	300	1,368	149	1,517	1,673	122	1,795

3日間トータル	入場者	スタッフ	計
	3,329	283	3,612

第４回　７月４日（水）

「太田市のまちおこし活動」について

ＮＰＯ法人クラッセ太田理事長
吉田　範彦

司会

定時ですので、NPO 法人クラッセ太田の吉田さんから、今日はお話いただこうと思います。その前にご紹介をお願いします。

事務局

足利工業大学の簗瀬範彦でございます。今日は、太田市から吉田さんをお招きしたんですが、太田市の都市計画課にお願いして，太田市でまちづくり NPO を運営してる方ということで，ご紹介をいただきました．実は、私も初対面ということで、いつもとパターンが違いますが、名前が同じですから、いい人に違いない。そういうことで、いきなり、ぶしつけな紹介をしてしまいました。

では、まず、いつもの恒例に従いまして、開催に当たって、中川会長、ひと言、ご挨拶、お願いします。

中川会長

どうも、足利工業大学と公開講座を共催しております、VAN-NOOGA の会長の中川でございます。今、名前が同じとチラッと言ったけど、どういうことだか、お分かりになりますか。2 人とも範彦さんっていう名前が、同じだそうですね。これは、いい名前だって、先ほどおっしゃっていました。そういう意味では、2 人の企画ですから、いいお話が聞けると思いますから。

ほんと、お暑いなか、最近は天候不順ですけど、お運びいただきまして、ありがとうございます。VAN-NOOGA も、ここでの会議、これで 4 回目ですかね。そろそろ終盤にかかってきました。何せ、この両毛地域の街おこしのなかでは活動が非常に活発になり、特に民間の活動が活発な太田市の代表で、本日はお出でいただきました吉田さん、よろしくお願いいたします。

１．いい町とは何か「NPO 法人クラッセ太田」のできるまで

吉田講師

皆さん、こんばんは。先ほどご紹介いただきました、太田市から来ました、NPO 法人クラッセ太田の吉田と申します。よろしくお願いいたします。たぶん、私を見て、年が分かんないかなあと思うんですけど、町のなかでは「若手、若手」と言われてるんですが、生年月日が昭和 35 年生まれで今年 51 になりました。もう若手は過ぎて、そろそろ中堅どころかと、自分では思ってるんですけども、まだ、いいように、町のなかでは使われてます、若手ということで。

今、フレッセイ*に車を置いて歩いてきたんですが、やっぱ、町並みが太田とは全

＊フレッセイ：足利市の公開講座会場近くのスーパーマーケット

然違いますね。まちづくりがちゃんとできていると言うか、何となく品があると言うか、町のなかが、足利は。太田の場合は、もともとが中島飛行機*から始まって、今は富士重工、工業都市の典型です。

＊中島飛行機製作所：戦前日本最大の飛行機メーカー、富士重工業の前身

雑然としたまちのつくりになってます。特

に駅周辺、私の住まいが、ちょうど駅から西に行った本町というとこで、町の中心部なんですけど、車の音がよく聞こえます。だけど、人を見かけたことがないっていうぐらい、人が歩かない町になっています。そんななかで、まちづくりをしているわけですけども。

そもそものきっかけというのが、区画整理と再開発と鉄道高架という3事業が太田市にかかりました。そのなかで鉄道高架だけ、どんどん先に進んでいっちゃったんです。鉄道高架はできあがりました。でも、区画整理が進みません。再開発も途中まではいい話が聞けるんですけども、その先、みんな、どれも断念をせざるを得ないような状況で何年も来ました。

それで、「このまんまじゃ、町がどうかなっちゃうんじゃないのか」っていうことで当時、私も40代前半ぐらいのときですが、「何とかしなきゃいけない」なんて思いがありまして、若手といわれる青年部を、区画整理がかかっている地域のなかで作りました。いろんなことを話しあったりしたんですけども,「じゃ、どんなまちづくりをしてけばいいの」っていう話をしたなかで、目的は何か，どんな町に向かっていくかっていったときに、「いい町って何？」という話になったんですね。

「いい町って何？」

「いい町になれば人が来るよねえ。人が来ると商店も、たぶん活気づくよねえ。」

「活気づくと、きっとみんな裕福になって、心に余裕ができて、笑顔ができるよねえ」

「笑顔ができると、町のなかが何となくほんわりして、いい町になるよねえ」

「すると、また人が来るよねえ」

そんな話をしたなかで、「じゃあ、我々ができる部分は何かなあ」ということで、「町のなかに笑顔を作ろうか」っていうことで、いろいろ始めました。

そこで、「太田駅周辺地区まちづくり推進協議会」っていうのができました。これは、鉄道高架事業とか、区画整理とかしていくなかで、こういう協議会は必ずできるんでしょうけども、そのなかで、青年部を作らしていただきました。

それじゃあ、笑顔作り。子どもを集めて何かするか。たまたま町の、今のクラッセになってるところが、もともとがこういう石の蔵と言うか、これは、木造の石壁なんですね。石造りじゃないんですね。こんな蔵がちょっとあったんです。「何か、これで活用できないかなあ」なんて話をしたらば、この隣に銭湯があったんです。ちょっと先にスーパーがあったんです。「ここでキャンプやれば、町のなかでいろいろ買い物したり，なんかできて、町のなか、回遊ができるんじゃないか」ということで、「ここの蔵を使って、キャンプをやろう」という若い人の意見で始めました.

なかは、こんな感じで、何て言うんですかねえ。たいした場所じゃないんですけども、とりあえず、子どもたちを集めて，カレーを作らせたりして，キャンプを始めました。これも1回だけだったんですけども、そのあとに国道407号線の高架を解体するにあたって、ちょうどそこにあった跨線橋のイベントをさせていただきました。ただ、歴史がある跨線橋でもないし，最初は、市もイベントする気もないということでしたが、我々は38年間407号線に架かってた跨線橋にお世話になったんだからということでイベントをやりました。ちょうど小雨だったんですけども、それなりに人が出て，まあまあ、やった本人たちは満足しました。

そんなことを繰り返しやっているなかで、この蔵を使って、何かイベントしようとしたんですが，市のほうからは、耐震の問題とか、いろいろな問題で、「使っちゃいけないよ」っていう話になってしまったのですが、「じゃあ、どうしたらいいの」と言うときに、今の太田の市長が、「じゃあ、お前たちが何かやるんなら，ほったて小屋でもいいから作るか」っていうんで、今のクラッセという建物を作っていただきました。

先ほどから出てる「クラッセ」っていう意味は，フランス語の「クラッセ（classe)」で、英語で言うと、クラス（class）とかって当たるらしいです。私たちがクラッセっと命名したのは、「太田市中心市街地活性化基本計画」のなかに、クラッセという言葉が出てくるんですね。それは、「そこの場所で暮らしなさい」とか、「暮らしてちょうだい」みたいな意味で出てきたので、「じゃあ、そこから言葉を頂戴しましょう」ということで、クラッセという名前にさせていただきました。

そのクラッセですけども、見た通り、ほんとに何にもない、何か 2 階がありそうな感じなんですけど、平屋なんですね。上は吹き抜けで，もともと宝くじか何かの予算をいただいて作りましたので、壊すお金と建てるお金で決まった額なんで、たいしたものができなくて、なかにあるエアコンも年中故障している、そんなエアコンが付いてます。

場所は、本町通り、ここに太田駅がありまして、太田駅から本町通りをずっと西に向かって来てもらいますと、ナカムラヤさんという、大きな書店があるんですけども、そこの裏になります。ほんとに本町通りの真ん中ですね。そうしてこの組織を作った訳です。

私たちがまちづくりをしていくなかで、基本的に自分たちでは何もできないんですが、小さい町のなかで若手がいないっていうことで、たまたま私が、いろんな役をさせられて、老人会とつながりができたり、区長会とつながりができたり、他の団体とつながりができて、いろんな団体とのつながりが、たまたま、できたもので、いろんなとこの協力を得ながら、今の活動しております。特に今回、7 月 1 日に七夕祭りやったんですけども、これは、もう地域の人たちに七夕飾りをしていただいたり、小学校の 1、2 年生、地域の 1、2 年生が学校の授業の一環として来て、飾りつけをしていただいております。

２．まちづくり協議会とクラッセ太田の役割分担

ここで、今組織が 2 つに分かれていることに、大きな意味がありまして、片一方が、「まちづくり推進協議会」です。こちらでやっているイベントは、補助金がついています。「NPO クラッセ太田」でやっているイベントには補助金、委託金は、一切ありません。まちづくり推進協議会は、今はないんですけども、先ほど言いました七夕祭りも最初は、補助金を若干いただいて、地域の小学生に飾りつけに来てもらってやっています。補助金をもらっている都合上、都合上というとおかしいですけども、「地域の人たちがもっと参加できるようにイベントをしなさい」っていうことで、イベントもさせていただきました。

先ほど言った、子どもキャンプも、このときは補助金もらっています。補助金もらってやっているので、いろいろな細かいものも買ったりして、楽しいことができる。カレーを作ったり、夜は、子どもたちに太

田市の夜景を見せようというイベントです。これは太田市役所が 12 階になっていて、夜景がきれいに見えるんですね。市役所にお願いして、手作りの灯篭を持って、市役所まで歩いていきます。朝は、ピザ作りをしいてます。これが、手作りのピザ窯なんですけども。こういうのを施設のなかに自分たちで作って、やってます。

これも補助金事業だったんで、今はやってないんですけれども、もう 1 つが、ひな祭り。これも学校との共催ということで、「つるし雛」って言うと、怒られちゃうんですが、このつるし飾りを小学生の 1、2 年生に作ってもらって、クラッセ館のなかに飾りまして、この写真の当時は、まだ 97 キロのひし餅だったんですけども、今は 160 キロのひし餅を作っています。これは、ほんとのひし餅なんです。あとで切って、町内会とか、老人会とかに全部、配っています。

このうしろの顔を出して写真を撮るパネルですけども、これも地域で絵が好きな人がいて、「描いてあげるよ」と言うんで、わざわざ描いていただいたり、こちらのほうに飾ってあるのは、身体障害者の方なんですが、いろいろ作ったのを「飾ってください」と持ってきてくれたものです。そんな地域とのつながりをもって活動しています。

老人会ですが、皆さんのお手元にある資料に「かがやき」っていう団体があるんです。これは、うちの団体のなかの高齢者部隊です。子どもたちとお手玉や何かいろいろとやってます。このように「まちづくり推進協議会」がやっているものは、すべて補助金をもらってやっていますので、補助金が切れて、なくなっているものもあります。ということは、補助金をもらったり、委託金をもらうと、いずれ補助金とか委託金がなくなると事業もなくなるんですね。

３．「NPO 法人クラッセ太田」の活動

一方、「NPO 法人クラッセ太田」、今の交流会になってからは一切、補助金、委託金をもらわない。その代り、収益事業をしながら、まちづくりをやっています。もう 1 つが、これです。お金が最初ないもんですから、全部手作りで、これは、たまたま高架の取り壊しで出た枕木です。業者に頼むと結構かかるっていうんで、自分たちで枕木もらってきて、花壇を作ったり、子どもが参加して、ウッドデッキを作ったりしています。このウッドデッキも未だに健在で、こないだのイベントではちょっとした舞台になるぐらいのちゃんとしたものになっています。花壇の花植えも結構な量があるので、地域の老人会の方にお願いしました。地域の老人会にお願いすると、皆さん楽しんで、どっちかって言うと、花の植え方を我々に教えてくれながら、楽しんで植えていただいています。

もう 1 つが、学校に「緑の少年団」、正式な名前はよく分かんないですが、ありまして、ボランティアで町のなかを緑にしてくれる子どもたちにお願いして、全面芝生をはりました。今は、芝生 1 枚もありません。それはなぜかって言うと、またあとで説明します。せっかくはっていただいたのに。

もう 1 つの活動は、誰だったか、「自分たちでピザが食べたいねえ」なんて話をチラッとしただけで、「じゃあ、それ作ろう」っていうことで、「ピザ窯も自分たちで、作っちゃえ」っていうことで、下地からレンガを組んで、アーチもちゃんと自分たちでやって、最後はちゃんと名前をつけていただいた神主さんにお祓いをしてもらって、

ちゃんとしたピザ窯を作りました。

農業体験もあります。これは、当初は芋を植えて、いろいろやったんですけども、今、畑がなかなか借りられない、借りると結構、後始末が大変と言うか、草の処理が1年間、結構、大変なんですね。それで、ちょっと今は申し訳ないですが、やっていません。

４．試しに始めた収益事業の数々と英会話教室「キングスイングリッシュ」

もう１つが、この「キッズイングリッシュ」、これが、うちのメインの収益事業になっているんです。「この館を使って収益事業を何かしなきゃいけないよね」っていうことで始めたのがこれです。

たまたま、スタッフのなかにロンドンにいたことのある女性の方が、「じゃあ、私がちょっと英語教室でもやってみます」ということで、最初 30 人ぐらいの近所の子どもたちを集めて始めました。英語だけじゃ駄目だっていうので、「ピザ窯がせっかくあるんだから、外国人と一緒にピザ窯で交流会しようよ」というところから、まずは始めました。

子どもは全然、臆することなく、外国人と関係を作れますし、大人の方も聞きつけて、「やりたい」なんていうことで、「じゃ、何人かで始めてみますか」と試験的にこんなこと、やったりしてます。

もう１つの事業ですが、これは、理由があって終わりました。先ほど言ったように、町のなかに、スーパーマーケットがない。野菜や生鮮食料品がないんで、「じゃ、ここで朝市でもやったらどう？」と誰かが、またチラッと言ったんで、「じゃ、試しにやってみようか」と始めました。何でも、『試し』なんですね。とりあえず、試しで朝市をやったら、まあ、そこそこ、好評でした。

それで、ここの場所に来れないお年寄りもいるんで、「じゃ、違うとこで私たちがやりますよ」という団体が出てきました。それが、太田商業高校の高校生で、空き店舗を使って、野菜を売りたいということで始めました。「呑龍様」って分かりますかね、「大光院」です。あのそばに八幡神社が昔あったんです。そこの跡地で、朝市をやっています。別の場所に朝市が行ってしまって、お客さんが逆に来なくなっちゃったんで、「我々の使命は、もうおしまいかなあ」ということで、朝市は他のところに任せて、止めました。

もう１つです。これは今も継続して、足利でも、やっているんですけども、「おもちゃの病院」です。2ヶ月に1回、開業しています。これも口コミで広がって、そこそこ、お客さんが来てるらしいです。私もずっと見ているわけではないんで詳しくはわかりませんが。いろんなイベントをしながら、人の手を借りながら、砂利だった場所が、芝生になり、きれいにはなったんですけど、今は残念ながら、この芝生が１つもないんですね。

連続立体交差事業が終了しまして、たぶん足利は 1980 年ぐらいに終了してるんだったと思うんですけども。それから、20 年ぐらい経ってから太田も終了しました。今は、やっと太田駅の北口のところで、整備が始まったんですけども、東部地区が広すぎて、市としても手が付けられないという話を聞きましたので、まだ、そのままかなと思います。

もう１つが、金山城址っていう観光スポットがあるんですけども、そこに続く道が今、整備されてきています。峠を渡る橋ができたり、いろいろな整備をしてます。も

う1つが、町の真ん中に群馬大学の工学部が誘致されてきました。これで学生が増えるかなあと思ったら、思ったほど学生さんが町中を歩かないですね。これをまちの活性化につなげていかなきゃいけないと思っているんですけども、なかなか、できません。

活性化のコンセプトは、「人作りをしましょう」っていうことで、いろいろ投げかけたりしています。とりあえず今は、町のなかに人の流れが作れました。と言うか、集めることはできました。交流館を中心にして、それからどうやって流そうかと考えています。これは、行政の仕事でもありますが、我々も一生懸命やっています。商店街もそれなりに努力しています。行政と連携しながら今、まちづくりをしようとしてるんですが、なかなか結果が見えてこないのも現実です。

これから、どういう活動をしていこうかと今、悩んでいるとこなんですけども、1つが、「子どもたちの声を聞こう」、「町のなかに子どもたちを集めよう」と言うことで、子どもたちが集まってきたらば、それを守る大人たちも来て、活動しよう。そこに来た大人たちに知恵がなければ、高齢者から知恵をもらおう。ということで今の交流館の活動になっています。

先ほどの英語のところをメインにお話をします。

最初、30人で始めた英語の生徒が、今は1,500人になっています。1週間に1,500人です。親子で来て、週にのべ何千人だったか来てます。今、スタッフが真剣にやっていて、スタッフ手作りの本とかがあるんですよ。講師もきちんと自分たちで雇ったほうがいいだろうということで、外国人のアリーとジェイソンは、足利の英語学校から来ている先生です。担当に聞いたところ、日本人スタッフも入れて全部で20何人をNPOで抱えているそうです。金額だけでも結構な人件費になるんですけども。

この交流館を使って、こういうクラスが今、150教室以上あります。この「キッズイングリッシュ」って書いてある本は、スタッフの手作りですね。ここだけでは足らないので、自分たちで同じ敷地に去年、もう1つ教室を作りました。これが、300万円ぐらいかかったんですか。「そこまでやるんなら空き店舗を借りろ」って言われたんで、本町のほうで1箇所、空き店舗を借りました。だから、空き店舗を埋める仕事もしました。

「雇用を何とかしろ」って言われて、ハローワークに行って、ちゃんと求人を出して、3人か4人を採用しています。そういう活動をして、利益を出し、そこで出た利益を先ほど言った、いろんなイベントに振り分けています。

ここのスタッフ、これを企画してる人たちが、「英検を取らせなきゃ駄目だよ」とかって、真剣に子供が飽きないように、いろんなことをやっています。生徒も口コミで増えてっているんですよ。そんなに宣伝しているわけじゃないんですが、足利からも何人か来てますね、大人の方も。

ただし、中学生、高校生、大学生に教えちゃいけない。教えると「塾産業」になって、NPO活動から逸脱する。それで、小学校でも英語が必修科目になると、塾産業になっちゃう。今のところはまだ英語教育じゃなくて、「まあ、小学生まではいいですよ」っていうことらしいです。

ただ、「民業圧迫じゃないか」とか、いろいろ言われることも多々あるんですね。我々の考えとしては民業圧迫ではなくて、

その隙間、隙間でやっています。ここから巣立って、塾に行く方も結構いますし、ここを出発点にしてもらえれば、いいのかなと思ってます。

なぜかって言うと、この金額を見ると「高い」って怒られちゃうんですよ。週 1 回、60 分講座って大人の方が、日本人講師だと月 2,000 円です。外国人講師だと 3,000 円です。ただ、ここの大人の方は、結構年齢層が高くて、80 歳ぐらいまでいるんですね、生徒さんとして。何しに来ているかと言うと、英語という道具を使いながら、コミュニケーションを作りに来ている。だから、しゃべれるか、しゃべれないかではなく、「教わったことは次の日忘れちゃってもいいんだよ」っていう感じで来てます。そこで、友だちを作ったりしながら、終わったあとに「お茶でも飲み行くか」っていう話を、よく聞きます。

もう 1 つが、親子同士の交流があるんです。仲間で来てる人たちはいいんですけども、何か 1 人でポツンと来てる親子もいるんです。そういう人たちが、何組か来るんですね。そのポツンって来ている人たちが、自然と仲間になって、そこで子育ての話をしたりとか、愚痴を言ったりとか、ときには姑の話をしたりとか、いろいろ何か話、耳に入ってくるんですけど、そういうコミュニケーションの場になっているのは確かです。

ただ、英語というのは単なるツールであって、実際には、そこに人間関係を作りにきてるのかなあという感じがします。

ただ、小学生とか幼稚園生になってくると、結果を出さなければいけないので、ある程度しっかりしたカリキュラムを組んでやっていかないと 1,500 人の生徒さんっていうのは、なかなかついて来てはくれないのかなとも思っています。そういう意味では今のスタッフの、がんばりって言うのは、すごいと思います。

今、群馬県には国際アカデミー*っていう、英語だけの授業をするところがあるんですけど、そこの生徒さんたち、小学校何年生で英検の準 2 級をとったりしています。「バカロレア・ディプロマプログラム」っていうのがあるらしいんですけども、そのなかで奉仕活動があって、その一環として、子どもたちの面倒を見にきなさいっていうことで、GKA の子たちが来てます。

＊2005 年 4 月開講、2011 年 10 月 20 日付けで国際バカロレア機構（IBO）のディプロマプログラム実施校に認定されました。国際バカロレアに認定されている学校数は、2011年6月現在、世界141カ国において約3，300校で、日本における認定校の数は19校です。
www.gka-academy.jp/japanese/ib/new_ib.html

５．年間のイベントあれこれ「自分たちが楽しく」

年間のイベントが、結構、あるんです。七夕、キャンプ、アクセサリー講座。これ、最近のほうですね。去年、一昨年か、NPO で出た利益を出して、いちご狩りを毎年やってます。これは市民とまではいかないんですけども、やりたい方がいれば連れていって、地元の農家と交渉していちご狩りをしています。今年は 7 月 1 日に七夕祭りをやりました。小雨だったんですけども、約 800 人ぐらい来ていただきました。

太田に藪塚のスネークセンターというのがあるんですけども、そこから依頼されて、「いろんなイベントをやってくれ」なんていうことで、だいたい赤字なんですけども、そこ行って、子どもたち対象の輪投げやったりとか、いろいろやってます。

あとはキャンプですね。去年は震災の影響で、ちょっと今年もできないかなと思っているんですけども、キャンプも行ってます。このキャンプも、そこそこ、大きなキャンプなんですね。キャンプのなかでも、いろいろ皆さん協力していただいて、子どもたちに理科教室をやってくれたりとか、それも理科の教室の NPO の方々が来て、ドライアイスを使ったアイス作りみたいなのとか、いろいろまことをしてもらってます。

あとは英語のほうですと、ハロウィンパーティなんかも、全部自分たちの手作りで、やったりとか、クリスマスパーティをやったりとか。基本的には、「自分たちが楽しくなければ、やってもつまんない。自分たちがつまらないと、来た人もみんなつまらないよ」と皆さんが言いますから、自分たちが好きなように楽しくっていうのを基本にやってます。

あと、高齢者の方々の団体が楽しみにしてるのが、手芸教室をやって、こういうウサギを作ったりとか、先ほど説明した「かがやき」では、七夕飾り。高齢者の方が集まって、手先を使って細かい作業やっています。

次は、「かがやき」さんの活動です。高齢者部隊ですが、自分たちで、きちんとウェアを作って、今は毎週木曜日、小学校の帰り時間に合わせてパトロール、自分たちで自主的にやってます。最初は「一緒に子どもたちと歩って、町の隅々まで見よう」といってましたが、最近は「もう辻、辻に立って見てればいいよね」なんて感じです。でも、そういう活動をしながら、高齢者の方が仲間作りをしていっていただければ、いいのかなあと思ってます。平均年齢は、もう 75 は過ぎてるんだと思います。一番高齢の方で 82 歳か 3 歳の方ですね。皆さん、若いときには役付きの方ばっかりだったので、やっぱり寂しくなっちゃうのかな、こういうとこ出てきて、言いたいことやってますね。

６．NPO 活動としての課題と活動継続の意義

いろいろ説明はしてきたんですけども、とにかく、人が集まる。去年、集計してみたら年間 17 万人の方が、この施設に来ています。ほんとに建物の規模なんか、たかが知れているんですが、延べ人数にすると 17 万人。じゃあ、町のなかにその人たちの影響がどれだけあるかって言うと、ほとんど今んとこ、ないですねえ。それが今の課題です。せっかく集まってくるこの人たちを、どうやったら町のなかに流すことができるのか。

また、集まってる人たちをどうやったら商店街のほうに引き入れてもらえるのかっていうところが、ちょっと今、詰まってるとこです。詰まるってことを楽しいんで一生懸命、考えてるところです。商店街にも、どういう投げかけをしたらいいのか考えています。実際に、何件か話は来るんです。「ここで何かやってもいいかい？」って話が、どんどん増えてくれば、いいかなと思っています。

桐生のパン屋さんから、「ラスクを置かしてくれませんか」とかね。別にここは公民館でもないですし、NPO がやってるとこで、利益を出してもいいっていうことなんで、「どうぞ」っていうことで、企業が来る分には拒まないようにはしてます。よっぽど変なのでない限りは。今、ヤクルトさんの売上がいいんじゃないんですかね。1 台自動販売機を置いただけで、それだけの人が集まります。結構、稼働率はいいんだと思

います。「よくやってるね」って言われるんですけども、よくやってるわけじゃなくって、誰かがやんなきゃいけないことだし。

「どうしてこんな町になっちゃったの、誰が悪いの？」ってなったときに、「行政が悪い」それとも、「景気が悪いから悪い」じゃなくて、住んでる我々も、悪いところもある。

「じゃあ、何をしたらいいの」ってなったときに、誰かが何かしてくれたのは、昔なんですね。行政に何かお願いするとか、誰かにお願いしたのは。でも、もう今は行政にお願いしても、「予算がありません」って言われて、おしまいなんです。

「じゃあ、自分たちが何をすればいいのか」と考えてくると、行きつくところは、こういうところなのかなあって思ってます。

私の今の説明では、なかなか思いが伝わらないのが、歯がゆいところなんですけども、補助金とか委託金をもらわないっていうのは、活動を止めたくないからなんですね。補助金をもらっちゃうと、補助金が終わったときには活動も終わっちゃう。委託金はもらうと、減額されるのが当たり前で、増額なんてことはありませんから、これから何かやろうとしたときに減額されたら、もう、それ以上のことはできない。だったら最初からもらわずに、駄目だったら、失敗したら、「ごめんなさい」って謝っちゃえばいいし、命まではとられない。まあ、そういう感覚でいないと。

英語を始めたときも、そうなんですけど、「英語なんかやったって駄目だよ」と自分が興味がなかったもんで、言ったときに、ある人が、「おばけ見たことがあるかい」って、「見たこともないのに怖がっても仕様がないんだから、やるだけのこと、やったほうがいいよ」って言われて、「じゃあ、やってみるか」っていうんで始めました。そしたら、まあ、運良く。名前が良かったんだか何だか、分かんないですけども、今のとこ、続いてます。ただ、これも、いつまで続くかも分かりませんし、もしかしたらば、行政サイドの考え方が変われば、施設が使えなくなる可能性もあります。それは分からないです。

ただ、これだけの市民に支持されているっていうことになると、途中で止めるわけにもいかないし、いい加減にするわけにもいかないし、責任が増してきた。始めちゃったおかげで責任が増してきたっていうのも事実です。その責任が増してきたっていうのが、やっぱり継続していく、一番の今は力になっている。

若いうちは何でもできたんですけどもね、最近はもう、疲れるほうが先で。「七夕祭りか、準備が大変だなあ」とか思うんですけども。いざ、やってみると、やっぱり皆さんの笑顔を見ると楽しくて、「また来年も、やんなきゃいけないのかなあ」なんて、ちょっと今、思っています。基本は子どもたちのためにやれば、親も動くし、親が行き詰れば高齢者も動いてくれる。そういうところで、いろんなことをやっています。それが後々の子どもたち、子孫のために何かなっていくのであれば、やってる意味もあるのかなあと思って、やらせていただいております。

1 時間も喋ってられないんで、このへんで終わりにして、あとは、質問を受けてしゃべったほうが楽なんで、概略だけ説明させていただきました。あとは質疑応答で、いろいろ細かいことをしゃべっていきたいと思いますので以上で、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。なかなか話にまとまりがなくて、難しいんです。

司会

どうもありがとうございました。まとめ方が難しいんですけど、やっぱり NPO 活動の本来あるべき１つのモデルかなっていう感じがしました。「プラットフォーム」って言うんでしょうね。ある場を提供する。場を提供することに徹しているっていうところが、素晴らしいなと思いました。実に、興味深くお伺いました。むしろ変にまとめるよりも、吉田さんが、おっしゃるように、質問して答えていただくっていうなかで、皆さんのイメージを広げたほうがいいかな、と思います。どなたからでも、どうぞっていうことで。

吉田講師

どんな質問でも結構です。

７．まちづくりの道具としての英語

A 氏

正直言って、1,500 人の英語の授業っていうのは、とても大変な規模だと思うんですが、収益、相当上がりますよね？きっと。

吉田講師

収益ですか？収益は、そんなにはないですね。収入はあります。収入は、4,000 万ぐらい。今、全部、会計を見られます。我々の収入、県のほうに登録してあるんで全部、年 1 回提出してます。単純に計算すると 1,500 人で、だいたい平均すると 2,500 円の月謝です。そうすると、年間 4,000 万弱ぐらいかな。その代わり、人件費が 3,800 万ぐらいかかります。外国人講師って、結構いい値段なんです。日本人のスタッフは、最初はボランティアのつもりで、500 円でやってたんですけども、だんだん人が増えてきたんで時給の最低限度の保障、群馬県の最低のところにしましょうって言うと、800 円以上なんですね。それで、「英語ができる人は、900 円にしましょう」とか、「先生やっていただいたら、いくらにしましょう」とやっていくと、だいたい年間 3,800 万、約 8 割が人件費です。もう、これは仕様がないですよね。それだけの月謝しか、もらってないんですから。そのなかから、その他に水道代と高熱費、あと、結構、人がいるので、保険もあちこち入ってます。もろもろいくと赤字。去年の決済で赤字が、ちょっと出ました。

その前が、ずっと黒字で来てたんで、うまく相殺できたんです。なおかつ、今回は新しい建物を建てましたんで、それは「理事長さん、立替えてください」っていうことでしたが、1 年間で返してはもらえました。そのくらいの規模のお金は動きます。それで、手元にいくら残ったのかって、たいして残ってはいないんですけど。

B 氏

太田市の場合は、清水市長さんが英語教育を中心にやろうと思ったこともあって、確か、学校教育法の関係で前にちょっと県議会でも、もめたこともあったんだけど。今やってるクラッセは、いわゆる学校教育法の関係ではなくて、やってきてるわけですね。そこらへん、何か関連性、ありますか。

吉田講師

よく言われるんですね。GKA、群馬国際アカデミーがあるから、これがいいんだねって言うけど、全然そんなことないんです。逆なんですね。行けない子たちが多い。向こうは、もう全然レベルが違う、と言うと語弊があるんですけど。最初から、意識もしてなかったですけども、たまたま、そういうのがあるから、英語がいいねって言われるんですけども、決してそんなことはないです。英語っていうものに対して、たぶ

ん太田の市民は興味を持ってたんだと思います、もともと。ただ、それを受け入れる場所がなかったのかな。特に、ユニクロなんかも、会議は英語でどうのこうのっていうニュースが出る度に、「うちの子も英語ができなきゃいけない」という不安感もあったりするんでしょうが、実際に英語教育のためにやっているわけじゃなくて、まちづくりの1つの道具が英語だったっていうところですかね。

A 氏

道具であったら何でも。極端な言い方すると、人が集まるためだったら何でもいいっていうことですよね、さっきのお話のなかですね。非常に明快ですね。その部分は。

B 氏

それにしても、その人数が、1,500 人、普通では、考えられないような数字なんですね。たとえば、さっきイギリスで教えてた人は、イギリスの場合だと5歳で入学するわけなので、そうすると、幼稚園のほうで英語をやっても、そのぐらいを対象にしてやることも面白いんだけど、1,500 人という規模の数字じゃない。ちょっと考えれられない数字なんですよ。1 桁違う感じがする。

吉田講師

そうですねえ。皆さんが、もしも太田に来ることがあって、3 時過ぎにこの前を通るとそこだけ異空間です。町の他のところは人がいないのに、そこの場所だけ、親と子がドオーッと集まって、片や勉強して、片や外で遊んで。今はちょうど七夕飾りがきれいに飾ってあるんですけど。ほんとに異空間になってますよ。そのくらい人がいます。だいたい見ると 1,200 人は子ども、300 人が大人っていう感じですかねえ。

大人の方も、だいたい 40 代から 80 代まで。先ほど言ったように、日本人の先生に教わる大人の方々は英語っていうよりも、そこにコミュニケーション作りに来ている。定年になったんだけど、次に行くためのステップアップに、ちょっと英語でもっていう人も何人かいました。だから、いろんな人が集まる場所、英語がツールって言うんですかね。どうしても、英語だけが特化されちゃうんですけども、やってることは他のほうが多いんです。この間は、「全国都市緑化祭」があったときには小学生、高齢者、全部集めて何千鉢かプランター作りをしたりしてるんですが、そういう活動は、かすんじゃうんですね。英語の 1,500 人という数字が言われちゃうんで。9 時までが今日も英語教室やってますんで。

B 氏

それは、遊びみたいなものを入れながら、やってるんですか。それとも conversation（会話）を専門にやってるのかな。

吉田講師

そうですね。2、3 歳児の親子っていうのは、一緒に歌を歌ったり、ダンスをしたりとかっていうことです。幼稚園になってくると、きちんと今度は ABC から始まって、5、6 年生になると、英会話が中心ですかね。6 年生になると文法、中学への準備ということでやってます。

最初に、すごいなあと思ったのが、子どものうちにやってると、発音が全然違ってくるのは、確かですね。親子でやってるから、8 年ぐらいやってる子がいますが、その子たちは発音が違います。「ヤロ、ヤロ」とか，何かよく分かんない、何を言ってるんだろうと思ったら、「yellow」だった。ずっとあそこで聞いてると子どもの発音が親と違うっていうのは、よく分かりますね。ただ，そればかりやってると、日本の英語

の場合は、テストができなくなっちゃうので、6 年生になってから文法を取り入れるようになりました。それも、やっぱり親からの要望なんですね。基本的に、何やるのも全部、要望から始まってます、市民の要望からです。七夕祭りもそうですし、キャンプもそうですし。全部、要望から始まっています。

B 氏

クラッセの事務所、ナカムラヤの隣なんで、非常に分かりやすいとこですよね。たぶん両毛地区一番の本屋は、ナカムラ本屋さんだろうって思うんで。駐車場もナカムラさんの駐車場、使えるんと思います。

吉田講師

いやあ、一切、使えないです。もう 1 つが、それが行政との共同作業ってわけじゃないんですけどもそこを触れようと思って、忘れました。そこだけでは 1,500 人をさばけっこないんです。駐車場は何かって言うと、区画整理が入ってたので、保留地がいっぱいあるんですね。本来は、そこは使っちゃいけないんだけども、黙認をしてくださっていると言うか、高架の下に結構あるんです。

A 氏

売れない保留地ね。

吉田講師

売れない保留地ですから、区画整理がこれから進んでくと、まずそこが、変わってくるんでしょうけど。今のところは、まだ空き地になってるだけなんですね。そのかわり、「お前ら空き地なんだから、草が生えるんだから処理しろ。」それが年間、何十万円か、草の処理費用も出さなきゃいけないんですね、やっぱり。ただで借りちゃあ、いけないらしい。お金を払って借りてるわけじゃないけど「ちゃんと草の手入れはしなさい」ということです。

B 氏

だいぶ保留地があるでしょう。

吉田講師

あります。ただ、ちっちゃいですよ、町のなかなんで。大きな保留地がないんですね。

８. 太田の街中

B 氏

あそこらへんは花柳界って言うか、飲み屋さん、昔はずいぶんあったんですね。

吉田講師

よく御存知で。あそこの裏で、今の太田の南口っていう場所、分かりますかね。南口ができるまでは、そこが中心だったんですね。

B 氏

今、南口 1 番街になってるとこは、もともと沼沢地だった。

吉田講師

そうですね。この交流館があるようなところが、もともと飲み屋街で、昔の古い家は置屋作りみたいになっていて、出窓があったりとか、裏のほうに行くといろいろあるんです。

B 氏

案外、趣があったね。風呂屋のとこ、まだ残ってるけどね。

吉田講師

そう。その風呂屋を使ってキャンプやったんです。でも、やっぱまちづくりからすると、足利はいいですよね、太田から比べると。ここを歩いてきても、それなりに道路が整ってるなあというイメージがありますね。太田は、一度、裏通り入るとね、これでいいのか？って、やっぱ思うと思いますよ。

A 氏

でも、足利も人は歩いてないですよね。

吉田講師

まあ、それは同じですね。そこで，街中に拠点を作ろうと思って，ひな祭りのときに交流館ともう１つ、行政センターっていう 100 メートルぐらい離れたところをつないで，イベントをやったんですけども、やっぱ今の人は歩かないですね。目的地へ行って、次は車で移動してしまう。町を歩ってもらおうと思って、いろいろやっているんですけど、なかなか歩いてくれないですね。

B 氏

せっかくあんな近くにあるのにねえ。

吉田講師

そうなんですよ。スタンプラリーやって特賞が 3DS のゲームとか､いろいろ予算のなかでやるんですけど。そのときだけですね、歩いてくれるのは。

B 氏

大光院の関係っていうの、何か、ありますか？

吉田講師

今、私がたまたま商工会議所のほうの議員もやってるんでが,「呑龍市」というのをやっているんですね。開山忌であるとか、呑龍市というイベントやるときだけなんですね、人がそこに集まるのも。我々も関わったことがあるんですけども、どうしてもイベントってなると食べるものが中心になっちゃって。模擬店の大きいのみたいなにになっちゃう傾向がありますねえ。

B 氏

今、売り出し中の太田焼きそばとかね。

吉田講師

そうですね。で、太田焼きそばも今いろいろあって、なかなかビーワングランプリでもいいとこも行かないですからねえ。こないだ、うちのうどんが足利で B1 みたいなやつをハンバーグか何か、あれの 3 位かになったのかな、うちのうどんが行ってたんですよ。

B 氏

人気投票で、クロワッサンじゃない、何だっけ。あのハンバーグね。あれが 1 位。去年もそうだけど、太田のうどん。

吉田講師

たまたま、そのお客さんが足利のお客さんだったんです。でも、太田では、そういうのは、ないですね．そこで順番をつけるのを嫌がるのか、1 回，今年やったんですけど､焼きそばの順番つける企画を｡でも，何か全然、味と順位が違ったみたい。動員かけたところが強かったみたいですね、話を聞くと。

B 氏

昔は、呑龍様の前に、お店がずいぶんあったんだけど、今はもう、1 軒もないでしょ。

吉田講師

昔ながらの太鼓が置いてあったり、昔のブリキのおもちゃが置いてあるような、そういうおもちゃ屋さん，おみやげ屋さんですかねえ．それも、おじいちゃんが亡くなれば、おしまいだよっていうところばっかりですねえ。

B 氏

風呂屋があって、映画館があったけど、全部そこんところは整備されちゃった。

吉田講師

全部ないですねえ。太田で元気はどう探してもないなあ。南口は最近、一時すごく衰退したんですけども、富士重工が，今、盛り返してるんで，最近はちょっと夜、また明るいですね。ちょっと前までは、ほん

と閑散としていまして、暗かったです。イオンもできたときには、すごかったんですけどねえ。最近は、周りの道路もあんまり渋滞もしないですしねえ。

９.太田市のまちづくり事業と芝生の剥げるまで

C 氏

ちょっと後ろから、すみませんね。よろしいですか。太田市は市長さんの姿勢もあって、いろいろ民間の活動には理解があるように伺ってるんですけど。クラッセ太田さん以外にも、いろいろ活動をされてるグループがあるんではないかと思うんですけども、そういう活動母体相互の何か連携っていうのは、あるんでしょうか。

吉田講師

たぶん、こういう活動をしてるとこは、ないと思うんですよ，他では。ただ、同じようなNPOで､児童館の委託を受けたり、そこで独自に活動してるとか、いろいろやってるところはあるんで、そういうところとは、たとえば小っちゃなことですけど、「ペットボトルのキャップを集めてください」なんて依頼は、ここで 1,500 人からいますから、皆さんに通知を出せば，ドーッと集まってきます、そういうつながりは作ってます。だから、その 1,500 人の人たちに協力はしていただけますね。この間は，子どもたちのためにっていうことで、英語の先生がアフリカにこの本を持っていったんですね。そのときも 1,500 人の方々の一部から､「じゃあ、これも持ってって」とか協力したこともありますね。

C 氏

そういうグループっていうのは、どのくらいあるんですかねえ。

吉田講師

太田は結構 NPO の数も多いですし、指定管理者も多いかも知れないですね。しかし、実際に、それじゃあ、他の団体と何か交流があるかと言うと、そんなにない。というのも福祉と違うので。福祉は補助金や委託金がなければ、もうやっていけない分野だと思うんですが，まちづくりは、補助金とか委託金とかがないんで、自分たちでやんなきゃっていうんで、あんまり横のつながりが、ないですかねえ。NPO 何とかセンターみたいんがあって、そこに登録するといろんな情報が来るんですけど、皆さんの団体を紹介しませんか、みたいなの来るんですけど、実際の連携はあまり見たことがないですねえ。

B 氏

太田市は，まちづくりの 1%条例*がありますよね。1%条例から見て、何か変わったこと、ありますか。

＊1%まちづくり事業：地域コミュニティをより活性化させるための事業として、市税の１％相当を財源に、「地域が考え行動し汗を流す」行政と住民の協働事業を平成１８年度から実施しています。「１％まちづくり事業」の対象になる事業は、「地域内の人の交流が図られる事業」や「地域の特色を出すことができる事業」、「地域を活性化させる事業」、「住民による労力提供がある事業」などで、継続的に維持管理が行われる事業や波及効果の高い事業が対象になります。
http://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0060-001chiiki-soumu/matidukuri.html より

吉田講師

基本的に 1%条例は、たぶん補助金を全部カットしちゃったんですね。他のいろんな団体の補助金をカットして､「やる気のあるやつは､ちゃんと企画をして持ってこい。

そうすれば予算をつけるよ」って、そういう意味だと思うんです。従来の飲み会に使ったんだか、何に使ったんだか、分からないような補助金を、「きちんと企画書、予算書を出せばつけます」ということで来たので、やってるところは、きちんとやるようになった。町はそれで,花を植えますとか、子どものために何かを作りますとかっていうのが多いですかね。私が、条例の委員をやってるときに出てきたのは、花を植えて町をきれいにしたい、というのが多かったですかねえ。

ただ、1%って言っても、実際に予算の1%は使い切れないですね。以前は，予算の1%で3億円の予算があったんですけど、実際使ったのは 2 千万ぐらいですね、1 年目は。それだけ委員が厳しいです。これは自分たちの団体で、できるやつだろうと。これは他のところからの予算でやるべきだろう、とかっていう議論は結構、多いですね。変な言い方かもしれませんが、他の課の予算を使わないで 1%予算を使えば、そこの課の予算は使わないで済むっていうのもあるんでしょうから、場合によっては，1%に付け替えて持ってくるっていうのもあります。すると、委員のほうが見て、「これはそっちの課でやるべきもんだよ」とかっていう振り分けをしてます。

B 氏

本来、行政体でできないことで、1%条例があるわけで、それじゃあなくて、行政体でできることをやっているんでは、同じことになっちゃいますね。

吉田講師

そうなんですよ。だから、市民、我々がどんな発想を持って、どんなことをやれるかっていうことをきっちりぶつければ、1%は、たぶん出るんですね。それが何となく行政がらみでやっちゃうと、いけないわけで。

A 氏

さっきのピザのかまども、その 1%ですか。

吉田講師

いや、一切ないです。

A 氏

じゃ、ほとんどのお金、もらってないんですか。

吉田講師

補助金をもらったのは、まちづくり何とかっていう県のほうの予算でした。ピザの窯を作ったんだけど、雨にさらされちゃうんで、「ちょっと屋根をつけてください」と作っていただきました。活動費と言うよりは、施設には補助金で作ったところは、いくつかあります。活動費は一切ないです。実際に、補助金をもらわなければ、あれだけの施設を大きくしてくことは、なかなか難しかったんです。でも、それも最初だけですね。今は全部、「建てたいんだけど」っていっても、「自分たちで建てて」って言われて、建てたりとかしてます。さっきの芝生がなくなっちゃったは、1,500 人集まるんで、年中，歩ってるんで、きれいに、はげちゃったんですね。

A 氏・B 氏

ああ。それか。すごいですね。芝生がはげるほど人が来るっていうのは。

吉田講師

きれいに、はげちゃったんで、「せめて目の前ぐらい人工芝にしようよ」と自分たちで作ったけど，それももう、はげてきちゃっています。

吉田講師

それだけ人が来るっていうことは、逆にもめごとも多いと言うか。子どもの飛び出

しがあって危ない、うるさい、石を投げる子どもがいるとか。今の親のモラルの問題なんだけど、平気でエンジンかけっぱなしで､夏場はクーラーつけて待っているから、排気ガスがうちのほうへ来て仕様がない。もう、そういう苦情はいっぱい。苦情処理が、私の役割みたいなもんです。

１０．NPO クラッセの仲間と日常の活動

B 氏

本来の NPO クラッセのメンバーはどのぐらい，いらっしゃるの.

吉田講師

本来のクラッセ自体の仲間たちは，このちょっと若めの写真で申し訳ないんですけど、理事が 5 名います。1 人は幹事で、理事とは関係ないです。私含めて 6 名の理事です。

今、英語を担当してるのは、この女性方です。この方が独身のときに、ロンドンにいて、こっちでもっていうことです。

この方が床屋さん，富士重工の正門の前の伊勢屋っていう和菓子屋さんやってる方ですけども、そこの社長です．床屋さん。この方は主婦です。会計を一手に引き受けてもらっている税理士さんです。やっぱり税理士さんがいないと、かなりの金額が動くんで大変なんで、申告から何から全部をしていただいてます。その他イベントは、地域のお母さん方が集まってやってます。英語のスタッフじゃなくて、イベントのスタッフですね。だいたい総勢このくらいの人数でやってます。それプラス、英語のスタッフが 20 名ぐらいおります。

B 氏

これ、会員の会費制で運営しているんですか？

吉田講師

いや、一切ないです。会費も取ってないです。どちらかと言うと、いろいろがんばっていただくんで、飲み代を若干、そのときどきに会費としてもらう程度で，個々には、もらってはいないです。

A 氏

皆さん、サラリーマンじゃなくて自営業の方ですかね。

吉田講師

そうですね。サラリーマンは理事にはいないですね。スタッフの男性なら、この 2 名の方がサラリーマン。この人は水道屋さんと床屋さん。サラリーマンは、富士通と富士重工さんですかね。あとは皆さん、主婦、ママ友なんですね、みんな。幼稚園からのつながりで、ずっと来ている。「つながりが強すぎちゃうと、他の人がなかなか入れない」っていう苦情も受けたんですけども、「まあまあ、そう言わずに、皆さん入ってきてください」って言って，この人は、今は，水戸のほうに行っちゃったんですけど、たまには連絡を取り合っています。英語は，日本人スタッフが 15 名ぐらい、外国人スタッフが、直雇いが 3 名。その他、アルバイトで来てもらっている方が 3 名ぐらい。

C 氏

もう 1 つ、これは多少プライベートな話題になるのかも知れませんけども、吉田さんの、そもそもの本業と、今の活動との関係について、どんなふうにお考えになっているのかっていうことと、メンバーの方もサラリーマンが少なくて、やっぱり自営の方と主婦が、わりと多そうですね。そういう方々が自分の本来の、生計のもとになる仕事とこういう活動との関係について、どんなふうにお考えになっているのかなあと

思いまして。吉田さんは 51 歳っていうから、まだ、だいぶんお若いから。十分、体力的には、大丈夫と思うんですけれども，ご家庭の問題とか、いろいろ含めてどういうふうにお考えになってるのかなあ。

吉田講師

これは仕事ではないんですけども、一応、お金を市民の方からいただいているっていう責任も十分あります。そのへんが、他の理事の方には、無理は言えないことでも、まあ、仕様がない、私がやんなきゃいけないっていうこともあるんですけど、ただ、今の英語の活動であるとか、イベントの活動っていうのは、もちろん責任持ってやんなきゃいけないので、ここにいる理事の方、今まで主婦だったんですけども、きちんと仕事として、やってもらうようにしています。ちゃんと給料も払って、きちんと仕事としてやってくださいということです。

それで今の体系を作って、人を使って，そうじゃないと、ボランティアだけでは、やりきれない。今はこの女性に、仕事としてやってください。主婦だったんだけども、会社で言うと、管理職ですかね。管理職になって、やってください。そして，「私が責任を取る係ですよ」っていう形ですかね。

自分の仕事の合間、合間でしてるんだから、たまたま嫁さんが仕事が多少できるんで、お願いして、出てくることも多々ありますけども。他の理事の方も、これはもう皆さん同じで，できる範囲でやってます。仕事を持ってる方は、できる範囲でやってもらって，ただし、この主婦の方だけは給料を払いますから、仕事としてやってくださいっていうことですかねえ。

B 氏

そうすると、配偶者控除以上の収入ですか。さっきの払い方で言うと、かなりになってるはずだから。130 万とか、そういう金額ではないはず。

吉田講師

ああ、もう全然違います。外国人が、もう特別に高い給料なんで、これはもう仕様がないんです。月給制で先生もやってもらってる。日本人のスタッフじゃなくて、日本人講師の先生として、やってもらってる先生の部分とも別ということで。もともとが、この方は配偶者控除がない、不動産の収入がある方なんです。

B 氏

自営業ですね。不動産所得があるんだね。

吉田講師

そうですね。そういう意味では、自営業ですね。不動産所得があるんで、NPO の役員になったわけですね。でも今は全部、時給制にしてもらってます。

C 氏

最初に、英語を使って、まちづくりのツールとしてっていうのは、たまたま、その理事の方がいたから、ここまで発展したということですか。

吉田講師

はい。ほんとにきっかけは、そうです。ここまで発展したのは、その理事の方が、ほんとうに，いろいろ考えたアイデアをここにいるメンバーが最初は、外に発信して，知らない間に、口コミが大きく，「聞いたんですけど」っていう形でした。30 人から始めて、「この程度でやっていれば、トントンでいいか」って最初は思ってたんですね。そしたらとんでもない。「私も入れてください、私も入れてください」ってことでした。

市の広報誌も年に 1 回ぐらい、「こんなことやってますよ」というの出すぐらいです。あとはもう、ほとんど口コミですね。口コミの恐いところは、いい加減なことす

ると駄目ですから。今のところは、来る人を断ってる状況ですが。もういっぱいなんです。時間がだいたい同じなんです。幼稚園が終わったらこの時間帯、小学校が終わったらこの時間帯。するとレッスンの時間帯が集中して、断ってる状態です。「空いたら入れてください」と今はキャンセル待ちで順番がついて、待ってるんです。

１１．NPO 活動と学童保育

B 氏

手が回んないと思うんだけど、学童保育に対しては、どうですか。

吉田講師

一時、学童保育みたいなのものもという話もあったんですけど。実際には、できなかったですね。手がなかったっていうのと、太田の場合は、各学校にも学童保育があるんで、全部吸収ができていたんですね。民間の学童保育も、いくつかあります。

太田は、学童保育は充実してるんじゃないですかねえ。あとはスポーツ少年団という形で、子どもたちが、運動してる時間帯でもあります。学童保育をしてる時間帯は。面倒見てくれてるボランティアのお父さん、お母さん方がいっぱいいるってことなんですかねえ。

B 氏

学童保育に関しては、NPO 法人がやるのが一番望ましいような形を、県なんかでは言ってるんだけどね。

吉田講師

そうですね。だから、そこできちんと、いただくものは、いただいて運営をすることができてかないと。補助金でやってると難しいんかも知れないですね。委託でやってても委託費なんか絶対、増えることはないです。「よくやってるから委託金を増やしてあげるよ」ってことは、あり得ない。NPO がきちんと計画を立ててやったほうのが、いいのかなあと思います。高いとこだと月に１万８千円ぐらい取ってるところもあります。そのかわり、食事も休みも全部見てくれて、ときにはバスを使って、どっかにリクリエーションに行ってという具合です。学童保育ですよ。そういうこともしてくれるところは民間では、きちんと１万以上取っても成り立っているんです。だけど，学校を使ってやってる学童保育は、とりあえず親が帰るまで預かって、宿題の面倒見てあげてというまでが限界です。

D 氏

すいません。人数は、そういうふうに増えた場合、建物は最初、建てたものだけで、あとは空き店舗ということですか。

吉田講師

そうですね。空き店舗が今１店舗と、あとは自分たちで建てた建物が１つと全部で４つ、今使ってやっています。

C 氏

最初の発想は、やはり建物を建てたから、集まって活動をやるっていうことでしょうか。

吉田講師

そうです。一番最初は、イベントをやればいいのか、なんて思ってたんですけど、実際いろいろ勉強してみると、それもイベントだけでは、もう無理だ。やっぱり何か目的を持って、そこに来てもらうっていうことをしないと、人は集まってくれないということに気が付いて、英語が出てきたんですね。ただ単に，「イベントやって、来てください」っていうんだと、限界があるんだと思います。「英語をしに来よう」という目的を来場者に持たせることが必要だと思います。

B 氏

そしたら、英語はツールだよね。

吉田講師

ほんとに、そうなんですよ。そこに来てもらうための、ツールなんですね。ただ、そのツールがいい加減だと、続かないんですよ。きちんとしたものでないと。

E 氏

すいません。1,500 人も英語で、来ていらっしゃる方がいるわけじゃないですか。その英語以外の、七夕のイベントとか、他のことにいろいろ広がりを持っていくようなつながりが、あるようなふうに進んでいったりしたんですか。だから，最初は英語にしか来ない親子とか、大人だけがいたりとか，そこから、「あ、こっちも面白そう」とかっていうことに行く人も多いんですか。

吉田講師

まず、キャンプがそうだったですね。それ、英語に来ながら、キャンプもやりたいとか、町のなかで、いろんなことに参加したりとかね。逆に、地域の人たちがそこに来て、英語に来てる人たちとつながりができたりとかもしました。目的は英語で来てるんですけど、そこから、いろんなことが始まってるっていうことも、ありますよね。

特に、この七夕祭りなんかもそうですけど、半分以上は、英語に来てる人たちです。英語の先生が、いろんなイベントに参加してくれるんです。今回は「ハカ」、ニュージーランドの先生が「ハカ」っていうラグビーのオールブラックスが、試合の最初にやる、あの踊りをしてくれたり，とかですね。いろいろ、そんなつながり。それは英語だけではなくて、逆に地域の人たちに、そういうものを提供したりということで、うまく地域と英語をつないでますね。

D 氏

足利は、学童っていうのは育成会が、あって。スポーツ関係を、すごく家族と、コーチとタイアップして、猛烈なんですね。そうすると、そういうところに余裕がなくなってしまって。

吉田講師

ここもそうです。参加者は低学年が多いんですね。高学年なるとスポ少って、どうしてもそっちに重点がいっちゃうんで，だから 5、6 年生のクラスが少ない。でも、これはもう仕様がないんですね。

D 氏

結局、試合があるから。

吉田講師

そうですね。その時間帯は、もう練習で、今は暗くなるまで練習してますね。私は、たまたまスポーツ推進委員、昔の体育指導員をやってるんですけど，子どもたちに教えることが、今はハード過ぎるぐらいです。余裕がないですね、スポーツやってる子は。

B 氏

はっきり言うと、スポーツやり過ぎでね。日曜までやっている。あれは、学校の先生も、子どもにとっても、また、家族にとってもマイナスなんだけどね。

吉田講師

太田の場合は年間で、指導者講習会みたいのがあって、「これ以上やっちゃうと、子どものために良くないですよ」っていう勉強会を開いてるんですけど、どうしても親の期待に応えるためには、がんばらないとっていうところが、あるんかも知んないですねえ。

A 氏

子ども会が、もう成立しなくなりましたものね。

吉田講師

そうですね。町のなかだって、1 つの町内で世帯が 9 世帯とかしかないところもあるんですね。もう、子ども会なんていうのは、ないですからね。

A 氏

だから、先ほどの、そのキャンプも，昔の子ども会的な活動ですよね。

吉田講師

そうですね。もう 1 つ、先ほどのそのスポーツで言うと、本来は総合型地域スポーツクラブっていうものがあるんです。これは、誰でも、いつでも、どこでも参加できるようなスポーツクラブを作ってくださいという文科省の勧めがあるんです。そこまで行くには、NPO とかじゃないとできない。予算がかかりますから。一番楽なのが、スポ少みたいに、親が関わってやって、先生が助けてくれて、一生懸命親の期待を背負って、勝つまでがんばってという形なんです.

文科省の仕組みは、地域のなかで、中学校区のなかに 1 個ぐらい、クラブを作って、親子から高齢者まで、アマチュアからプロまでが集えるようなクラブを作りなさいということです。それは、今かかってる費用はなしにして、それぞれクラブで自立してやってくださいっていうことだと思うんです。

そういう意味で、太田は、市長がそういうことが好きで、「おおたスポーツアカデミー」というのをまた別に作って、いろいろやってます。そのなかで、オリンピックのマラソン候補になった中里麗美、今回は出られなかったですけど，中里麗美であるとか、何人かいますね。あとサッカーで言うと鈴木選手も、おおたスポーツアカデミーの出身ですね。本来は、行政ではなく、民間でそういうのを作ってくださいっていうことなんですけどもね。

B 氏

地域のお祭りなんかは、どういう関わり、持ってます？

吉田講師

ここは公共施設なんで、お祭りのときは、誰が来ても対処できるように無料休憩所ということで、コーヒー出した，休んでもらう場所ですね。あとは、たまに、占いの人たちが来て、その場所を使ってやったりとか、何かやってますね。場所を提供してるっていう感じですかね。

A 氏

ほんとに公設民営の、ものすごく成功した事例というですねえ。だから、たぶんこういう使い方をすれば、公設民営ってのは一番効率がいいんだろうと思います。

C 氏

清水市長が、作ろうなんて、よく言いましたね。

吉田講師

市長のツイッターにも、よく書いてもらうんですけど，もともとは、区画整理がかかってるんで、何とかしなきゃいけないっていう場所でした。あんまり反対運動されても困るからだと思うんですけども，我々がやりたいっていったとき，こういう場所があるから、ここでいろんなことやってみないか、まちづくりしないかっていうことで始まりました。

始めた当時は、「2 回続けて宝くじの予算を群馬県がもらうことになっちゃうんでたぶん出ないよ」って言われたんですけども、一生懸命動いていただいて、2 年続けもらえたっていうことです。2 千万円出たらしいですが、私は細かいことを知らないですけど、あの蔵を壊すのに 500 万円かかった

らしいんです。建てるのに 1,500 万しかなくて、どうやって建てるのって、プロポーサルって、何ですかねえ。そこで、私も出さしていただいて、「まともな企業の提案は柱 4 本と屋根がくっつくだけだよ」って言われた。あと、何かやるときには、その周りに幕でもひいて、イベント会場にしたらっていう提案もありました。でも、こっちは、「せめて元あった蔵のイメージも残しながら、建てて欲しいって」といって、「じゃ、箱だけですよ」ということで、箱だけ作ってもらった訳です。

B 氏

蔵は、あんまり価値なかったですか。建物として。

吉田講師

木造に石壁がくっついているだけだったんですね。なかも木がだいぶ取れて、何箇所か、もう落っこちそうなとこがあったんで補強も聞いたんです。「補強していただきたい」といたらば、6 千万とかかかるとかって言われて、もう到底、市では予算的に無理だっていうことで、立て替えになりました。

A 氏

土地は、保留地ですか。

吉田講師

土地は区画整理が進んだときに曳家をするときに道具を入れとく場所にその蔵を使えばいいんじゃないかっていうことで、取得した場所らしいんです。移転工法は曳家がメインなんです.

A 氏

市有地ですね。

吉田講師

そうですね。

B 氏

壊れる前に周辺には、建物なかったですか、ビルが。

吉田講師

日航パレスが，奥です。これが反対から撮った写真です。

B 氏

何か、残念な気がするね。壊れちゃあ、仕様がないからねえ。

吉田講師

でもなかへ入ると柱は取れちゃってるし、大黒柱で支えてる状態。結構、大きな地震でも大丈夫だったんだから、大丈夫じゃないといったんですけど、駄目だったですねえ。たぶん今回の地震で持たなかったです。

１２.「町が良くなれば自分の商売もよくなる」、思いと地域活性化

吉田講師

いろいろお話して来たんですが、我々、たいしたことをやっているって意識がないから、あんまり説明しろと言われても、できないんだと思うんです。自分がやってるっていうよりも、皆さんにお願いしてるって感じなんですよ。

B 氏

私も感じたんだけど、要望に応えてるっていうことかね。だから役所とは、だいぶ違う。

A 氏

住民がやって欲しいことを、やってるんですね。

B 氏

役所がやりたいことを市民に「やれ」って言って、市民がついて来るか、来ないかの問題と市民に「やって欲しい」と言われて、役所がついてったってことの違いがありますよね。

吉田講師

要望に応えるっていうよりも、「あれやっ

て、これやって」って言われて、やったときに喜んでもらえるのは、楽しいって思いますよね、やっぱり。

基本的には、行政と何か話をするときに、「『何でやってるか』って言うと、『自分ちの商売が良くなるためには、町が良くならないといけない、町がよくなると自然と自分ちの商売が良くなるんだ』と思いがなけりゃできない」とは言ってるんですけどね。

だから「協力してよ」って言うんだけど。自分だけの努力って、たかが知れてると思うんですよ、個人の努力は。でも、全体が良くなって、町全体が良くなると、自然と自分ちも良くなるよっていうところがないと、やってられないかも知れないですね。

B 氏

まあ、たぶんね。長浜の黒壁だって基本的には、そういうことですわね。結果的に町が良くなれば、自分も良くなるって考え方。

A 氏

そう。だからやっぱり、自営で仕事をされてる方が、中心にならざるを得ないんですよね。サラリーマンってのは、私もサラリーマンやってましたけど、結局、週末しか家にいなくて、地域的つながりが、ないです。

D 氏

そのクラッセは何年目ですか。

吉田講師

平成 18 年度からですから、7 年目に入ります。

D 氏

太田の市長さんは何期目ですか。

吉田講師

5 期になるんですかねえ。合併してからは 3 期、2 期かな。未だ元気、衰えないですね。

G 氏

だから、そんなに歳じゃないよねえ。ときどきテレビに出るもんね。自分が慶応の幼稚舎からやってるのに、英語はしゃべれないから、英語をやるっていう塾の先生ですからね。

吉田講師

うん、もともと、そうですね。ただ、今の市長が私の結婚式か何かのときの挨拶だったですが、当時はまだ県会議員だったんですけど、そのときの挨拶が、「お前は太田で生まれて育ったんだから、太田のために、これからやれ」って言われたのが結構、印象的でしたね。地域的な、そういうのを大事にすると言うか。

C 氏

前回の公開講座の栃木市や伊勢崎市は、もとからある伊勢崎銘仙とか栃木の蔵とか地域特有のものを使って、外から人を呼び込んで活性化しようっていうイメージだったんですけど、今回の太田市は、自分たち，市内の人たち、地元の人々の交流にすることで、活性化をしているイメージを感じたんですけれども、そういう外からの人にもアピールしていきたいとか、有名にしたいっていう、考えはとは違うんですか。

吉田講師

そうですねえ。悲しいかな、太田市には、そういう意味では何かアピールするような財産がないですね。足利の場合はほんとに、そういう意味では財産がいっぱい、アピールする気になれば、あるでしょうし、宇都宮もそうです。栃木も山車会館があってとか、あのへんの町並みもきれいですし、伊勢崎も要するに銘仙っていうこともあります。

太田の場合は富士重工しかないような気がするんですね。本来は違うらしいんです

よ。大光院呑龍様、徳川家康がどうのこうのって、由緒正しく、新田義貞と足利尊氏がどうのこうのとかって、いろいろあるらしいんですけども、なかなかそれがメインに出てこないですね。それだけ、何て言うんですかね。文化がないと言うのか、太田の場合。

表現がちょっと難しいんですけど。財産が少ないですね。だから自分たちで作らざるを得なかったことも、幸いしたかなっていう思いはありますね。

C 氏

私は、原点が交流にあると思います。やっぱり物、文化とか、そういうよりも人間を大切にする、人間を優先する。それを何か勘違いしている活性化活動がありますね。

吉田講師

そうです。だから、それが何にもなかったんで結局、人間が交流するしかなかったんかも知れないですね、きっと。

C 氏

そう、それが大事なんですよ、交流っていうのは。

吉田講師

きっとそうですね。いろいろ、こういう活動してますと、変な話ですけど、嫁舅問題と同じようなことが地域のなかでもあるんですね。世代間格差みたいなのが。ただ、それもあっての町なんです。きちんと、そういうのの間に入って、うまくやりくりすれば、高齢者も楽しんで、いろんな自分の持っている知識とか知恵を発信します。聞く側も、素直に聞けば、ああ、そうなんだって、聞けるんです。それをうまくコーディネートをしてあげれば、今言ったように、人の交流ができるのかなあと思いますね。

B 氏

たいしたものだ。児童からお年寄りまでが、そのメンバーって言うか、活動に関わってる。結局、子どもだけでもないし、年寄りだけでもないんですね。普通というか、全部の総合なんで、活動のメンバーに全部が加わってるっていうのが、交流っていう意味でも、幅広い意味を持ってるんじゃないですかね。

吉田講師

そうですね。まあ、そういう意味では、その高齢者の方々に、無理なことは言えないんで。今回の祭りもそうなんですけど、できることは、子どもたちがダーッと遊びに来たときに綿菓子を作るとこにいていただいて、小っちゃい子どもたちに、「はい、こうやって、ああやって」って、やってあげるだけでも結構、いい交流になってるんだと思うんですね。そういう場所の提供をしてさえあげれば、自然とうまくいく。だから、あんまり難しいことやってる気が、ないんかも知れないですね。そういう場所の提供をしているという感じだけでで。

司会

そろそろ時間でございます、また何かあれば、最後に。何かご質問ございますか。

D 氏

宇都宮市から見えてるそうですけど、宇都宮ならいろんな情報があるんじゃないんですか。

C 氏

私は今、農村の地域作りをやってます。ほんとに地域に何もない、商業施設も１つもない過疎地域を、どうやって元気にするかっていうのを現地に入って、地域作りを行ってるんですけれども、そういうところと都市的な世界とは違うっていうのが面白いなあ、と思っています。

吉田講師

農村と言えばね、太田の市長がね、面白

いこと言った.「ギャル農」って言うんでしたっけ。ギャル農やって、「自分たちで生産から販売から食べるまで、できればいいなあ」なんていう話は、チラッとしてましたね。農村のなかで。

C 氏

やはり外から、私たちみたいな大学生が入ってきたりすることで、その地域の人々も、おじいちゃん、おばあちゃんも、そういう知識とか、いろいろ発信できて、また、やりがいにつながっていくっていうのが、あります。人の交流っていうのが、大切かなあと僕たち思いました。地域は南会津。福島県南会津只見町の布沢区っていう集落です。

司会

それじゃ、そろそろ時間ですね。締めは副会長。いつものように一言、お願いいたします。

北川副会長

本日はお忙しいところを、大変ありがとうございます。お話を伺って、この交流館を非常に上手に使われているということで、参考になると言うか、興味が深くわきました。こういうものを与えられても、なかなかうまく利用できないというようなことが、たくさんあるわけでして。まあ、吉田さんは、たまたまというようなお話をされましたけど、決して、そうではないだろう。そして、これだけの事業を立ち上げて、収益を上げるというふうに持ってくなんていうことは、並大抵のことではないというのを、よく私ども、分かってます。そして、淡々とそのようにお話されたということに、私は非常に感動いたしました。それで、その努力が空回りしなかったということが大変うらやましい。私ども、1 人 1 人、努力をしてるんですけど、完全に空回りをして、なかなか、悔しいかなあ、という悔いばかりが残ってるような状態なんです。そのなかで、このような参考例をいただけたということは、大変に、よそのことながら、うれしく思いました。どうもありがとうございました。

吉田講師

どうもありがとうございました。

中川会長

ありがとうございました。

司会

それでは、足利工大と、まちづくり NPO、VAN-NOOGA の共催による地域活性化社会システム論、第 4 回、これで終わります。

第 5 回、今年度最後になりますが再来週です。18 日の水曜日に、渡良瀬川河川事務所の所長さんをお願いして、防災という視点で町を考えてみようという企画をしております。また違う切り口でお話いただけるかと思います。是非また、ご参集いただきたいと思います。では本日は、これで終わりにしたいと思います。では、もう 1 回、吉田さんに大きな拍手を。

「NPO法人クラッセ太田」におけるまちづくり

～太田の中心市街地に
人を呼び戻そう･交流の輪～

太田駅周辺地区まちづくり推進協議会･NPO法人クラッセ太田

石造蔵でのまちなか子供キャンプ

まちづくり推進団体

【太田駅周辺地区まちづくり推進協議会】
- H13.11.27設立
- 地域住民、地元企業、商業者、行政で組織
- H15年度から「まちなか子供キャンプ」開催
- H16.5.23 「さよなら跨線橋」イベント開催

【NPO法人クラッセ太田】
- H16.12.21設立
- H18年度「まちなか交流館くらっせ」指定管理者

石造蔵での楽しい夕食

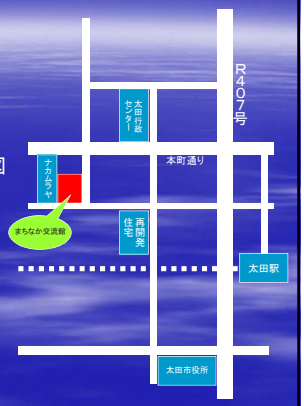
R407号跨線橋の解体イベント

R407　38年間ありがとう。

まちなか交流館「くらっせ」

○設置目的
地域住民及び来街者に交流の場となる公共空間を提供して、中心市街地の活性化を図る。

○建物の概要
所在地：太田市本町14－1
開館：平成17年3月25日
宝くじの普及宣伝事業により建設



NPO法人クラッセ太田の組織図

理事長
理事　理事　理事
社員　社員　社員　社員　社員　社員
市　民

「交流館くらっせ」の誕生

- 中心市街地に活気を･･･
  石造蔵を活用し
  「まちなか子供キャンプ」
  を開催（H15）

- 石造蔵の取り壊し
  「交流館くらっせ」建設

【くらっせ】フランス語のクラッセ。英語のクラスに当たり気品という意味。まちなかへの居住、交流推進を図り中心市街地に暮らすという思いが込められている。

まちづくり相関図

こんな事業を実施・・・！

【まちづくり推進協議会】
- 七夕祭り
- まちなか子供キャンプ
- 新春ふれあい餅つき大会
- ひな祭り

【NPOクラッセ太田】
- 交流館外構整備（手作り花壇・広場整備）
- ピザ焼き窯作製
- 親子農業体験（イモ掘り・焼きイモ大会）
- キッズ・イングリッシュ
- 農産物朝市
- おもちゃの病院

あいにくの雨にもかかわらず、おおぜいのにぎわい

くらっせでの七夕祭り

まちなか子供キャンプでの灯ろう作り

みんなで協力して飾りつけ

夕食の材料をみんなで買出し

いっしょうけんめい夕食づくり

翌日はピザを焼いての楽しい食事
自分なりのトッピング・・・

いよいよ夕食の出来上がり

ピザ焼き係りは、ちょっとかわいそう・・・

夕食後、自分たちで作った灯ろうを持って
市役所展望台へ

自分たちで造ったピザに舌鼓

小さい子供たちも一生懸命お餅つき

みんなでつき立てお餅に舌鼓

おとしよりたちの見事な手際で
みるみるお餅の出来上がり！

みんなで作った吊るし雛の飾り付け

外国人の方も飛び入り参加！

ひな祭りの由来を説明

巨大菱餅（総重量97kg）日本一か？

来場者へは、ポン菓子・綿菓子無料配布　多数の賑わい！

巨大菱餅を前に記念撮影！

枕木・石蔵の石材を使っての花壇作り

地域のお年寄りとのお手玉・あや取り・おはじき遊び

近ごろのおとなは、さぼってばっか・・・

枕木を使ってのウッドデッキ

ピザ窯の基礎づくり

地域住民の協力による花植え

レンガの積み上げ

地元の小学生による芝張り

アーチ部分のレンガ積み

ピザ窯　火入れ式　おごそかに・・・

おいしい焼きイモができました！

みんなで楽しく　サツマイモの苗植え作業

小さな子供たちの英語体験！

大きなサツマイモがとれました！

英語体験とピザ焼きをミックス

ピザを食べた後に　みんなでレクリエーション

採れたて・新鮮野菜が並ぶ！

現在では、対象をひろげ、学年別コース、大人の講座も開催

私のピアノ　直りますか・・・

地元農家団体による朝市！

わぁー　よかった　おじさんありがとう！

〈数々の交流イベントの開催〉

〈地域住民の協力による手づくりの交流館整備〉

変わりつつある中心市街地

- 連続立体交差事業の終了
- 太田駅北口駅前広場の整備開始
- 金山城跡へと通じる「御城道」の整備
- 群馬大学工学部の新学科誘致　　等

【これらをとらえて、どう活性化を図るか？】

これから、何が必要か・・・

- まちづくりは人づくり
  → まちなかに人の流れをつくる
  交流館を流れの拠点に！
- まちなかは、人の住む場所
  → 地域住民・商店街・行政との連携
  （コンパクトに生活できる環境づくり）

みんなの力で流れをつくる！

第５回　７月 18 日（水）

「渡良瀬川流域の防災とまちづくり」について

国土交通省渡良瀬川河川事務所所長
八木　裕人

司会

今日は，今年度の公開講座の最後になります。講師の八木所長には、足利工大の建設法規の講義の中の河川法、あるいは環境関連法担当の非常勤講師をお願いしております。そのご縁もあって、今日は一度、「まちづくりと川」ということでお話をお願いいたしました。お話が面白いというのは私が保証いたしますので、ひとつ楽しみに聞いてください。では，よろしくお願いします。

１．河川整備事業と渡良瀬川河川事務所

八木講師

皆さん、こんばんは。渡良瀬川河川事務所で、昨年の４月から所長をおります、八木と申します。築瀬先生のところとは、今、ご紹介にあったように非常勤講師として，何コマか持たせていただきまして、その縁と、それから、うちの堤防管理に関わる検討会の座長をやっていただいています。

今回こういう場で話をして欲しいということで、内容として一応、「まちづくり」というのをテーマとして入れて欲しいということなんですが、川の場合は、どちらかと言うと、「町を守る」というイメージで私らは仕事していますので、まちづくりというテーマと合うかどうかは微妙なところがありますけれど、１時間ということで説明をさせていただきたいと思います。

１）国土交通省と渡良瀬川河川事務所

まず、私の紹介ですが、国土交通省で仕事をしております。今は、国交省と言うんですが、省庁再編成で、昔の建設省と運輸省、それから北海道開発庁と国土庁が、一緒になって国土交通省になりました。４つの省庁が一緒になりましたんで、かなり政府のなかでも大きい組織です。建設省は河川、道路、港湾は旧運輸省になります。それからダム事業とかインフラ整備を行っているところでございます。私は、昭和 55 年に入省しました。建設省の時代から仕事として河川の担当をしています。

旧建設省でございますけれど、どういう組織になっているかって言いますと、本省、これがよくテレビで出てくる「霞が関」というところになります。その下に北海道とか東北地方、それから北陸地方などに各地方整備局が設けられています。関東では、昔、大手町にあったんですが、地方分権という形で今は「さいたま新都心」に移転して、さいたま新都心に局というのがございます。私が働いているところが、ちょうどこの利根川水系の渡良瀬川河川事務所というところです。その下に現場の工事や管理をしている出張所というのがございます。

こういう組織で仕事をしておりますが、今、こうした出先機関をどうするかということが、いろいろと国会で議論になっているところでございます。本省、局ございますけど、我々の仕事はどうしても現場、いろいろ省庁がございますけど、技術屋さんが一番がんばっている省庁と言いますか、技術屋がえらくなるのも、国土交通省の組

織でございます。現場があってこそ国土交通省というふうに考えています。

２）利根川の東遷

河川の話に入りますが、私はこの渡良瀬川の管理させていただいていますけど、渡良瀬川は利根川の支川になります。利根川は日本で一番大きい「大河」というように言われてますけど、それはこの白いところで囲まれた「流域」が日本で一番広い。日本で一番広いだけで、世界に比べたら全然、小さい河川なんです。もっと大きい流域をもつ河川は、たくさん世界にありますけど、日本ではとにかく一番です。この銚子からずっと大水上山まで行ってるのが利根川でございまして、その支川に渡良瀬川がある。

江戸川は、利根川から分かれますが、これは支川と言わないで、「派川」と言います。こういうふうに合流するのを支川と言いまして、鬼怒川とか小貝川も支川です。江戸川だけは派川という形で官吏しています。利根川が、なぜ日本一広い流域を持つ川になったかと言うと徳川家康の時代ですから江戸時代のちょっと前、1594 年の「会の川」の締切というところから始まります。だいたい地形的に言うと、群馬、栃木のほうから東京湾に、昔は江戸湾ですけど、流れている。こちらのほうに関東平野が開けていまして、地形から言うと、自然な流路というのが、ここの首都東京に向かうわけです。江戸時代の最初に徳川家康がこちらにやってきたときに、ここら辺の湿地帯みたいなところを、どうにかしようというところで、徐々に、この利根川を最終的にはこちらにありますように、銚子のほうにつけ替えました。これを「利根川の東遷」と言います。

目的はいろいろと言われてますけど、関東平野の開発、それから、こちらの太平洋を使って、ぐるっと回って、江戸のほうに物資を運ぶより、銚子から利根川を渡って、それから江戸川を使って、東京に運ぶというほうのが、昔はとにかく船で物を運びますから、そちらのほうが早いし便利だということで、舟運路の確保ということがございます。それから、大きな雨が降ると、全部東京のほうに、江戸のほうに行ってしまいますから、そういう洪水の防御するためにも、こういうところで、千葉県のほうに持ってったんじゃないかというふうに言われてます。これは、あとで歴史とか社会の先生方が整理したという形で、徳川家康に聞いたわけではありませんので、正直なところ分かりません。

それから、これは違うんじゃないかと思いますけど、仙台の伊達家の江戸幕府をつぶそうとするのに備えて、利根川を付け替えたというふうに言われてるところがありますが、これはちょっと面白く言ってるのかなというところがございます。ですから、東京のほうに向かう利根川の流れを東へ東へとつけ替えて、茨城、群馬、栃木のほうからの流れを利根川で受けようとしました。もと、あったところは江戸川です。またあとで説明しますけど、このなかにたくさん元荒川とか中川とか、いろいろ中小河川ございますけど、こういうところが派川として、江戸川として残った。そういう形で利根川を形成しました。ですから、流域が非常に広いということがございます。

３）渡良瀬川河川事務所の管轄と業務

さっき組織の話をしましたけど、河川は 1 級河川、2 級河川とか法で定められてます。1 級、2 級っていうのは、河川の規模で定められているわけではなくて、重要度で 1 級とか 2 級とか決められていまして、当然、首都圏を抱える利根川は 1 級河川という形で位置付けられています。そして、

直轄河川です。直轄というのは、国が管理するということですけど、小貝川、鬼怒川、渡良瀬川も国がそれぞれ管理します。利根川はちょっと長いので、下流から国道6号ぐらいまでの約 80 キロぐらいまでを利根川下流河川事務所で、上流を利根川上流河川事務所というところが管理しています。うちは支川の渡良瀬川を管理しています。ここに合流する前に、渡良瀬遊水地があります。これもあとで説明します。ここは、利根川上流河川事務所のほうで管理している施設です。うちの事務所の仕事と言うか、管理ですけど、先ほど言った、ここの渡良瀬遊水地から上を管理しています。関東の事務所のなかでは、珍しい事務所でございまして、河川の管理と、それから上流、みどり市、桐生市、それから草木ダムより上流の、足尾、今、日光市になりましたけど、こういう地域の砂防も、うちの事務所で管理してます。ですから関東では唯一、河川と砂防の事業、工事をやってる事務所です。あと支川があります。そういうところで仕事をさせていただいています。

４）渡良瀬川と足尾銅山

上流のほうから少し渡良瀬川の説明をさせていただきます。古河市兵衛さんという方が、江戸が終わって明治時代になると、国の持っていた足尾銅山をもう１回、もう銅が採れないだろうかと買い取りました。足尾銅山にいろんな技術を導入して、開発を進めて、銅の生産量が当時、世界一だったらしいんですけど、それほど栄えた足尾銅山です。このころ非常に銅の生産で賑わったというところがございまして、これがその写真でございます。あとで、また説明しますが、田中正造さんという方が、足尾銅山の鉱毒事件というのが有名な話ですけど、当時は、足尾銅山に西洋の最新の技術をどんどん投入して、銅を生産していったという経緯がございます。まだ残っていますけど、日本で最初の道路鉄橋とも、この足尾に行くと見られるというようなところです。

上流のところは、うちの事務所で砂防事業とか、やらしていただいていますけど、足尾というところは、世界遺産にも登録しようという動きがあるぐらいの歴史があるところでございます。ただ、その反面、当時、まだ環境というものに対して非常に弱かったと言いますか、対応ができてなかったということで、結果的に煙害とか、それから銅山を作るために木を伐採して禿山になったという結果は、今でも残っています。

次に、これが草木ダムの湖面でございまして、それから上流にいって久蔵川、松木川、仁田元川という３川が合流して、こちら側から神子内川が入ってきてから、渡良瀬川といいます。河川によくあるんですけど、上流と下流で名前を変えたりする。渡良瀬川も途中まで渡良瀬川で、あとちょっと地元の名前とかがついてます。それで、ここの３川が合流するところが裸地でして、ほとんど木がなくなったような状況になりました。ちょっと上が中禅寺湖で日光です。環境や観光で非常に恵まれているとこなんですけど、足尾町が日光市になってしまいましたんで、日光は、観光と鉱毒事件でいろいろ歴史のあるところも日光市として抱えるという、市になってございます。

これは、ときどき使わしていただいている写ですけど、足尾の砂防堰堤というさっきの３川合流のところに、当時としては日本一の貯砂量を持つ砂防堰堤というのを設置してございます。現地へ行くと、いろいろ説明できるような資料館とかもございますので、一度行かれると、いろいろと勉強

になると言うか、面白いのかなと思います。当時だと白黒写真でしか残っていませんが、とにかく、こういう禿げたところになりますと、雨が降ると、土砂がすぐに流出してしまうというような状況でございます。

4）カスリーン台風の被害と河川整備

先ほど会長のほうからも話がありましたけど、最近、九州とか、去年は近畿のほうで大きな雨が降りました。関東は、たまたまかも知れませんけど、昭和 22 年のカスリーン台風というのが戦後最大の洪水でございまして、その後大きな洪水はなく、カスリーン台風が図抜けて大きい洪水になっていまして、それに匹敵するとか、それに近いような雨は降っていません。ですから昭和 22 年の、まだ戦後間もないときで、堤防の管理もしっかりしていなくて、大きな雨が降った。今でもカスリーン台風ぐらいの雨が降ったら、今の堤防が、もつかどうか、不安なところがあるぐらいの大きな出水でしたので、当時は、堤防がいたるところで破堤した。足尾のほうやみどり市とかもです。特に、上流のほうは単純に水があふれてくるだけではなくて、なかに土砂を含んで、流れてきますから、浸水したところについては家屋なんか、ひとたまりもないというような状況の被災がありました。そういうことで、足尾のところでも、いろいろ整備を進めてきております。

これが昭和 63 年ごろの写真でございまして、ほとんど山肌が見えていて、木とか草が全然ないというようなところに砂防堰堤があります。それから山腹に植樹をするという形で事業を進め、これが、平成 19 年の写真ですが、こういうふうに緑になっています。ある先生から、グランドキャニオンのまま残しておいたほうが、日本では珍しいという話もありましたけど、そういう訳にもいかないので、今後も植樹をして行けば、緑の山肌になっていきます。

これは、先輩方の功績ですが、山腹工っていうのは、土砂を流れないようにする役割として、ここに木が植えられるような階段状のものを作る。それを施すんですが、そこの植樹には NPO の方たちが来て、やってくれています。年間 1 万人ぐらいの方が来て、ほとんどこちらから PR しなくても来ていただいて、植樹をしてくれています。何て言うんですかね、我々にとって嬉しいことですが、そういうことをやっていただいています。

カスリーン台風の話をもう少し、させていただきます。ちょっと見づらくて申しわけないんですけど、これが関東地方で、ここの斜線になっている部分が浸水したところで、関東地方のいたるところの河川で氾濫をしているというような状況です。注目していただきたいのは、その当時、利根川では死者が 1,100 人にも上りました。ここで、さっき言った、日本で一番大きい川である利根川が破堤したっていうところが、よく注目されていますけど、1,100 人のうち、亡くなられた方が一番多いのは渡良瀬川流域です。その内訳として、足利市が 319 人、桐生市が 146 人ということで、渡良瀬川流域で 700 人ちょっとの人が亡くなっています。全体が 1,100 人ですから、利根川の氾濫より、渡良瀬川のほうの氾濫で亡くなった方のほうが多いということです。みどり市とか上流氾濫すると、破堤したあとの水の勢いが全然違うんですね。土砂が一緒に流れてきますから、家屋もひとたまりもなく、多くの方が亡くなられたというのがカスリーン台風です。昭和 22 年以降、大きな洪水は、来てません。治水事業を進めたということもありますけど、それ以降、

大きな洪水が、たまたま来なかったんだと思います。そういう状況なので、大きな被害が出てないということであります。

ただし、昨年の近畿で降ったような雨とか、それから今回の、九州で降ったような雨が渡良瀬川流域に降れば、同じようなことが起こる可能性は非常に高いと思っています。当時の写真、白黒ですけど、桐生市とか両毛線のところとか、それから足利のところで、浸水の状況はこういう形で、写真で残っています。これは、ほとんど浸水して水が引いたあとだと思いますけど、ひどい状況だなあと思います。それから、どうしても利根川、本川のほうの氾濫も少し説明させていただきたいんですが、これがちょうど渡良瀬川でございまして、これが利根川の本川で、ここで合流しています。ちょっと資料が古くて申しわけありませんけど、大利根町というところで堤防が切れました。350 メートルぐらい破堤したところでございまして。ここに行くと今、事業仕分けの対象となった、スーパー堤防という整備がされていまして、そこのところに決壊の碑が残っています。これが 350 メートルなんですけど、だいたい破堤すると、どれぐらいの幅になるかと言うと、だいたい川幅の半分ぐらいになると言われています。そんな難しい話じゃなくて、ここで 10 流れてたものが、こっちに半分ずつ流れるんで、だいたい川幅の半分ぐらいというふうに言われていまして、ここの川幅もだいたい 7､800 メートルぐらいありますから、決壊幅が 350 メートルぐらいということになります。

それから、こっち側が東京になります。これが利根川でございまして、このさっき言った堤防の 350 メートルぐらい破堤した氾濫流が、ずっと東京のほうまで最後は行ってしまいました。当時の栗橋町とか大利根町が、浸水している写真です。これは写真で見ていただければわかりますが、な川が破堤すると、どんなことになか。ただ、今、利根川の堤防は、渡良瀬川もそうですけど、非常にでかいです。大抵 2 階建ての家より高いぐらいのところに堤防の、一番高い天端がありまして、流量的には相当、流れるようになっています。ただし、逆の言い方をすると、それだけため込んでいるわけですから、それが切れると、当時よりもっと大きな被害が出るんではないかと言えます。

ですから、ほんとは掘込河道が一番いいんですね。どんな断面作っても、それより大きな雨が降れば、あふれてしまいますから。ただ、あふれる場合は、あんまり怖くないです。風船じゃないんですけど、水をためて、そこが一気に切れてしまうとその濁流が一気に流れてしまいますので、ここら辺、すぐそばにあるところは全部押し流されてしまうということでございます。昭和 22 年のときの堤防と比べると、利根川の堤防は､高さも倍以上になっていますし、幅とかも非常に大きくなっています。安全にはなっていますが、それより大きな雨が来ると堤防が切れる可能性は、絶対ないとは、絶対大丈夫だとは言えない、というところがあります。

これが昭和 22 年の氾濫実績で、大利根町というとこで切れまして、これは 1 週間ぐらいかかって、最後は東京のほうまで行ってしまったという浸水、洪水氾濫実績図です。この赤っぽいのが、水深でいきますと 2 メートル以上というところでございまして、1 日目でここまで行って、2 日目、3 日目、4 日目、5 日目というふうに変わる。ここら辺が金町、そこに桜堤というところ

があって、そこのところで、この濁流が止まったんですね。その桜堤を守ろうというがニュースに出てくるんですけど、最後にそこが切れて、東京湾のほうまで行ってしまったところです。今、堤防を作っていますけど、同じように再現計算という形で、カスリーン台風の雨を降らして、今の河道条件とかを与えて、どうなるかというふうにシミュレーションしたのが、こっちの図でございます。当然、川を流れる流量は多くなっていますから、同じところで切れたとしても被害の範囲は広くなって、それから水深の深くなるところが広がるというような形になっています。

よく、何兆円の被害って出しますけど、この額の出し方もなかなか難しいんです。家、1 軒をいくらとか考えるか、畑とか田んぼが浸水したら、どれぐらいのお金になるかと計算をやりますけど、当時とは、比べものにならないほど、いろんな被害が出ると思います。鉄道がやられたり、それから下流のほう行けば、地下街もございますから。それと昔は、変な言い方ですけど、住民の方たちは、ある程度こういう浸水を許容と言うか、受け入れるような、気持ちがあったと思うんですけど、今の方たちは、ちょっとした浸水でも、もう言い方悪いですけど、許せないって言うか、対応できませんですから、精神的にも、こういうことが起こった場合には、非常に大変だと思います。

５）渡良瀬川の整備と足利市周辺の対策

カスリーン台風が、昭和 22 年に起きた後の治水対策を少し説明さしていただきますと、草木ダムというのが渡良瀬川の本川に唯一あるダムで、昭和 52 年度に完成、ややこしいんですが、51 年度にできあがって、管理開始したのが 52 年ですから、52 年から運用しているということです。昨年の 4 月から所長になっていますけど、昨年は 6 月にほとんど雨が降らなくて、渇水が起きました。この草木ダムから放流するということと、7 月にまとまった雨が降ってくれましたので、少し良くなりました。それから今年は 5 月に、普通、出水期っていうのは 6 月からなので、5 月ぐらいまではほとんど、そんなに雨が降らないというふうに言われているんですけど、ゴールデンウィークの終わりごろに、多く雨が降りました。それから台風 4 号が来てまとまった雨が降っているんですけど、やっぱりこういうダムがあるということで、下流のほうは今ところ、あれぐらいの雨では、全然、問題ないという状況です。渡良瀬川を管理している所長としては、この草木ダムがあることで、非常に助かっているのが実感としてあります。

それから先ほどカスリーン台風で来て、破堤と決壊がありますが、同じ言葉なんですけど、国交省は、今、決壊という言葉で統一しようということで、整理しています。足利に岩井山がありまして、こういうふうな形で河道が流れる、どう考えても自然じゃないですよね。そうすると大きな雨が降ったときに、当然、まっすぐ水は流れようとします。そうするとここが破堤して、大きな被害が出たというところで、現在はご存じのように、岩井の分水路という形で、こっちから大きな洪水が、来た場合には、こっちに流れるような改修を行いました。昨年の台風 15 号のときに、あれぐらいの洪水になると、分水路のほうに少し流れて、こちらとこちらで洪水を処理するというような形になります。

これは平成 10 年のときの写真ですけど、こういう形で下流のほうへ流れています。

流れ方が、どうしてもスムーズじゃないですよね。

こういうと怒られるかもしれませんが、普通はこっちにスムーズに、まっすぐに流れてますから、ここら辺が非常に厳しいんじゃないかなと思います。だから、ここら辺は、護岸工事をしたり、水制をして守っていますけど、どう考えても、これはスムーズな河道の平面形じゃないと思っています。ここは雨が降ったりするといつも、よく見守って管理しています。分水路を作りましたんで、当時よりは全然、流下能力的にも安全になったかなと思います。

６）地域防災への取り組み

それから、水害に対する取り組みということで、こういうこと言うと、これも怒られるかも知れませんけど、昨年の東日本大震災のときも、津波に対しても相当、がんばっていたんです。しかし、それ以上の大きな地震があって、津波が来たということですから、渡良瀬川についても、カスリーン台風とか、カスリーン台風を超えるような雨が降れば、また堤防が切れるというようなことが、起こらないとは言えないということなんです。ですから、ハードの整備、工事のような整備することをハードって言ってますが、そういう場合、やはり住んでいる方たちが、逃げる。非難するということを、どこかで心構えとして持ってないといけない。全部、国や県とか地元自治体が何かしてくれるというふうになると、非常に厳しいのかなと思います。逃げ遅れたりすると、最悪、家が流され、亡くなるというようなこともある。

それから今、桐生市のほうで、どうやって逃げるとか、どういうふうにやったらいいだろうということを釜石の奇蹟と言われた群大の片田先生や河川工学の清水先生と一緒になって、取り組んでいます。それと、やっぱり問題になるのは、今は、東京とかは隣近所とのつながりが、ほとんどない、こちらのほうが、そういうことはいいと思いますけど。どういう方が隣に住んでいるか分からないとか、1 人暮らしの老人の方とか、そういう方たちを、どうすればいいのかっていうことが、非常に大きな話になっています。ですから、自分たちだけでは逃げられないとなると、自治会とかそういうので助け合っていかざるを得ないのかなというふうに、いろいろ勉強しているところでございます。

それから、カスリーン台風で被害にあったところと、それから 3.11 以降、天災っていうのは来るんだなというふうに、みんなが思っているところなんで、真剣にどうしたらいいかっていうのを考えてくれています。国のほうとしては、「今、こういう状況です」という情報をまず、県とか自治体に流して、その情報によって、「避難してください」って言うのは首長さん、市長村長さんの役割になっていますから、そういうところが、住民の方たちに周知するというやり方を、きちんとするというのが大事なのかなと思って進めています。とはいえ、いざというときに本当に動くかなと言うと、難しいところがあると思い　ます。

それから、これはいろいろやっていることの 1 つですけど、桐生川の事例です。渡良瀬川に流れ込む支川です。渡良瀬川は、利根川から見ると 1 次支川で、桐生川は渡良瀬川に流れ込むんで、利根川から見ると 2 次支川と言います。それで何をやったかって言うと、ここに病院がございまして、こちらに清流中学校がありまして、地震とか、それから洪水になったときの避難場所になってます。ただ、川のそばにあるとい

うことで、堤防は周辺からすると、高くないますので、浸水したときとか、破堤して水がたまったときに、高台ですから見えやすいんですね。ところが、洪水や天災は、いつ来るか分かりません、夜に来るときもある。堤防というのは、ほとんど街灯がついてないので、ここに避難場所があり、橋も両方向にありますので、ここから来たときに歩きやすいように商用電力ではなくて、ソーラーパネルと、それから風力による自家発電の照明もつけました。それが、この赤いので、余った電気を周辺のこの青いとこの街灯に昨年度、つけました。最初は夜そういうのがついてしまうと何か明るくて、逆に嫌がられるものかなと思ったんですけど、特に問題なく地元の方たちに受け入れていただいてまして、夜でもちゃんと光るんで、いざというとき、やっぱり歩きやすくなるのかなと思っています。こういう明かりがついてると防犯にも非常にいいという話がございますので、今のとこ、よく受け入れられています。

ここの桐生川の広見橋の上流は、水辺の楽校（がっこう）と言って、環境を整備して、小学校とか、幼稚園の生徒がここに、来ていただけるような場所になってます。そういうのをひっくるめて、桐生のネットワークの方たちと協力して、ここをいろいろ整備しています。今は、省電力とか自然エネルギー活用は、もてはやされてるところがありますが、それを少し先行的にやったところでございます。

それから、うちの事業では、下流の秋山川の改修です。簗瀬先生からまちづくりという話もありましたので、この話題を入れました。これは、佐野市を流れてる川なんで、上流のところで開発が進むと支川の秋山川が、洪水のとき水位が高くなるというところがございます。これが直轄管理区間です。これは国道 50 号です。普通、直轄管理区間より、周辺のほうが開発されてるんですけど、ここから上は栃木県の管理区間ですが、こっちのほうに佐野の市街地があるんですね。こっちのほうの整備が遅れているとは言いませんけど、今の川幅で行きますと、こっちの市街地のほうを流れてくる水を全部受け入れるのは難しいということで、現状はこの青い線で囲まれたオーダーになっています。堤防を大きくするのと、引き堤って言いますけど、堤防を引くことによって、より安全な流量を流せるような河道にするという工事を進めています。こういうことを進めると、上流のほうの安全度も良くなるので、それが、人口増加の要因になるか、ちょっと難しいところもありますが、安心感からすると、こういうところに人も少しは入ってくるのかなということです。町を守ることが、まちづくりにも役立っていくのかなというふうに考えているところでございます。

それから最後ですが、利根川本川に合流する前の渡良瀬遊水池というのがございます。渡良瀬遊水池と言っているのは、3 つの調節池、これが第 1 調整池、第 2 調節池、第 3 調節池の 3 つの調節池を総称して渡良瀬遊水池と言っています。7 月 3 日でした、ラムサール条約に登録されたというのが、ここでございます。私は、利根川上流河川事務所の副所長でもいたことがございまして、そのころは環境団体と、いろいろと折り合いが悪くて、やっぱり治水事業でやらなきゃいけないという強い思いもありました。こういうとこを掘ると言うと環境団体の方たちは自然を守れという。今は、環境も良くするし、治水もそれで良くなるというふうな両者の意見が一致して、動いてい

るところがございます。

これはまちづくりと逆かも知れませんけど、なぜこの調節池、平地ダムと言いまして、水をためて、下流のほうに水を補給するダムですが、ハート型とよく言われていますけど、何でこういうふうになったかって言うと、これは効率的な格好じゃないんで、本来はこういうふうに作ろうとしていたんです。ところが、ここのところに谷中村という、廃村になってしまったんですけど、ここに谷中村の町役場があったんで、それは残そうということで、そこの部分を掘らないで、町役場の史跡を残したので、こういうハート型になってます。全部で 33 平方キロメートルあるんですけど、ここで渡良瀬川、思川、巴波川の洪水をこの 3 つの池でため、本川のほうに流さないということで、治水計画は立てられています。昔、谷中村があったということで谷中湖という名前の池になっています。

それから植生分布ということで、ヨシとかオギがほとんど占めています。理由はちょっとよく分からないんですけど、湿地だったところが、だんだん乾燥してきているんですね。そうすると、こういうヨシとかが、別の外来種に侵されてくるというふうになっていますんで、ある程度掘らないと、その湿地を維持できない。掘るということは、逆な言い方をすると、治水容量を増やすことになりますから、さっき言いました、環境と治水という両方が、掘ることによって良くなるということで今、そういう形で事業を進めることになってます。それから、ラムサール条約にも登録されましたので、この環境をきちんと守っていこうという形にもなっていったと思います。

2 年続けて中止になっているんですけど、ヨシ焼きというのがあります。さっき、渡良瀬遊水池に、ヨシとかオギが生えているという話をしましたが、渡良瀬のヨシっていうのは非常にいいヨシでございまして、国産の非常に高級なすだれとかに使われているところでございますが、いいヨシを。育てようとすると、古いヨシを焼かないといけないんですね。これをヨシ焼きと言って、3 月ごろにやるんですけど、渡良瀬の 1 つの風物詩だったんです。昨年は、地震の影響で止めて、今年も 3 月、中止になったというところです。環境団体の方たちとか、植物の先生からすると、これを止めたことによって古い何年かのヨシがずっと残っていて、新しい芽が生えてこないんじゃないか、きれいないいヨシが生えてこないんじゃないかっていうふうに心配されています。ヨシ焼きは、こういう形で全部やりますけど、植物は、そんなのも問題なく種さえあれば、ぐんぐん出てくる。そういう環境対策をやってないと、逆に古いヨシが全部残っていると、日が当たらなくて、新しい絶滅危惧種である草本類が出てこないというふうに聞いてます。ですから、来年できなかったら、どうなるかを少し調べて、環境上、どうするかということが決まっていくんじゃないかなと思います。これは、利根川上流河川事務所のほうで検討することになっているところです。

２．まちづくりと治水事業

１）まちづくりと総合治水事業

それから最後ですが、渡良瀬の話でいきますと、田中正造さを何で取り上げたかと言うと、この方は 1913 年に亡くなっていまして、来年がちょうど没後 100 年なんですね。そうすると、ラムサール条約のニュースを単に載せるんじゃなくて、どうしても田中正造さんと結びつけて、足尾の話が

出てきてしまいます。足尾は渡良瀬川河川事務所でやっていますし、渡良瀬遊水池は利根川上流河川事務所でやっていますんで、一番上と一番下のところで、どうしてもいろいろと、絡んできてしまうというところがございます。来年、そういうことで、いろいろと騒がしくなるのかなというふうに考えています。私は、昭和 55 年に役所に入ったんですけど、そのころは、もう本当に至るところで洪水被害がありました。今回、今まで経験したところを少し、まちづくりとどういうふうな関わりがあるかと考えたときに、「総合治水」というのをやりましたんで、それの話をちょっとさしていただきたいと思います。

都市化と水害ということですが、総合治水っていうのは単純に川だけを整備しても、都市化が進んでしまうと、全部コンクリートとかアスファルトで整備されてしまうと雨水が浸透しないで、一気に川のほうに流れてくる。都市化というのが浸水に対して非常に危ない。だけど都市化のほうのスピードが速くて、川の整備が追いつかないというところで総合治水っていう発想が出てきたんです。

特に、鶴見川は、総合治水発祥の地みたいなところでございまして、平成 9 年の市街化率は 84%です。ほとんど市街化されてるというところです。当時、こういう言い方しますけど、総合治水をやるときに、「都市化は水害を招く」というのがキャッチフレーズになってます。ところが、都市局がえらく怒るんですね。都市化することが悪いことをしているようなイメージになるというんで、都市局と河川局が総合治水を、どうするかというところで、もめたという経緯がございます。ただ、都市化されることによって、やっぱり畑とか田んぼがなくなることによって、そこで遊んでた水が一気に、川のほうに流れてくるということは、計算上も実際にもあるということで、こういう都市化が進むようなところで大きな雨が降ると、今までそこで被害なく、たまってた水が、どこかで 1 つ集まって、いろいろ内水の被害をもたらすということになります。

私は、江戸川河川事務所というとこに入りました。中川・綾瀬川流域というところを担当していましたんで、その話をちょっとさせていただきますと、中川・綾瀬川流域っていうのは、こちら側が江戸川になります。これが利根川で、ちょっと図面が小さくて申しわけないですけど、江戸川で、大きな堤防に囲まれています。こちら側に荒川がございまして、ここら辺が大宮台地で、中川・綾瀬川流域はそういう両サイドを高いのに囲まれた低平なところでございまして、さっき言った、昭和 22 年のカスリーン台風で切れたのもここら辺で、それが一気に、この低いところを流れて、最後はこっちの東京湾まで行ってしまったというところでございます。そういうところで河川事業と言うか、治水対策をどうするかと言うと、堤防を広げたって、だめなんですね。流れませんから。もうほとんどがレベルなところですんで、こういう細かい用水路みたいな川がたくさんあるんですね。

ですから江戸時代、こういう用水路とかが氾濫して、徳川家康さんじゃないですけど、新田開発とか、そういうのに向かなかったということで、利根川の東遷事業というのに結びついていったんじゃないかなと、やっぱ思います。どうするかって言うと、もうポンプ場なんです。とにかくここら辺の水は、全部集めて江戸川に吐くというところで、中川・綾瀬川流域の河川事業のほ

うの対策としては、ポンプ場を作るんです。

一番最初に作ったのは、この三郷排水機場と言って、200 トンのポンプで江戸川のほうに吐かれます。200 トンと言うと、毎秒 200 トンです。その 200 トンという量は、小学校のプールが 7 メートル×25 メートル×1.2 メートル、だいたい深さですけど、あれ 1 杯です。あれがだいたい 200 トンです。あれが毎秒吐かれるということで、200 トンってすごい量でございまして、これが作ったとき、確か、東洋最大のポンプ場だったんです。これを作って、あとでまた出てきますが、綾瀬川は、私が入ったときに直轄で一番汚い河川だったんです。入ったとき連れて行かれたときに、もう魚は死んでるわ、においはすごいわで、環境も悪いし、それから流下能力がほとんどなくて、しょっちゅう浸水してたとこです。そこのところに綾瀬川放水路というのを作って、中川に入って、今度、中川からこの三郷放水路があって排水機場で江戸川にポンプで吐いていくという治水事業をやってます。下流のほうには綾瀬排水機場で荒川に吐くポンプを作ってます。あと、上流のほうには、これは国道 16 号が走っているとこですけど、首都圏外郭放水路っていうところで、これも 200 トンのポンプがついています。これは地下放水路です。地下 50 メートルぐらいの深いところに、シールドで掘った放水路でございまして、それを立て坑というところから中川とか、こういう倉松川とか古利根川の水を落とし込んで、ここでポンプアップして江戸川に吐くと、そういう放水路と排水機場がついています。

ですから、こういう低平地な中川とか、そういうところについては、もう放水路と、それから排水機場で治水対策を行った。三郷放水路ができて、浸水がやっぱり、なくなるんですね。ポンプは、こう言うと、ちょっと怒られますけど、当時の大蔵省、今の財務省ですけど、非常に受けがいいんです。一番分かりやすいんです。これだけあった水がポーンと、このポンプ使うことによって、なくなりますから。そうすると被害がなくなるというような、非常に説明しやすい治水施設でございます。何かあるとすぐ、ポンプをつけてくれというふうなことが多くて、ただ、管理するのは結構、大変なんです。というのは、動かなくなったら今度は、人災になってしまいますので。機場の維持管理については、非常に気を遣っているところがございます。

これが首都圏外郭放水路のイメージ図です。洪水で水位が上がってくると倉松川とか中川とかの支川を 18 号水路、こういう立て坑を作って、ここに落ちて、50 メートル下のところの、このシールドで作った放水路のなかを流れます。ここでポンプアップして。ですから、ある程度の水位にならないとためっぱなしになります。そうすると、地下でためとくと、今度、2 段吐きで、こっちにもポンプがありますので、出せるんです。三郷のとこには下流に金町浄水場がございますから、汚い水は流せないんで、そこら辺うまくやらないと、取水のほうに影響が出るというところで、洪水のときに、だいたい処分するというとこになります。

それからこれが、行かれた方があるか分かりませんけど、調圧水槽です。ここのところがポンプ吐きするときに水をため込むところですが、調圧水槽と言ってます。これは、地下と言うほどでもないんですけど、地下にあって、こういう形で見学できるような形になっています。出水期にはできませんが、出水期以外のときには、こういうふうな形で、見学しに来る人が結構います。

パルテノン神殿とか、ときどき言われてます。そういう形で、よくテレビで使われたり、仮面ライダーとか、ウルトラマンとか、そういう撮影にも使われるところが、ここの首都圏外郭放水路の調圧水槽と言います。

２）まちづくりと治水事業の事例

それから、さっき言った、綾瀬川です。最初に入ったときに、非常に汚いところでございまして、激甚災害対策特別緊急事業という被害が出るとすぐやる事業を作って、整備を進めようという、綾瀬川です。

こういう松並木があったんです。これはでき上がったあとなんで、今はこういう形できれいですけど、当時、綾瀬川放水路を作ろうとしたときに地元と、都市化されてくると公共事業が入るとすぐ反対運動が起こりまして、ここの松並木も、これもあとで譲歩するんですけど、綾瀬川を拡幅して掘削しようとするとこういう松並木を切らなきゃいけなくなる。地元から大きな反対がでまして、なかなか改修できないというところに、三郷排水機場が昭和 53 年にできていたんですけど、綾瀬川放水路はできてませんでしたので、雨が降ったときに、すぐ浸水被害が出ました。

そこで、今回の九州とか、昨年の近畿とかもそうですけど、5 年間で、その洪水に対して安全なような対策を行うというのは激特事業なんです。ここも当然、激特事業でやろうとすると当然、この綾瀬川を改修しなきゃいけない。そうすると、この松並木を切らなきゃいけないということで反対が出たんですけど、途中、54 年に激特事業に採択されて、2 年後の 56 年に反対運動が出てきたんですけど、56 年度にまた 54 年に負けないぐらいの大きな雨が来まして、また浸水した。そうすると他のところは結構、整備したんですけど、ここは松並木を残せと反対されてましたんで、そこから当然あふれちゃったんですね。他んところは整備していたから良くなっていたんですけど、ここはあふれて、また被害が出る。そうすると反対派の人たちも、なかなか反対しづらくなったということなんでしょうけど、折り合いをつけて、松並木もある程度は残そうということで、治水事業と環境を調整ができる範囲でうまく調整をして、松並木も残して、綾瀬川の改修も行ったというところです。

今回の簗瀬先生から言われたテーマで言うと、まちづくりというところと、河川の場合は道路とか鉄道と違って、それを作ることによって人を呼び込むんではなくて、昔から地域、どうしても水は生きていくために必要なんで、それと一緒になって、川が作られていくと言うか、住む人とか地域のための形が、そこの地域の顔となって、川の改修に表れてくるのかなという感じがします。

だから利根川東遷事業みたいな、ダイナミックなまちづくりではなくて、こういう個別の、地域に合ったような河川の改修というのが大事なのかなというふうに思ってます。

それから、資料がちょっとぼけていますけど、先ほど言った中川・綾瀬川流域のところに越谷市があります。これはも、まちづくりの 1 つでいいのかなと思っていますけど、レイクタウンというのがあります。さっきの三郷市とか越谷、草加、それから八潮というところは、中川流域で人口も多く、東京に近いということで、都市化で、人がどんどん増えていくなかで、河川の整備が追いつかない。総合治水とか埼玉県の条例のなかで、開発するときには、その分の開発に応じた池を作るという条例ができ

てます。ですから、これだけレイクタウンという大規模開発するときには、その開発に伴って、開発することによって出てくる流出量プラス、確か中川は、昭和 33 年と 36 年だったんですけど、湛水実績を上乗せした量を、池として作らなきゃいけないことになっています。

レイクタウンを作るときには、ここのところに池を作ったんです。併せて開発を進めたという形になっています。こっちのほうがきれいだと思いますけど、これが全体のレイクタウンですね。そのなかで、これは、大相模調節池と言うんですけど、中川があって、開発に伴う流出分の水をためるのと、それからダムと同じように、洪水の水をここで一時ため込む施設、両方の役割を持ってます。

それと、レイクタウンのなかで、普段は水面があって非常に環境的にいいところなんで、それを活用するというところで、駅から下りてレイクタウンのなかに入っていくと、こういう形で大きな池がありまして。確かここから水を入れて、ここから吐くということで、周辺の川の水を洪水のときは取り込んでためて、周辺の河川の水位が低くなったときに吐くというような治水施設と言うか、洪水施設になっています。通常はレイクタウンのなかの 1 つの公園、水上公園と言いますか。そういう形で整備されているところです。これはまちづくりと併せて、治水施設も作ったというところで、やっぱり一緒に整備したというような形になっているのかなというふうに思います。

これがだいたい 1,000 平方キロメートルぐらいありますね。総合治水というのをやり出して、低地地域というのは、総合治水をやる前から既に、市街地化されてるところです。保水地域というのは、少し高くなっていて、水をためるようなところ。遊水地域というのが田んぼとかになっていて、水を遊ばせておけるところということで、3 地域区分を作って、そのなかで、たとえば、遊水地域を低地地域で開発しようとすると、先ほどのレイクタウンみたいに池を作って、流域全体で治水対策を行うというのが総合治水対策ということで、当時、川だけの整備じゃなくて面的な治水対策を行うということで、非常に画期的な、河川が初めて外に出ていったという事業という形になっています。

だから大抵、今回、いろいろ被害があったようなところでも、こういう形で、単純に川だけじゃなくて地域、昔は住み分けされていて、被害が起こるようなところには人は住まないというふうになっていたんですけど、今はそういうことも言ってられないんで、地域と一体となって川づくりをするというところが結局、まちづくりみたいになっていくのかなというふうに思っています。なかなか具体的に説明しづらいところがありますけど、だいたい資料は以上で、説明は以上でございます。

３．水害の危険性と中橋の改修

司会

どうもありがとうございました。時間は、どんぴしゃりでした。本当に、貴重なお話、ありがとうございました。いつもまちづくりということで、講師として、いろんな地域の活動をされている方をお招きしているんですが、今日は少し大きなスケールでお話を伺いました。とりあえず、いろんな質問させていただきたいと思いますけど、副会長は、カスリーン台風のときは、ご記憶はありますか。

副会長

あの当時は、東京に住んでたんです。昭和 22 年ですから、まだ、ほんの子供ですから、記憶にないですねえ。けれども、台風が来たっていうのも、あの頃は、何だか年中、毎年のように来てて、こちらのほうで、そんな大水害に遭ったというような、子供だったですから、あまり記憶にないですねえ。

A 氏

私は、足利生まれの足利育ちですから、その被害は知ってます。東武駅の南のほうに住んでたんですけど、その切通しの手前に実家があるんですよ。そこも浸水しました。水に全部、浸かりましたからね。屋根の上で叫んでる人がいたり、ものすごい経験をしております。

司会

やっぱり、いかに河川が大切かっていうのは、そういう被害が出てみないと分かんないんですね。そこがすごく問題だと思います。だから、何も被害がないことが当たり前になってて、その当たり前のことに慣れてしまうんですね。そこのところを、どういうふうに理解してもらうか、そこが公共事業の難しさですね。

しょっちゅう被害があったら困るけど、じゃあ被害がないようになったら、今度は要らないか、みたいに、いきなりそういうふうになってしまう。特に,河川事業って、そういうところの理解が難しいですね。

八木講師

やっぱり再度災害防止っていう形のほうのが、予算がつくんですね。予防と言うと、まだ、被害を受けてるところが優先されるから、予防というほうに、お金がなかなか回らないというようなところがあるんです。特に最近は、異常気象ってよく言われますけど、そういう大きな被害が頻発に出てますので、予防と被災対応の問題の優先度は難しいとこだと思いますね。

司会

まちづくりっていうのは何でもありなんで、僕の研究テーマでもあるんですが、肝心な点は、どうやったら地元の方に、そういう施設の重要さというのを分かってもらえるか、ということなんですね。維持管理も含めて、です。

先ほど綾瀬川の松並木も結局、環境保護を大切する方も、2 回も水に浸からないと、やっぱり妥協できないものなのかという気がしました。その辺、どうなんでしょう、会場の皆さん方、役所で仕事されている方、どんな感じがしますか。環境と治水も含めて、開発みたいなものの収まりどころって言うんですか。

B 氏

そうですね。渡良瀬川って言うとね、もう昔から、もう誰が見ても、親しむ場所であって、シンボル的なところがあるんですけれども、今、九州のほうで大雨なんか降っても、なかなか想像しきれないところが、現実的に受け入れられないんだなあっていう感じがあるんです。どういった、それを啓発するやり方があるんでしょう。

司会

先ほどの所長さんの話ですけど、今回九州で降った量が、渡良瀬川の流域で降ったら、ちょっと危ないですか。

八木講師

カスリーン台風より大きな洪水となって流れてくるから、厳しいと思いますね。

司会

だから、九州で起きたことが、よその話なんじゃなくて、やっぱり自分たちの、この流域の可能性として、あれだけ雨が降ら

れたら、極めて、危ないんだよってことをどうやったらもう少し、理解してもらえるかっていうことが。だから、流域みたいな概念が入ってこないと、なかなか工学的に説明できないんですけど。どうしたらもっと地元の方に、その辺り、分かってもらえるかですね。起きてからじゃ遅いんですよね。

C 氏

でも、起きないと分かんない。たとえば、足工大のすぐそばに、松田川が流れている。あそこも実は、土砂が崩れるわけですよ。家が崩れちゃうのね。あんな水が、チョロチョロってしか流れないような川が、実は水が土手に上がっちゃうと、家がなくなっちゃうのね。それと昔だけど、台風の後，あの川の区域は橋がなくなっているんですよ。行ってみたら橋がない。そういう、実際に見てみないと分からないこと、いっぱいあるんですね。カスリーン台風は残念ながら１歳だったんで全然、覚えてない。あとから被害を見たんだとね、何にも感じないんですよ。被害があったあとから見たんでは。現場にいないと、なかなか。でも、現場行くっていうのは難しいよね。

八木講師

大抵ですね、普段見てると、非常に環境がいいとこなんすけど、大雨が降ると渡良瀬川、利根川で見たんですけど、茶色い濁流が、もう堤防いっぱに流れてると、迫力って言うか、怖くなるんですよね。そういうときって大抵、雨が降ってたり、なかなか見に行かないですよね。皆さん。

C 氏

私は子供んときから、ずうっと見に行ってたんですよ。大好きだった。

八木講師

やっぱり雨、降ってると、危ないとか、そういうのもあるんで。

C 氏

例の、中橋が２メートル以上おっきいんですよ、堤防よりか。これも、カスリーン台風んときも、オーバーフローしたわけじゃなくて、土手に穴開いたんですよね。だから、オーバーフローするっていうのは滅多にないところでしょうからね。

八木講師

そうですねえ。破堤の原因って、いくつかあるんですけど。やっぱり漏水でやられる場合ですね。これは普通、樋管とか、何か土のなかに異物が入ってると、そこが「水みち」になって破堤するという場合と、あと急流河川だと侵食されるんですね。護岸を作っていますけど、そこが破れてると、どんどん侵食されて切れる。オーバーフローっていうのは、なかなか起こさないですね。その前に、だいたいやられてしまうという。

C 氏

いや、先ほど見ました、渡良瀬川の岩井山にぶつかって、こういうふうに曲がる。あそこは風景のいいとこなんすよ。ものすごく風光明媚なとこでね。あすこから写真を撮ると、ものすごくきれいな写真が撮れる。だけど、きれいなところって大抵、危険なんだよね。普通、足利の普通の人だと、あそこ行かないんだよね。ものすごくきれいなとこです。

D 氏

月星ソースを買いに行って、迷っていきました。違うほうに行ってしまって、出られなくなった．いいところだった。ほんとに、「あんな形で、よく流れているよな」ていう感じ。何か、あの辺り一帯、もう少し整備の仕方を考えてもいいかも知れない。プランとして。

E 氏

本日はありがとうございます。先ほど、簗瀬先生のほうから、やっぱり危険って言うか、「何か事故が起きてからじゃないと」っていう話があったんです、逆に、先ほど中橋の話は、みんな「危ない、危ない」って言ってるのに、一向に変わらないっていうのは、どういう訳なんでしょうか。逆に1回、外に水が流れ出せば、やらざるを得ないのか。みんなが、「だめだ、危ない、危ない」っていってるのに、直しようがないのか。そこがちょっと疑問なんですけど。

八木講師

中橋は、治水上、あそこが切り込んでるのは明らかなんで、河川のところで改修しなきゃいけない優先順位としては、非常に高いんですね。あそこの問題は、橋桁を上げることによって、道路として使われてますから、そうすると道路は下りてかなきゃいけないんですけど、道路法上の規定の勾配で設計をやると、特に、左岸側、市街地のほうですけど、両毛線のところの取り合いが処理できないんですよ。両毛線の手前では、高く上げることによって、両毛線の手前で下ろせない。そうすると道路は両毛線を越えてってしまう。そうすると、今まで両毛線と渡良瀬川の堤防に囲まれたところは、中橋を中心に、町として形成されていたのが、違う形になってしまいます。そうすると今、足利市や県の安足土木のほうと調整しているのは、単純に橋を上げて、堤防を作ればいいっていうんではなくて、あそこの橋を上げることによる、まちづくりをどうしたらいいかという問題になる。

そこで、地元の方たちと調整しないといけない、その道路が1本あるか、ないかということで、全く生活環境が変わってしまうんです。そこのところの理解がきちんとされないと、あそこは単純に橋を上げればいいという場所じゃないところが、非常に難しい問題です。

一方、じゃあ、洪水が来たとき、どうすんだっていう問題もありまして、あそこで今年、足利市さんのほうも水防を組んで、土のう積みとかやってますし、うちのほうも、あそこが何か起きる前に、ちゃんとブロックを積んで、被害を最小限にするという準備もしてるんです。しかし、やっぱり根本的には橋桁を上げなきゃいけないと思ってるんですけど、線路とか、道路の取り合いとか、まちづくりをどうするかっていうのを考えてやってかないと、改修をすんなりできないという難しさがあります。

E 氏

ありがとうございます。でも結局、危ないんは、危ないんですね。

八木講師

おっしゃるとおりです。

C 氏

さっき、先生が言ったように、何か起きてからじゃなくちゃ動かないっていう部分に、なっちゃうのかも知んないですけど。誰が見ても危ないのに、まちづくりが進まないっていうのは、やっぱりそれは問題のような気がするんですけども。

司会

せっかくだから、ちょっとご紹介しときます。一昨年でしたっけね、学生がデザイン実習で中橋の辺のところをどういうふうに上げるかという課題に挑戦しましたが、今おっしゃるように、どうしても道路の勾配が取れないんですね。そこで、ある学生チームが堤防を動かしちゃったんですね。堤防を南に持ってったんだね。堤防を南に持ってくことによって、道路が摺り付くんですよ。だから、それもアイデアとしては、

あり、かなあってと思いました。

要するに、河川の断面積さえ変えなければ、多少、堤防を南に持って行って、道路のクリアランスを取るっていう発想なんですよ。たぶん学生だから、何も考えずに、道路の勾配を取るために、「じゃあ、堤防を動かしちゃえ」っていう発想をしたと思うんですね。ひょっとしたら、それもアイデアとしては、あるのかも知れないと、そのプランを見て思ったんですけど。河川法上、絶対不可能ではないとように思うんですが。

八木講師

河川法上、位置付けられているのは2つしかなくて、法線という、堤防の位置をどこに作るかっていうのが、計画上は位置付けられている。もう 1 つは先ほど言った、ハイウォーターと言って、堤防の高さを決める水位、それをハイウォーターって言ってるんです。基準となるのは、この2つしかないですね。ですから今、堤防を動かすっていうのは、その法線を動かすということになるので、これは非常に、難しいですよね。

事務所だけでは決められない、もしそれを 1 回やってしまうと、「何でもできるじゃないか」となると用地買収しようとするときに整理がつかなくなる。それは事業の進め方に影響するっていうところがある。ただ、あれを改修するのと、どっちがいい？とか言われれば、非常に答えづらい話にはなるかと思います。

司会

プランとしてだけならは、なかなか面白いですね。

F 氏

そうです、あのときは，何メーターか、ずらして、単純に、勾配を何とかしよう、だけで、やっちゃいましたから。

司会

何メーターか法線ずらすことによって、苦しい道路勾配を摺り付けちゃったんですね。そうは言っても、今は右岸の方は、堤防の嵩上げに関係ないわけですね、川の南のほうですから。北側の人たちのために、その用地買収に応じるかどうかったといったら、たぶん、違う話になってしまう。現実性はそっちの面であまりないかも知れないけれど、ただ、学生の発想って、すごいと思う。

八木講師

これ、秋山川ですけど。地元入るときには両方を引かないと、やっぱり地元が納得しない。こっち側は、ここのところの堤防で腹付けして、そっちに全部しわ寄せするというのは、地元に入ったときに、さすがにもたない、理解していただけないっていうのは、やっぱりあるんですね。

B 氏

昭和 45 年に確か中橋の嵩上げ計画があって、そこで決定してるわけなんですよ。なおかつ、そのために両岸にあったお店等が、朝倉のほうに移ったんですね。で、それでもう既に、昭和 45 年ぐらいだったから、42 年経ってるんですよ。それで未だに、全く実現しない話をしてるわけですよね。イライラとしたね。最初のころ分からないんですけれども、皆さんが生まれたころでしょう。

司会

それぐらい息の長い仕事だと思います。できるもんだったらとっくに、できてますよね？それが 40 年っていう歳月なんでしょうね。ただ、そろそろ、ほんとに今回の九州、去年の近畿を見てても、真剣に考えなきゃいけないような気象状況になってきたのかなっていう気はします。

ここで議論したことが、そのまま実現するってもんでもないし、今おっしゃったように、すごく難しい問題なんですけど。我々が、そんなに安全な状況で日々、生きてるわけではないんだっていうのは、今回の九州の橋の流出の映像を見たときにも、思いました。

４．道路の整備と河川の整備、そして、足利のまちづくりへ

B 氏

越谷のレイクタウンって、もとからレイクがあったのかと思ったんだけど、あれは作ったんですか。

八木講師

作ったんです。

B 氏

越谷辺りにはね、沼なんかはあるかも知れないですけど、ちゃんとしたものが、なかったはずだったんだけど。そしたら、あそこ確か 148,000 平米ぐらいの池になってんですね、レイクタウンって。だから、むちゃくちゃに広いでしょ。」

司会

あそこの開発面積は、200 ヘクタール以上あるはずです。

B 氏

おそらく失敗だと思うんだ。使い道がない。だけど、こんな、ものすごいでかいところで、行きにくいんだよね、まず。三郷から行く、あとは武蔵野線から行くっていうわけだけど、何しろ交通の便が良くないです。

八木講師

でも今、あそこは新しい越谷レイクタウン駅ができて、人はすごく行ってますよね。武蔵野線で新駅を作りましたから、土日のアウトレットモールとしてすごいですね。

B 氏

中橋もそうなんですよね。一番困る人は誰。そこの人が、「いいよ、気にしないよ」って言うんなら、もう、やんなくてもいいよ、ぐらいの、つもりでいないとね。そのぐらいじゃないと、他の人は本気にならんと思うんですね。たとえば、さっき外環放水路の話でしたっけ？放水路は 16 号でしたっけ？

八木講師

はい。外環のところは綾瀬川放水路。

B 氏

外環っていうのは、グルッと東京を巡っているんだけども、埼玉が一番早かったんですよね。それが、なぜできたかって言うと、下に放水路ができるから、道路は作る。要するに水で困っている。越谷もたぶん、水で困ってるから。水の処理については、わりと理解がされやすいんじゃないすか。

八木講師

そうですね。今、言われたの、この中川放水路っていうオープンの水路で、2 条なってまして、その真んなかのところにピアを立てて、外郭環状道路、外環って言ってるんですけど、それが通っているんです。ちょうど私が役所入ったときに、道路ってやっぱり都市計画決定しなきゃいけない施設なんで、都市計画決定をしようとしたんですけど地元の反対があって、進まないときに、河川と一緒にやることになった。河川というのは、河川法で本来作れて、都市計画法で事業を進めなくてもいいんですけど、綾瀬川放水路は、都市計画決定をしてます、河川施設としては,珍しいとことなんです。

B 氏

そうですね、ほとんどやってないもんね。

八木講師

道路の外環と併せてやるという、同じ建設省なんで。

B 氏

道路屋さんが河川に乗っかっちゃったんだ。というのは、やっぱり地元は、水に対しては非常に危機意識を持ってるから、放水路を作るまでに、それじゃあ、道路作ってもいいよって、こういう恰好で、外環が、あそこだけ先にできちゃった。だから要するに、ほんとに困るのはどこ？っていうとこから、解いていかないと。なかなかね、道は開けないんだよね。この中橋だって、ほんとに困るのはやっぱり住んでる人なんですもんね。だけど、そういう声があまり出ないでしょ？

八木講師

それを、困るよって外から言っても、なかなか。

F 氏

やっぱり、今先生がおっしゃった地域の人たちは、非常に不安を持って、毎日生活しているんですよ。九州で水害を起した雨が、こっちへ降らないっていう保証は、もう絶対ない。明日降るかも知れないというふうに思ってるんですよね。だから何とか、やっぱりしなきゃならないと全員が思って、そのためには、いくらか自分のマイナスも仕方がないだろうと、みんな認識しているんですよね。

だけども、それをやるのはやっぱり市なんですよね、まず。で、市にその覚悟がない。それで市にないっていうのは、トップにないっていうことです。トップがほんとにやる気になれば、職員だってその気になる。そして、一番大変なところへ、とっかかりに行けば、必ず今は開けると思うんですよ。だけども、なぜか知らないけども、全然、私どものから見てると、行ったという話も聞いてない。やる気になれば今、できますよ。

B 氏

地元の人は、もう少し盛り上がりが、できないもんすかね。

F 氏

盛り上がるほどの、もう力がなくなっている、完全に。それこそ、平均年齢が 65 歳以上になってるんじゃないですか？この近辺に住んでる人たち。

B 氏

あそこ切れたら、あの周辺だけじゃないですね。被害は、相当、広い範囲ですよね。

F 氏

はい、それもう分かってるんです。だから、何とかしなきゃ、でも、あそこに住んでる人って、非常に少なくなってきたんですね。私どもも、この旧 50 号から北側には、まだまだ住んでますけれども、これも高齢者ばっかりですから。何とかしなきゃ非常に危険だけども自分が、がんにならないと信じて生きてるようなもんで。足利には降らないと信じて生きようよと。もしそうなったら仕方がないねと思ってる、そういう、あきらめの境地なんですよね。

B 氏

だいぶ前、10 何年前に、当時ハザードマップだいぶ作りましたよね。足利でも作って、一応公表したんですよね。嫌がってたけど、市は。

F 氏

住民は、仕方がないと思ってるんですね。

B 氏

反響がないんですよね。

F 氏

反響がないっていうのは、むしろ旗を立てて、反対ということもないんですから。

説明にいけば絶対、大丈夫ですよ。そういう経験を持ってますん。だけど、ただ、その熱意とやる気。

D 氏

むしろ旗を立てるパワーも、なくなったってことかなあ・・・

B 氏

まず川は国でしょ。で、道路が県庁。で、まちづくりは市です。で、あと JR 絡むでしょ。ものすごく管理区域が複雑に絡まってるし、昔あそこ区画整理やってるんだよね、一時ね。それで、土地動かしたりもしてますね。だから、よほどのエネルギーがないと、睨み合っちゃう。

F 氏

うっかりできないと。待ち構えてるような部分も、あるんですよね。

B 氏

橋自身が、昭和 12 年に作られたものですから、そろそろ耐用年数の問題も入ってきて、トラス橋としては非常にきれいなんだけど、きれいなだけじゃ安全は確保できないということが、あるのかも知れません。あそこの塗装だけやり直したもんね。すると、きれいになっちゃうと、何となく大丈夫だと思っちゃうなんてことないけど。あれ、いざとなったら防ぎようは、ないんでしょ？今、現状では。

八木講師

今年、市のほうでやった、土のうを積むとか、うちのほうでブロックは用意しますから、そういうの置いて、溢れる水を少なくする。

B 氏

だけど、それで抑えきれるという保証は、ほとんど・・・

八木講師

そこは時間との勝負で、渡良瀬みたいに洪水が、シャープって言うんですけど、早く流れる、出てくるところは、ほんとに間に合うかどうかと言うと、非常に厳しいですね。

B 氏

我々も、そう言いながら 10 何年、経っちゃったんだけどね。

F 氏

自ら陳情して、市のほうにお願いしますって言ってくほどのパワーは、もうないということですよね。だから、やるよって言えば、まあ、仕方がないような顔をしながら、良かったと思うんじゃないですか。

A 氏

でもね、中橋、ずうっと問題なってたんですよ。「アーチ式のね、足利らしさのを壊しちゃ困る」っていう、絶対反対が多かったんですよ。そして、前のときだったんですけど、こっちの人は「壊したくない」っていうけど、こういう交差だったんですけど、ある先生も協力したりして、残したんですよ、ほんとのこと言って。

だから、そのあと、その補強工事って言うかな。一生懸命やられていましたよね。長い時間かかってね。だから、ある程度は橋を維持できる管理に仕上げたんだろうと思いますよね。私は、中橋を毎日のように渡ってます。

雨がこの辺で降っても、奥ではもっと降ってるから、あそこへ来て初めて分かるんですよ。「ああ、すごい、川が満水」っていうのをね、いつもそれ、体験してます。

こないだ、田中橋を渡ったら、事務所の職員の方が何人か出てて、川の防災をやってましたけど。ホッとしますね。ご苦労様って言いました。

質問なんですけど、事務所の裏の河川工事をしましたね。あれはどんな意味が。

八木講師

あれは、事務所の上の反対側が、水衝部って言って、水当たりになってる部分があるんですね。田中橋の上かな？そこのところを手当しています。足利っていうのは渡良瀬の基準点になってますので、そこの水位施設とか、流量を測ったりする施設を一時、田中橋のほうに持っていかなきゃいけないので、上流を工事するために、とりあえず仮設で作って、水が当たってるところを手当てしないといけないので、そのための準備の工事です。

A 氏

広く埋め立てましたよね。じゃ、全然、花火（大会）には関係ない。

八木講師

花火大会には関係ないです。花火のほうは、堤防の除草とか、そういうところを少し、地域と一体となってやってくのかなあとは思ってますけど。

A 氏

私は男女共同参画推進員で、河川事務所の調査に立候補したんですよ。そして、前の前の所長さんかな？全部男性だったんですけど、私が応募して初めて女性の委員ができたんですよ。

八木講師

それ愛護モニターですかね？

A 氏

河川モニター、ええ、そうです。

八木講師

はい。今年も入れ替えがあって、半分ぐらい女性の方でしたね。

A 氏

ええ。私がスタートを切ってから、認められて、女性もできるんだっていうふうに。私は毎月、報告書を、ばっちり報告しました。

八木講師

ありがとうございます。

A 氏

報告書は 1 枚でいいって言うんだけど、だんだん、だんだん、やってるうちに気付いてくることが多いんですよ。もう 2 枚、3 枚、最後は 10 枚以上ですよ、報告書。でも、これ以上、こんなに出しちゃ申しわけないなと思いながら、報告してました。やってるうちに、どんどん見えてきて、気付いてくるんですよ。また、自分で面白くなりますね。

渡良瀬川は大好きです。正直言って、怖いときもあるけどね。あるとき産学連携で、私たちのグループ研究で渡良瀬下りやったんですよ。桐生の合流点から、ずうっとですね。川面の、生活っていうのは路上者には、まったく経験のないことが発見できますね。もうほんとにびっくりしました。鳥たちとか、そこに放牧されている動物ですか。ああいうのが全部寄ってきますね。人間、恋しいんだか何だか。河川を渡ってると、ずうっと追いついてる鳥もいるし、要するに仲間になろうっていう、その愛着心を持たれたような感じ受けましたよ。だから最後に、船あがるときに丘へ出たんですけど、牛たちが何と、円形を作って歓迎してまして。すごいよ、あの表情。びっくりしました。で、発見が多かったですね。やっぱり水面を、ずうっと下ってるうちに。

八木講師

川ってなかなか、川のなかから見ることって、あんまないんですよね。

A 氏

ええ、やっぱり長い時間、苦労して。堰を追い越したり、苦労しながら渡ったんですけど。その体験は、このうえない発見をしました。前の吉田学長は見てたかなあ、

ねえ。あと今の学長さんですか、牛山さん。牛山さんも、聞いていました、発表。ほんとに大発見が多かったです。私は大好きです。怖いときもあるけれど。

司会

今、重要なことを、おっしゃられましたね。やっぱり川から町を見る機会っていうの、意外にないし、それから、もっと川を知ってもらうっていうことは、やっぱり原点ですね。そのあとで、今の怖さと言うか、この平和というのは、実は、それほど盤石な基盤の上にあるものではないということを、認識するという、そういう積み重ねが要るのかなあっていう感じしますね。

ちょうど時間も参りましたし、中橋の微妙な問題も議論できました。今まで町の活性化ということで、ソフトウェアの話が中心で来ましたけど、最後にそういうソフトの話の上には、ハードウェアの安全に立ったうえで、始めて活性化もあるんだというようなことを、議論できて、とても最後の締めらしい形になったと思います。

ちょうど5回の公開講座、本日最後ということですので、どうでしょう。最後にやっぱり副会長、恒例ですので、締めの言葉を一言いただいて、終わりにしたいと思います。

北川副会長

本日は、大変貴重なお話を伺いました。ありがとうございました。足利市の真んなかに流れている渡良瀬川に関して、川のそばに長年住んでいながら、川のことは、ほとんど知らなかったっていうことを今日、痛感させられました。また、その恐ろしさというものも、また改めて実感いたしました。漠然と、危ない、怖いと思っているだけだったんですけども、今日のお話を伺って、また私どもも近所の住民たちにも機会があるごとに、「そういう危険があるんだよ」ということを話していきたいと思います。

ひとつまた、よろしく、我々の一安全を守っていただければと、心からお願いいたします。ありがとうございました。

八木講師

ありがとうございました。

司会

どうもありがとうございました。この公開講座も4年目、そして，本日が今年度の最後ですが、実に、感動的な終了となりました。それから、ほんとにお暑いなか、どうも八木先生、ありがとうございました。

八木講師

はい、ありがとうございました。

司会

どうも、ご協力ありがとうございました。今年度の足利工大と VAN－NOOGA の共催による、「地域活性化社会システム論」、これで終わりにしたいと思います。ほんと、どうもありがとうございました。

水辺にやすらぎ　心にゆとり

川とまちづくり

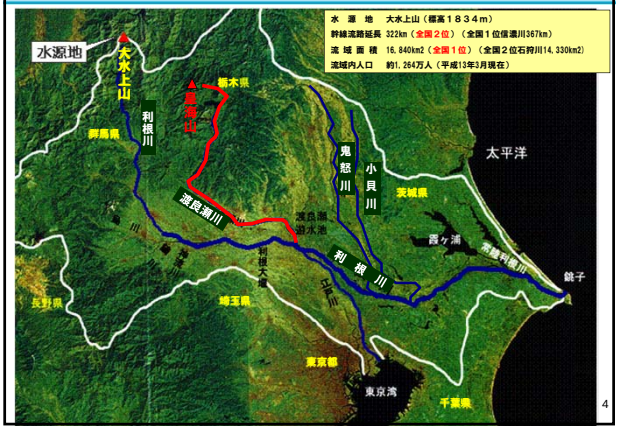
平成24年7月

渡良瀬川河川事務所

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

渡良瀬川は利根川の支川

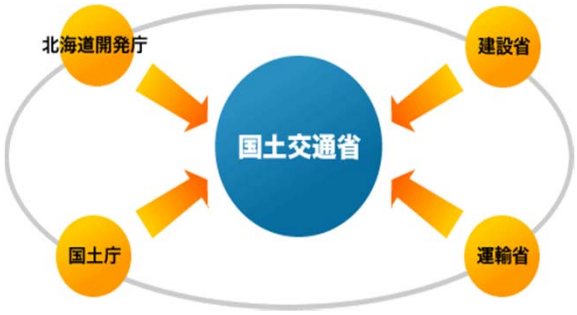
国土交通省



4

国土交通省とは

国土交通省



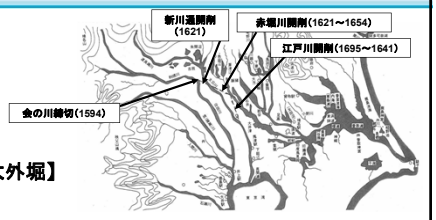
2

昔は東京湾に流れていた渡良瀬川

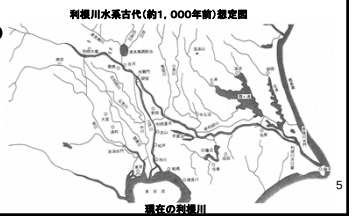
国土交通省

利根川の東遷

・関東平野の開発
・舟運路の確保
・洪水防御
【・敵（伊達家等）に
備えた大外堀】



人工的な付替により日本一の
流域面積の河川となる



5

国土交通省の組織（旧建設省）

国土交通省

国土交通省（本省）
↓
地方整備局（局）
↓
事 務 所
↓
出 張 所

3

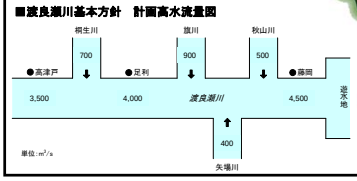
渡良瀬川河川事務所の管轄

国土交通省

河川管理延長　76.9km
本川（藤岡町東武日光線～高津戸）
及び支川
砂防区域　504.7km²

■流域の概要（渡良瀬川河川事務所管内）
- 栃木県・群馬県にまたがる
- （＋埼玉県・茨城県4県にまたがる）
- 流域面積 ： 1，218㎢（2，621㎢）
- 幹川流路延長 ： 94．1km（107．6km）
- 流域市町村 ： 8市 3町（13市9町）
- 流域内人口 ： 約49万人（126万人）
（ ）書きは流域全体

■渡良瀬川基本方針　計画高水流量図



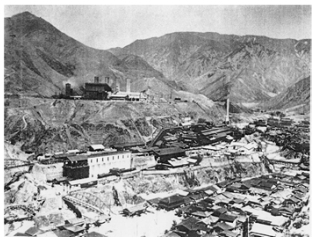
渡良瀬川河川事務所
管理延長

本川	42.5km
秋山川	2.2km
矢場川	12.5km
多々良川	0.8km
旗川	2.2km
桐生川	9.6km
蓮台寺川	0.6km
草木ダム	6.5km
計	76.9km

6

足尾銅山の賑わい

国土交通省



足尾精錬所と町並み

日本最初の道路鉄橋（古河橋）
明治23年設置

7

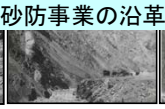
渡良瀬川直轄砂防事業の沿革

国土交通省

S12　内務省東京土木出張所 足尾砂防工場を設置
井戸沢口砂防堰堤、横場山腹工、仁田元砂防堰堤に着手

渡良瀬川直轄砂防事業の沿革

仁田元砂防堰堤（S25完成）



井戸沢口砂防堰堤（S15完成）

横場山腹工（S22完成）

上神梅砂防堰堤（S27完成）

湧丸砂防堰堤（S25完成）

S25　足尾砂防堰堤に着手

S29 日本一の貯砂量500万m3の砂防堰堤完成

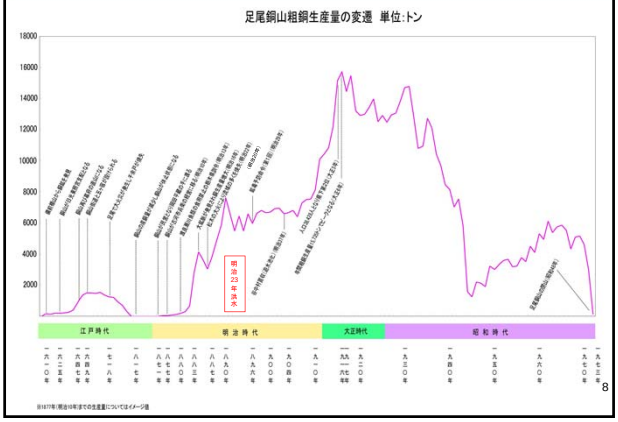
周辺整備がなされた現在の足尾砂防堰堤

日光市などは、
足尾銅山の世界
遺産登録を目指
している。

10

足尾銅山の精銅

国土交通省



8

上流砂防区域の土石流等による被災（昭和22年洪水）

国土交通省

不通となった足尾線の復旧作業状況（みどり市）

倒壊した家屋（みどり市）

土石流によって破壊された早房橋
（桐生市）

11

煙害による荒廃状況

国土交通省

渡良瀬川上流煙害状況図
（昭和31年煙害状況調査）

凡	例
裸　地	24km²
激害地	51 〃
中害地	72 〃
微害地	123 〃

裸　地：立木なし
激害地：多数の木が枯れる
中害地：小枝などが枯れる
微害地：葉にのみ被害

9

荒廃地における山腹工・植樹工の実施

国土交通省

昭和１５年
荒廃状況

昭和６３年
流路工の施工状況

平成１０年
山腹工促進

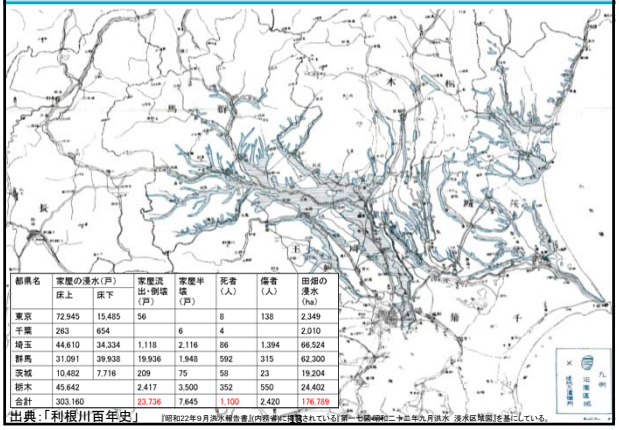
平成１９年

緑豊かな山にするための
大畑沢緑の砂防ゾーンと山腹工事
（日光市）

12

カスリーン台風による被害（浸水区域図）

国土交通省

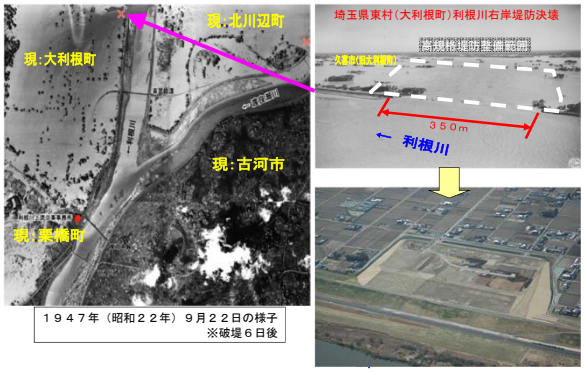


都県名	家屋の浸水（戸） 床上	床下	家屋流出・倒壊（戸）	家屋半壊（戸）	死者（人）	傷者（人）	田畑の浸水（ha）
東京	72,945	15,485	56		8	138	2,349
千葉	263	654		6	4		2,010
埼玉	44,610	34,334	1,118	2,116	86	1,394	66,524
群馬	31,091	39,938	19,936	1,948	592	315	62,300
茨城	10,482	7,716	209	75	58	23	19,204
栃木	45,642		2,417	3,500	352	550	24,402
合計	303,160		23,736	7,645	1,100	2,420	176,789

出典：「利根川百年史」　『昭和22年9月洪水報告書』(内務省)に掲載されている「第一七図 昭和二十二年九月洪水 浸水区域図」を基にしている。

カスリーン台風による被害（利根川の氾濫）

国土交通省

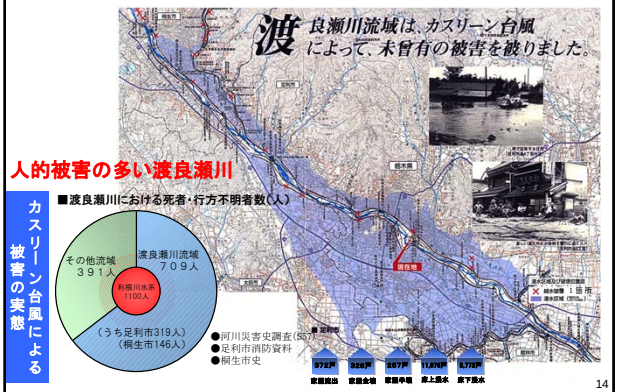


１９４７年（昭和２２年）９月２２日の様子
※破堤６日後

16

カスリーン台風による被害（渡良瀬川）

国土交通省



14

カスリーン台風による被害（利根川の決壊）

国土交通省

17　7

カスリーン台風による被害（渡良瀬川）

国土交通省

流出した桐生川両毛線鉄橋

氾濫流が流下した桐生市昭和通り

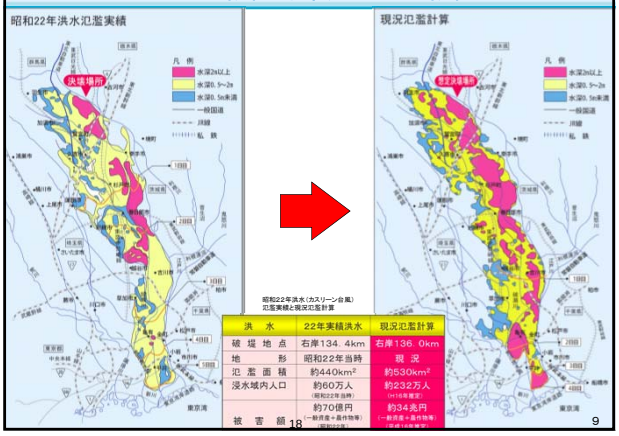
命綱を頼りに避難する人々（足利市通り2丁目）

浸水した市内を歩く人々（足利市通り2丁目）

15

カスリーン台風による被害（利根川の氾濫被害）

国土交通省



昭和22年洪水（カスリーン台風）氾濫実績と現況氾濫計算

洪水	22年実績洪水	現況氾濫計算
破堤地点	右岸134.4km	右岸136.0km
地形	昭和22年当時	現況
氾濫面積	約440km²	約530km²
浸水域内人口	約60万人（昭和22年当時）	約232万人（H18年推定）
被害額	約70億円（一般資産＋農作物等）（昭和22年）	約34兆円（一般資産＋農作物等）（平成18年推定）

18　9

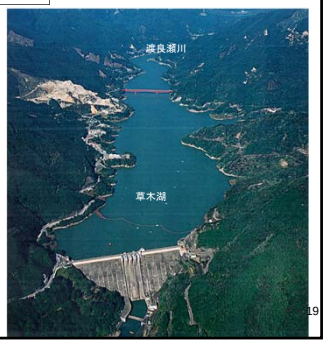
草木ダム

国土交通省

総貯水量　60,500,000m³
有効貯水量　50,500,000m³
治水　20,000,000m³（7/1～9/30）
利水　30,500,000m³
堆砂容量 10,000,000m³

（東京ドーム約49基分）
※東京ドーム1基は約124万m3

管理開始：昭和５２年４月
重力式コンクリートダム
目的：洪水調節
流水の正常な機能の維持
かんがい・水道用水・工業用水・発電



ダムの高さ １４０m
ダムの長さ（堤頂長）　４０５m
流域面積　２５４km2（湛水面積　１．７km2）

19

省電力・自然エネルギー活用による地域防災力の強化

国土交通省

取り組みの概要

- 電力問題により夏季の電力供給低下が懸念されており、省電力化・防災対策の強化が急務
- 東日本大震災時は長時間の停電が発生。電力供給停止時も観測施設の電力確保が必要

- 桐生地区では地域住民・関係機関等と連携した地域防災力向上の取り組みをH21より実践
- 桐生川沿川で避難施設に指定されている清流中学校沿いに自然エネルギーによるLED電灯を整備し、非常時の避難誘導や日常の利便性向上に寄与する

整備内容(H23完)

整備内容：
・自然エネルギー発電LED電灯 4基
・LED電灯 8基
・CCTVカメラ非常用電源増強

- 太陽光と風力発電機能を備えた電灯1基に通常のLED電灯2基を既設の光ファイバ用管路を活用し連結してコスト縮減
- CCTVカメラ非常用電源を増強し、かつ、発電機付き電灯を連結し非常時の電源供給に寄与

効果

- 日常、近隣の住民の散歩やお中学生の通学に利用されており、夕方から照明が点灯することで利便性が上の高まり防犯効果となっている。
- 商用電力を使用していないため、[illegible]

22

岩井分水路について

国土交通省

岩井の河道が狭く上流側で破堤した

岩井分水路：湾曲狭窄部である岩井地区の問題を解決するため計画され、昭和42年完成

平常時の利用状況

分水路を開削し安全性の向上を図った

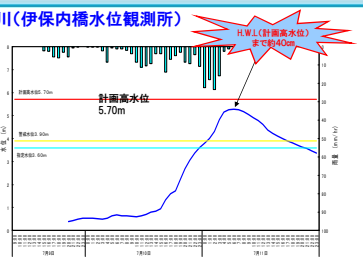
洪水時の状況（平成10年9月台風5号）

20

秋山川の改修について

国土交通省

平成14年7月　秋山川(伊保内橋水位観測所)



最大流下量(流観値)
約215m3/s

平成19年9月　台風9号　秋山川(出水・漏水状況)

23

渡良瀬川流域水害に対する取り組みについて

国土交通省

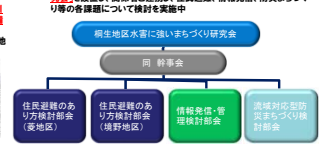
■取り組みの目的

- 渡良瀬川流域は昭和22年カスリーン台風により洪水はん濫や土砂災害により大きな被害が生じた。
- 近年は増いして大きな被害が生じていないが、カスリーン台風の教訓が風化する中、近年各地で大きな洪水被害等が生じており、ハード整備とともに地域一帯となった避難計画等のソフト対策が重要
- そこで、桐生地区をモデルに住民、関係行政、関係団体等と連携した地域防災力向上の取り組みを実践している

足利市内の浸水被害や両毛線桐生川橋梁の流失（昭和22年カスリーン台風）

■桐生地区での取り組みの概要

- 桐生地区においては平成21年より「桐生地区水害に強いまちづくり研究会」を設置し、関係者と連携し、住民避難、情報発信、防災まちづくり等の各課題について検討を実施中



■取り組み状況（菱地区の例）

防災ワークショップの様子

- 菱町は洪水はん濫による浸水と土砂災害に対する脆弱が如実で、自宅やその周辺にどんな災害リスクがあるのかを防災ワークショップを通じて把握。
- 避難場所への避難経路の確認や迷う恐れてしまった場合の一時避難場所「水害避難協力の家」の設定等を図った。

防災まち歩きの様子

わが家の防災マップ（A3両面：図は表面）

- 防災ワークショップの成果のひとつとして、各家庭の避難計画を書き込んで使用するわが家の防災マップを配布。
- 書き込み方法を学び書き方講習会に参加を促し、多くの世帯に講習を通じて地域のリスクや避難計画について考える機会とした。

わが家の防災マップ書き方講習会の様子

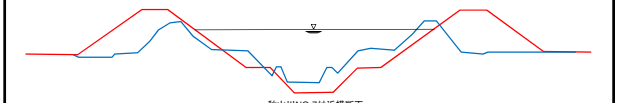
防災ワークショップによる地域の課題の把握

地域防災力向上のためのツールの作成・運用等を通じた地域防災力の向上

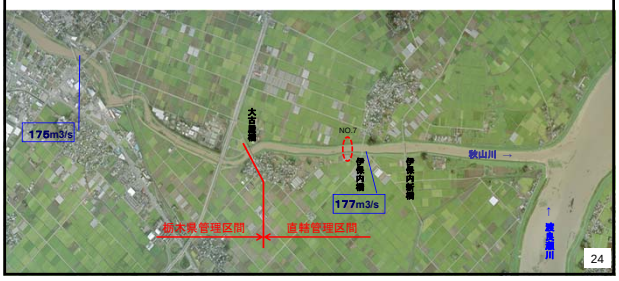
21

秋山川の改修(直轄管理区間)

国土交通省



秋山川NO.7付近横断面



24

渡良瀬遊水地の概要

国土交通省

渡良瀬遊水地の概要

渡良瀬遊水地は、茨城県古河市の北西に位置し、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県の4県の県境にまたがる 面積33km^2、治水容量17,680万m^{3}の遊水地で、効率的な洪水調節を行うための調節池工事が昭和37年度より開始され、現在は第1調節池、第2調節池、第3調節池の3つの調節池に分割されています。

谷中湖の概要

谷中湖は、洪水調節・水道用水の安定供給等を目的に第1調節池内に建設された貯水池の通称です。その規模は、面積約4.5km^2、総貯水容量2,640万m^{3}で、平成2年度よりダムとしての利用を開始しました。また、周辺を含めた広大な空間は、スポーツやレクリエーションの場として親しまれており、現在までに約百万人の人々が訪れています。

25

渡良瀬遊水地のヨシ焼きの効果

国土交通省

「ヨシ焼き」による湿地環境の保全効果
- 立ち枯れのヨシを焼くことにより春植物の芽生える機会を作ります
- 飛散してきたヤナギの種や若い芽をヨシ焼きにより焼き樹林化を防ぎます

ヨシ焼き後

ヨシ焼き後の芽吹き

サクラソウ（絶滅危惧Ⅱ類）

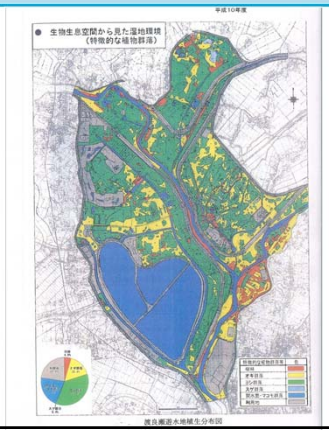
トネハナヤスリ（絶滅危惧Ⅰ類）

28

渡良瀬遊水地の植生分布

国土交通省

ヨシ群落　35．4%
オギ群落　15．4%
樹林　4．8%
スゲ群落　0．4%
開水路・マコモ　12．5%
利用地　22．5%
平成10年時点



26

田中正造

国土交通省

- 天保12年(1841)11月
  下野国阿蘇郡小中村生まれ
- 明治13年(1880)
  栃木県会議員（補欠選挙）
- 明治23年(1890)
  第１回総選挙で衆議院議員に当選
- 明治24年(1891)
  足尾銅山鉱毒を国会で質問
- 明治34年(1901)
  衆議院議員辞職・天皇に直訴状
- 明治37年(1904)
  谷中村問題に専念
- 大正2年(1913)9月
  足利郡吾妻町羽田で逝去

29

渡良瀬遊水地のヨシ焼きの目的

国土交通省

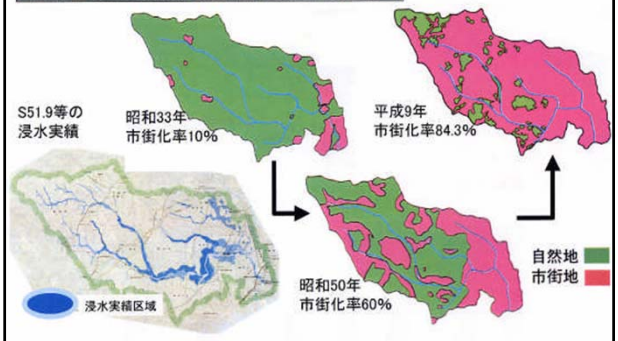
渡良瀬遊水地の「ヨシ焼き」は、昭和30年頃からヨシズの原材料となる良質なヨシを育てるための病害虫の駆除を目的に始められ、近年では春先の野火防止、また貴重な湿地環境の保全等の効果も加わり、毎年３月下旬にヨシズを生産している「渡良瀬遊水地利用組合連合会」により行われています。
＊「ヨシ焼き」を行う面積は、遊水地の約半分となる1500ha

27

都市化と水害

国土交通省

台地・丘陵地の開発：鶴見川（東京都、神奈川県）

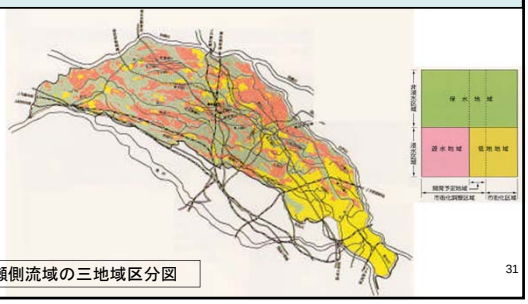


30

総合治水対策について

国土交通省

・著しい市街化の進展は、流域のもつ保水・遊水機能を大きく減少させた。
雨水の流出流下時間が短縮し、洪水流出量が増大するので、河川の治水安全度が低下し、低地に広がる既存市街地で浸水被害の危険性を招くこととなった。
また、浸水実績のある低地での都市化の進行は、人口・資産の集積を著しく進行させ、浸水被害に対する潜在的危険性を増大させた。
・このような急激な市街化による当時の浸水被害及びそのおそれの増大の状況からすると、河道等の整備の加速化と流域全体での取り組み（総合治水対策）の導入が必要であった。



中川・綾瀬側流域の三地域区分図

31

河川改修と綾瀬川の松並木

国土交通省

34

中川・綾瀬川流域の治水対策

国土交通省

32

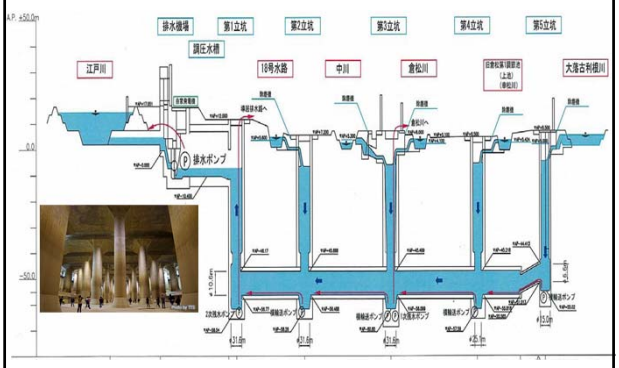
治水対策とまちづくり

国土交通省

35

首都圏外郭放水路について

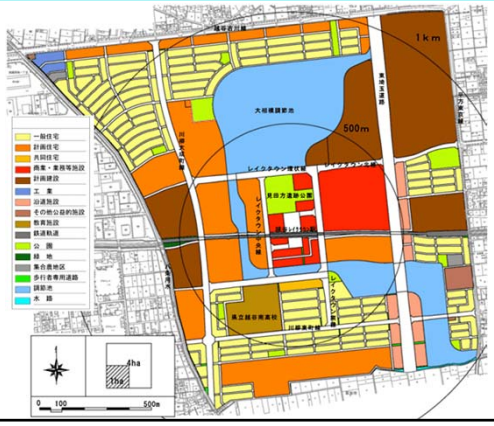
国土交通省



33

越谷レイクタウン

国土交通省



36

編集後記

平成 24 年度公開講座「地域活性化社会システム論」の講演録が刊行できることになりました。足利工業大学と足利まちづくりセンターVAN-NOOGA の協働による地域の活性化に向けた活動の成果と自負しております。

平成 21 年度の開講から 4 年目を迎え、述べ 20 回に及ぶ講演録をお届けできることになりました。本学の蟹江副学長の講演を嚆矢として、当初は行政や研究者の方々に講師をお願いすることも多かった本講座ですが、徐々に地域でまちづくりに取り組む方々のお話をいただく機会が増えてきました。地元足利市を始め、佐野市、鹿沼市と広がり、本年度は、栃木市の映画祭のお話をいただき、県境を越えて桐生市、伊勢崎市、太田市からまちづくりの第一線でご活躍いただいている方々の楽しい、そして、元気の出るお話を伺うことができました。

シャッター通りに象徴される地方都市の衰退は留まるところを知りません。日本を見渡しても高齢化の進展が未来に進む足枷となっています。しかし、嘆いていても始まりません。今年度の公開講座にご参加いただいた方々のまちづくりの現場での笑いと嘆きと怒りと、そして、喜びこそが、未来への推進力だと思います。さらに、渡瀬川の治水を守る行政の立場から、インフラの維持管理とまちづくりとの連携の重要さを改めて教えていただきました。

2011 年 3 月 11 日以降、日本は変わったと思います。インフラの大切さ、コミュニテイ活動の重要性に多く国民が気づき、参加を始めているように感じます。一過性のできごともあるでしょうが、地域に根差した活動が深く、静かに進んでいることを本公開講座の中でも感じることができました。「継続は力なり」この言葉は、地域活性化のためにこそあるように思います。我々も足利、両毛地域、いや北関東の活性化に向けて、できることから、やって行きます。そして、それが日本の明日に繋がることを信じています。

本公開講座を開設するにあたり、ご協力をいただいた内閣官房地域活性化推進室、栃木県、足利市の皆さん、また、裏方を勤めていただいた足利工業大学の総合研究センター、VAN-NOOGA 事務局の皆さん、そして、機材運搬、設置に協力してくれた研究室のスタッフ、学生諸君にお礼を申し上げます。

末尾ながら、講演録の編集にあたり、テープ起こし原稿の校正には注意したつもりですが、不備な点もあるかと存じます。お気づきの点があれば、下記までご連絡いただければ

幸甚です。また、折角、ご提供いただいた貴重な資料の全部を掲載することができず、編者の判断で割愛させていただいことを申し添えます。どうか、御寛恕いただきたいと存じます。　（築瀬範彦）

〒326-8558　足利市大前町 268-1
足利工業大学工学部都市環境工学科
地域・都市計画研究室

TEL　0284-22-5684
FAX　0284-64-1061
Email:yanase.norihiko@v90.ashitech.ac.jp